

# 上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(4)

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第4分冊。

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第33集 —

## 図 表 編

1990

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



資料	(財)群馬県埋蔵文化財	01-320
	調査事業団保管	49-3
No. 2-71	平成 2 年 7 月 12 日	(6)



# 上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(4)

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第4分冊。

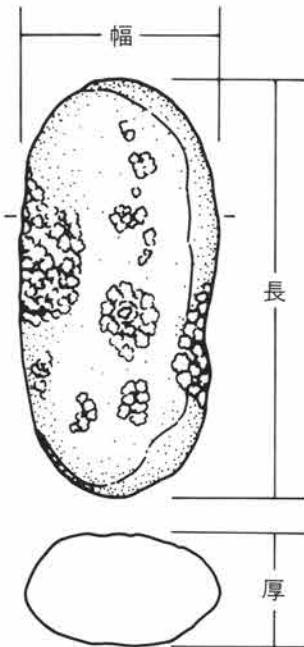
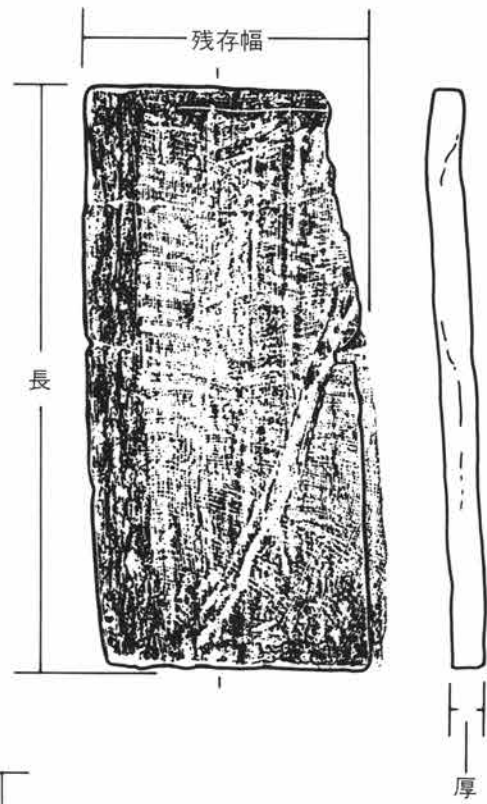
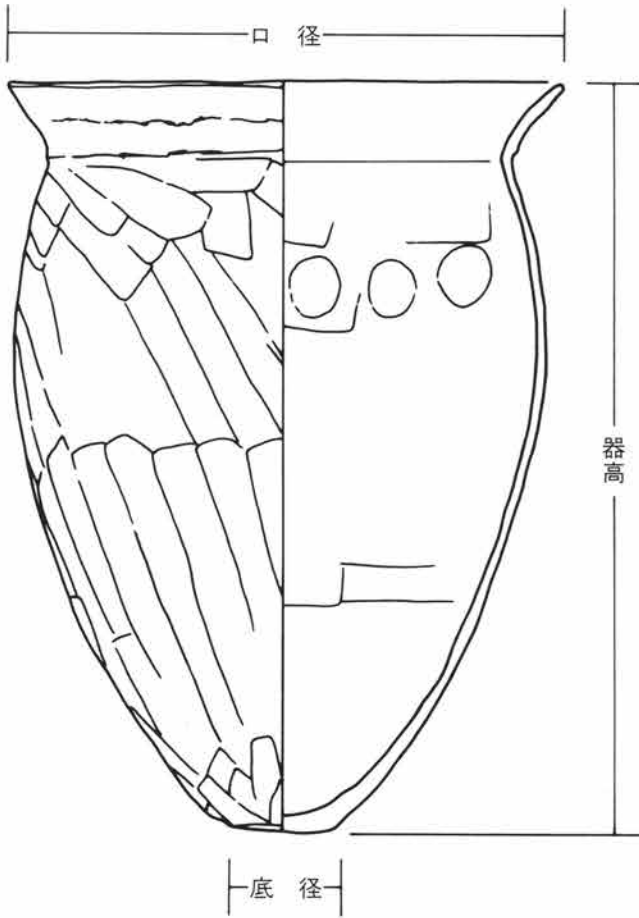
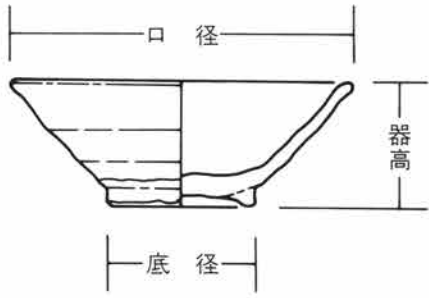
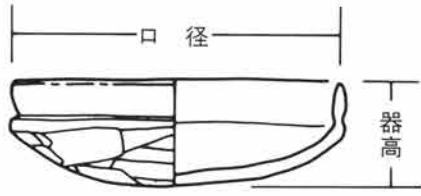
— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第33集 —

図 表 編

1990

群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団









## 遺構・遺物觀察表

## 遺構觀察表

B区土坑一覽表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方位	規模 (単位cm)			備考
				長	幅	深度	
B区第3号土坑	37-B-32	円形	N-4°-W	104.0	97.5	22.0	
B区第40号土坑(B)	37-B-43	不整円形	N-49°-W	101.0	87.5	26.5	
B区第41号土坑(B)	〃	〃	〃	〃	〃	32.0	
B区第42号土坑(A)	43-B-38	不整隋円形	N-34°-W	84.0+ $\alpha$	78.0	14.0	
B区第42号土坑(B)	37-B-43	不整形	N-85°-E	66.0+ $\alpha$	53.0	45.0	
B区第43号土坑(B)	37-B-44	不整形	N-71°-E	154.0+ $\alpha$	104.0	63.5	
B区第44号土坑(A)	43-B-38	〃	〃	〃	〃	15.5	
B区第44号土坑(B)	37-B-44	〃	N-83°-E	162.0	78.0+ $\alpha$	54.0	
B区第45号土坑(B)	〃	〃	〃	〃	〃	36.5	
B区第46号土坑(B)	〃	隅丸方形	N-86°-E	68.0	63.0	51.5	
B区第47号土坑(A)	37-B-32	円形	N-42°-E	35.5	33.0	24.0	
B区第47号土坑(B)	36-B-32	隋円形	N-10°-W	115.0+ $\alpha$	89.0+ $\alpha$	62.0	
B区第48号土坑(B)	37-B-44	〃	〃	〃	〃	50.0	
B区第49号土坑(B)	38-B-45	不整形	N-23°-E	190.5	80.5	57.5	
B区第50号土坑(B)	38-B-43	不整円形	〃	〃	〃	〃	径118.0
B区第51号土坑(A)	42-B-36	隋円形	N-77°-W	62.0	45.0	23.5	
B区第51号土坑(B)	38-B-43	方形	N-75°-E	65.0	61.0	32.0	
B区第52号土坑(A)	43-B-34	隋円形	N-85°-E	93.0	77.0	13.0	
B区第52号土坑(B)	38-B-42	〃	N-8°-E	132.0	83.0	33.0	
B区第53号土坑	43-B-33	〃	N-90°-E	30.0	21.0	12.5	
B区第54号土坑(B)	38-B-43	〃	〃	〃	〃	22.0	
B区第55号土坑(A)	43-B-31	〃	〃	〃	〃	〃	
B区第55号土坑(B)	38-B-44	円形	〃	52.0+ $\alpha$	89.0	26.5	
B区第56号土坑(A)	43-B-31	隅丸方形	N-33°-W	32.5	28.0	26.5	
B区第56号土坑(B)	37-B-43	〃	N-12°-E	103.5+ $\alpha$	118.0	17.5	
B区第57号土坑	43-B-31	隅丸方形	N-49°-W	31.0	30.0	14.0	
B区第58号土坑	42-B-31	〃	N-59°-W	28.0	23.5	14.0	
B区第59号土坑	43-B-32	〃	N-54°-W	34.0	30.0	19.0	
B区第60号土坑	〃	〃	N-52°-E	36.0	29.0	22.0	
B区第6号土坑	〃	不整方形	N-60°-E	42.0	32.0	24.0	
B区第62号土坑	45-B-34	隅丸円形	N-52°-W	33.5	32.5	8.0	
B区第63号土坑	44-B-34	隋円形	N-54°-W	59.0	46.0	12.0	
B区第64号土坑	〃	不整円形	N-84°-W	69.0	54.0	13.0	
B区第65号土坑	〃	隋円形	N-33°-E	38.0	28.0	13.0	
B区第66号土坑	43-B-35	隅丸方形	N-29°-E	45.0	40.0	16.0	
B区第67号土坑	43-B-35	〃	N-41°-E	62.0	58.0	19.0	
B区第68号土坑	43-B-36	〃	N-63°-E	48.0	44.0	16.0	
B区第69号土坑	45-B-36	〃	N-85°-E	29.0	24.0	12.5	

遺構観察表

C区土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方位	規模 (単位cm)			備考
				長	幅	深度	
C区第13号土坑	27-C-44	円形	——	83.0	——	36.0	
C区第14号土坑	28-C-46	隋円形	N-6°-W	75.0	63.0	22.0	
C区第15号土坑	27-C-47	円形	——	——	——	26.0	径58.0
C区第17号土坑	28-C-48	——	N-90°-E	233.5	167.0	24.0	
C区第18号土坑	23-C-52	隋円形	N-17°-E	101.0	98.5	——	
C区第23号土坑	14-C-51	不整長方形	N-18°-E	109.0	64.0	20.0	
C区第27号土坑	15-C-51	長方形	N-2°-W	93.0	71.0	34.0	
C区第40号土坑	26-C-16	不整円形	N-19°-E	141.0	135.0	22.0	
C区第52号土坑	2-C-49	長方形	N-88°-W	171.0	92.0	39.0	
C区第53号土坑(B)	17-C-53	不整長方形	N-43°-W	80.0	61.0	32.0	
C区第60号土坑	2-C-44	円形	N-15°-E	69.0	58.0	15.0	
C区第79号土坑	14-C-49	不整形	N-33°-W	112.0	101.0	26.0	
C区第80号土坑	10-C-50	長方形	N-5°-W	97.5	67.0	24.0	
C区第81号土坑	8-C-50	不整形	N-83°-E	196.0	158.0	18.0	
C区第82号土坑	8-C-53	〃	N-28°-E	90.0	77.0	35.0	
C区第83号土坑	9-C-52	不整円形	N-16°-W	204.0	181.0	12.0	

## 遺物一覧表

## C区第6号溝跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
9-1 99	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焙	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	
9-2 99	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 (8.0) 底 (4.8) 高 (2.9)	デイサイト 微粒状雲母	酸化焙	鈍橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
9-3 99	土師質土 器 皿	覆土内 残存	口 9.3 底 5.1 高 2.3	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焙	鈍橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部に焼成以前の穿孔有。	
9-4 99	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 6.9 高 —	赤褐色粒子 白色粒子	酸化焙	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋切り。	
9-5 99	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 10.9 底 5.4 高 3.4	白色粒子 細礫	酸化焙	橙	轆轤成形(右回転)。外面は風化が著しい。	
9-6 99	土師質土 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 5.4 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焙	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
9-7 99	土師質土 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 6.9 高 —	黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
9-8 99	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 底 (12.0) 高 —	黒色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
9-9	須恵器 高台付坏	覆土内 残存	口 18.0 底 12.0 高 4.2	黒色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。天上は回転篋整形(右回転)。	秋間系
9-10 99	土師器 甕	覆土内 破片	口 35.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焙	鈍黄褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。外面、黒く燻る。	吉井系
9-11 99	土師器 土釜	覆土内 破片	口 18.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焙	鈍黄褐	口縁部は短く外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系
9-12 99	土師器 土釜	覆土内 破片	口 — 底 (15.0) 高 —	白色粒子	酸化焙	明赤褐	紐作り。外面胴部は篋撫で、内面は撫で。底部は篋撫で。	吉井系
9-13 99	土師器 土釜	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	鈍褐	紐作り整形。外面篋撫で内面は撫で。底部に離砂痕有。	吉井系
9-14 99	土師器 土釜か	覆土内 破片	口 — 底 (9.1) 高 —	白色微粒子	酸化焙	鈍黄褐 黒	紐作り後篋撫で整形。内面全面に炭化物附着燻し処理を施す。外面暗文、燻し処理を施す。	藤岡系
9-15 99	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焙	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。自然釉附着。	秋間系
9-16 99	須恵器 瓶	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焙	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面布疋痕有。	秋間系
9-17 99	須恵器 大甕 転用硯	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焙	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)後轆轤再整形。内面はやや磨減している。外面自然釉附着。外縁を調節する。	秋間系
9-18 99	須恵器 甕	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焙	灰白	紐作り。叩き整形(外面撫で整形・内面宛具は素文)。	秋間系
9-19 99	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焙	灰	紐作り。叩き整形(内面宛具は素文)。内面は磨減している。	
10-1	土師質土 器 瓶	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	口縁部は短かく外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
10-2 100	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 ー 底 (8.8) 高 ー	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面自然釉附着。	乗附系
10-3 100	灰釉瓶	覆土内 破片	口 ー 底 (7.6) 高 ー	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。外面自然釉附着。	秋間系
10-4 100	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	ー	密	良好	オリーブ灰	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛。	
10-5 100	施釉陶器 灰釉瓶	覆土内 破片	ー	密	良好	灰	施釉は浸掛。轆轤整形。胴部は回転篋削り。横位突帯を廻す。	
10-6 100	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 ー 底 5.0 高 ー	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。底部は厚く、高台は短かく摘み出す。	
10-7 100	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口 13.5 底 ー 高 ー	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は浸掛。内面口縁直下に横線を廻らす。	
10-8 100	施釉陶器 灰釉瓶	覆土内 破片	口 ー 底 (17.0) 高 ー	密	良好	灰	轆轤整形(右回転)。	
10-9 100	石製品 砥石	覆土内 一部欠損	長 8.7 幅 3.4 重 104.20	流紋岩(砥沢)	ー	ー	両端欠損。手持砥。	
10-10 100	礫器 不詳	覆土内 完存	長 3.2 幅 3.0 重 28.95	粗粒安山岩	ー	ー	全面磨滅。	
10-11 100	礫石器 不詳	覆土内 完存	長 5.0 幅 4.2 重 85.46	粗粒安山岩	ー	ー	全面磨滅。	
10-12 100	礫器 不詳	覆土内 完存	長 10.7 幅 6.0 重 300.0	変質安山岩	ー	ー	先端部に軽い敲打痕。	
10-13 100	礫器 不詳	覆土内 完存	長 12.5 幅 5.4 重 470.0	溶結凝灰岩	ー	ー	先端部に軽い敲打痕。	
10-14 100	礫器 不詳	覆土内 完存	長 13.4 幅 5.2 重 580.0	変質安山岩	ー	ー	両端に敲打痕。	
10-15 100	礫器 不詳	覆土内 完存	長 13.5 幅 5.0 重 500.0	変質安山岩	ー	ー	両端に軽い敲打痕。	
10-16 100	礫器 不詳	覆土内 1/2残存	長 ー 幅 9.0 重 690.0	粗粒安山岩	ー	ー	先端に敲打痕。	
10-17 100	石製品 羽目石	覆土内 破片	長 ー 幅 ー 重 580.0	二ツ岳軽石	ー	ー	全体に磨き整形。一部にハツリ痕。国分寺二寺の基壇化粧か。	
10-18 100	須恵器 大甕 転用円盤	覆土内 完存	厚 2.0	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元	灰	紐作り。内・外面共に磨滅している。外面平行叩き。	乗附系
11-1 100 瓦-398	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色粒子	還元	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	笠懸系
11-2 100	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元	灰	半截作り。外面轆轤痕・布疋痕。接合はA類。	笠懸系
11-3 100 瓦-473	瓦 宇瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元	灰	瓦当意匠は格子文。段頸。女瓦の横断面の曲率は少ない。	藤岡系
11-4 100 瓦-471	瓦 宇瓦	覆土内 破片	ー	白色粒子	還元	灰	瓦当意匠は飛雲文。外服に連子を施す。段頸。頸部に赤色顔料痕。	笠懸系

## C区(6号溝跡)

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
11-5 100 瓦-472	瓦 字 瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色鋳物粒子	還元	灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。段頸。	吉井系か 藤岡系
11-6 100 瓦-136	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 2.2	白色鋳物粒子	還元	灰	半載作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。側 部面取り4回。粘土板接合痕はZ。	吉井系か 藤岡系
11-7 100 瓦-140	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鋳物粒子	還元	灰	半載作り。篋描き文字瓦「生の逆文字」(凹面)。	吉井系か 藤岡系
11-8 100	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.8	白色鋳物粒子	還元	灰	紐作り。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系か 藤岡系
11-9 100 瓦-138	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鋳物粒子	還元	灰	半載作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面の布目細かい。側部面取り3回。	吉井系
11-10 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目擦り 消し。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回。	笠懸系
11-11 100	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 0.8	白色鋳物粒子 黒色鋳物粒子	酸化焰 か	橙	一枚作り。側部面取り3回。厚さは非常に薄 い。	乗附系か 藤岡系
11-12 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	シルト粒	酸化焰 か	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩 き(密)。側部面取り4回、端部面取り1回。	秋間系
11-13 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩 き(密)・離砂痕有。側部面取り2回、端部面 取り2回。側部に布圧痕。	秋間系
11-14 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。端部面取 り3回。	吉井系
11-15 100 瓦-145	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 2.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦判読不能(凸面)。	笠懸系
11-16 100 瓦-131	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。 凹面模骨痕。側部面取り3回。	乗附系
12-1 100 瓦-128	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面布撫で消し。端部面取り1回。桶巻き造り か。	笠懸系
12-2 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰	凹面模骨痕。凸面正格子叩き。側部面取り2 回。凸面赤色顔料塗彩。12-16と同一個体。	乗附系
12-3 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	赤褐色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩 き(密)。側部面取り4回。	秋間系
12-4 100 瓦-144	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鋳物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。篋描き文字瓦「古」(凸面)。凸面 縦位の撫で整形。	藤岡系
12-5 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	黒色粒子 白色鋳物粒子	還元焰	灰	作りは不詳。凹面撫で整形。側部面取り3回。	乗附系
12-6 100 瓦-134	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鋳物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	吉井系
12-7 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 3.0	白色鋳物粒子	還元焰	灰	一枚作り。側部面取り4回。布目は非常に細 かい。自然釉附着。	乗附系
12-8 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格 子叩き。	乗附系
12-9 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鋳物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面撫で整形。凹面・凸面粘土板 剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り2 回。	吉井系
12-10 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き(密)。側部面取り5回。	秋間系
12-11 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰 か	橙	一枚作り。凸面縄叩き。	笠懸系
12-12 101	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取 り2回。	乗附系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
12-13 101 瓦-139	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
12-14 100 瓦-132	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	乗附系
12-15 100 瓦-131	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子 黒色鉾物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面・凸面粘土板剥ぎ取り痕有。	乗附系か
12-16 101 瓦-129	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面正格子叩き。	乗附系 12-2と 同一個体
12-17 101 瓦-141	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。篋描き文字瓦「十」(凸面)。	笠懸系か
12-18 101 瓦-127	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	白灰	一枚作り。篋描き文字瓦か判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	秋間系
12-19 101 瓦-135	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
13-1 101 瓦-137	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子 シルト粒	還元焰	灰白	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
13-2 101 瓦-130	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
13-3 101 瓦-133	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	白灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。布目の縦糸が非常に細かい。凸面赤色顔料塗彩。	秋間系か 乗附系
13-4 101 瓦-146	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
13-5 101 瓦-143	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印記号瓦「同心円」(凸面)。	吉井系
13-6 101 瓦-142	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	白灰	一枚作り。刻印文字瓦「藪田」(凸面)。	笠懸系
13-7 101 瓦-140	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	酸化焰 か	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目擦り消し。凸面正格子叩き。	笠懸系
13-8 101 瓦-138	瓦 鬼瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	鬼面の左歯牙の文様が残存する。鳥休(鳥釜の割り込み)有。背面は欠損。	笠懸系か

C区第9号溝跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
14-1 101	須恵器 坏	覆土内 破片	口底 — 高 (6.0) —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
14-2 101	須恵器 埴	覆土内 破片	口底 — 高 6.8 —	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
14-3 101	須恵器 埴	覆土内 破片	口底 — 高 (8.2) —	微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
14-4 101	須恵器 甕	覆土内 破片	最大径 22.4	白色鉾物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
14-5 101	羽釜	覆土内 破片	口底 — 高 —	微粒状雲母	還元焰	灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鐙は貼り付け。	藤岡系

## C区(9・10号溝跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
14-6 101	羽釜	覆土内 破片	口 23.8 底 — 高 —	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍褐	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形(右回転)。罅は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
14-7 101	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。	
14-8 101 瓦-399	瓦 鍍瓦	覆土内 破片	厚 2.7	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰	瓦当意匠不詳。瓦当接合部は芋付。男瓦部は紐作り。	秋間系か 乗附系
14-9 101 瓦-147	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系

## C区第10号溝跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
15-1 101	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.1) 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。内面に暗文施す。	乗附系
15-2 101	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.2) 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。内面に暗文施す。	吉井系
15-3 101	土師質土 器 坏	覆土内 %残存	口 10.6 底 (3.4) 高 4.5	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
15-4 101	須恵器 蓋	覆土内 破片	摘部 (5.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系か
16-1 101	須恵器 高坏か	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。内・外面掻き目を残す。	秋間系
16-2 101	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
16-3 101	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。紐作り。口縁部は横撫で。	藤岡系
16-4 101	須恵器 長頸壺	覆土内 頸部残存	取付部 6.2	黒色粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部中央に横線2条を施す。	秋間系
16-5 101	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反し、13本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	東海系か
16-6 102	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り。外面叩き整形宛具は不明。内面宛具素文の叩き整形。	吉井系か 秋間系
16-7 101	須恵器 甕	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。外面は磨滅している。	秋間系
16-8 102	須恵器 横瓶か	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。外面は磨滅している。	秋間系
16-9 101	須恵器 鉢	覆土内 %残存	口 21.8 底 — 高 11.5	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。体部下半は回転篋削り。底部やや磨滅している。	秋間系
16-10 102 瓦-148	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦判読不能(凸面)。凹面布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕、正格子叩き。側部面取り3回。	笠懸系
16-11 102	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き・木目叩き有。側部面取り1回、端面面取り1回。	笠懸系
16-12 102 瓦-149	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。刻印文字瓦判読不能(凸面)。凹面布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕、正格子叩き。側部面取り3回。	笠懸系

## 遺物一覧表

## C区第8・18号溝跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
17-1 103	土師器 坏	覆土内 破片	口 16.3 底 4.5 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
17-2 103	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	口 13.6 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形（右回転）。高台欠損（付高台）。外面燻し処理（秋間窯跡群の特徴的な技法）。	秋間系
17-3 103	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (6.3) 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	乗附系か 吉井系
17-4 103	須恵器 甕	覆土内 破片	—	赤褐色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）後轆轤再整形。	秋間系
17-5 103 瓦-402	瓦 鏡瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。国分寺創建統一意匠。	笠懸系
17-6 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子 半透明鉍物粒子	中性焰	黄灰	一枚作りか。凸面平行叩き後撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系か 乗附系

## C区第11号溝跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
18-1 102	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面正格子叩き。側部面取り2回、端部面取り2回。	秋間系か 乗附系

## C区第12号溝跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
19-1 102	須恵器 坏	覆土内 破片	口 11.8 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	秋間系
19-2 102	須恵器 坏	覆土内 破片	口 13.5 底 6.2 高 4.0	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転系切り。内・外面有機質附着。	乗附系か 秋間系
19-3 102	須恵器 坏	覆土内 破片	口 11.9 底 5.8 高 3.8	微粒状雲母 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転系切り。	藤岡系
19-4 102	須恵器 坏	覆土内 破片	—	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形（右回転）。底部は回転系切り。内面底部に篋描き文字か記号有「判読不能」。	秋間系か
19-5 102	須恵器 塊	覆土内 破片	口 11.4 底 5.9 高 4.5	白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。	乗附系か 吉井・藤岡系
19-6 102	須恵器 盤か	覆土内 破片	口 — 底 (16.0) 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。底部は回転篋撫で。	秋間系
19-7 102	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 —	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形（右回転）。体部胴部に強い轆轤痕？を残す。	吉井系か 藤岡系
19-8 102	施釉陶器 灰釉平瓶	覆土内 破片	最大径 18.0	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形（右回転）。施釉は浸掛か。釉調はやや燻ぶる。	
19-9 102	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (14.8) 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。底部に離砂痕。	乗附系
19-10 102	須恵器 （土師質） 甕か	覆土内 破片	—	白色微粒子	中性焰	灰黄	紐作り。外面撫で整形。内面叩き整形宛具は素文後撫で整形。	秋間系か 藤岡系
19-11 102	須恵器 甕	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。外面格子叩きか。内面宛具素文の叩き整形。内・外面自然釉附着。	秋間系



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
19-12 102	須恵器 大甕	覆土内 破片	—	白色微粒子 白色鋁物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き)。内面叩き整形。	乗附
19-13 102	礫器 不詳	覆土内 破片	長幅重 7.4 1.6 24.78	雲母石英片岩	—	—	全体に磨滅している。	
19-14 102	石造品 羽目石	覆土内 破片	長幅重 11.0 10.0 340.6	軽石(二ツ岳)	—	—	国分寺堂宇の基壇の羽目石か。外面磨き整形。	
19-15 102 瓦-401	瓦 鏡瓦	覆土内 1/2残存	厚 4.0	白色微粒子	中性焰	黄灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。外区は三重圈、国分寺創建統一意匠。	笠懸系
19-16 103 瓦-400	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	厚 0.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当文様は不詳。	笠懸系
20-1 103	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰白	一本作り。瓦当欠損。男瓦部凸面箆撫で整形。	笠懸系
20-2 103	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鋁物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面箆撫で整形、側部面取り2回。粘土板接合痕はZ。	笠懸系
20-3 103 瓦-150	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	一枚作り。箆描き文字瓦か判読不能(凸面)。	秋間系か 藤岡系
20-4 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鋁物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
20-5 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鋁物粒子 半透明鋁物粒子	中性焰 (二次焼成か)	黄灰	一枚作り。粘土板接合痕はS、側部面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
20-6 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鋁物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面撫で整形。	吉井系
20-7 103 瓦-151	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鋁物粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。箆描き文字瓦「大」(凸面)。	吉井系
20-8 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面木目叩き。側部面取り2回。	吉井系
20-9 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	透明鋁物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面斜格子叩き。	笠懸系
20-10 103 瓦-152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	中性焰	鈍橙	一枚作りか。箆描き文字瓦判読不能(凸面)。	笠懸系
20-11 103 瓦-156	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鋁物粒子	還元焰	灰	一枚作り。箆描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
20-12 103 瓦-154	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。箆描き文字瓦「大」(凹面)。凸面縄叩き(密)・離砂痕有。	秋間系
20-13 103 瓦-153	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。箆描き文字瓦判読不能(凹面)。凸面縄叩き(密)。	秋間系
20-14 103 瓦-155	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子 白色鋁物粒子	酸化焰 二次焼成か	橙	一枚作り。箆描き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
20-15 103	鉄器 角釘	覆土内 一部欠損	重 (14.2)	—	—	—	鍛えは普通。	
20-16 103	鉄器 角釘	覆土内 先端欠損	重 (5.6)	—	—	—	鍛えは普通。	
20-17 103	鉄器 釘か利器の茎	覆土内 破片	重 (2.6)	—	—	—	鍛えは普通。	
20-18 103	鉄器 釘	覆土内 先端頭部欠損	重 (2.3)	—	—	—	鍛えは普通。	

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
20-19 103	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.2)	—	—	—	鍛えは普通。	
20-20 103	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.8)	—	—	—	鍛えは普通。	
20-21 103	鉄器 釘	覆土内 先端頭部 欠損	重 (15.2)	—	—	—	鍛えは普通。	

## B区第4号溝跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
21-1 251	土師器 甕	覆土内 破片	口 11.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篔削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
21-2 251	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 —	白色粒子 細砂礫	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篔削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篔撫で。	吉井系
21-3 251	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	吉井系
21-4 251	須恵器 （土師質） 大甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	酸化焰	赤褐	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	乗附系
21-5 251	須恵器 大甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系
21-6 251	土師器 坏	覆土内 破片	口 13.0 底 — 高 (5.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篔削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	藤岡系

## C区第8号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
23-1 104	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.1) 底 — 高 —	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篔削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
24-1 104	土師器 坏	床直層 破片	口 14.3 底 — 高 4.4	黒色鉱物粒子 白色微粒子 金雲母少量	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篔削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
24-2 104	礫器 不詳	床直層 完存	長 11.4 幅 5.8 重 423.0	粗粒安山岩	—	—	全面磨滅。	
24-3 104	礫器 不詳	床直層 完存	長 3.4 幅 3.5 重 13.7	二ツ岳軽石	—	—	小型の石を何らかに利用している。顕著は使用痕はない。用途不明。	
24-4 104	礫器 不詳	床直層 完存	長 12.5 幅 4.6 重 331.2	溶結凝灰岩	—	—	不詳。	
24-5 104	礫器 不詳	床直層 ほぼ完存	長 12.7 幅 6.0 重 517.4	変質玄武岩	—	—	不詳。	
21-6 104	礫器 不詳	床直層 ほぼ完存	長 12.8 幅 6.2 重 247.7	硬質頁岩	—	—	不詳。	
24-7 104	礫器 不詳	床直層 ほぼ完存	長 14.0 幅 5.8 重 681.3	粗粒安山岩	—	—	不詳。	

## C区第9号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
25-1 104	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.1) 底 — 高 (3.1)	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
25-2 104	土師器 坏	床直層 %残存	口 10.5 底 — 高 3.1	黒色粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
25-3 104	土師器 坏	床直層 完形	口 10.6 底 — 高 3.1	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
25-4 104	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.4) 底 — 高 (2.9)	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
25-5 104	土師器 坏	床直層 %残存	口 12.7 底 — 高 3.5	黒色粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
25-6 104	土師器 坏	床直層 破片	口 (18.3) 底 — 高 —	黒色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
25-7 104	須恵器 坏	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち篋削り。	藤岡系
25-8 104	須恵器 蓋	床直層 ほぼ完形	口 10.2 摘 2.2 高 3.3	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は丸い。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。受部は折り返し。	藤岡系
25-9 104	須恵器 坏	床直層 破片	口 (9.2) 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
25-10 104	須恵器 坏	床直層 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち篋削り。	藤岡系
25-11 104	須恵器 坏	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	藤岡系
25-12 104	土師器 甕	床直層 破片	口 (18.3) 底 — 高 —	微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
28-1 104	土師器 甕	カマド内 破片	口 25.0 底 — 高 —	白色鉾物粒子 デイサイト 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
28-2 104	土師器 甕	覆土内 破片	口 (23.5) 底 — 高 —	白色鉾物粒子 黒色鉾物粒子 砂粒	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
28-3 104	須恵器 高坏	床直層 破片	口 (24.0) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。脚部欠損。体部下半は篋撫で。	秋間系
28-4 104	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 (25.1) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。脚部欠損。体部下半は篋撫で。	秋間系
28-5 104	土師質土 器 高坏	覆土内 破片	口 (25.2) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉾物粒子	中性焰 ~還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。脚部欠損。体部下半は篋撫で。	秋間系
28-6 104	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 (28.2) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。脚部欠損。体部下半は篋撫で。	秋間系
28-7 104	須恵器 坏	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。脚部欠損。体部下半は篋撫で。	秋間系
28-8 104	須恵器 壺	床直層 破片	口 14.2 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
28-9 104	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。内面は磨滅している。	乗附系

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
28-10 104	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	秋間系
28-11 104	須恵器 蓋	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。上半部は回転篋削り。	秋間系
28-12 104	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。外面は磨滅している。	乗附系
28-13 104	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。外面は磨滅している。	秋間系
28-14 104	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	秋間系
28-15 104	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系
29-1 105	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	秋間系
29-2 105	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	秋間系
29-3 105	須恵器 提瓶	覆土内 破片	—	白色粒子 シルト粒	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	秋間系
29-4 105	礫器 不詳	床直層 一部欠損	幅 18.8 厚 5.9 重 2860.0	石英閃緑岩	—	—	図上下端側の縁辺を欠損する。台石等として利用されたか。	

## C区第10号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
30-1 105	土師器 坏	床直層 %残存	口 12.3 底 — 高 3.8	白色粒子 黒色鉾物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
30-2 105	土師器 坏	カマド右 袖 破片	口 (18.1) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉾物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底・体部は篋削り、口縁部内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	藤岡系
30-3 105	土師器 甕	床直層 破片	口 (23.7) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉾物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系

## C区第11号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
33-1 105	土師質土 器 坏	覆土下層 %残存	口 (11.0) 底 (5.1) 高 (3.2)	黒色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形（右回転）。底部は静止糸切り。	
33-2 105	土師質土 器 塊	覆土下層 %残存	口 12.0 底 6.6 高 4.7	黒色鉾物粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形（右回転）。付高台。内・外面で部分的に焼りが認められる。	
33-3 105	土師質土 器 塊	覆土下層 %残存	口 14.0 底 7.3 高 6.1	黒色鉾物粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形（右回転）。付高台。	
33-4 105	土師質土 器 塊	カマド左 袖 %残存	口 18.9 底 8.9 高 8.2	黒色鉾物粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形（右回転）。付高台。	
33-5 105	土師質土 器 塊	覆土下層 %残存	—	白色微粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形（右回転）。高台欠損（付高台）。	乗附系か
33-6 105	施釉陶器 灰釉 輪花文皿	覆土下層 ほぼ完形	口 12.0 底 6.9 高 2.6	密	良好	白灰	轆轤成形（右回転）。付高台。施釉は浸掛。輪花（4単位）。	猿投系
33-7 105	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (18.0) 摘 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。上半部は回転篋削り。受部は貼り付け。	秋間系

## C区(10・11・12号住居跡)

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
33-8 105	羽 釜	覆土下層 1/2残存	口 20.1 底 — 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子	中性焰 ～酸化 焰	鈍黄橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形(右回 転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
33-9	土師質土 器 坏	P <sub>1</sub> 内 ほぼ完形	口 11.7 底 5.8 高 3.4	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。底部 は磨滅している。	
33-10	土師質土 器 坏	P <sub>1</sub> 内 完形	口 11.4 底 5.0 高 3.8	白色鉍物粒子 黒色粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	東毛系か
33-11	土師質土 器 塊	P <sub>1</sub> 内 完形	口 10.0 底 7.1 高 5.0	白色粒子 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
33-12	土師質土 器 塊	P <sub>1</sub> 内 完形	口 10.2 底 6.4 高 4.8	白色粒子 黒色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
33-13 105	土師質土 器 塊	P <sub>1</sub> 内 ほぼ完形	口 13.8 底 8.4 高 5.5	白色粒子 黒色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
33-14 105	石 製 品 砥 石	P <sub>1</sub> 内 1/2残存	幅 5.0 厚 2.4 重 227.0	流紋岩(砥沢)	—	—	手持ちと置砥兼用か。利器の先端に刺突痕有。	
33-15 105 瓦-403	瓦 鍍 瓦	覆土下層 1/2残存	厚 2.5	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。外区に左扁行唐 草文を配す。中房の子葉は1+5。瓦当接合 部は芋付。	笠懸系か 吉井系
34-1 105	瓦 男 瓦	カマド右 袖 完形	長 39.6 広 18.5 狭 12.4	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 1回、端部面取り1回。	吉井系
34-2 105	瓦 男 瓦	カマド左 袖 1/2残存	幅 15.6 厚 2.2	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面撫で整形。凸面赤色顔料塗彩。 側部面取り2回。端部面取り1回。	吉井系
34-3 106	瓦 男 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子 白色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	半截作り。側部面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系か
34-4 106	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕有。粘土板剥ぎ取 り痕、側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
35-1 106	瓦 女 瓦	カマド右 袖 ほぼ完形	長 41.7 広 26.8 幅 27.0	白色鉍物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩 き後撫で整形。側部面取り3回、端部面取り 2回。	吉井系
35-2 106	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕 有。凸面轆轤横撫で・縄叩き後撫で整形。側 部面取り3回。端部面取り2回。	秋間系
35-3 106	瓦 女 瓦	覆土下層 破片	厚 1.6	白色粒子 白色鉍物粒子	中性焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面布合せ目痕・模骨痕・布目 擦り消し有。凸面轆轤横撫で。側部面取り2 回、端部面取り2回。	笠懸系
35-4 106	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面自然釉付 着。側部面取り3回。	乗附系

## C区第12号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
36-1 106	須 惠 器 坏	覆土下層 破片	口 (13.1) 底 (6.6) 高 3.6	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
36-2 106	須 惠 器 坏	カマド右 袖 破片	口 — 底 6.5 高 —	透明鉍物粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
36-3 106	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回。	秋間系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
36-4 106	瓦 男 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.3	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰白	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り1回。	秋間系
37-1 106	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
37-2 107	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系

C区第13号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
39-1 107	須 恵 器 壺	床直層 破片	口 15.0 底 7.3 高 5.6	白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻りが認められる。	藤岡系
39-2	鉄 器 釘 か	床直層 破片	重 (1.2) 厚 4.5	—	—	—	鍛えは普通。	
39-3	鉄 器 釘 か	床直層 破片	重 (1.7) 厚 4.5	—	—	—	鍛えは普通。	
39-4 107	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面不定方向の撫で整形。凸面繩叩き(密)後撫で整形。側部面取り1回。	吉井系
39-5 107 瓦-157	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。刻印文字瓦「子」(凹面)。	笠懸系
39-6 107	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面布合わせ目痕有。凸面轆轤横撫で。側部面取り4回。	吉井系

C区第14号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
40-1 107	土師質土 器 皿	覆土内 完形	口 8.9 底 4.5 高 1.9	赤色粒子 黒色粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
40-2 107	土師質土 器 壺	床直層 多残存	口 15.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損。	
41-1 107	土 師 器 土 釜	床直層 破片	口 30.2 底 — 高 —	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は短かく直立する。紐作り後篋撫で整形。	
41-2 107	須 恵 器 又 耳 壺	覆土内 破片	最大径 29.0	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。取手は貼り付け。	
41-3 107	羽 釜	覆土内 破片	口 (16.8) 底 18.4 高 17.0	白色鉍物粒子 半透明鉍物粒 子 赤色粒子	酸化焰	鈍黄褐	口縁部は内湾する。紐作り後撫で整形(右回転)。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篋撫で。吉井型羽釜。	吉井系
41-4 107	施釉陶器 灰 釉 碗	覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	
41-5 107	礫 器 不 詳	床直層 破片	長 12.9 幅 4.5 重 397.5	文象斑岩	—	—	先端に敲打痕有。	
41-6 107	礫 器 不 詳	覆土内 完存	長 8.2 幅 7.2 重 377.8	かこう岩	—	—	先端部に敲打痕有。上面磨滅している。	
41-7 107	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩き。側部面取り2回。粘土板接合痕はZ。	秋間系
42-1 107 瓦-158	瓦 男 瓦	床直層 細片	厚 2.7	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	乗附系

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
42-2 107	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回。	秋間系
42-3 107	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)・離砂痕有。側部面取り2回。	秋間系
42-4 107	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子	酸化焰	橙褐	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後撫で整形、轆轤横撫で。粘土板接合痕はS。側部面取り2回。	乗附系
42-5 107	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凹面寄木痕。側部面取り3回、端部面取り5回。	吉井系

## C区第15号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
43-1 107	土師質土 器 坏	床直層 破片	口 ー 底 4.7 高 ー	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内面底部に有機質附着。	
43-2 107	土師器 土 釜	カマド内 破片	口 24.4 最大幅 26.0	白色鉍物粒子 黒色粒子 デイサイト	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
44-1 107	須惠器 甕	覆土内 破片	ー	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。内・外面撫で整形。	乗附系
44-2 107	須惠器 甕	覆土内 破片	ー	白色粒子 シルト	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。内面磨滅。	乗附系
44-3 107	須惠器 甕	床直層 破片	ー	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系
44-4 107	礫 器 不詳	覆土内 完存	長 14.0 幅 10.1 重 754.4	砂岩	ー	ー	顕著な使用痕は認められない。	
44-5 108	鉄 器 不詳	床直層 完存	一辺 3.3 重 (9.5)	ー	ー	ー	環状鉄製品。断面正方形。鍛えは普通。	
44-6 108	鉄 器 不詳	床直層 破片	一辺 2.4 重 (2.3)	ー	ー	ー	釘か鉄等の茎と思われる。	
44-7 108	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 0.8	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	半載作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回。	乗附系
44-8 108	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色微粒子 雲母	還元焰	暗灰	半載作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回	笠懸系
44-9 108	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 0.9	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面轆轤横撫で。端部面取り1回。	乗附系
44-10 108	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.2	黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り4回。	乗附系
44-11 108	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉍物粒子 雲母	酸化焰	鈍黄橙	半載作り。凸面平行叩き。	笠懸系
45-1 108	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色粒子 半透明鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面布目撫で消し・縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回。	笠懸系
45-2 108	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凸面平行叩き。側部面取り3回。端部面取り2回。	吉井系
45-3 108	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.6	白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面不整格子叩き。	乗附系
45-4 108	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 半透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。端部面取り2回。	吉井系
45-5 108	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系

遺物一覧表

C区第16号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
46-1 108	須恵器 坏	カマド・ 掘り方内 破片	口 (12.4) 底 (5.8) 高 4.2	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	
46-2 108	土師質土 器 塊	覆土下層 破片	口 (13.8) 底 (6.0) 高 (3.7)	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
46-3 108	施釉陶器 灰釉碗	覆土下層 破片	口 (11.5) 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損。施釉は浸掛。	
46-4 108	施釉陶器 灰釉段皿	床直層 破片	口 (12.6) 底 (7.8) 高 3.3	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
47-1 108	土師器 土釜	床直層 破片	口 — 底 10.4 高 —	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後篋撫で整形。	
47-2 108	須恵器 甕	覆土下層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。内面磨減。	乗附系
47-3 108	羽釜	覆土下層 破片	口 (19.1) 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罌は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
47-4 108	土製円盤	床直層 破片	厚 1.7~2.1	白色鈹物粒子	中性焰	黄灰	紐作り。	吉井系
47-5 108	瓦 玉縁付男 瓦	床直層 細片	厚 1.4	白色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤横撫で。玉縁接合はA類。	笠懸系
47-6 108	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り1回。	秋間系
47-7 108	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.1	デイスait 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙褐	半截作り。粘土板接合痕はZ。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井系か 藤岡系
48-1 108	瓦 男瓦	覆土下層 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り4回、端部面取り1回。	秋間系
48-2 108	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.3	白色鈹物粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	吉井系
48-3 109 瓦-159	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色鈹物粒子	酸化焰	橙褐	一枚作り。篋描き文字瓦「十か」(凸面)凸面縄叩き(密)後撫で整形。	吉井系
48-4 109	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	乗附系
48-5 109	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鈹物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
48-6 109	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色鈹物粒子	還元焰	灰	紐作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。凸面轆轤横撫で。端部面取り2回。	吉井系

C区第17号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
49-1 109	須恵器 坏	覆土下層 1/2残存	口 13.3 底 6.8 高 4.3	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系か 藤岡系
49-2 109	須恵器 塊	覆土下層 破片	口 (13.6) 底 — 高 (5.7)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
49-3 109	須恵器 塊	カマド右 袖 破片	口 — 底 (8.2) 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
49-4 109	須恵器 埴	カマド右 袖 破片	口 — 底 (7.9) 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	
49-5 109	土師質土 器 皿	カマド左 袖 ほぼ完形	口 13.8 底 — 高 —	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
50-1 109	土師器 甕	カマド右 袖 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
50-2 109	須恵器 大甕	カマド右 袖 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	5本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
51-1 109	施釉陶器 灰釉碗	カマド右 袖 破片	口 (19.2) 底 — 高 —	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は刷毛塗。	18号住出土遺物と 接合
51-2 109	礫器 不詳	覆土下層 完存	長 9.9 幅 8.5 重 446.6	粗粒安山岩	—	—	側部に敲打痕有。上面は磨滅している。	
51-3 110	鉄器 釘	床直層 両端若干欠損	重 (31.8)	—	—	—	鍛えは普通。	
51-4	鉄器 釘 か	床直層 破片	重 (45.7)	—	—	—	上半は屈曲するが、錆によるものではない。鍛えは普通。	
51-5 109	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面布合せ目痕。側部面取り1回。端部面取り1回。	笠懸系
51-6 110	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	黒色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	乗附系
51-7 109	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.0	白色微粒子 細礫	中性焰	黄灰	半截作り。凹面布合せ目痕・縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	藤岡系か 乗附系
51-8 110 瓦-160	瓦 女瓦	カマド左 袖 ㄥ残存	厚 2.0 狭 24.2	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
52-1 110	瓦 女瓦	カマド内 ㄥ残存	厚 2.1	白色微粒子	酸化焰	赤褐	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。側部面取り3回、端部面取り1回。	笠懸系
52-2 110	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
52-3 110	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系

## C区第18号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
53-1 110	土師質土 器 坏	カマド右 袖 ほぼ完形	口 9.6 底 3.6 高 2.9	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部は磨滅している。内・外面とも燻りが認められる。	
53-2 110	土師質土 器 坏	覆土内 ㄥ残存	口 9.7 底 4.4 高 3.1	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部は磨滅している。内・外面とも燻りが認められる。	
53-3 110	土師質土 器 坏	覆土内 ㄥ残存	口 10.6 底 5.1 高 3.3	黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部は磨滅している。内・外面とも燻りが認められる。	
53-4 110	土師質土 器 埴	覆土内 破片	口 (11.2) 底 — 高 —	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部は磨滅している。内・外面とも燻りが認められる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
53-5 110	須 恵 器 壺	覆土内 %残存	口 — 底 6.1 高 —	透明鉾物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
53-6 110	土師質土 器 壺	覆土内 %残存	口 12.6 底 — 高 —	微粒状雲母 透明鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
53-7 110	土師質土 器 壺	覆土内 %残存	口 13.4 底 9.0 高 5.6	黒色鉾物粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
53-8 110	須 恵 器 壺	覆土内 %残存	口 14.2 底 6.8 高 5.9	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
53-9	須 恵 器 (土師質) 瓶	覆土下層 破片	最大径 25.0	白色鉾物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形 (右回転)。内面ハゼ顕著。	吉井系
53-10 110	須 恵 器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。器内面に墨痕。	乗附系
54-1 111	羽 釜 蓋	カマド右 袖 %残存	口 22.4 底 — 高 —	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形 (右回転)。鏝は貼り付け。内・外面篋無で。吉井羽釜蓋。	吉井系
54-2 111	羽 釜 蓋	覆土内 %残存	口 24.4 底 — 高 —	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内湾する。紐作り後撫で整形 (右回転)。鏝は貼り付け。内・外面篋無で。	吉井系
54-3 111	石 製 品 乳房状磨 製 石 器	掘り方内 完存	長 16.0 幅 6.8 厚 3.0 重 659.6	変玄武岩	—	—	成形時の打痕が認められる。刃部側に使用痕と思われる平行条痕有。刃部は蛤刃。	
54-4 112 瓦-161	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.9	白色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。篋描き文字瓦「四」(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
54-5 111 瓦-162	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。篋描き文字瓦「子」(凹面)。凸面木目叩き。側部面取り3回。	乗附系か 秋間系
55-1 111	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。側部面取り3回、端面取り3回。	吉井系
55-2 112	瓦 女 瓦	覆土下層 破片	厚 1.2	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)。	秋間系
55-3 111	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰褐	半截作り。凹面・模骨痕粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で。側部面取り1回、端面取り3回。	笠懸系
55-4 112	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.6	白色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。側部面取り3回、端面取り2回。	吉井系

C区第19号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
56-1 112	土師質土 器 壺	覆土内 %残存	口 — 底 (7.0) 高 —	白色粒子 黒色粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
56-2 112	土師質土 器 壺	カマド右 袖 %残存	口 12.6 底 6.9 高 5.2	黒色鉾物粒子 白色粒子 デイスайト	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内・外面暗文を施す。	吉井系か 藤岡系
56-3 112	土師質土 器 壺	掘り方内 %残存	口 13.6 底 6.7 高 4.5	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
57-1 112	土師質土 器 壺	カマド %残存	口 17.2 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
57-2 112	須恵器 (土師質) 壺	覆土内 %残存	口 (15.2) 最大径 27.6	白色粒子 シルト粒 白色鉍物粒子	還元焰	灰白 灰褐	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
57-3 112	土師器 土釜	掘り方内 破片	口 (23.3)	黒色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白 灰褐	口縁部は外反する。紐作り後篋撫で整形。	吉井系
57-4 112	羽釜	覆土内 破片	口 19.2 底 — 高 —	白色粒子	中性焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
57-5 112	羽釜	覆土内 破片	口 (22.1) 底 — 高 —	白色鉍物粒子 赤色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾し、口唇部は直立している。紐作り後撫で整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
57-6 112	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口 (14.9) 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は浸掛。内面口縁直下に横線を廻らす。	
57-7 112	石製品 砥石	掘り方内 破片	重 135.7	流紋岩(砥沢)	—	—	手持砥か置砥か判別しない。	
57-8 112	鉄器 鎌	カマド内 先端欠損	重 (5.3)	—	—	—	鍛え良。広鋒三角形腸扶筥被式。根の部分は研ぎ減りが著しく、不明瞭な鋸筋を残す。	
57-9 112	銅 刀飾具 足金物	掘り方内 完形	重 (5.3)	—	—	—	鞘通しの部分を欠損する。帯執通しとは熱圧着による。断面は台形状を呈し稜線は顕著である。残存非常に良好。	
57-10 112 瓦-474	瓦 宇瓦	覆土下層 破片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	白灰	瓦当左端辺であるが、細片の為、瓦当意匠不明。	秋間系
57-11 112	瓦 玉縁付男 瓦	覆土下層 破片	厚 2.3	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	白灰	半載造り。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回。	秋間系
57-12 112	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で。凸面布目撫で消し。粘土板接合痕はS。	吉井系
57-13 112	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 2.4	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布目撫で消し。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
58-1 113 瓦-163	瓦 男瓦	カマド内 %残存	長 39.4 幅 18.8 厚 2.2	白色鉍物粒子 白色粒子 半透明鉍物粒子	還元焰	暗灰	半載作り。篋描き文字瓦「大山」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不定方向の撫で。側部面取り4回、端部面取り3回。	吉井系
58-2 113	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凹面・凸面粘土板剥ぎ取り痕有。凸面横位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
58-3 112	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(密)後撫で整形。端部面取り2回。	笠懸系
58-4 113	瓦 女瓦	覆土下層 %残存	厚 1.6	白色鉍物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系

## C区第20号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
59-1 113	土師質土 器 坏	床直層 ほぼ完形	口 10.0 底 4.9 高 3.4	黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
59-2 113	土師質土 器 壺	覆土内 %残存	口 13.5 底 5.6 高 5.5	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。外面燻りが認められる。	
59-3 113	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (14.3) 底 (7.0) 高 (4.5)	白色粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。外面燻りが認められる。	
59-4 113	土師質土 器 壺	覆土下層 破片	口 (16.3) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部・高台欠損。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
61-1 113	須 恵 器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系
61-2 113	須 恵 器 甕	覆土内 破片	—	透明鉍物粒子 白色微粒子多	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	吉井系
61-3 113	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (17.9) 高 —	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	
61-4 113	羽 釜	覆土内 破片	口 (18.1) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形（右回転）。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
61-5 113	羽 釜	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形（右回転）。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
61-6 114	羽 釜	覆土内 %残存	口 (9.0) 底 — 高 —	白色微粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後撫で整形（右回転）。胴部下半・底部は篋撫で。吉井型羽釜。	吉井系
61-7 113	須 恵 器 甕	覆土内 %残存	口 — 底 7.4 高 —	白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。外面篋削り。	
61-8	施釉陶器 灰 釉 碗	カマド内 破片	口 (14.9) 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛。内面口縁部に横線を廻らす。	
61-9 113	石 製 品 基 石 か	覆土内 完存	長 2.9 幅 3.4 厚 0.9 重 4.8	石英	—	—	住居内出土の偏平小礫は、能野堂遺跡にまともって出土している。用途不明である。	
61-10	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (8.7)	—	—	—	両端欠損。全体に薄く断面は長方形状を呈する。	
62-1 114	瓦 女 瓦	覆土下層 破片	厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面正格子叩き。端部面取り1回。	笠懸系
62-2 114 瓦-164	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。端部面取り2回。	吉井系
62-3 114	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉍物粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回。	笠懸系
62-4 114	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。凹面布目撫で消し。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回。	吉井系

C区第21号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
63-1 114	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (11.4) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	
63-2	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 —	—	—	—	轆轤成形（右回転）。内面に墨痕有。	
63-3 114	土師質土 器 坏	床直層 %残存	口 (12.2) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子 黒色鉍物粒子	中性焰 (二次 焼成)	灰黄	轆轤成形（右回転）。内・外面燻りが認められる。	
63-4 114	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 (13.2) 底 — 高 —	白色粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形（右回転）。高台欠損。	
63-5 114	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 (14.2) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形（右回転）。高台欠損。	
63-6 114	須 恵 器 埴 か	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。高台欠損。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
64-1 114	須恵器 壺	覆土内 %残存	口 (14.8) 底 (6.4) 高 5.0	白色粒子 白色鋳物粒子 透明鋳物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	
64-2 114	土師質土 器 壺	床直層 %残存	口 — 底 6.7 高 —	白色粒子 白色鋳物粒子 赤色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻りが認められる。	
64-3 114	土師質土 器 壺	床直層 %残存	口 — 底 6.8 高 —	黒色粒子 白色粒子 白色鋳物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	
64-4 114	土師器 甕	床直層 破片	口 (13.3) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子 透明鋳物粒子	酸化焰	橙褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
64-5 115	須恵器 甕	覆土内 完形	口 15.3 底 10.5 高 28.7	黒色粒子 白色粒子	還元焰	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
64-6 114	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (7.8) 底 — 高 —	白色鋳物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
64-7 114	須恵器 (土師質) 鉢	床直層 破片	口 (21.0) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
64-8 114	羽釜	覆土内 破片	口 (30.0) 底 — 高 —	白色微粒子 白色鋳物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鐶は貼り付け。	
64-9 114	須恵器 甕	カマド右 袖 破片	口 — 底 (22.0) 高 —	白色粒子 白色鋳物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
64-10 114	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
64-11 114	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 %残存	口 — 底 5.6 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
64-12 114	施釉陶器 緑釉 劃花文碗	覆土内 破片	—	密	良好	オリーブ 灰	見込みに花文を印刻する。器形は大きい。	
64-13 114	羽口	覆土内 破片	長 8.8 幅 5.4 厚 2.1	密	酸化焰	橙	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
64-14 114	羽口	覆土内 破片	長 4.9 幅 2.0 厚 —	密	酸化焰	橙	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
65-1 115	礫 不詳	床直層 完存	長 10.2 幅 8.6 重 604.2	粗粒安山岩	—	—	中央は磨滅している。	
65-2 114	礫 不詳	床直層 ほぼ完存	長 13.1 幅 10.0 重 575.4	粗粒安山岩	—	—	中央は磨滅している。	
65-3 115	礫 不詳	覆土内 %残存	長 — 幅 10.2 重 742.6	粗粒安山岩	—	—	中央は磨滅している。	
65-4 114	鉄器 鎌	床直層 茎先端欠 損	身長 4.0 長 10.6 重 (10.7)	—	—	—	狭峰三角形腸扶式。根の部分は通有には両丸造りと称するが、刃部の研き出しによる鎧筋が認められる。篋被断面は四角形。鍛え普通。	
65-5 114	鉄器 刀子	床直層 破片	重 (1.9)	—	—	—	身幅が薄く、全体に細長である事から使用に伴う研ぎ減りが著しいものと思われる。鍛え普通。	
65-6 114	鉄器 鉄釘か	床直層 破片	重 (2.5)	—	—	—	断面四角形。鍛え普通。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
65-7	鉄 器 不 詳	床直層 破片	重 (29.7)	—	—	—	断面長方形を呈する。先端部側も残存するが 通有の釘とは思われない。鍛え普通。	
65-8	鉄 器 不 詳	床直層 破片	重 (6.4)	—	—	—	断面四角形。鍛え普通。	
65-9	鉄 器 不 詳	床直層 破片	重 (5.7)	—	—	—	断面長方形。鍛え普通。	
65-10 115 瓦-475	瓦 宇 瓦	カマド右 袖 破片	厚 3.0	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙灰	瓦当は右扁行唐草文。瓦当面の幅は狭い。女 瓦部は一枚作り。	吉井・藤 岡系
65-11 115	瓦 玉縁付男 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	半截作り。轆轤成形。凹面布合せ目痕有。	吉井・藤 岡系
65-12 115	瓦 男 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回。	吉井・藤 岡系
65-13 115	瓦 男 瓦	覆土下層 破片	厚 2.3	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	淡褐灰	半截作り。凹面布目撫で消し。凸面平行叩き。 側部面取り3回。	乗附系
65-14 115	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩 き(密)後撫で整形。側部面取り3回、端部面 取り2回。	吉井系
65-15 115	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色粒子	中性焰	灰黄	紐作り。凹面布目撫で消し。凸面平行叩き後 撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
66-1 115	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色粒子 白色鉍物粒子 雲母	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。端部面取り2回。	吉井系
66-2 115 瓦-165	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「蘭田」(凸面)。凹面 布合せ目痕有。端部面取り2回。	笠懸系
66-3 115	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り。凹面撫で整形。	吉井系

C区第22号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
67-1 115	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 4.1 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	
67-2 115	土師質土 器 坏	カマド左 袖 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	
67-3 115	土師質土 器 塊 か	掘り方内 破片	口 (14.7) 底 — 高 —	黒色粒子 透明鉍物粒子 赤色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損。	
67-4 115	土師質土 器 塊 か	掘り方内 破片	口 (15.4) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 黒色鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損。内面燻りが認 められる。	
67-5 115	施釉陶器 灰 釉 皿	カマド右 袖 1/2残存	口 13.2 底 7.3 高 2.5	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
67-6 115	施釉陶器 緑 釉 劃花文碗	床直層 破片	—	密	良好	オリー ブ灰	口縁内側に細い沈線による文様表出。	
67-7 115 瓦-404	瓦 鏡 瓦	床直層 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は複弁7葉蓮華文系で山王・秋間系 の跡出型の抽象文。	秋間系
67-8 116	瓦 男 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	赤褐色粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部 面取り2回。	秋間系

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
68-1 116 瓦-166	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。凸面自然袖附着。	吉井系
68-2 116 瓦-168	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄褐	一枚作り。篋描き文字瓦「平か」(凸面)。凸面板目叩き。側部面取り3回。	吉井系
68-3 116 瓦-167	瓦 女瓦	カマド左 袖 1/2残存	厚 2.9	赤褐色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦「一」(凸面)。側部面取り1回、端部布目有。	笠懸系
69-1 115 瓦-169	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 2.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「蘭田」(凸面)。	笠懸系
69-2 116	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉍物粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	吉井系
69-3 116	瓦 女瓦	覆土下層 1/2残存	厚 2.2	黒色粒子 白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	中性焰	灰黄	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回、端部面取り3回。	乗附系
69-4 116	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.9	白色鉍物粒子 半透明鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面布目撫で消し。	吉井系

## C区第23号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
70-1 116	土師質土 器 皿	床直層 破片	口 7.9 底 — 高 1.5	微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	
70-2 116	土師質土 器 皿	カマド左 袖 破片	口 8.2 底 5.1 高 1.8	黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系か
70-3 116	土師質土 器 皿	床直層 完形	口 9.0 底 4.8 高 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
70-4 116	土師質土 器 境	カマド左 袖 1/2残存	口 13.2 底 7.1 高 5.0	白色鉍物粒子 微粒状雲母 透明鉍物粒子	還元焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
70-5 116	土師器 土 釜	カマド左 袖 破片	口 (24.0) 底 — 高 —	白色鉍物粒子 デイスait 微粒状雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系
70-6 116	石造品 羽目石	カマド左 袖 破片	重 970.3	ニツ岳軽石	—	—	国分寺堂宇の基壇化粧の羽目石か。	
70-7 116	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	鈍灰	半截作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。粘土板接合痕はZ。	笠懸系
70-8 116	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回。	笠懸系
70-9 117 瓦-170	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「蘭田」(凸面)。側部面取り2回。	笠懸系
70-10 117	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.6	白色微粒子 シルト粗粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。側部面取り2回。	乗附系
70-11 117	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
71-1 117	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	吉井系
71-2 117	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
71-3 117	瓦 女 瓦	覆土下層 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面・凸面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系

C区第24号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
73-1 117	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (11.1) 底 (7.2) 高 2.9	黒色粒子 黒色鉾物粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に型膚を残す。	
73-2 117	土師質土 器 坏	覆土内 1/2残存	口 13.4 底 7.4 高 3.4	黒色粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
73-3 117	須 恵 器 塊	覆土下層 破片	口 (13.5) 底 (7.0) 高 5.1	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	
73-4 117	土師質土 器 塊	覆土下層 1/2残存	口 16.9 底 8.5 高 6.4	黒色粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	
73-5 117	須 恵 器 塊	カマド右 袖 1/2残存	口 — 底 7.6 高 —	黒色粒子 透明鉾物粒子 黒色鉾物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	
73-6 117	須 恵 器 塊	覆土内 1/2残存	口 — 底 7.8 高 —	微粒状雲母 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面ともに燻し処理。	
73-7 117	施釉陶器 灰 釉 碗	床直層 1/2残存	口 13.8 底 7.5 高 4.0	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
73-8 117 瓦-405	瓦 鏡 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子 半透明鉾物粒子	良好	浅黄橙	一本作り。瓦当面欠損。	吉井系
73-9 117	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	デイスイト 軽石	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩き。	乗附系
73-10 117	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉾物粒子 白色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回。	乗附系
73-11 118	瓦 男 瓦	カマド右 袖 1/2残存	長 20.8 厚 2.2	白色粒子 微粒状雲母	還元焰	暗黒灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系
74-1 117	瓦 男 瓦	カマド左 袖 ほぼ完形	長 31.0 幅 16.8 狭端部 13.0	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。凹面布合せ目痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り左4回、右3回。端部面取り2回。	笠懸系
74-2 118	瓦 男 瓦	カマド左 袖 ほぼ完形	長 41.5 幅 17.5 厚 1.6	白色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り左3回、右2回。	吉井系
75-1 117	瓦 男 瓦	カマド左 袖 ほぼ完形	長 41.2 幅 17.0 狭端部 16.6	白色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
75-2 119	瓦 女 瓦	カマド左 袖 ほぼ完形	長 40.0 広端部 27.0 狭端部 21.0	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系か



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
76-1 118	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	赤色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙褐	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。粘土ブロックの積土がある。	乗附系か 吉井系
76-2 118	瓦 女瓦	破片	厚 2.2	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕・離砂痕有。凸面T字状縄叩き・離砂痕有。	乗附系か 秋間系

## C区第25号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
77-1 118	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 (9.4) 底 (4.4) 高 2.9	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
77-2 118	土師質土 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.0) 底 (6.4) 高 3.9	黒色粒子 白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面燻りが認められる。	
78-1 118	須恵器 坏	カマド右 袖 完形	口 14.2 底 5.9 高 5.0	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面燻りが認められる。	
78-2 118	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (14.3) 底 (6.0) 高 5.4	白色粒子 白色鉱物粒子 シルト粒	酸化焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
78-3 118	土師質土 器 塊	カマド右 袖 1/2残存	口 6.0 底 — 高 —	赤色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系か 乗附系
78-4 118	須恵器 大甕	カマド右 袖 破片	最大径 41.6	白色鉱物粒子 デイスait	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤 岡系
78-5 118	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。外面自然釉附着。78-6と同一個体	乗附系
78-6 119	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。外面は叩き後撫で。78-5と同一個体	乗附系
78-7 118	礫 器 不詳	覆土内 完存	長 11.6 幅 6.0 重 699.9	変質安山岩	—	—	断面三角形状を呈し、平坦面磨滅。	
78-8	鉄器 不詳	床直層 破片	幅 0.38 重 (9.9)	—	—	—	旧状は四角形状のものと推定される。門貫用の金具か。	
78-9	鉄器 不詳	床直層 破片	幅 0.42 重 (7.0)	—	—	—	全体に曲がった状態であるが、旧状が曲がったものか。又は廃棄時の所産か。不分明。	
78-10 119	瓦 玉縁付男 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回。接合はA類。	吉井系
78-11 119	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 細片	厚 1.2	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り後轆轤整形。凸面轆轤横撫で。接合はA類。	笠懸系
79-1 119	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	赤褐色粒子 黒色粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面米格子叩き。側部面取り2回。	笠懸系
79-2 119	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、凸面縄叩き(密)。	乗附系

## C区第26号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
80-1 119	土師質土 器 坏	カマド左 袖 破片	口 10.4 底 4.0 高 3.4	赤色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
80-2 119	土師質土 器 坏	カマド左 袖 %残存	口 (11.0) 底 (4.8) 高 3.2	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。内・外面燻りが認められる。	
80-3 119	土師質土 器 坏	掘り方 覆土内 %残存	口 (11.2) 底 (5.4) 高 4.0	赤色粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	
81-1 119	土師質土 器 坏	カマド右 袖 %残存	口 (13.3) 底 (7.0) 高 4.2	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。内・外面燻りが認められる。	
81-2 119	土師質土 器 坏	カマド右 袖 破片	口 (15.6) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄褐	轆轤成形 (右回転)。	
81-3	土師器 鉢 か	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後轆轤整形。内面指撫で。外面雑な筥撫で。	乗附系か
81-4 119	土師質土 器 塊	カマド右 袖 %残存	口 11.7 底 6.4 高 3.9	黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
81-5	土師質土 器 塊	床直層 破片	口 — 底 10.5 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
81-6 119	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	—	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は不詳。	
81-7 119	須恵器 甕	覆土下層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。内面磨滅。	乗附系
81-8 119	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は板目状)。内面磨滅。	乗附系
81-9 119	羽釜	カマド左 袖 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	赤褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
82-1 119	羽釜	カマド右 袖 破片	口 20.1 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
82-2 119	羽釜	カマド右 袖 破片	口 21.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
82-3 120	羽釜	カマド右 袖 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 赤色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
82-4 120 瓦-171	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	長 40.2 広 28.0 狭 21.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。篋描き文字瓦「山か」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り4回。	吉井系
82-5 120	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面板目叩き。端部面取り3回。粘土板接合痕はS。	吉井系
82-6 120	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	赤褐	一枚作り。側部面取り4回。	吉井系
83-1 120 瓦-172	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	黒色粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
83-2 120	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.3	細礫 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。側部面取り2回。端部面取り2回。ハゼ有。	乗附系

## C区第28号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
85-1	須恵器 坏	掘り方内 破片	口 (12.4) 底 (6.2) 高 3.8	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
85-2 120	須恵器 坏	掘り方内 1/2残存	口 (13.4) 底 (6.8) 高 4.2	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面燻し処理。	
85-3 120	須恵器 埴	覆土内 1/2残存	口 (11.8) 底 — 高 (4.2)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
85-4 120	須恵器 埴	掘り方内 1/2残存	口 13.6 底 (6.6) 高 5.0	赤色粒子 白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	
85-5 120	土師質土 器 埴	掘り方内 ほぼ完形	口 13.8 底 7.0 高 5.3	白色粒子 黒色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻りが認められる。	
85-6 121	土師質土 器 埴	カマド内 1/2残存	口 17.9 底 — 高 5.9	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内・外面燻りが認められる。	
85-7 121	土師質土 器 埴	覆土内 1/2残存	口 — 底 5.9 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
85-8 121	土師器 不詳	覆土内 破片	—	透明鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後窠撫で整形。	月夜野系 か 吉井系
85-9 121	須恵器 (土師質) 壺	床直層 破片	最大径 23.2	黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。内・外面ハゼが多い。	乗附系
85-10 121	須恵器 大甕	床直層 破片	—	白色微粒子多	酸化焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内・外面ハゼが多い。	笠懸系か
85-11 121	須恵器 大甕	床直層 破片	—	白色鉍物粒子 デイスait	酸化焰	黒灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内・外面ハゼが多い。	吉井系
86-1 121	須恵器 広口壺	カマド内 破片	最大径 32.7	白色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半は窠撫で。	吉井・藤岡系
86-2 121	羽釜	床直層 破片	口 (34.3) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。	
86-3 121	須恵器 甕	覆土内 底部残存	口 — 底 8.1 高 —	白色鉍物粒子	還元焰	黒	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
86-4 121	施釉陶器 灰釉 輪花文皿	覆土内 1/2残存	口 16.0 底 7.7 高 4.4	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
86-5 121	須恵器 埴	掘り方内 破片	口 — 底 6.6 高 —	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	
86-6 121	施釉陶器 灰釉瓶	覆土内 底部残存	口 — 底 5.2 高 —	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。底部は回転窠切り。	
86-7 121	礫器 不詳	掘り方内 完存	長 8.7 幅 7.7 重 402.8	粗粒安山岩	—	—	全体に扁平で中央部磨滅する。	
86-8	鉄器 刀子	覆土内 茎欠損	重子 0.15 重 (8.6)	—	—	—	棟関は鋭く短い。刀関は曲線を描く。使用に伴う研ぎ減りが著しい。86-9と同一個体か。	
86-9	鉄器 刀子	覆土内 尖先欠損	重子 0.16 重 (3.4)	—	—	—	使用に伴う研ぎ減りが顕著。86-8と同一個体か。	
86-10	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (3.8)	—	—	—	断面円形状を呈する。図上上端側は円錐形状に凹んでいる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
86-11 121 瓦-406	瓦 鏡 瓦	掘り方内 %残存	厚 1.8	白色粒子	酸化焰	橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面撫で整形。瓦当接合部は芋付。	笠懸系
86-12 122	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	半截作り。凸面轆轤横撫で。	吉井系
86-13 122 瓦-173	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。刻印文字瓦「勢」(凸面)。	笠懸系
86-14 122	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き有。	吉井系
86-15 122	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き後撫で消し。側部面取り2回。	笠懸系
87-1 122	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色粒子 微粒雲母	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回。	乗附系
87-2 122	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位撫で整形。	吉井系

C区第27号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
88-1 122	土師質土 器 坏	床直層 完形	口 10.6 底 4.4 高 3.2	白色鉱物粒子 黒色粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	
88-2 122	羽 釜	床直層 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
88-3 122	瓦 女 瓦	覆土下層 細片	厚 1.2	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で。側部面取り1回。	吉井系

C区第29号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
89-1 122	土師器 器 坏	床直層 破片	—	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は筥削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。内面底部に墨書判読不能有。	
89-2 122	土師質土 器 皿	覆土内 ほぼ完形	口 8.9 底 4.2 高 2.4	赤色粒子 白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
89-3 122	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 (9.2) 底 (5.6) 高 2.4	赤色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
89-4 122	土師質土 器 皿	床直層 完形	口 10.4 底 6.0 高 1.8	白色粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
89-5 122	土師質土 器 皿	カマド左 袖 破片	口 — 底 7.0 高 —	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
89-6 122	須恵器 高坏脚部	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。上位に2条の横線を廻らす。	秋間系
89-7 122	石製品 砥 石	覆土内 破片	長 — 幅 7.4 重 214.4	砥沢石	—	—	砥面全体に丸みがある。顕著ではないが使用痕が残る。	
90-1 122	礫 器 凹 石	床直層 完存	長 10.0 幅 8.8 重 308.9	粗粒安山岩	—	—	両面に凹みを有する。凹内部は磨滅した状況であるが、小単位の敲打痕が認められる。	
90-2 122	女 瓦 瓦製砥石	覆土内 %残存	長 8.6 幅 3.6 重 69.5	白色微粒子	—	—	女瓦片を転用し砥石として用いる。手持砥。	秋間系

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
90-3	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (26.1)	—	—	—	全体に湾曲する状態であるが、旧状をとどめている。図上左上端側に突出部を備え左側部は折り曲げた状態になっている。	
90-4	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (3.9) 一辺 0.25	—	—	—	頭部を欠損する。角釘で先端は鈍角に尖る。	
90-5 122	施釉陶器 緑釉 輪花文碗	覆土内 破片	—	密	良好	オリーブ 灰	轆轤成形(右回転)。口唇部を指で摘み、輪花を表出する。	
90-6 122	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子 シルト粒	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。赤色顔料塗彩。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	乗附系か 藤岡系
90-7 122	瓦 玉縁付男 瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	半截作り後轆轤整形。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で。玉縁接合はA類。	吉井系
90-8 122	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面布合せ目痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
90-9 122	瓦 玉縁付男 瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	半截作り後轆轤整形。凸面縄叩き後轆轤横撫で。側部面取り3回。玉縁接合はA類。	吉井系
91-1 123 瓦-174	瓦 女瓦	カマド右 袖 1/2残存	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。篋描き文字瓦「介か」(凸面)。側部面取り3回。端部面取り3回。	吉井系
91-2 123	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	酸化焰	橙褐	桶巻き造り。凹面薦状のもの。模骨痕有。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
91-3 123	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.0	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り2回。	秋間系
91-4 123	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 3.0	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
91-5 123	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.9	白色微粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕・凸面轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系か
91-6 123	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.4	白色微粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面木目叩き。側部面取り2回。	笠懸系
91-7 122	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。轆轤横撫で。凸面縄叩き(密)。	吉井系

## C区第34号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
92-1 123	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.2) 底 (7.1) 高 3.8	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
93-1 123	羽釜	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 —	パミス 白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形(右回転)。鏝は貼り付け。	月夜野系
93-2 123	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 11.4 底 6.0 高 2.1	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛。	
93-3 123	鉄器 鍵	床直層 頭部欠損	一辺 0.5 重 (65.3)	—	—	—	93-6 とほぼ同様の形状と思われる。断面基調は正方形。	
93-4 123	鉄器 鍵	床直層 頭部欠損	重 (53.5)	—	—	—	93-6 とほぼ同様の形状と思われる。断面基調は正方形。	
93-5 123	鉄器 鍵	床直層 先端欠損	重 (54.3)	—	—	—	93-6 とほぼ同様の形状と思われる。断面基調は正方形。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
93-6 123	鉄 器 鍵	床直層 完存	重 (67.1)	—	—	—	断面正方形で、元来は2ヶ所の歪みがなかったものと思われる。頭部は鍵状のものと思われる。93-3～5は本例と同様な形状である。	
93-7 123	鉄 器 刀 子	床直層 破片	重 (19.4)	—	—	—	鋒及び茎尻欠損。棟関・刀関は鋭いが使用に伴う研ぎ減りが著しい。	
93-8 123	瓦 男 瓦	覆土下層 破片	厚 2.0	赤褐色粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤横撫で。玉縁接合はA類。	秋間系
93-9 123	瓦 女 瓦	覆土下層 破片	厚 2.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回。端面面取り1回。	秋間系
93-10 123	瓦 女 瓦	覆土下層 破片	厚 2.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面寄木痕・布目撫で消し。凸面斜格子叩き。端面面取り2回。	笠懸系

C区第37号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
94-1 124	土 師 器 坏	覆土下層 完形	口 11.4 底 — 高 3.6	黒色粒子 黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁部下に強い外稜を残す。	
94-2 124	土 師 器 坏	覆土下層 完形	口 10.5 底 — 高 3.6	白色粒子 透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	
94-3 124	土 師 器 坏	カマド左 袖 完形	口 10.8 底 — 高 2.9	白色粒子 白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	
94-4 124	土 師 器 坏	覆土下層 完形	口 11.0 底 — 高 3.6	黒色粒子 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	
94-5 124	土 師 器 坏	覆土下層 完形	口 11.1 底 — 高 3.9	黒色粒子 白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部に顕著な型膚を残す。口縁部は横撫で。	
94-6 124	土 師 器 坏	覆土下層 完形	口 11.3 底 — 高 3.8	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	
94-7 124	土 師 器 坏	掘り方内 完形	口 11.4 底 — 高 3.7	黒色粒子 微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り。口縁部は横撫で。	
94-8 124	土 師 器 坏	覆土下層 完形	口 11.5 底 — 高 3.8	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部は篋削り。口縁部は横撫で。	
95-1 124	土 師 器 坏	覆土下層 完形	口 11.7 底 — 高 3.7	黒色粒子 黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り。口縁直下に甘い型膚を残し、口縁部は横撫で。	
95-2 124	須 恵 器 坏	覆土下層 完形	口 11.8 底 — 高 3.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。底部は手持ち篋削り。	秋間系
95-3 124	土 師 器 坏	カマド右 袖 完形	口 11.9 底 — 高 3.8	黒色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り。口縁部は横撫で。	
95-4 124	土 師 器 坏	覆土下層 完形	口 13.3 底 — 高 4.3	黒色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り整形。口縁部は横撫で。口縁直下は型膚を残し甘い撫でを施す。	
95-5 124	土 師 器 坏	覆土下層 完形	口 13.6 底 — 高 4.5	白色粒子 黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り整形。口縁部は横撫で。	
95-6 124	土 師 器 坏	覆土下層 完形	口 15.1 底 — 高 5.2	黒色粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り整形。口縁部は横撫で。口縁直下は型膚を残す甘い撫でを施す。	
95-7 124	土 師 器 坏	カマド右 袖 完形	口 15.1 底 — 高 5.4	黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り整形。口縁部は横撫で。口縁直下は型膚を残す甘い撫でを施す。	

## C区(37・39・41号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
96-1 124	土師器 坏	覆土下層 完形	口 16.5 底 — 高 6.6	黒色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り整形。口縁部は横撫で。	
96-2 124	須恵器 高坏脚部	覆土下層 完形	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
96-3 124	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面不詳・内面宛具は青海波文)外面自然釉附着。	秋間系
96-4 124	石造品 紡錘車	覆土下層 完形	長 5.0 幅 5.1 厚 1.2 重 39.5	蛇紋岩	—	—	全体に扁平で上面は成形時の面取り回数認められる。同様に背面の整形時の整形単位が見られる。	

## C区第39・41号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
98-1 124	須恵器 坏	床直層 %残存	口 13.4 底 7.0 高 4.0	白色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か
98-2 124	須恵器 碗	床直層 破片	口 — 底 6.9 高 —	微粒状雲母 白色粒子 赤色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	東毛系か
98-3 124	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 8.4 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
98-4 124	須恵器 碗	覆土内 破片	口 13.0 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
98-5 124	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 13.0 底 3.3 高 7.1	白色微粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。	秋間系
98-6 124	土師質土 器 坏	床直層 破片	口 14.0 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子 細砂粒	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	吉井系か
98-7 124	土師質土 器 碗	床直層 破片	口 14.0 底 — 高 —	微粒状雲母	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
98-8 124	須恵器 碗	床直層 破片	口 14.1 底 — 高 —	白色粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
98-9 124	須恵器 碗	床直層 %残存	口 16.1 底 7.8 高 6.1	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か
98-10 124	須恵器 碗	床直層 破片	口 — 底 7.0 高 —	赤褐色粒子 黒色粒子 細礫	酸化焰	明赤褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
98-11 124	羽釜	床直層 破片	口 35.0 底 — 高 —	小角礫多量	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形(右回転)。鏝は貼り付け。胴部は縦の撫で整形。	吉井系
99-1 124	土師器 甕	床直層 破片	口 16.2 底 — 高 —	微粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
99-2 124	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	3本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
99-3 124	施釉陶器 灰釉瓶	床直層 破片	口 — 底 (10.0) 高 —	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	
99-4 124	礫器 不詳	床直層 ほぼ完存	幅 5.8 厚 2.3 重 132.4	ひん岩	—	—	先端敲打による欠損有。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
99-5 124	礫 不詳	完存	長 6.6 幅 5.5 重 193.4	粗粒安山岩	—	—	全体に丸味を帯びている。上面の平坦気味な面磨減する。	
99-6	鉄 器 釘 か	床直層 一部欠損	一辺 1.5 重 (39.9)	—	—	—	鍛えは普通。全体に先細り状で、尖端は若干屈曲する。	
99-7	鉄 器 刀 子	床直層 鋒・茎欠損	かさね 0.18 重 (5.4)	—	—	—	鋒を欠損し、身は全体に使用に伴う研ぎ減りが非常に著しい。関部は緩やかなカーブを描く。	
99-8	鉄 器 釘 か	床直層 頭部欠損	一辺 0.64 重 (14.8)	—	—	—	頭部欠損する。断面四角形を呈する。	
99-9	鉄 片 不詳	床直層 破片	重 (15.4)	—	—	—	全体に不整形で判断できない。	
99-10 125	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 2.9	白色鉍物粒子	酸化焰	橙褐	半截作り。	吉井系
99-11 125	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。端部面取り3回。	吉井系
99-12 125	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.3	黒色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。	乗附系
99-13 125	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.2	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面木目叩き。側部面取り2回。	吉井系
99-14 125	瓦 女 瓦	床直層 細片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
99-15 125	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布合せ目痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系

C区第42号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
100-1 125	須 惠 器 坏	床直層 1/2残存	口 (11.0) 底 (5.2) 高 3.7	赤色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系か
100-2 125	土師質土 器 坏	カマド左 袖 ほぼ完形	口 12.0 底 5.4 高 3.5	白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面燻し処理。	吉井系か
100-3 125	土師質土 器 境	床直層 1/2残存	口 (14.3) 底 (8.0) 高 6.3	白色微粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻し処理。	吉井系か
100-4 125	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 5.1 高 —	黒色粒子 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系か
100-5 125	須 惠 器 壺	ピット内 1/2残存	底 7.6 最大径 12.8	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	乗附系か
100-6 125	須 惠 器 瓶	カマド右 袖 破片	最大径 27.6	白色鉍物粒子 透明角礫	酸化焰	鈍橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系か 笠懸系
101-1 125	羽 釜	ピット内 破片	口 (18.0) 厚 0.8	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜	吉井系
101-2 125	羽 釜	カマド右 袖 破片	口 18.2 厚 0.9	黒色粒子 白色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜	吉井系
101-3 125	羽 釜	床直層 破片	口 19.0 厚 0.7	白色粒子 白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後篋削り整形(右回転)。鏝は貼り付け。胴部は縦位の篋削り。	月夜野系
101-4 125	羽 釜	カマド左 袖 破片	口 (20.0) 厚 0.6	白色粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後篋削り整形(右回転)。鏝は貼り付け。胴部は縦位の篋削り。	月夜野系
101-5 125	羽 釜	カマド右 袖 破片	最大径 23.3	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半縦位の篋削り。	吉井系か



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
101-6 125	土師器 土釜	カマド右袖 破片	底 (6.1) 厚0.7~1.5	白色微粒子	中性焰	灰黄	紐作り。外面胴部は轆轤回転、篋削り、器面はさきくれている。口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	乗附系
101-7 125	施釉陶器 灰釉瓶	カマド・ 掘り方内 破片	—	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。体部下半は回転篋削り。	
101-8 125	礫器 不詳	床直層 1/2残存	幅 10.6 重 299.2	粗粒安山岩	—	—	半分欠損する。上面磨減する。	
101-9 125 瓦-175	瓦 男瓦	カマド左袖 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰白	半載作り。篋描き文字瓦「真」(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕有。側部面取り3回。	乗附系
102-1 126	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り3回。	吉井系
102-2 126	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 デイスait	酸化焰	橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
102-3 126	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 デイスait	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
102-4 126	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系

## C区第43号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
103-1 126	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 7.0 高 —	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系か
103-2 126	須恵器 埴	カマド・ 覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	褐灰	轆轤成形(右回転)。	吉井系か
103-3 126	瓦製円盤	カマド右袖 完形	長 4.4 幅 5.2 厚 0.7	黒色微粒子	酸化焰	褐灰 灰	凸面平行叩き。	秋間系
103-4 126	鉄器 鎌	床直層 一部欠損	重 (23.4)	—	—	—	雁又式。鋒は短かく、刃部は内側のみに認められる。研ぎ減りにより鋒が短くなったものとみられる。	
103-5 126	鉄器 不詳	床直層 破片	重 (9.1)	—	—	—	断面正方形で細長い。利器の茎か。	
103-6 126 瓦-176	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。側部面取り4回、端部面取り2回。	吉井系
103-7 126	瓦 女瓦	カマド右袖 破片	厚 2.8	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。端部面取り3回。	笠懸系
104-1 126	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 2.7	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
104-2 126	瓦 女瓦	カマド内 1/2残存	厚 3.0	夾雑物少量 デイスait 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面端部は縦位の篋削り。側部面取り4回、端部面取り2回。	乗附系

遺物一覧表

C区第44号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
105-1 126	須恵器 坏	カマド内 覆土内	口 (15.0) 底 — 高 —	微粒雲母 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。内面撫で整形。	藤岡系
105-2 126	瓦 男瓦	カマド・ 覆土内 破片	厚 1.3	デイサイト 白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部 面取り3回。	吉井系
105-3 127	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子 小角礫	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕。端部面取り1回。	吉井系

C区第45号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
106-1 127	土師質土 器 皿	床直層 完形	口 7.8 底 3.7 高 1.9	赤色粒子 黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	
106-2 127	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 5.1 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。外面 燻りが認められる。	
106-3 127	土師質土 器 埴	床直層 破片	—	黒色粒子 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	

C区第46号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
107-1 127	須恵器 埴	掘り方内 破片	口 — 底 (6.5) 高 —	白色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
107-2 127	須恵器 埴	床直層 1/2残存	口 15.3 底 8.9 高 5.8	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
107-3 127	須恵器 埴	カマド内 1/2残存	口 16.1 底 9.3 高 5.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
108-1 127	土師器 甕	カマド・ 掘り方内 破片	口 (14.6) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
108-2 127	土師器 甕	床直層 破片	口 (14.4) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
108-3 127	土師器 甕	床直層 破片	口 (21.3) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
108-4 127	須恵器 皿	覆土内 1/2残存	口 13.9 底 8.4 高 2.7	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
108-5 127	礫器 不詳	床直層 完存	長 13.5 幅 9.2 重 385.3	二ツ岳軽石	—	—	全体に敲打に判う剝離が顕著である。	
108-6 127	礫器 不詳	カマド左 袖 1/2残存	幅 4.8 重 152.8	石英閃緑岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	
108-7 127	鉄器 紡錘車	床直層 一部欠損	重 (30.7)	—	—	—	軸部の先端を欠損する。	

## C区(44・45・46・47・48号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
108-8 127	鉄器 刀子	覆土内 一部欠損	重 (7.5)	—	—	—	刀身の中部を欠損する。茎は調査段階で欠損している。刃関は不明瞭で棟関はしっかりしている。	
108-9 127	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.0	黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	半載作り。凸面正格子叩き。側部面取り2回、端部面取り1回。	乗附系か 秋間系
108-10 127	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
109-1 127	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凹面撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
109-2 127	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し後不定方向の撫で整形。端部面取り1回。	乗附系

## C区第47号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
110-1 128	須恵器 埴	カマド 掘り方内 破片	口 — 底 8.0 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系

## C区第48号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
111-1 128	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (5.0) 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転系切り。	藤岡系
111-2 128	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 14.3 底 6.4 高 5.1	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
111-3 128	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (17.2) 底 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
111-4 128	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 6.6 高 —	シルト質 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系か
111-5 128	羽 釜	覆土内 破片	口 — 底 (11.0) 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面燻し処理。	
111-6 128	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口 12.4 底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。(付高台)。施釉は浸掛け。	
111-7 128	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口 — 底 7.0 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	
111-8 128	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	良好	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
111-9 128	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	良好	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	吉井系か 藤岡系
111-10 128	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で。端部面取り2回。	吉井系
111-11 128	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.0	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面平行叩き。	乗附系
111-12 128	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.6	赤色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き(密)・離砂痕有。	秋間系
112-1 128	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (10.1) 底 — 高 2.7	微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁及び器内面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
112-2 128	土師器 坏	床直層 %残存	口 (10.6) 底 — 高 2.6	微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に稜を有する。	藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
112-3 128	土師器 坏	掘り方 覆土内 %残存	口 (10.5) 底 — 高 3.3	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
112-4 128	土師器 坏	カマド左 袖 破片	口 (10.9) 底 — 高 2.7	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に稜を有する。	吉井系 藤岡系
112-5 128	土師器 坏	カマド左 袖 破片	口 (11.1) 底 — 高 (3.1)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部は篋削り、体部は篋撫で。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系か 太田系
112-6 128	土師器 坏	床直層 完形	口 11.3 底 — 高 3.9	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り整形。口縁部及び内面は横撫で。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
112-7 128	土師器 坏	床直層 完形	口 (12.2) 底 — 高 2.6	白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り整形。口縁部及び内面は横撫で。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系か
112-8 128	土師器 坏	床直層 完形	口 (13.0) 底 — 高 —	白色粒子 デイスait	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り整形。口縁部及び内面は横撫で。	藤岡系
112-9 128	土師器 坏	床直層 完形	口 16.4 底 — 高 4.0	白色微粒子 褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り整形。口縁部及び内面は横撫で。	藤岡系か 太田系
112-10 128	土師器 坏	床直層 完形	口 (15.8) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り整形。口縁部及び内面は横撫で。	藤岡系
112-11 128	土師器 甕	床直層 完形	口 (15.8) 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	
112-12 129	土師器 甕	床直層 %残存	口 21.4 最大径 17.7	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系
112-13 128	須恵器 蓋	床直層 一部欠損	口 (8.0) 底 — 高 2.6	白色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。受部は折り返し。	秋間系
112-14 128	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (10.5) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。受部は折り返し。	秋間系
112-15 128	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
113-1 128	須恵器 蓋	床直層 破片	口 (23.1) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	白灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。天井部は回転掻き目。	秋間系
113-2 128	須恵器 甕	床直層 破片	—	ベントナイト 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
113-3 128	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系
113-4 128	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色微粒子多 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。113-7と同一個体	秋間系
113-5 128	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系
113-6 128	須恵器 甕	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
113-7 129	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。外面自然粘附着。113-4と同一個体	秋間系
113-8 129	須恵器 甕	掘り方内 破片	厚 0.9 最大径 (41.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系

## C区第49号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
114-1 129	土師質土 器 塊	カマド左 袖 %残存	口 12.9 底 — 高 —	白色鉍物粒子 黒色粒子	酸化焰	橙褐色	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面斑状の 燻りが認められる。	吉井系
114-2 129	土師質土 器 塊	床直層 %残存	口 — 底 6.0 高 —	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻し処 理。	吉井系
114-3 129	土師質土 器 壺	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
115-1 129	須恵器 壺	カマド右 袖 %残存	最大径11.4	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。ハゼ有。	乗附系
115-2 129	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色粒子 シルト質	還元焰	明灰	紐作り。叩き整形(外面板目叩き・内面宛具 は素文)。	秋間系
115-3 129	須恵器 甕	カマド左 袖 破片	厚1.2~3.0 口 42.8	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	口唇部は平坦で口唇直下に突帯を廻らす。7 本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整 形(右回転)。424-9と同一個体。	秋間系
115-4 129	羽釜	ピット 破片	口 20.0	白色微粒子	中性焰 ~酸化 焰	浅黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井系
115-5 129	羽釜	カマド左 袖 破片	口 (20.9)	黒色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	黄灰	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
115-6 129	羽釜	カマド右 袖 破片	口 25.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
115-7 129	羽釜	床直層 破片	口 — 底 7.2 高 —	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	紐作り後撫で整形(右回転)。外面篋撫で。 吉井型羽釜。	吉井系
115-8 130	礫器 不詳	覆土内 完存	長 20.5 幅 5.2 重 404.4	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅している。	
115-9 130	礫器 不詳	床直層 完存	長 13.1 幅 5.9 重 614.0	変質安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	
116-1 130	施釉陶器 灰釉壺	床直層 破片	厚 0.7	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
116-2 130 瓦-565	瓦 鏡瓦	覆土内 %残存	厚 0.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面 撫で整形。493-7(瓦-563)と接合。	吉井・藤 岡系 瓦-407
116-3 130	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.0	黒色粒子	中性焰	黄灰	半截作り。凸面不定方向の撫で。側部面取り 1回。	秋間系
116-4 130 瓦-178	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。刻印文字瓦「多」(凸面)。凹面 模骨痕・布合わせ目痕。凸面縦位の篋撫で。 側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
116-5 130 瓦-177	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。刻印文字瓦「多」(凸面)。	吉井系
116-6 130 瓦-565	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.4	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布合せ目痕。側部面取り1回、 端部面取り1回。116-2(瓦-407)・493-7 (瓦-563)と接合。	秋間系
116-7 130	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 デイスait シルト質	酸化焰	橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕。側部面取り2回、 端部面取り1回。	吉井系
116-8 130	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子 円粒多	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面縄叩き後撫で整形。側部面取 り2回、端部面取り3回。	吉井系

## 遺物一覧表

## C区第50号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
118-1 130	土師質土 器 皿	カマド内 1/2残存	口 — 底 (5.0) 高 —	黒色鉾物粒子	酸化焰	橙褐	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	
118-2 130	土師質土 器 坏	ビット内 覆土内 破片	口 (15.5) 底 — 高 —	黒色鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系
118-3 130	土師質土 器 坏	ビット内 覆土内 破片	口 — 底 (6.8) 高 —	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か
118-4 130	須 恵 器 碗	3層	口 (17.0) 底 7.4 高 6.2	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
118-5 130	土師質土 器 碗	ビット内 覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 —	微粒微雲母	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
118-6 130	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	摘 1.3 口 9.2 高 1.7	黒色粒子白色 微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
118-7 130	土 師 器 土 釜	カマド右 袖 破片	口 18.0 底 — 高 —	赤褐色粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系か
118-8 130	須 恵 器 甕	床直層 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形 (外面正格子叩き・内面宛具は素文)。外面自然釉附着。	秋間系か 東海系
118-9 130	土 釜	床直層 破片	口 — 底 (24.0) 高 —	白色鉾物粒子	酸化焰	—	紐作り後篋撫で整形。底部は離砂痕有。6号溝の9-10と同一個体と思われる。	吉井系
118-10 130	礫 器 不 詳	床直層 完存	長 11.2 幅 10.3 重 965.8	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅している。全体に被熱割れが認められる。	
118-11 131	鉄 器 鋤	床直層 一部欠損	重 (750.0)	—	—	—	遺存状態は非常に良い。鍛えは良好とみられる。	
118-12 131	鉄 器 鎌	覆土内 一部欠損	重 (7.2)	—	—	—	狭鋒三角形腸袂式。鋒部・茎尻は調査後の欠損。鍛えは普通。	
118-13 131	鉄 器 不 詳	掘り方内 一部欠損	重 (91.0)	—	—	—	鋒部は調査後の欠損であるが、冠落とし状の造りになっている。両関式で茎尻欠損する。武具の鎌鉾と思われる。鍛えは普通。	
118-14 131	鉄 器 刀	覆土内 刀身半分 欠損	重 (13.7)	—	—	—	研ぎ減りが著しい。鍛えは普通。	
118-15 131	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (4.0)	—	—	—	利器の茎が。鍛えは普通。	
118-16 131	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (15.3)	—	—	—	鍛えは普通。	
118-17 131	鉄 器 鉄 釘	覆土内 破片	重 (2.9)	—	—	—	鍛えは普通。	
118-18 131	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (8.0)	—	—	—	鍛えは普通。	
118-19 131	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (0.9)	—	—	—	利器の茎。鍛えは普通。	
118-20 131	鉄 器 鉄 釘	覆土内 破片	重 (8.8)	—	—	—	鍛えは普通。	
119-1 131	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色鉾物粒子 デイスайт	酸化焰	橙	半截作り。凹面篋撫で整形。	笠懸系
119-2 131	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。	乗附系
119-3 131	瓦 女 瓦	3層 破片	厚 1.8	シルト粒	酸化焰	鈍黄灰	桶巻き造り。凹面・模骨痕粘土板剥ぎ取り痕有。凹面自然釉附着。凸面縄叩き。	乗附系

## C区(50・51・53号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
119-4 132	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
119-5 131	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
119-6 132	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕・斜格子叩き。側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
119-7 131	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
119-8 131	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(密)・離砂痕有。側部面取り2回。	秋間系

## C区第51号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
120-1 132	須恵器 埴	床直層 %残存	口 13.8 底 7.1 高 4.9	白色鉾物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
120-2 132	須恵器 坏	床直層 %残存	口 14.8 底 7.8 高 3.7	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。外面燻し処理。焼成時重ね焼きの最下部。	秋間系
120-3 132	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (5.0)	—	—	—	刀部を有すると思われる、小刀乃至大刀子と思われるが、重ねが薄く、おそらく大刀子と思われる。	
120-4 132	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.0	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面縄叩き(密)・粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
120-5 132	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色粒子 透明鉾物粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
120-6 132	瓦 女瓦	カマド・ 覆土内 破片	厚 3.0	白色鉾物粒子 透明鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・自然釉多量附着。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
120-7 132	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き後撫で整形。側部面取り4回後撫で整形。	秋間系
121-1 132	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.3	白色粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面離砂痕・縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。側部布目痕有。	乗附系
121-2 132	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系

## C区第53号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
122-1 132	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 8.6 高 —	白色鉾物粒子 デイスaito 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
122-2 132	須恵器 甕	覆土内 破片	口 23.2 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。口唇部下端は粘土紐張り付け。	乗附系
122-3 132	鉄器 刀子	覆土内 破片	重 (21.9)	—	—	—	重ねが比較的厚い。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
123-1 132	器種不明	覆土内 破片	—	微粒状雲母	還元焰	白灰	全体に布目が認められる。断面では壺の口縁と思われるものがあり、それに粘土を附加している。布目は非常に細かい。	藤岡系
123-2 132	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	乗附系
123-3 132	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き後縦位の篋撫で。側部面取り2回。漆喰痕有。	笠懸系
123-4 132 瓦-179	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面撫で整形。凸面縦位の篋撫で。	吉井系

C区第54号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
124-1 133	土師質土 器 壺	床直層 片残存	口 (13.7) 底 (7.1) 高 6.0	黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
124-2 133	黒色土器 壺	貯蔵穴 破片	口 (15.1) 底 — 高 —	白色微粒子 雲母粒	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。内・外面燻し処理。	
124-3 133	須 恵 器 壺	床直層 片残存	口 (16.0) 底 (9.0) 高 5.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系か 乗附系
124-4 133	土師質土 器 香 炉	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (7.0)	微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(左回転)。底部は回転糸切り。側部は貼り付け。	15世紀後 半から16 世紀半
124-5 133	土 師 器 甕	カマド内 破片	口 (16.6) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	褐色	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
124-6 133	土 師 器 甕	カマド内 破片	口 (17.4) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	褐色	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
125-1 133	土 師 器 甕	床直層 片残存	口 18.8 底 3.3 高 25.8	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
125-2 133	須 恵 器 壺	覆土内 破片	頸 (14.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面叩きは平行叩き、内面は手による宛て目。轆轤再整形。	秋間系
125-3 133	礫 器 不 詳	貯蔵穴 完存	長 25.0 幅 20.6 重 5700	粗粒安山岩	—	—	先端部に剝離痕が認められる。上面は全体に磨滅し、中央部は特に顕著である。	
125-4 133 瓦-180	瓦 男 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面布合せ目痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り1回、端面取り1回。	笠懸系
125-5 133	瓦 男 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	半載作り。篋描き文字瓦「本か」(凸面)。側部面取り3回。端面は篋撫で。	吉井・藤 岡系
125-6 133	瓦 男 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
126-1 134	瓦 玉縁付男 瓦	貯蔵穴 完形	狭 12.1 広 18.2 長 40.0	白色鉱物粒子 デイスイト	還元焰	灰	半載作り。轆轤整形。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で。側部面取り2回。	吉井系
126-2 133	瓦 男 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端面取り1回。	乗附系
126-3 134	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面平行叩き。側部面取り3回。	乗附系



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
126-4 134	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.5	小角礫 デイスait	酸化焙	浅黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕粘土板剥ぎ取り痕有。 凸面縄叩き(密)。側部面取り3回、端部面取 り3回。128-1・128-2と同一個体。	乗附系
127-1 134 瓦-181	瓦 女瓦	貯蔵穴 ほぼ完形	広 28.5 狭 41.0 厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦「エ」(凸面)。凸面 縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取 り2回。126-4・128-2と同一個体。	乗附系
127-2 134	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.8	黒色粒子 白色粒子 雲母	還元焙	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕粘土板剥ぎ取り痕有。 凸面轆轤横撫で。粘土板接合痕はS。側部面 取り3回。	乗附系
127-3 134	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.5	黒色粒子多 白色微粒子	還元焙	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。粘土板接合痕はS。	乗附系
127-4 135	瓦 女瓦	貯蔵穴 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で。 側部面取り3回。	藤岡系
127-5 134	瓦 女瓦	貯蔵穴 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	酸化焙	黄橙	一枚作り。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。	吉井・藤 岡系
128-1 134	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 微粒状雲母	中性焙	灰黄	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)後 轆轤横撫で。側部面取り4回。	藤岡系
128-2	瓦 女瓦	貯蔵穴 破片	厚 1.6	小角礫 デイスait	酸化焙	浅黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)側 部面取り4回。126-4・127-1と同一個体。	乗附系

## C区第55号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
130-1 135	須惠器 坏	カマド・ 埋土内 %残存	口 12.0 底 6.7 高 3.5	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
130-2 135	須惠器 坏	覆土内 破片	口(12.1) 底(6.7) 高 3.7	白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
130-3 135	須惠器 坏	床直層 %残存	口 12.3 底 6.9 高 3.8	黒色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-4 135	須惠器 坏	床直層 %残存	口 12.3 底 7.3 高 3.8	黒色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-5 135	須惠器 坏	覆土内 %残存	口 12.4 底 6.3 高 3.1	黒色粒子 白色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-6 135	須惠器 坏	床直層 %残存	口 12.4 底 6.7 高 3.4	白色微粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-7 135	須惠器 坏	床直層 %残存	口 13.1 底 8.5 高 3.6	黒色粒子 白色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-8 135	須惠器 坏	覆土内 %残存	口(13.2) 底 7.0 高 3.7	黒色粒子 白色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-9 135	須惠器 坏	覆土内 破片	口(14.2) 底(7.0) 高 3.5	黒色粒子 白色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-10 135	須惠器 壊か	床直層 破片	口(16.4) 底 高	黒色粒子 白色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
130-11 135	須恵器 壺か	カマド内 破片	口 (16.5) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	秋間系
130-12 135	須恵器 壺	床直層 破片	口 18.6 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	秋間系
130-13 135	須恵器 坏	床直層 破片	口 — 底 5.6 高 —	白色鉍物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。内面 底部に墨書「判読不能」有。	藤岡系
130-14 135	須恵器 坏	床直層 破片	口 — 底 5.8 高 —	白色鉍物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
130-15 135	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色鉍物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。外面 燻し処理。	秋間系
130-16 135	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (8.9) 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系
130-17 135	須恵器 壺	床直層 %残存	口 — 底 6.9 高 —	白色粒子 デイスait	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
130-18 135	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (13.3) 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
130-19 135	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (17.5) 高 —	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
131-1 135	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 口 14.0 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。 上半部は回転篋削り。受部は折り返し。	秋間系
131-2 135	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 口 16.0 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。 上半部は回転篋削り。	秋間系
131-3 135	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 口 18.2 高 —	白色微粒子	還元焰	白灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。 上半部は回転篋削り。	秋間系
131-4 135	須恵器 脚	床直層 破片	—	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
131-5 135	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井系
131-6 135	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	暗褐	紐作り後轆轤整形 (右回転)。 131-7 と同一個体か	乗附系か 藤岡系
131-7 135	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	暗褐	紐作り後轆轤整形 (右回転)。 131-6 と同一個体か	乗附系か 藤岡系
131-8 135	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 — 底 (17.4) 高 —	白色粒子	還元焰	白灰	紐作り。外面平行叩き後、内面は手の宛て目。	秋間系
131-9 135	須恵器 鉢	カマド右 袖 %残存	口 29.8 厚 0.9	白色粒子 白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	白灰	口縁部は外反し口唇部は直立する。紐作り後 轆轤成形 (右回転)。	乗附系か
131-10 135	須恵器 横瓶か	覆土内 破片	厚 0.6~1.2	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き) 後轆轤再 整形。	乗附系
131-11 135	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 0.9	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は平行) 内面磨滅気味。	吉井系か 笠懸系
131-12 136	施釉陶器 灰釉碗	床直層 破片	口 — 底 (8.2) 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
131-13 136	礫器 不詳	床直層 破片	長 11.7 幅 10.8 重 976.5	石英閃緑岩	—	—	扁平な面が磨滅している。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
132-1 136	礫器 不詳	床直層 ほぼ完存	厚 9.2 重 287.0	二ツ岳軽石	—	—	先端部に敲打による剥離痕がある。	
132-2 136	石造品 つか石	床直層 ほぼ完存	幅 5.9 厚 2.3 重 3675.0	粗粒安山岩	—	—	国分二寺の同基壇化粧のものと思われる。	
132-3 136	礫器 砥石	床直層	重 707.4	粗粒安山岩	—	—	図上上面には、成形時の敲打痕であると認められる。材質が粗い点から、鉄器等の刃部成形用か。置砥。	
132-4 136	鉄器 不詳	床直層 破片	重 (50.8)	—	—	—	断面は長方形を呈する。	
132-5 136	鉄器 鉄釘か	床直層 破片	重 (4.1)	—	—	—	断面は正方形を呈する。上端側・尖端側は欠損している。	
132-6 136	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 雲母	還元焰	鈍灰	瓦当面は欠損している。詳細不詳。	吉井系
132-7 136	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰褐	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の手撫で。側部面取り1回。	乗附系か 吉井系
133-1 136	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
133-2 136	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	紐作りか。凹面・凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	乗附系
133-3 136	瓦 鏡瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.2	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	瓦当欠損。瓦当意匠は国分寺創建と思われる。	笠懸系
133-4 136	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子 多量	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	乗附系か 吉井系
133-5 137 瓦-182	瓦 女瓦	覆土内 %残存	長 39.2 厚 2.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「大」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
133-6 136	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縄叩き後撫で整形。	吉井系
133-7 136 瓦-183	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子 白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	桶巻き造りか。篋描き文字瓦判読不能凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕・凸面縄叩き(密)。	藤岡系
134-1 137	瓦 女瓦	カマド左 袖 %残存	狭厚 23.8 2.1	白色微粒子	酸化焰 か	橙褐	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き・粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系
134-2 137	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・模骨痕粘土板合わせ目有。凸面縄叩き(密)。側部面取り1回。	秋間系
134-3 136	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	酸化焰 か	黄橙	一枚作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
134-4 136	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
134-5 137	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 3.1	赤色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙灰	桶巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系

遺物一覧表

C区第56号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
135-1 137	土師質土器 皿	床直層 完形	口 8.6 底 5.1 高 1.8	雲母粒 白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
135-2 137	土師質土器 坏	床直層 残存	口 12.2 底 7.1 高 3.9	雲母粒 白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
135-3 137	施釉陶器 灰釉 輪花皿	仮り上げ 完形	口 14.1 底 7.6 高 2.9	密	良好	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
136-1 137	土師器 土釜	覆土内 残存	口 28.6	白色鈳物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外傾する。紐作り、外面胴部は篋撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系
136-2 138	土師器 土釜	床直層 残存	口 34.1	白色鈳物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外傾する。紐作り、外面胴部は篋撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系
136-3 137	礫器 不詳	床直層 残存	長 — 幅 4.4 重 289.1	デイスait	—	—	特別な使用痕は認められない。	
136-4 138	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (8.9)	—	—	—	頭部は錆化が著しく、旧状は不明な点がある。	
136-5 137	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (1.8)	—	—	—	茎の可能性がある。断面は正方形を呈する。	
136-6 137	鉄器 鉄釘か	カマド内 破片	重 (11.2)	—	—	—	断面は正方形を呈する。	
136-7 138 瓦-477	瓦 宇瓦	床直層 破片	厚 2.6	白色鈳物粒子 シルト粒	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。凹面端部は篋削り。凸面篋撫で。側部面取り4回。	吉井系
136-8 138 瓦-476	瓦 宇瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 3.1	粗粒白色鈳物 粒子多量	還元焰	灰白	瓦当意匠は、左扁行唐草文。凹面・凸面撫で整形。接合は不詳。	吉井系か 笠懸系
136-9 138	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.2	白色鈳物粒子	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
136-10 138	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.5	白色鈳物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
136-11 138	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.3	白色鈳物粒子	還元焰	灰白	紐作りか。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回。137-1と同一個体。	秋間系
137-1 138	瓦 男瓦	覆土内 残存	狭幅 厚 12.0 13.6 1.2	白色鈳物粒子	還元焰	灰白	紐作り。凸面縄叩き後轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り1回。136-11と同一個体。	秋間系
137-2 138	瓦 男瓦	覆土内 残存	狭幅 厚 13.6 17.3 2.0	白色鈳物粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面縄叩き後轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	乗附系か
137-3 138	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色鈳物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面縦位の篋撫で。凸面縦位・不定方向の撫で。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
137-4 138	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.8	白色鈳物粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
137-5 138	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.9	赤褐色粒子 シルト粒	還元焰	灰褐	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・指撫で・離砂痕有。凸面粘土板剥ぎ取り痕・離砂痕有。側部面取り1回、端部面取り1回。	秋間系

## C区第57号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
138-1 139	須恵器 皿か	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
138-2 139	土師質土 器 埴	カマド右 袖 %残存	口 (14.0) 底 (6.8) 高 (6.7)	白色微粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内面は磨滅している。外面は二次焼成を受けている。	
138-3 139	土師質土 器 埴	床直層 %残存	口 14.5 底 7.5 高 5.8	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内面燻りが認められる。	乗附系か
138-4 139	土師質土 器 埴	カマド右 袖 破片	口 — 底 (8.4) 高 —	黒色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内面燻りが認められる。	
138-5 139	土師質土 器 埴	床直層 破片		黒色鉍物粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系か
139-1 139	須恵器 蓋	床直層 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。施釉は浸掛。	秋間系
139-2 139	須恵器 高 坏	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。外面は篋撫で。	秋間系
139-3 139	土師質土 器 甕	覆土内 破片	口 30.0 底 — 高 —	白色微粒雲母 黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。口縁部は横撫で、口縁の形状は渥美焼に類似している。	吉井・藤岡系
139-4 139	須恵器 壺	覆土内 破片	口 19.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り。口縁部は横撫で。	秋間系
139-5 139	須恵器 瓶	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	鈍灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
139-6 139	須恵器 瓶	床直層 破片	底 (19.6)	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	鈍灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
139-7 139	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面は磨滅している。	秋間系
139-8 139	須恵器 釜	カマド右 袖 破片	口 30.0 底 — 高 —	白色鉍物粒子 デイスait	還元焰	明褐 明褐灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半は縦位の篋削り。吉井型羽釜の類品で銕を類さない物。	吉井系
139-9 139	施釉陶器 灰釉碗	床直層 破片	口 — 底 (8.2) 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
139-10 139	施釉陶器 灰釉碗	床直層 破片	口 — 底 (8.5) 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
139-11 139	礫器 不詳	覆土内 %残存	長 — 幅 6.2 重 53.0	石英閃緑岩	—	—	平坦面は磨滅している。図の裏面は被熱による剥離がある。	
139-12 139 瓦-343	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不定方向の撫で整形。	吉井系
139-13 139	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
139-14 139	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 0.9	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。側部面取り2回。	乗附系
139-15 139	瓦 女瓦	床直層 細片	厚 2.0	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き・離砂痕・篋撫で整形。側部面取り3回後撫で。	秋間系
140-1 139	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面の布目6cmに20本でかなり細かい。凸面不定方向の撫で。	吉井系
140-2 139	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で。	笠懸系
140-3 139	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面平行叩き。	吉井系

遺物一覧表

C区第58号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
142-1 139	須恵器 坏	カマド右 袖 %残存	口 13.2 底 5.9 高 3.9	白色微粒子 透明鉾物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
142-2 139	須恵器 坏	カマド左 袖 完形	口 13.6 底 6.8 高 3.9	黒色鉾物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か 乗附系
142-3 140	須恵器 塊	覆土内 %残存	口 14.3 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
142-4 140	土師質土 器 塊	床直層 %残存	口 (14.4) 底 (7.4) 高 5.3	微粒雲母 透明鉾物粒子 黒色粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
142-5 140	須恵器 塊	床直層 %残存	口 14.6 底 6.5 高 5.5	白色微粒子 ダイヤサイト 透明鉾物粒子	還元焰 (中性焰 気味)	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
142-6 140	須恵器 塊	掘り方内 %残存	口 15.4 底 7.1 高 5.5	白色微粒子 黒色鉾物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か
142-7 140	須恵器 塊	カマド 掘り方内 %残存	口 (15.9) 底 (7.6) 高 5.1	白色微粒子 黒色鉾物粒子	中性焰	鈍黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か 藤岡系
142-8 140	土師質土 器 塊	カマド右 袖 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	白色微粒子	中性焰	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系か
142-9 140	須恵器 塊	床直層 %残存	口 17.3 底 8.0 高 7.5	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面焼りが認められる。	藤岡系
142-10 140	須恵器 塊	床直層 %残存	口 — 底 6.5 高 —	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面焼りが認められる。	藤岡系
142-11	内黒土器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内面は暗文を施す。焼し処理を施す。	吉井系
142-12 140	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色鉾物粒子	還元焰	灰	口縁部は外反し、7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
142-13 140	羽 釜 破片	覆土内 破片	口 22.4 底 — 高 —	黒色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。	
143-1 140	施釉陶器 灰釉耳皿	掘り方内 ほぼ完形	口 (10.7) 底 5.0 高 2.5	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面施釉は浸掛。	
143-2 140	砥 石	覆土内 完存	重 154.6	流紋岩(砥沢)	—	—	手持砥。	
143-3 140	礫 器 不 詳	床直層 完存	長 15.2 幅 7.3 重 839.4	粗粒安山岩	—	—	平坦面は磨滅している。	
143-4 140	磁 器 白磁塊か	床直層 破片	—	密	良好	乳白色	化粧土を施す。北方諸窯の産物と思われる。	
143-5 140	瓦 男 瓦	カマド右 袖 ほぼ完形	長 42.0 幅 16.6 広 21.7	白色鉾物粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。凹面縦位の撫で整形。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り1回。	乗附系
143-6 140	瓦 男 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.0	白色鉾物粒子 少量・夾少量	還元焰	白灰	紐作り。凹面寛撫で。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	乗附系
143-7 140	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	黒色粒子多量	還元焰	灰白	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	秋間系
144-1 141	瓦 玉縁付男 瓦	カマド内 %残存	幅 15.4 厚 2.2	白色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙 浅黄橙	半截作り。凹面粘土剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。凸面轆轤横撫でか縄叩き後寛撫で。側部面取り2回。	吉井系

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
144-2 140	瓦 男瓦	カマド内 瓦残存	幅 15.5 厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰	半載作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
144-3 140	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面縄叩き(密)後撫で。側部面取り1回。	秋間系
144-4 141	瓦 男瓦	カマド右 袖 瓦残存	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	白灰	半載作り。凹面縦位の手撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	秋間系
144-5 141	瓦 男瓦	カマド右 袖 瓦残存	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	半載作り。凹面布合せ目痕。凸面轆轤横撫で後不定方向の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	乗附系
145-1 141 瓦-184	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイスait	還元焰	暗灰	紐作り。篋描き文字瓦「七」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井・藤岡系
145-2 141 瓦-185	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
145-3 141 瓦-186	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰 鈍橙	一枚作り。篋描き文字瓦「里か黒」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
145-4 141 瓦-187	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.6	白色鉱物粒子 デイスait	還元焰	白灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	秋間系
145-5 141	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 雲母	還元焰	灰	一枚作り。凹面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り2回。	吉井系
145-6 141	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 デイスait	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で後縦位の手撫で。側部面取り2回。	吉井系
145-7 141	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 デイスait	酸化焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・模骨痕有。凸面轆轤横撫で、縄叩き(密)後撫で整形・布目痕有。	吉井系
145-8 142	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 雲母	還元焰	白灰	一枚作り。凸面平行叩き。側部面取り2回、端部面取り2回。	藤岡系
145-9 141	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.1	白色微粒子 雲母	還元焰	灰	一枚作り。凹面布合せ目痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	藤岡系か 乗附系
145-10 141	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 多量・雲母	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で。端部面取り1回。	吉井系
146-1 142	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.3		還元焰	灰	一枚作りか。凹面寄木痕。凸面離砂痕・縄叩き(密)有。側部面取り3回。	秋間系
146-2 142	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し、凸面縄叩き(密)。	笠懸系

## C区第62号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
148-1 142	土師質土 器 皿	掘り方内 完形	口 8.4 底 4.6 高 1.9	微粒雲母 白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	暗灰褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
148-2 142	土師質土 器 皿	掘り方内 完形	口 8.6 底 4.9 高 1.9	白色粒子 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
148-3 142	土師質土 器 皿	カマド右 袖 瓦残存	口 (9.3) 底 (5.9) 高 2.3	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
148-4 142	土師質土 器 壺	カマド右 袖 瓦残存	口 — 底 8.0 高 —	微粒状雲母 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。東毛以东乃至武蔵北部の産品。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
148-5 142	羽 釜	覆土内 破片	口 (20.4) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	暗灰褐	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
148-6 142	羽 釜	覆土内 破片	—	黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
148-7 142	施釉陶器 灰 釉 甕	掘り方内 破片	口 — 底 16.0 高 —	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転) 後回転篋撫で。付高台、施釉は刷毛塗。	
148-8 142	鉄 器 刀 子 か	覆土内 破片	重 (2.2)	—	—	—	刃部側は調査後の欠損であるが、断面から刀子と考えられる。	
148-9 142	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (6.8)	—	—	—	断面は正方形を呈する。	
149-1 142	瓦 玉縁付男 瓦	掘り方内 破片	厚 2.8	白色鉍物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	半截作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	乗附系
149-2 142	瓦 男 瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	藤岡系
149-3 142	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・轆轤横撫で後板目叩き。凸面粘土板剥ぎ取り痕・糸切り痕有。側部面取り3回。	笠懸系
149-4 142	瓦 男 瓦	カマド・ 覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子 雲母	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
149-5 142	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	酸化焰	橙褐	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
149-6 143	瓦 女 瓦	床直層 1/2残存	幅 21.6 厚 2.4	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
150-1 143	瓦 女 瓦	カマド・ 掘り方内 1/2残存	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面板目斜格子叩き・粘土板剥ぎ取り痕有。側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
150-2 143	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 1.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面板目叩き。端部面取り1回。	笠懸系
150-3 143	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縄叩き(密)・粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回。	笠懸系

C区第63号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
151-1 144	土 師 器 甕	カマド右 袖 破片	口 (24.4) 底 — 高 18.5	黒色粒子 白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。吉井型羽釜の鏝、口縁を付さない物。	吉井系
151-2 143	羽 釜	カマド左 袖 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
151-3 143	施釉陶器 灰釉小瓶	床直層 1/2残存	口 — 底 (5.4) 高 —	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。施釉は浸掛。	
151-4 143	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り1回、端部面取り2回。	吉井系
151-5 144	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。側部面取り3回。	秋間系



挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
151-6 144	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.2	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)。	秋間系

## C区第65号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
153-1 144	土師質土 器 皿	カマド右 袖 %残存	口 9.2 底 4.2 高 2.0	白色微粒子 黒色鉾物粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
153-2 144	土師質土 器 皿	床直層 %残存	口 9.3 底 5.4 高 2.1	白色微粒子 黒色鉾物粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面 燻りが認められる。	
153-3 144	土 師 器 土 釜	カマド右 袖 破片	口 — 底 (10.0) 高 —	黒色鉾物粒子 白色粒子多量	酸化焰	赤褐	紐作り後篋撫で整形。	吉井系
153-4 144	石 造 品 竈の袖材	床直層 破片	長 8.7 重 1201.2	流紋岩質凝灰 岩	—	—	地山の砂岩質土を利用している。全体に鑿状 工具による小単位の整形を施す。	
153-5 144	鉄 器 鏝	床直層 一部欠損	重 (4.4)	—	—	—	狭峰三角形腸扶筥被式。65-4と同様と考え られる。	
153-6 144	瓦 男 瓦	カマド左 袖 %残存	幅 13.0 厚 2.2	シルト粗粒 赤色鉾物粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤 横撫で。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
153-7 144 瓦-188	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。刻印文字瓦「當か」(凹面)。凸面 縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
153-8 144	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位 の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
153-9 144	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縦位 の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系

## C区第66号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
154-1 144	土 師 器 坏	床直層 %残存	口 10.4 底 — 高 3.6	透明鉾物粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	
154-2 144	土 師 器 坏	床直層 完形	口 11.0 底 — 高 3.7	黒色鉾物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に型膚を残す。	
154-3 144	土 師 器 坏	カマド左 袖 完形	口 13.6 底 — 高 4.4	黒色粒子 黒色鉾物粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に型膚を残す。	
154-4 145	土 師 器 甕	カマド右 袖 破片	口 — 底 5.4 高 —	白色粒子 黒色粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋撫 で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
154-5 144	土 師 器 甕	カマド右 袖 %残存	口 19.8 底 — 高 —	黒色鉾物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。口縁部・内外面 は横撫で。	
154-6 145	土 師 器 甕	カマド右 袖 破片	口 — 底 5.4 高 —	白色粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。底部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	

## 遺物一覧表

## C区第67号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
155-1 145	土師質土器 皿	床直層 完形	口 8.4 底 3.8 高 1.9	微粒状雲母 黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
155-2 145	土師質土器 皿	床直層 完形	口 8.4 底 5.4 高 1.9	微粒状雲母 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
155-3 145	内黒土器 足高高台 付境	床直層 %残存	口 10.0 底 4.6 高 3.8	微粒状雲母 白色粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面焼き処理、暗文を施す。	藤岡系か
155-4 145	土師質土器 足高高台 付境	床直層 破片	口 11.5 底 6.8 高 4.9	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か
155-5 145	土師質土器 足高高台 付境	床直層 %残存	口 14.6 底 7.4 高 5.2	黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系か
155-6 145	土師質土器 足高高台 付境	カマド右 袖 %残在	口 14.4 底 9.2 高 6.3	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
156-1 145	土師質土器 脚付鉢	覆土内 破片	厚 0.9	赤褐色粒子 雲母 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
156-2 145	土師質土器 脚付鉢	覆土内 破片	口 — 底 (7.2) 高 —	細粒砂多量 微粒状雲母 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
156-3 145	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 (13.8) 底 (7.5) 高 3.0	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
156-4 145	施釉陶器 緑釉碗	覆土内 破片	—	軟質	良好	オリブ灰	轆轤成形 (右回転)。	
156-5 145	施釉陶器 緑釉碗	覆土内 破片	—	須恵質	良好	オリブ灰	轆轤成形 (右回転)。	
156-6 145	鉄器 スラグ	覆土内 —	重 (24.7)	—	—	—	全体に錆化が著しくスラグの可能性もある。	
156-7 145	石製品 礎石	覆土内 完存	長 2.9 幅 2.4 重 24.3	粗粒安山岩	—	—	全体に球形状を呈する。上面は顕著に磨滅している。	
156-8 145	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.1	透明粒子 白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	浅橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の手撫で整形。粘土板接合痕S。	笠懸系
156-9 145	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	鈍反	半截作り。側部面取り2回。	吉井系
156-10 145	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子	酸化焰	橙褐	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	吉井系
156-11 145	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子多 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	笠懸系
156-12 145	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.1	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	乗附系
156-13 145	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	明赤灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系

## C区第68号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
157-1 145	須恵器 壺	カマド右 袖 破片	口 — 底 (9.4) 高 —	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
157-2 145	羽釜	カマド左 袖 破片	口 (22.4) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形(右回転)。鏝は貼り付け。	吉井系
158-1 145	礫器 不詳	覆土内 完存	長 7.6 幅 7.8 重 258.4	粗粒安山岩	—	—	上面全体が磨滅する。	
158-2 145	瓦 男瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回。	笠懸系
159-1 145	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 雲母	還元焰	灰	紐作りか。端部面取り2回。	吉井系
159-2 145	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布合わせ目痕。凸面轆轤横撫で。粘土板接合痕はS。側部面取り2回。	乗附系
159-3 145	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	雲母 白色微粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面撫で整形。凸面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回。	笠懸系
159-4 145	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。側部面取り部は撫で。	吉井系
159-5 146	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。	笠懸系
159-6 146	瓦 女瓦	掘り方・カ マド・覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き(密)。端部面取り1回。	乗附系

## C区第69号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
160-1 146	土師質土 器 皿	床直層 1/2残存	口 (11.1) 底 (6.7) 高 2.4	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
160-2 146	須恵器 壺	カマド・ 覆土内 破片	口 — 底 (8.8) 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	自然釉附着。轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
160-3 146	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転笠削り。受部は折り返し。	
160-4 146	土師器 甕	床直層 破片	口 (14.1) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は笠削り、口縁部は横撫で、内面胴部は笠撫で。	
160-5 146	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
160-6 146	羽釜	床直層 破片	口 (22.0) 底 — 高 —	雲母 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内湾する。紐作り後撫で整形(右回転)。鏝は貼り付け。体部は笠撫で。	吉井・藤岡系
160-7 146	石製品 基石か	覆土内 完存	長 2.0 幅 1.7 重 5.0	珪質頁岩	—	—	全体に扁平である。	
160-8 146	鉄器 釘	覆土内 1/2残存	重 (6.4)	—	—	—	頭部は大きく、身は細い。尖端欠損。	
160-9 146	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 (32.2)	—	—	—	錆により、160-10と溶着している。	
160-10 146	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 (32.2)	—	—	—	曲線を描いており、錆により160-9と溶着している。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
160-11 146	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (11.7)	—	—	—	中央を欠損する。断面正方形を呈する。	
160-12 146	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (6.6)	—	—	—	断面は丸味を帯びた三角形を呈し、旧状断面は長方形を類した可能性がある。	
160-13 146	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (5.4)	—	—	—	上半部欠損。断面正方形を呈する。	
160-14 146	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (6.2)	—	—	—	先端部及び上半部を欠損する。断面正方形を呈し、細身である。	
160-15 146	鉄器 不詳	カマド内 破片	重 (17.3)	—	—	—	先端部側を環状に曲げている。	
160-16 146	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系
160-17 146	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)。端部面取り1回。	秋間系
160-18 146	瓦 女瓦	床直層 細片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。端部面取り1回。	秋間系

C区第71号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
161-1 146	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.1) 底— 高—	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。内面放射状の暗文を施す。	藤岡系か 乗附系か
161-2 146	内黒土器 坏	床直層 破片	口 (14.2) 底— 高—	白色粒子 黒色鋳物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。内面燻し処理、暗文を施す。	吉井・藤岡系か
161-3 146	須恵器 壺	床直層 破片	口— 底(6.1) 高—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	乗附系
161-4 146	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	鈍灰褐	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	乗附系
161-5 146	須恵器 甕	覆土内 破片	口— 底(8.0) 高—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。体部篋撫で。	乗附系
162-1 146	土師器 土釜	掘り方・ 覆土内 破片	口— 底(9.5) 高—	赤色粒子 黒色粒子 透明鋳物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形。外面底部篋撫で。	吉井・藤岡系
162-2 146	羽釜	カマド右 袖 破片	口 18.2 底— 高—	白色鋳物粒子 黒色鋳物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鐙は貼り付け。吉井型羽釜	吉井系
162-3 146	施釉陶器 灰釉壺	覆土内 破片	—	密	良好	—	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
162-4 146	鉄器 不詳	覆土内 一部欠損	重 (45.1)	—	—	—	図上下端は正方形を呈する。釘の可能性も考えられる。	
162-5 146	鉄器 釘	掘り方内 一部欠損	重 (20.9)	—	—	—	L字状に折れ木質遺存する。	
162-6 146	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	秋間系
162-7 146 瓦-192	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 細片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦「田」(凹面)。凹面撫で整形。	吉井・藤岡系
162-8 146 瓦-191	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色粒子 黒色鋳物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	吉井・藤岡系
162-9 146 瓦-190	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「當」(凸面)。凸面横位の撫で整形。	吉井・藤岡系
162-10 146 瓦-189	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色鋳物粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面撫で整形。側部面取り3回。	吉井・藤岡系

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
162-11 147	瓦 女瓦	床直層 完形	長 38.0 広 31.0 狭 23.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の篋削り後木目叩き。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井・藤岡系
163-1 147	瓦 女瓦	床直層 完形	長 26.3 広 29.6 狭 23.5	白色微粒子 白色鉍物粒子 雲母	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の篋削り後木目叩き。側部面取り1回、端部面取り2回。	吉井・藤岡系

## C区第72号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
165-1 147	須恵器 坏	床直層 破片	口 12.8 底 7.2 高 3.3	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
165-2 147	須恵器 坏	床直層 完形	口 13.7 底 7.2 高 3.0	黒色粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
165-3 147	須恵器 坏	カマド右 袖 1/2残存	口 13.1 底 6.5 高 4.4	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
165-4 147	須恵器 蓋	床直層 1/2残存	— 口 (15.0) 高 —	白色粒子	還元焰	黒灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
165-5 147	施釉陶器 灰釉碗	掘り方・ 覆土内 破片	口 (16.6) 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は浸掛。	
165-6 147	須恵器 壺	床直層 破片	—	黒色粒子少量 白色粒子少量	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面叩きは平行叩き。	
165-7 147	礫器 不詳	床直層 完存	長 22.1 幅 8.8 重 942.0	粗粒安山岩	—	—	上面平坦面が磨滅している。	
165-8 148 瓦-566	瓦 宇瓦	床直層 1/2残存	厚 2.4	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は均整唐草文。曲線頭。女瓦部は一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。167-3(瓦-558)・478-19(瓦-513)と接合。	吉井系 瓦-478
165-9 148 瓦-194	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子 微粒状雲母	中性焰	灰黄	半截作り。篋描き文字瓦「大か」(凸面)。側部面取り3回。	吉井系
165-10 148	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り1回。	秋間系
166-1 148	瓦 男瓦	カマド 掘り方内 破片	厚 2.5	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	黒赤	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	乗附系
166-2 148	瓦 男瓦	カマド 掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。側部面取り2回。	吉井系
166-3 147	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.9	白色鉍物粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	乗附系
166-4 148	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	酸化焰	赤橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
166-5 148	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面平行叩き。側部面取り2回。	吉井系
166-6 148	瓦 女瓦	掘り方・カ マド・覆土内 破片	厚 1.9	黒色粒子多量 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り3回。	乗附系
167-1 149 瓦-193	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 1/2残存	長 39.6 幅 25.8 厚 2.4	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦「中止」(凹面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り広端部2回、狭端部1回。	吉井系
167-2 148	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 白色粒子多量	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
167-3 149 瓦-566	瓦 宇瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。瓦当面欠損。165-8 (瓦-478)・478-19 (瓦-513) と接合。	吉井系 瓦-558
167-4 148	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.9	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子・木目叩き。側部面取り2回。	笠懸系
168-1 149	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 %残存	幅 23.0 狭 20.4 厚 1.4	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、凸面平行叩き。側部面取り1回、端部面取り2回。凸面中央部縦位に磨滅する。	乗附系
168-2 149	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.1	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き後撫で整形。	乗附系
168-3 148	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.0	微粒状雲母	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系

## C区第140号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
169-1 149	土師器 碗か	カマド内 破片	口 16.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
169-2 149	土師器 甕	床直層 破片	—	黒色鉍物粒子 微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は笥削り、内面胴部は笥撫で。	藤岡系
169-3 149	鉄器 飾り金具	掘り方内 —	幅 1.85 重 (7.9)	—	—	—	鉄地金銅張り。側部端部に関状の綾線を有する。文様は宝相華文を毛掘りし間隙に七子を2から4回1単位で加飾する。工人は右利き。	

## C区第73号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
171-1 149	須恵器 碗	床直層 破片	口 (9.5) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。口縁部欠損。	秋間系
171-2 149 瓦-479	瓦 宇瓦	床直層 破片	厚 2.6	黒色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は綾杉文。全体に自然釉附着が著しい。	秋間系
171-3 149	瓦 女瓦	床直層 細片	厚 1.9	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	紐作りか。凸面縄叩き後撫で整形。	乗附系
172-1 150	瓦 男瓦	床直層 %残存	厚 2.2	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回、端部面取り1回。	乗附系

## C区第74号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
173-1 149	須恵器 環	床直層 %残存	口 (12.5) 底 7.2 高 3.2	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
173-2 150	内黒土器 皿	床直層 %残存	口 13.8 底 6.6 高 2.3	雲母 白色粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面燻し処理暗文を施す。	藤岡系
173-3 149	土師質土 器 環	床直層 ほぼ完形	口 13.3 底 7.8 高 3.5	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。口唇部周辺に有機質附着。外面燻し処理。	秋間系
174-1 149	土師質土 器 碗	床直層 %残存	—	黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。外面燻し処理。	藤岡系か 秋間系

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
174-2 149	土師質土 器塊	床直層 %残存	口底 8.4 高—	黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。外面燻し処理。	藤岡系か 秋間系
174-3 150	須恵器 蓋	床直層 破片 (摘部)	長7.2 幅6.9 厚1.6	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	灰	轆轤成形(右回転)。転用円盤。摘部を残し天井部全体を打ち欠いている。「コ」の字状口縁。	乗附系
174-4 150	土師器 甕	床直層 破片 (摘部)	口底 (19.1) — 高—	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
174-5 150	礫器 不詳	床直層 完存	長18.1 幅6.8 重944.3	溶結擬灰岩	—	—	平坦面を磨減する。	
175-1 150	鉄器 刀子	床直層 %残存	重(2.8)	—	—	—	刀心中位から茎を欠損する。重ねやや厚い。	
175-2 150	鉄器 刀子	カマド内 破片	重(14.3)	—	—	—	鋒及び茎側を欠損する。	
175-3 150	鉄器 刀子	床直層 一部欠損	重(12.3)	—	—	—	くの字に折れ、鋒内側を欠損する。図中には復元図を記した。	
175-4 150	鉄器 刀子	床直層 一部欠損	重(24.2)	—	—	—	鋒茎を欠損。研ぎ減りが顕著。	
175-5 150	鉄器 不詳	床直層 破片	重(5.9)	—	—	—	鎌か刀子の茎と考えられる。尖端側に木質が錆化して残存する。	
175-6 150	鉄器 釘	床直層 破片	重(1.9)	—	—	—	尖端部を欠損する。	
175-7 150	鉄器 不詳	床直層 破片	重(2.7)	—	—	—	環状を呈するものか。167-8と同一個体の可能性有。	
175-8 150	鉄器 不詳	床直層 破片	重(3.3)	—	—	—	環状を呈するものか。167-7と同一個体の可能性有。	
175-9 150	鉄器 釘か	床直層 破片	重(1.5)	—	—	—	断面正方形を呈する。	
175-10 150	鉄器 釘	覆土内 破片	重(9.8)	—	—	—	頭部・尖端側を欠損する。L字状に折れている。	
175-11 150	鉄器 釘か	床直層 一部欠損	重(16.7)	—	—	—	全体に長く、上半部の緩やかなカーブを描き頭部を欠損する。	
175-12 150	鉄器 不詳	床直層 一部欠損	重(20.8)	—	—	—	階円形状を呈する。展開復元したものを図示した。	
175-13 150	瓦 男瓦	カマド内 %残存	長40.7 厚1.4	白色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	乗附系
175-14 150	瓦 男瓦	床直層 %残存	長23.8 厚2.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後轆轤撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	乗附系
175-15	瓦 女瓦	覆土内 %残存	厚2.3	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
176-1 151 瓦-198	瓦 女瓦	覆土内 ほぼ完形	長38.3 幅24.9 厚2.9	白色粒子 白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。篋描き文字瓦「山上か」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。185-2と同一個体。	乗附・吉 井系
176-2 151	瓦 女瓦	床直層 破片	厚2.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回、端部面取り2回。	乗附系
176-3 150	瓦 女瓦	床直層 %残存	厚2.3	白色微粒子	酸化焰	鈍黄	一枚作り。凹面布目撫で消し・縦位の撫で整形。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回。	笠懸系

## C区第76号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
178-1 151	土師器 坏	覆土内 破片	口底 (11.6) — 高—	白色粒子 黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に型膚を残す。内面風化顕著。	藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
178-2 151	土師器 坏	床直層 破片	口 (11.8) 底 — 高 4.0	雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に型膚を残す。内面風化顕著。	藤岡系
178-3 151	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 3.6	白色粒子 黒色鉾物粒子 雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に型膚を残す。内面風化顕著。	藤岡系
178-4 151	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (13.5) 底 — 高 4.1	雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に型膚を残す。内面風化顕著。	藤岡系
178-5 151	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (10.2) 高 —	白色微粒子 デイサイト 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。内面にラセン暗文・放射状暗文を施す。	藤岡系
178-6 151	須恵器 坏	床直層 ほぼ完形	口 12.2 底 6.5 高 3.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	秋間系
178-7 151	須恵器 坏	床直層 完形	口 12.8 底 6.8 高 3.9	黒色粒子 白色鉾物粒子 デイサイト	中性焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
178-8 151	須恵器 坏	床直層 %残存	口 12.8 底 6.8 高 3.9	白色粒子 微粒状雲母 黒色鉾物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
178-9 151	須恵器 塊	床直層 %残存	口 12.9 底 8.3 高 5.8	白色粒子 透明鉾物粒子	還元焰	淡黄	轆轤成形（右回転）。付高台。外面燻し処理。	秋間系
178-10 151	石製品 紡錘車	覆土内 ほぼ完形	口 3.8 底 3.8 重 42.3	蛇紋岩	—	—	外面磨き整形の単位が認められる。	
178-11 151	礫器 不詳	覆土内 完形	口 3.2 底 2.1 重 9.9	砂岩	—	—	上面磨減する。	
178-12 151	須恵器 横瓶か	床直層 %残存	—	黒色粒子 白色鉾物粒子 雲母	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。体部下半に平行叩き有。	乗附系
178-13 152	瓦 鏡瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	瓦当部欠損。瓦当意匠は不詳。男瓦部の凸面は縦位の篋撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
178-14 151	瓦 玉縁付男瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	橙	半截作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
178-15 152	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.5	白色微粒子			一枚作り。凸面正格子叩き。墨書「判読不能」有。	笠懸系
179-1 152 瓦-195	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き後撫で整形。粘土板接合痕はS。	秋間系
179-2 152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕・縄叩き(密)後撫で整形。	笠懸系
179-3 152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凹面撫で整形。凸面正格子叩き。	笠懸系
179-4 152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子 デイサイト	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・模骨痕有。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
179-5 152	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.6	白色鉾物粒子 黒色粒子少量	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・縦位の篋撫で。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で。端部面取り1回。	乗附系
179-6 152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色鉾物粒子 デイサイト	還元焰	鈍灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
179-7 151	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻き作り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で。端部面取り2回。	吉井系



## C区第75号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
181-1 152	施釉陶器 灰釉瓶	床直層 破片	最大径 23.0	密	良好	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部・体部は回転篋削り。外面全面に施釉。	
181-2 152	礫器 不詳	床直層 完存	長 9.8 幅 3.0 重 156.2	溶結擬灰岩	—	—	平坦面は磨滅する。	

## C区第77号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
182-1 152	土師質土器 坏	床直層 残存	口 11.5 底 6.1 高 4.0	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	188-6 と同一個 体
182-2 152	須恵器 埴	床直層 完形	口 12.4 底 6.8 高 4.9	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
182-3 152	須恵器 坏	覆土内 残存	口 (13.1) 底 (7.0) 高 3.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
182-4 152	須恵器 坏	床直層 残存	口 (14.0) 底 (6.2) 高 3.5	白色粒子 白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
182-5 152	土師質土器 埴	覆土内 残存	口 — 底 (7.3) 高 —	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面焼りが認められる。	吉井・藤 岡系か
182-6 152	須恵器 皿	カマド・ 掘り方内 残存	口 (14.3) 底 (8.3) 高 3.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
182-7 152	土師質土器 足高台付 埴	覆土下層 破片	口 — 底 (13.9) 高 —	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
182-8 152	土師質土器 耳皿	覆土下層 破片	—	黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	皿の両端を内側に曲げる。	藤岡系か
182-9 152	施釉陶器 灰釉甕	覆土下層 破片	口 (18.9) 底 — 高 —	密	良好	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。施釉は浸掛。	
182-10 152	須恵器 甕	覆土内層 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
182-11 152	礫器 不詳	覆土下層 完存	長 5.6 幅 3.6 重 70.9	砂岩	—	—	全体に小ぶりで上面に磨滅が認められる。	
182-12 152	施釉陶器 緑釉碗	床直層 破片	—	須恵質	良好	緑	轆轤成形(右回転)。	
182-13 152	施釉陶器 灰釉壺	覆土下 破片	—	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
182-14 152	鉄器 刀子	覆土内 一部欠損	重 (18.9)	—	—	—	鋒・茎尻欠損。研ぎ減りが認められる。茎の幅が広い。刀身は大身の造り。	
182-15 152	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (16.4)	—	—	—	断面長方形である。刀子の茎が。刀子の茎の場合182-4の欠損部分か。	
182-16 152	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (7.7)	—	—	—	断面長方形気味。先端側を欠損する。	
182-17 152	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 (9.3)	—	—	—	断面・正方形・長方形両者が認められる。	
182-18 152	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (5.1)	—	—	—	断面長方形を呈する。	
182-19 152	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (14.9)	—	—	—	断面正方形を呈する。図中中位下は欠損する。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
183-1 153	瓦 男瓦	カマド左 袖 完形	長 37.9 幅 16.4 広 16.8	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り左4回・右2回、端部面取り2回。	吉井系
183-2 153 瓦-196	瓦 男瓦	カマド左 袖 %残存	長 38.3 幅 17.4 厚 1.6	白色微粒子	酸化焰	暗灰 黒	半載作り。刻印文字瓦「佐」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で後轆轤横撫で。側部面取り左3回、端部面取り4回。	笠懸系
184-1 153	瓦 男瓦	覆土内 %残存	幅 23.5 厚 2.0	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面平行叩き(全面)。側部面取り2回、端部面取り2回。	乗附系
184-2 153	瓦 男瓦	覆土内 %残存	厚 1.6	白色鉾物粒子	中性焰	黄灰	半載作り。凹面布合せ目痕。側部面取り2回。	乗附系
184-3 153 瓦-197	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子 デイスaito 白色微粒子	還元焰	暗灰	半載作り。篋描き文字瓦「成」(凸面)。凸面平行叩き。端部面取り2回。	吉井系
184-4 153	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉾物粒子 白色粒子	中性焰	黄灰	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
184-5 153	瓦 男瓦	掘り方内 %残存	厚 2.0	白色微粒子 白色鉾物粒子	中性焰	黄灰	半載作りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面粘土板剥ぎ取り痕・轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
185-1 154	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.3	白色鉾物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。粘土板接合痕はZ。	吉井系
185-2 瓦-198	瓦 女瓦	覆土下 %残存	長 37.8 幅 25.7 厚 2.6	白色鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦「川上」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	吉井系 176-1と 同一個体
185-3 154 瓦-199	瓦 女瓦	カマド右 袖 %残存	長 36.2 厚 1.8	白色粒子 デイスaito	還元焰	灰	桶巻き造り。篋描き文字瓦「一八か六か」(凸面)。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系か
185-4 154	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.8	白色微粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面平行叩き・赤色顔料塗彩。	乗附系
185-5 154	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.6	白色微粒子多	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	笠懸系か
186-1 154	瓦 女瓦	カマド右 袖 %残存	長 40.5 幅 26.8 厚 2.4	白色微粒子多	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系か
186-2 154	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き後縦位の撫で整形。粘土板接合痕はZ。	笠懸系か
186-3 154	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	シルト粒	還元焰	鈍灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面離砂痕縄叩き(密)。側部面取り3回。	秋間系
186-4 154	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	鈍橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
186-5 154	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、凸面木目叩き。側部面取り3回。	笠懸系
186-6 154	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	乗附系
187-1 154	瓦 女瓦	床直層 %残存	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
187-2 154	瓦 女瓦	床直層 %残存	厚 1.7	白色鉾物粒子 白色粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・布合せ目痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
187-3 155	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
187-4 155	瓦 女瓦	カマド左 袖 %残存	厚 1.5	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系

## C区第81号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
188-1 155	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.5) 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。内面暗文を施す。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系か
188-2 155	土師器 坏	覆土内 破片	口 11.0 底 (7.4) 高 2.8	微粒状雲母 黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
188-3 155	土師器 坏	覆土内 破片	—	薄い層状をなす。密	酸化焰	橙	内面に暗文を施す。	畿内産
188-4 155	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 (9.7) 底 (4.6) 高 2.3	白色粒子 黒色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。口縁部に燻りが認められる。	
188-5 155	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 (10.3) 底 (6.2) 高 3.1	赤褐色粒子 白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
188-6 155	土師質土 器 坏	覆土内 %残存	口 (10.5) 底 (5.4) 高 3.9	白色粒子 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	182-1 と同一個 体
188-7 155	土師質土 器 坏	覆土内 %残存	口 (11.0) 底 (4.7) 高 3.5	白色粒子 透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系か
188-8 155	須恵器 壺 破片	覆土内 破片	口 (12.3) 底 (7.3) 高 4.3	黒色鉍物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
188-9 155	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 5.4 高 —	黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
188-10 155	内黒土器 坏	床直層 破片	口 — 底 6.6 高 —	微粒状雲母 黒色鉍物粒子 シルト粒	酸化焰	鈍黄橙 黒	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面暗文を施す。燻し処理。	藤岡系
188-11 155	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 7.0 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面赤色顔料の痕跡・磨滅している。	秋間系
188-12 155	須恵器 壺 破片	覆土内 破片	—	黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗形系か 藤岡系
188-13 155	須恵器 大甕 破片	床直層 破片	—	黒色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	5本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
188-14 155	施釉陶器 灰釉陶枕 破片	覆土内 破片	—	密	良好	オリーブ 灰	宝相華文を加飾する。加飾は細い篋状工具の先端で施文する。(火中している)	
188-15 155	礫器 不詳	覆土内 完存	長 6.0 幅 6.1 重 127.9	粗粒安山岩	—	—	平坦面を磨滅している。	
188-16 155	礫器 不詳	掘り方 覆土内 完存	長 5.2 幅 7.4 重 113.3	二ツ岳軽石	—	—	特別な使用痕は認められない。	
188-17 156	鉄器 鎌	覆土内 一部欠損	重 (52.5)	—	—	—	雁叉式。廃棄段階で欠損している。図中に復元図を添えた。	
188-18 155	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (28.7)	—	—	—	断面正方形形状を呈する。弧を描いているが、環状のものとは思われない。	
188-19 156	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (9.2)	—	—	—	断面正方形形状を呈する。頭部を欠損する。	
188-20 155	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (18.4)	—	—	—	薄い板状で形状から特殊なものと思われる。	
188-21 155	須恵器 大甕 転用円盤	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰黄 褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は放射状)。頭部側を転用している。	
188-22 156	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子 白色粒子 デイスait	酸化焰	鈍橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。端面面取り1回。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
189-1 155	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系
189-2 156	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で。	乗附系
189-3 156	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系
189-4 156	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面平行叩き。側部面取り2回。	乗附系
189-5 156	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。	乗附系

C区第78号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
190-1 156	土師質土 器 埴 壇	床直層 %残存	口 12.1 底 6.3 高 4.8	白色粒子 白色鉾物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
190-2 156	土師質土 器 埴 壇	掘り方・ 覆土内	口 (12.3) 底 6.1 高 4.4	微粒状雲母 白色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
190-3 156	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内・外面自然釉附着。頸部は細く口縁部は強く大きく開く。	秋間系
190-4 156	須恵器 甕	掘り方内 破片	口 — 底 (10.1) 高 —	白色鉾物粒子 黒色鉾物粒子 雲母	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	
190-5 156	羽 釜	カマド左 袖 破片	口 (21.2)	黒色粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
190-6 156	須恵器 甕	掘り方内 破片	口 — 底 (13.0) 高 —	白色鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面底部は篋撫で。外面平行叩き、内面宛具は素文。	藤岡系か
190-7 156	須恵器 甕	カマド左 袖 掘り方内 破片	口 — 底 (10.5) 高 —	白色鉾物粒子	還元焰	鈍灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面底部は篋撫で。	吉井系
191-1 156	須恵器 大 甕	掘り方内 破片	—	微粒状雲母 黒色粒子少量	還元焰	鈍灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面は磨滅している。	秋間系
191-2 156	礫 器 不 詳	カマド右 袖 完存	長 10.7 幅 9.8 重 469.5	粗粒安山岩	—	—	扁平で被熱によるひび割れ。	
191-3 156	礫 器 不 詳	カマド右 袖 完存	長 21.4 幅 5.8 重 1535.3	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅する。	
191-4 156 瓦-561	瓦 男 瓦	掘り方内 破片	厚 1.7	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面轆轤横撫で。482-3(瓦-561)・483-16(瓦-560)と接合。	秋間系 瓦-200
191-5 156	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.4	黒色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻き作り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で。	乗附系

## C区第79号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
192-1 157	土師質土器 坏	掘り方内 破片	口 (10.0) 底 — 高 2.5	黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤岡系
192-2 157	土師質土器 坏	カマド内 破片	口 10.0 底 — 高 —	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
192-3 157	土師質土器 坏	床直層 %残存	口 (10.2) 底 (5.2) 高 3.2	白色粒子 黒色鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
192-4 157	土師質土器 坏	掘り方内 完形	口 10.7 底 5.0 高 3.1	白色粒子 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
192-5 157	土師質土器 坏	覆土内 %残存	口 10.8 底 6.1 高 2.7	白色粒子 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
192-6 157	土師質土器 碗	覆土内 %残存	口 11.5 底 6.7 高 5.1	白色粒子 黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系か
194-1 157	土師質土器 碗	カマド右 袖 破片	口 (12.7) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
194-2 157	土師質土器 足高高台 付碗	カマド左 袖 %残存	口 14.6 底 9.5 高 6.6	白色粒子 黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
194-3 157	須恵器 皿	覆土内 破片	口 13.5 底 7.0 高 2.4	白色微粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
194-4 157	羽釜	掘り方内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色微粒子 黒色鉍物粒子 雲母	酸化焰	鈍橙	紐作り後撫で整形(右回転)。底部周辺回転篋削り。	吉井・藤岡系
194-5 157	土釜	掘り方・ 覆土内 破片	—	シルト粒多量	酸化焰	灰褐	紐作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	吉井・藤岡系
194-6 157	須恵器 甕	床直層 %残存	口 — 底 13.6 高 —	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
194-7 157	土師質土器 耳付瓶	カマド左 袖 %残存	—	微粒状雲母 白色微粒子 白色鉍物粒子	中性焰	橙	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	
194-8 157	羽釜	掘り方内 破片	—	微粒状雲母 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	中性焰	灰黄褐	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	藤岡系
194-9 157	羽釜	掘り方内 破片	口 20.2 底 — 高 —	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
194-10 157	羽釜	掘り方内 破片	口 17.1 底 — 高 —	白色鉍物粒子	中性焰	黒褐	口縁部は外傾する。紐作り後撫で整形 (右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
195-1 157	羽釜	カマド右 袖 破片	口 19.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
195-2 157	須恵器 大甕 転用硯か	掘り方・ 覆土内 破片	—	白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	暗灰	胴部片を転用し、方形の割れ口状に整形なす。内面側が、非常によく磨滅して「つるつる」している。	藤岡系
195-3 157	須恵器 大甕	床直層 破片	—	白色鉍物粒子 デイスait	還元焰	褐灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は不詳)。	乗附系か 藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
195-4 157	施釉陶器 磁器陶枕	覆土内 破片	—	密	良好	黒 オリ ブ灰	宝相華文を加飾する。加飾は細い篋状工具の先端で施文する。(火中している) 188-14と同一個体で底面側である。	188-14 と同一個 体
195-5 158	須 恵 器 大 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	良好	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面は非常によく磨滅「つるつる」している。	乗附系
195-6	施釉陶器 灰 釉 皿	カマド・ 覆土内 破片	口 (16.4) 底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は浸掛。	
195-7 158	施釉陶器 灰釉小瓶	床直層 破片	口 5.4 底 — 高 —	密	良好	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。施釉は浸掛。	
195-8 158	磁 器 白 磁 碗	覆土内 破片	—	密	良好	乳白	轆轤成形。回転方向不詳。化粧土を施す。	
195-9 158	礫 器 不 詳	床直層 ほぼ完存	長 9.4 幅 10.8 重 594.4	かこう岩	—	—	上面は磨滅している。	
196-1 158	礫 器 不 詳	床直層 ほぼ完存	長 11.8 幅 8.9 重 520.6	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅している。	
196-2 158	礫 器 不 詳	掘り方内 完存	長 15.8 幅 11.8 重 1417.7	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅している。	
196-3 158	礫 器 不 詳	掘り方内 完存	長 13.2 幅 9.2 重 813.8	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅している。	
196-4 158	石 製 品 竈の袖材	カマド左 袖 破片	幅 12.3 重 4800.0	未固結擬灰岩	—	—	地山シルト質土を直方体に削り出し、面取りは小単位の整形を施している。	
197-1 158 瓦-480	瓦 宇 瓦	掘り方内 破片	厚 2.4	白色鈹物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は綾杉文。細片であるが刊末に付した綾杉文と同範であると考えられる。	秋間系
197-2 158	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鈹物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で。側部面取り2回。	笠懸系
197-3 158	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色鈹物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り1回。	乗附系
197-4 158 瓦-202	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 1.5	白色鈹物粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	一枚作り。篋描き文字瓦「真」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
197-5 160	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 1.7	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕、縄叩き(密)有。	笠懸系
197-6 159	瓦 女 瓦	カマド右 袖 ほぼ完形	長 35.2 狭 20.0 厚 2.4	白色鈹物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で整形。	吉井系 3.7kg
198-1 159	瓦 女 瓦	カマド左 袖 完形	長 34.4 広 23.6 狭 20.0	白色鈹物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。側部面取り左2回・右3回、端部面取り2回。	吉井系 2.9kg
198-2 160	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕・正格子叩き。	笠懸系
198-3 160	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.8	白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕・正格子叩き。側部面取り2回。	笠懸系
198-4 159	瓦 女 瓦	掘り方内 %残存	長 40.6 厚 1.9	白色鈹物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面板目叩き後縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
199-1 160	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面粘土板剥ぎ取り痕・正格子叩き。側部面取り1回、端部面取り1回。面取り際から撫で。	秋間系

## C区(80・82号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
199-2 159	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面不整格子叩き。側部面取り5回、端部面取り2回。199-3と同一個体。	笠懸系 乗附系
199-3 160	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面・凸面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回、端部面取り2回。199-2と同一個体。	

## C区第80号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
200-1 160	須恵器 埴	床直層 完形	口 11.7 底 5.8 高 4.3	黒色鉍物粒子 白色粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻りが認められる。	吉井・藤岡系
201-1 160	土師質土器 足高高台付埴	掘り方内 残存	口 (12.8) 底 (8.3) 高 5.8	黒色鉍物粒子 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系か
201-2 160	施釉陶器 緑釉碗	掘り方内 破片	口 16.5 底 8.7 高 6.6	密	軟質	オリブ灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は薄く、露胎がすける。	
201-3 160	施釉陶器 灰釉碗	床直層 破片	口 10.4 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は浸掛。	
201-4 160	礫器 不詳	掘り方内 完存	長 10.0 幅 10.4 重 601.0	流紋岩	—	—	上面が磨滅し屈みを有する。	
201-5 160	須恵器 大甕	掘り方・ 覆土内 破片	—	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面木目叩き・内面宛具は不詳)。	吉井系
201-6 160	須恵器 大甕 転用硯か	掘り方内 破片	—	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩きは撫で整形により不明。胴部片を転用し周辺を打ち欠いたのち磨いている。	乗附系
201-7 160 瓦-409	瓦 鏡瓦	掘り方内 残存	厚 2.5	白色微粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は、復弁7葉(山王・秋間系)の抽象文。	秋間系
201-8 160 瓦-410	瓦 鏡瓦	掘り方内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は、復弁7葉(山王・秋間系)の抽象文。	秋間系
201-9 160	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(密)。	笠懸系
201-10 161	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 細片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き。	笠懸系
202-1 161	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕後不定方向の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
202-2 161	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井系

## C区第82号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
203-1 161	土師質土器 坏	床直層 残存	口 11.0 底 6.2 高 3.0	赤色粒子 黒色粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
203-2 161	土師質土 器 坏	床直層 ほぼ完形	口 10.5 底 5.9 高 3.1	白色粒子 黒色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
203-3 161	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 16.5 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外傾する。紐作り。外面胴部は篋撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
203-4 161	羽 釜 破片	床直層 破片	口 (18.9) 底 — 高 —	黒色粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
203-5 161	施釉陶器 灰釉小瓶	掘り方・ 覆土内 破片	口 (5.8) 底 — 高 —	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。施釉は浸掛。	
203-6 161	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (10.4)	—	—	—	断面長方形状を呈する。	
204-1 161	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色鉍物粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤横撫で整形。	吉井・藤 岡系
204-2 161	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	半截作り。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回。	吉井・藤 岡系
204-3 161	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布合せ目痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回。	笠懸系
204-4 161	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色微粒雲母	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	乗附系
204-5 161	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作りか。凸面不定方向の撫で整形。凹面薦状。側部面取り2回。	吉井・藤 岡系
204-6 161	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 2.3	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	鈍灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回。	乗附系

C区第84号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
205-1 161	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 13.0 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰		轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
205-2	鉄 器 釘 か	覆土内 一部欠損	重 (12.0)	—	—	—	断面長方形状を呈する。頭部欠損。	

C区第85号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
206-1 161	須 恵 器 壺	掘り方内 残存	口 13.3 底 7.2 高 6.0	白色粒子 黒色粒子 微粒状雲母	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻りが認められる。	藤岡系
206-2 161	須 恵 器 壺	掘り方内 破片	—	黒色鉍物粒子 赤色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤 岡系
206-3 161	須 恵 器 壺	掘り方内 破片	—	黒色鉍物粒子 細粒砂	中性焰	淡黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤 岡系
207-1 162	須 恵 器 大 甕	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子 黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
207-2 161	土 釜 破片	掘り方内 破片	—	透明鉍物粒子 シルト質 黒色鉍物粒子	酸化焰	灰褐 鈍橙	口縁部は外反する。紐作り後篋撫で整形。	藤岡系か
207-3 162	土師質土 器 瓶	掘り方内 破片	口 — 底 (13.7) 高 —	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
207-4 161	施釉陶器 灰釉 輪花文碗	掘り方内 破片	口 (15.0) 底 — 高 —	密	良好	灰褐	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は浸掛。	
207-5 161	礫器 不詳	掘り方内 完存	長 18.3 幅 7.0 重 1258.6	粗粒安山岩	—	—	上面磨滅し先端敲打痕が認められる。	
207-6 162 瓦-408	瓦 鏡瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。	吉井・藤岡系
207-7 162 瓦-201	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。篋描き文字瓦「子文」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
207-8 162	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 少量	酸化焰	鈍橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	乗附系
208-1 163 瓦-203	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。篋描き文字瓦「大」(凹面)。凸面T字縄叩き(密)。側部面取り3回、一部は撫で、端部面取り1回。	秋間系
208-2 163	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 デイスイト	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面縄叩き(密)、離砂痕有。側部面取り2回。	乗附系
208-3 162	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕・板目叩き。側部面取り2回。	吉井系

## C区第86号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
209-1 163	土師質土 器 坏	カマド左 袖 残存	口 (10.2) 底 (5.4) 高 3.2	白色微粒子 白色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転系切り。	藤岡系
209-2 163	土師質土 器 坏	カマド右 袖 残存	口 (10.5) 底 (6.0) 高 2.6	白色微粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転系切り。	藤岡系
209-3 163	土師質土 器 塊	カマド左袖・ 覆土内 残存	口 (16.6) 底 — 高 —	微粒雲母 砂粒	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
210-1 163	須恵器 大甕	カマド・ 覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き)。内面は磨滅している。	
210-2 163	羽釜	カマド右 袖 破片	口 (18.6) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
210-3 163	羽釜	カマド右 袖 破片	口 (23.1) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
210-4 163	羽釜	掘り方・ 覆土内 破片	口 (24.1) 底 — 高 —	白色微粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
210-5 163	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 (10.5)	—	—	—	断面正方形形状を呈する。	
210-6 163	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 (5.3)	—	—	—	断面正方形形状を呈する。	
210-7 163	石製品 基石か	カマド内 完存	長 2.3 幅 2.0 重 6.6	桂質頁岩	—	—	片側偏平である。形状から基石とも思われる。	
211-1 163	礫器 不詳	カマド・ 覆土内 完存	長 11.8 幅 12.3 重 1090.8	粗粒安山岩	—	—	偏平面が磨滅する。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
211-2 163	瓦 男 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.5	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	半截作り。	笠懸系
211-3 164 瓦-204	瓦 男 瓦	カマド左 袖 ほぼ完形	長 41.4 幅 19.0 厚 2.1	白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。刻印文字瓦「方」(凹面)。凹面 模骨痕粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回。	吉井系
211-4 163	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.3	白色鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)轆 轤横撫で後不定方向の撫で整形。側部面取り 2回、端部面取り1回。	吉井系
211-5 163	瓦 女 瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.0	白色鉾物粒子 白色粒子	中性焰	黄灰	桶巻き作り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕 有。凸面縄叩き(密)後撫で轆轤横撫で整形・ 粘土板接合痕有。側部面取り3回、端部面取 り1回。	乗附系
211-6 163	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.4	微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面不定方向の撫で整形。	乗附系
212-1 164	瓦 男 瓦	カマド右 袖 ほぼ完形	長 38.5 幅 17.2 狭 10.6	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布合せ目痕・粘土板剥ぎ取り 痕有。側部面取り2回、端部面取り1回。	乗附系

C区第87号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
213-1 163	土師質土 器 埴 埴	床直層 %残存	口 16.0 底 8.6 高 5.3	黒色鉾物粒子 白色微粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系か

C区第88号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
214-1 163	須 惠 器 埴 埴	覆土内 %残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.9)	白色鉾物粒子 黒色鉾物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、高台欠損後坏に転用。	吉井・藤 岡系
214-2 163	礫 器 不 詳	覆土内 完存	長 9.7 幅 11.9 重 256.5	変質安山岩	—	—	平坦面が磨滅している。	
214-3 163	羽 口 破片	覆土内 破片	—	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片 の為、スラグ等は認められない。	
214-4 163	鉄 器 刀 子 破片	掘り方内 破片	重 (12.5)	—	—	—	刀身の大半を欠損し、茎大半も欠損する。	
214-5 164	鉄 器 不 詳 破片	覆土内 破片	重 (8.2)	—	—	—	全体に先細り状で断面正方形を呈する。	
214-6 163	鉄 器 釘 破片	覆土内 破片	重 (31.5)	—	—	—	頭部欠損。断面正方形を呈する。	
214-7 164	鉄 器 不 詳 破片	掘り方内 破片	重 (10.6)	—	—	—	断面正方形を呈する。稜線側に2ヶ所折れ 曲がる。	
214-8 164	鉄 器 不 詳 破片	覆土内 破片	重 (4.8)	—	—	—	断面正方形を呈する。	
215-1 164	礫 器 不 詳 完存	覆土内 完存	長 14.4 幅 5.2 重 674.3	変質玄武岩	—	—	上面が磨滅している。	
215-2 164	須 惠 器 甕 破片	覆土内 破片	厚 1.0	白色鉾物粒子 多量	還元焰	鈍灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面は磨滅している。	藤岡系
215-3 164	須 惠 器 甕 破片	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面はやや磨滅している。	乗附系

## C区(87・88・107・108号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
215-4 164	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。215-5と同一個体か。	乗附系
215-5 164	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。215-4と同一個体か。	乗附系
215-6 164	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)、離砂痕有。	乗附系

## C区第107号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
216-1 164	土師質土 器 坏	覆土内 1/2残存	口 13.4 底 6.5 高 3.4	白色粒子 白色鉍物粒子 黒色粒子	酸化焰	橙褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転系切り。内・外面有機質附着。	乗附系か 藤岡系
216-2 164	須恵器 壺	掘り方内 1/2残存	口 (14.7) 底 (8.5) 高 6.1	黒色粒子 白色粒子 シルト粒	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
216-3 164	須恵器 蓋	掘り方内 1/2残存	摘底 (16.4) 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転笠削り。	秋間系
217-1 165	須恵器 壺	掘り方内 破片	口 (12.0) 最大径 (20.7)	白色粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
217-2 182	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 (2.4)	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形・離砂痕有。側部面取り3回、端部面取り2回。	秋間系
217-3	鉄釘 か	覆土内 破片	重 (6.9)	—	—	—	上半部を欠損する。	
217-4	鉄釘 か	覆土内 破片	重 (1.6)	—	—	—	上半部を欠損する。	

## C区第108号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
218-1 164	土師質土 器 坏	床直層 完形	口 13.0 底 5.5 高 3.9	雲母 白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転) 底部は回転系切り。内面燻りが認められる。	吉井・藤岡系
218-2 165	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.0	微粒状雲母	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形後撫で整形。	乗附系
218-3 165	施釉陶器 緑釉碗	覆土内 破片	厚 0.2	須恵質	良好	緑	轆轤成形(右回転)。	
219-1	須恵器 蓋	覆土内 1/2残存	摘口 (7.6) 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転笠削り、摘部は貼り付け。	秋間系
219-2 165 瓦-411	瓦 鏡瓦	カマド内 破片	厚 1.4	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。国分寺創建統一意匠。背面には背面竹管を長方形に成形したものを刺突する。	笠懸系
219-3 165 瓦-215	瓦 女瓦	カマド内 ほぼ完形	長幅 37.6 狭 24.0 20.6	白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。寛描き文字瓦「サ」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
219-4 165 瓦-216	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面布目撫で消し・赤色顔料塗彩。凸面縄叩き(密)斜格子叩き。	笠懸系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
219-5 165	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	黒色粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形・離砂痕有。端部面取り1回。	秋間系
219-6 165	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	乗附系

C区第89号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
221-1 165	施釉陶器 灰釉段皿	覆土内 残存	口 12.2 底 6.9 高 2.6	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
221-2 165	施釉陶器 灰釉段皿	覆土内 破片	口 13.0 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
221-3 165	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口 15.9 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は浸掛。	
221-4 165	施釉陶器 灰釉瓶	覆土内 破片	—	密	良好	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
221-5 165	施釉陶器 灰釉瓶	覆土内 破片	—	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
221-6 165	土 釜	覆土内 破片	口 18.3 底 — 高 —	微粒状雲母 白色微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外傾する。内・外面紐作り後篋撫で整形。	吉井・藤岡系
221-7 165	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	鈍灰	口縁部は外反し、11本1単位の波状文を廻らす。紐作り轆轤整形(右回転)。	乗附系
221-8 165	須恵器 大甕	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰	7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
221-9 166	礫 器 不詳	覆土内 完存	重 39.7	角閃石安山岩	—	—	全体的に磨き整形により磨滅をしている。	
222-1 166	須恵器 大甕 転用硯	覆土内 破片	厚 1.0	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き)大甕の胴部辺を転用する。周辺部を打ち欠き割れ口を整形する。	藤岡系か 乗附系
222-2 166 瓦-205	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 シルト粒	還元焰	灰白	半載作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。側部面取り2回。	藤岡系
222-3 166	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 白色粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	乗附系
222-4 166	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	鈍灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系
222-5 166	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	半載作り。凸面平行叩き。側部面取り3回。	吉井・藤岡系
222-6 166	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井・藤岡系

C区第100号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
223-1 166	土師器 甕	床直層 破片	口 (18.2) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面は横撫で。	藤岡系
223-2 166	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	口 — 底 (9.8) 高 —	白色粒子 黒色粒子 赤色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。削り出し高台。	秋間系
223-3 166	土師質土 器 碗	床直層 破片	口 — 底 (4.6) 高 —	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
223-4	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 %残存	口 12.5 底 (7.2) 高 (2.3)	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
223-5 166	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口 — 底 (7.7) 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は不詳。	
223-6 166	須恵器 瓶	掘り方内 破片	口 — 底 (19.4) 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面ハゼが著しい。	秋間系
223-7 166	石製品 砥石	覆土内 破片	幅 3.2 重 112.7	砥沢石	—	—	断面三角形状を呈する。破損品を成形し使用している。手持砥。	
223-8 166	石製品 砥石	床直層 破片	幅 4.6 重 302.8	砥沢石	—	—	置砥。両面からの使用が顕著で中央部が非常に肉薄になり、欠損は最も薄い部分で割れている。	
223-9 166	礫器 不詳	床直層 完存	長 16.4 幅 13.8 重 1271.0	石英閃緑岩	—	—	全体は、扁平で丸く平坦面が磨滅している。	
223-10 166	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.2)	—	—	—	利器の茎か。	
223-11 166	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (13.4)	—	—	—	尖端部を欠損する。	
223-12 166	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	半截作り。凸面縦位・不定方向の撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
223-13 166	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。粘土板接合はZ。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
223-14 166	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.1	微粒状雲母 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤横撫でと縦位の撫で。	藤岡系
223-15 166	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	半截作り。端部面取り1回。	吉井系
224-1 166	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で、側部面取り2回。	乗附系
224-2	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面正格子叩き。側部面取り2回。	笠懸系
224-3 166	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縦位の撫で整形。	乗附系
224-4	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.3	黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後轆轤撫で後又縄叩き後轆轤再整形。	

## C区第110号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
225-1 167	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 12.7 底 5.9 高 5.0	白色微粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。内面燻りが認められる。	藤岡系
225-2 167	須恵器 埴	床直層 %残存	口 13.6 底 7.4 高 5.9	白色鉱物粒子 細礫	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内面燻りが認められる。	吉井・藤岡系
225-3 167	須恵器 埴	床直層 破片	口 — 底 (5.5) 高 —	雲母 赤色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内面燻りが認められる。	藤岡系
225-4 167	羽釜	掘り方内 破片	口 21.1 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子 雲母	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜	吉井系
225-5 167	羽釜	掘り方内 破片	口 20.2 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。吉井型羽釜	吉井系
225-6 167	施釉陶器 灰釉壺	掘り方内 破片	最大径 21.8	密	良好	黄灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。下半は回転篋削り。施釉は不詳。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
226-1 167	須恵器 甕	床直層 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不正格子叩き・内面宛具は素文）。内面は磨滅している。 226-2・3と同一個体。	秋間系
226-2 167	須恵器 甕	床直層 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不正格子叩き・内面宛具は素文）内面は磨滅している。 226-1・3と同一個体。	秋間系
226-3 167	須恵器 甕	床直層 破片	—	黒色粒子白色 微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不正格子叩き・内面宛具は素文）。内面は磨滅している。 226-1・2と同一個体。	秋間系
226-4 167	礫器 不詳	掘り方内 完存	長 12.7 幅 11.0 重 899.8	石英閃緑岩	—	—	平坦面は磨滅している。	

C区第96号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
228-1 167	土師器 坏	床直層 破片	口 (17.1) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内・外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。内・外面燻り。	
228-2 167	土師質土 器 坏	カマド右 袖 %残存	口 11.8 底 5.5 高 2.7	白色粒子 白色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形（右回転）。底部は回転系切り。	
228-3 167	土師質土 器 坏	床直層 %残存	口 14.5 底 5.8 高 4.0	雲母 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形（右回転）。底部は回転系切り。内・外面燻りが認められる。	
228-4 167	内黒土器 塊	カマド右 袖 %残存	口 9.5 底 5.8 高 3.9	白色粒子 白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形（右回転）。付高台。内面燻し処理、暗文を施す。	
228-5 167	内黒土器 塊	カマド左 袖 完形	口 10.7 底 5.5 高 4.4	雲母 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形（右回転）。付高台。内・外面燻し処理、暗文を施す。内・外面有機質附着。坏部は型作り成形の可能性もある。	
228-6 167	羽 釜	カマド右 袖 破片	口 21.9 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 雲母	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。紐作り後撫で整形（右回転）。鏝は貼り付け。胴部は篋削り。吉井型羽釜。	吉井系
228-7 167	羽 釜	床直層 破片	口 (22.1) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 雲母	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。紐作り後撫で整形（右回転）。鏝は貼り付け。胴部は篋削り。吉井型羽釜。	吉井系
228-8 167	羽 釜	床直層 破片	口 (22.4) 底 — 高 —	黒色粒子 黒色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内湾する。紐作り後撫で整形（右回転）。鏝は貼り付け。胴部は篋削り。吉井型羽釜。	吉井系
228-9 167	羽 釜	床直層 破片	口 (23.0) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形（右回転）。鏝は貼り付け。胴部は篋削り。吉井型羽釜。	吉井系
228-10 168	羽 釜	カマド左 袖 破片	口 (23.0) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形（右回転）。鏝は貼り付け。胴部は篋削り。吉井型羽釜。	吉井系
229-1 167	羽 釜	カマド右 袖 破片	口 (24.8) 底 — 高 —	黒色粒子 擬灰岩 白色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形（右回転）。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
229-2 167	羽 釜	カマド右 袖 破片	—	白色粒子 白色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	紐作り後撫で整形（右回転）。胴部下半は篋削り。吉井型羽釜。	吉井・藤岡系
229-3 168	羽 釜	カマド左 袖 破片	底 (6.6)	白色粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り後轆轤整形（右回転）。胴部下半は篋削り。	月夜野系 か 吉井系

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
229-4 168	羽釜	覆土内 破片	口底高 — (8.2) —	黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部は篋撫で。	
229-5 168	施釉陶器 灰釉段皿	カマド・ 覆土内 破片	口底高 — (7.6) —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
229-6 168	礫器 不詳	覆土内 完存	長幅重 10.0 9.6 877.7	粗粒安山岩	—	—	小口面に敲打痕が顕著に認められる。平坦面側磨減する。	
229-7 168	礫器 不詳	掘り方内 完存	長幅重 10.8 9.6 788.7	粗粒安山岩	—	—	小口面は全体に敲打痕が認められ、平坦面は磨減し、両面共に屈みが弧形状に接続している。	
229-8 168	鉄刀子	床直層 破片	重 (11.7)	—	—	—	刀身の大半を欠損する。茎は完存しているが折れ曲がっている。	
229-9 168	鉄器 不詳	カマド・ 覆土内 破片	重 (4.5)	—	—	—	棒状で断面正方形を呈する。	
229-10 168	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (21.4)	—	—	—	調査後中央部を欠損。頭部は大きい。	
229-11 168 瓦-208	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.8	白色粒子 細白色鉍物粒子	還元焰	灰	半載作り。篋描き文字瓦「文城」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
230-1 168	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.9	白色微粒子	酸化焰	橙	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き有。側部面取り4回。	乗附系
230-2 168	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。端部面取り2回。	吉井系
230-3 168	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	鈍灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	乗附系
230-4 169	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 3.2	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回、端部面取り1回。	吉井系
230-5 169 瓦-206	瓦 女瓦	掘り方内 %残存	幅厚 15.8 2.1	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。篋描き文字瓦「二」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。端部面取り2回。	笠懸系
231-1 169 瓦-207	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。篋描き文字瓦「八田甲斐女」(凸面)、凸面平行叩き後撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
231-2 168	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.8	黒色粒子 白色粒子 白色鉍物粒子少	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)、後縦位の撫で整形。	吉井系
231-3 168	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り3回。	吉井系
231-4 169	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	広厚 28.6 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	紐作り。凹面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
231-5 168	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.1	白色微粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き後縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	笠懸系
232-1 168	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き側部面取り2回。端部面取り1回。	笠懸系
232-2 169	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子多量	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	乗附系
232-3 169	瓦 女瓦	床直層 細片	厚 0.6	微粒状雲母 白色粒子 デイスaito	酸化焰	黒灰 鈍黄橙	一枚作り。凹面薦目有。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

C区第97号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
233-1 169	須恵器 壺	掘り方内 破片	口 — 底 (7.9) 高 —	雲母 白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。内面燻りを認める。	藤岡系
233-2 169	土釜	覆土内 破片	口 26.0 底 — 高 —	細砂粒 黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外傾する。紐作り後篋撫で整形。	吉井系
233-3 170	須恵器 甕	掘り方内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は素文) 後轆轤再整形。	秋間系
233-4 169	施釉陶器 灰釉皿	カマド・ 覆土内 破片	口 11.8 底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。施釉は浸掛。	
234-1 169	羽釜	覆土内 破片	口 (26.8) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
234-2 169	施釉陶器 灰釉壺	掘り方内 破片	—	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形 (右回転)。外面施釉は浸掛。	吉井系
234-3 170	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
234-4 170	瓦 男瓦	カマド左袖 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
235-1 170 瓦-209	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。篋描き文字瓦「日」(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
235-2 170	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不定方向の撫で。側部面取り2回。	吉井系
235-3 170	瓦 女瓦	カマド左袖 %残存	厚 1.2	微粒状雲母	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き後(密)後撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	藤岡系

C区第99号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
236-1 170	須恵器 坏	カマド左袖 破片	口 (11.1) 底 (6.3) 高 3.8	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
236-2 170	土師質土器 坏	覆土内 破片	口 (11.6) 底 (6.1) 高 2.8	白色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は篋削り。	吉井・藤岡系
236-3 170	須恵器 坏	掘り方内 破片	口 (12.5) 底 (6.7) 高 3.5	白色粒子 赤色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
236-4 170	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 13.0 底 (6.4) 高 3.3	白色微粒子 雲母	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
236-5 170	須恵器 坏	カマド左袖 %残存	口 (13.2) 底 (8.0) 高 3.6	赤色粒子 雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
236-6 170	須恵器 壺	床直層 破片	—	透明鉍物粒子 赤色粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
236-7 170	土師質土器 足高台付 壺 脚部	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系か
236-8 170	須恵器 皿	カマド右袖 破片	口 (13.6) 底 (7.3) 高 2.5	白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
236-9 170	須恵器 高台付坏	床直層 破片	口 — 底 11.2 高 —	白色微粒子多	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。削り出し高台。	秋間系
236-10 170	須恵器 高台付坏	床直層 破片	口 — 底 13.0 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
236-11 170	須恵器 高坏か	覆土内 破片	口 27.0 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
237-1 170	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は放射状)。	秋間系
237-2 170	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は不詳)後轆轤再整形。内面は磨滅する。転用硯か。	秋間系
237-3 170	羽釜	覆土内 破片	口 23.2 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 デイスait	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
237-4 170	羽釜	覆土内 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。胴部は篋削り。	藤岡系
237-5 170	施釉陶器 緑釉碗	覆土内 破片	—	密	良好	オリーブ 灰	轆轤成形(回転方向不詳)。軟質で釉調は淡い。	
237-6 170	礫器 不詳	覆土内 完存	長 4.9 幅 2.8 重 49.3	変質安山岩	—	—	上面磨滅する。	
237-7 170	礫器 不詳	覆土内 完存	長 5.2 幅 4.7 重 135.3	粗粒安山岩	—	—	上面磨滅する。	
237-8 170	礫器 不詳	覆土内 完存	長 8.3 幅 5.2 重 135.0	粗粒安山岩	—	—	上面磨滅する。	
237-9 170	礫器 不詳	覆土内 完存	長 9.1 幅 4.9 重 300.4	粗粒安山岩	—	—	上面磨滅する。	
237-10 171	鉄器 刀子	覆土内 破片	重 (3.7)	—	—	—	刀身及び茎を欠損する。	
237-11 171	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (2.8)	—	—	—	断面長方形を呈する。尖端側を欠損する。	
237-12 171	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (5.0)	—	—	—	断面長方形を呈する。尖端側を欠損する。	
237-13 171	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (10.7)	—	—	—	断面長方形を呈する。尖端側を欠損する。	
237-14 171	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (5.3)	—	—	—	断面正方形形状を呈する。棒状を示す。	
237-15 170	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (4.7)	—	—	—	断面長方形形状を呈し、やや先細り状である。	
237-16 171	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (13.8)	—	—	—	二本が錆で融着している。図上左側は断面長方形形状を呈し右側は正方形形状を呈する。尚図上右側は下端が折れ曲がっている。	
237-17 171	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (1.7)	—	—	—	全体的に欠損する。遺存部では、断面三角形形状を呈するが、旧状は方形を呈したと思われる。	
237-18 171	瓦 鏡瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当部を欠損する。	笠懸系
237-19 171	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 0.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部は無で。	秋間系
237-20 171	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り1回、端面面取り2回。	吉井系
237-21 171	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 シルト質	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。	乗附系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
238-1 171 瓦-210	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「辛」(凸面)。側部 面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
238-2 171	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面縄叩き。	笠懸系
238-3 171	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布目撫で消し後縦位の撫で整 形。凸面斜格子叩き。端部面取り4回。	笠懸系
238-4 171	瓦 女 瓦	床直層 細片	厚 2.1	白色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面斜格子叩き。	笠懸系
238-5 171	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面縦位の撫で整形。凸面轆轤横 撫で。側部面取り2回。	吉井系
238-6 171	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色鉍物粒子	藤岡系	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。凹面は鷹状。	吉井系

C区第104号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
239-1 171	土 師 器 坏	掘り方・ 覆土内 破片	口 (11.8) 底 (5.1) 高 3.8	透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	体部・体部下半は手持ち篋削り。	
239-2 171	内黒土器 埴	掘り方・ 覆土内 破片	口 (13.9) 底 — 高 —	赤色粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。内面燻し処理・暗文を施 す。	藤岡系
239-3 171	土師質土 器 坏	カマド内 破片	口 (14.2) 底 (6.8) 高 4.4	透明鉍物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
240-1 171	土師質土 器 埴	床直層 残存	口 — 底 (6.7) 高 —	雲母 透明鉍物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	
240-2 171	内黒土器 埴	掘り方 覆土内 破片	—	黒色粒子 黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内 面燻し処理・暗文を施す。	
240-3 171	鉄 器 釘	カマド内 完存	重 (5.3)	—	—	—	全体に短い。	
240-4 171	瓦 女 瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 2.0	黒色粒子	酸化焰	白灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回。	秋間系
240-5 172 瓦-213	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍灰	一枚作り。篋描き文字瓦「山岡」(凹面)。凸 面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面 取り1回。	吉井系
240-6 172	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.7	黒色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩 き(密)。離砂痕有。	秋間系
240-7 172	瓦 女 瓦	掘り方内 細片	厚 1.9	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面平行叩き。	吉井系
240-8 171	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面に布の圧 痕有。側部面取り2回。	吉井・藤 岡系
240-9 171	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土 板剥ぎ取り痕、縦位の撫で整形。側部面取り 3回。	笠懸系

C区第105号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
241-1 172	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	黒色粒子 赤色粒子 雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
241-2 172	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (5.5) 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 透明鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
241-3 172	羽釜か	覆土内 破片	口底高 — (7.9) —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	吉井・藤岡系
241-4 172	礫器 不詳	カマド右袖 %残存	幅重 5.0 295.7	砂岩	—	—	平坦面が磨滅する。片側は打撃による剝離。	
241-5 172	石製品 基石か	カマド右袖 %残存	長幅重 1.7 1.6 3.4	石英	—	—	発色は褐色ほく濁る。同様な遺物の中では最も小さい。	
241-6 172	鉄器 匙	覆土内 一部欠損	重 (9.3)	—	—	—	把の先端側と柄の上端側を欠損する。	
241-7 172	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系か 吉井系
241-8 172	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	藤岡系
242-1 172	須恵器 甕	カマド右袖 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。凸面平行叩き。内面は磨滅している。	乗附系
242-2 172	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 多量	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り1回。	乗附系

## C区第106号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
246-1 172	土師器 坏	カマド内 完形	口底高 13.2 9.1 4.1	擬灰岩 デイスait 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
246-2 172	須恵器 坏	カマド内 破片	口底高 — (7.9) —	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転系切り後指撫でを施している。	秋間系
246-3 172	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面縦位の篋撫で。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回、端部面取り2回。	吉井系
247-1 173	瓦 玉縁付男瓦	カマド内 %残存	厚 1.1	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り2回。	秋間系
247-2 172	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.1	白色粒子	酸化焰	橙	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系
247-3 172	瓦 玉縁付男瓦	カマド内 %残存	狭幅厚 11.0 14.6 2.3	白色鉱物粒子 黒色粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	半載作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。玉縁部は轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
247-4 172	瓦 男瓦	カマド内 %残存	厚 1.6	白色鉱物粒子 砂粒	酸化焰	鈍橙	半載作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系
248-1 173	瓦 男瓦	カマド内 %残存	狭幅厚 6.2 8.5 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の篋削り後轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
248-2 173	瓦 女瓦	カマド内 完形	広狭長 27.3 20.0 39.2	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。内外面とも自然釉顕著。側部面取り3回。端部面取り2回。	吉井系 5.3kg
249-1 173 瓦-214	瓦 女瓦	カマド内 %残存	狭長幅 13.0 23.6 15.4	白色鉱物粒子 デイスait	還元焰	灰白	一枚作り。刻印文字瓦「當」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の手撫で。一部に布目・篋傷有。側部面取り3~4回。	吉井系 6.1kg
249-2 174	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.1	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き後篋撫でが縦位の手撫で整形。	笠懸系
249-3 174	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)。	笠懸系
249-4 174	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。側部面取り4回。端部面取り1回、端部は篋撫で。	笠懸系
249-5 174	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。側部面取り2回。	笠懸系
249-6 174	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面布目撫で消し後横位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	笠懸系
249-7 174	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.5	白色微粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
250-1 174	瓦 女 瓦	カマド内 %残存	厚 2.3	白色鈹物粒子 白色粒子 ダイサイト	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系

C区第121号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
251-1 174	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 (9.2) 底 (5.3) 高 2.1	白色粒子 赤色粒子 透明鈹物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	
251-2 174	土師質土 器 埴	床直層 %残存	口 (12.2) 底 — 高 —	黒色鈹物粒子 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損。	
251-3 174	土 師 器 土 釜	床直層 破片	—	黒色鈹物粒子 砂粒多 雲母	酸化焰	橙	紐作り後、外面縦位の撫で、内面横位の篋撫で整形。	
251-4 174	石 器 火打ち石	覆土内 破片	重 16.1	石英	—	—	使用痕は認められない。母岩から採取する。母岩が大きい。	
251-5 174	礫 器 不 詳	床直層 ほぼ完存	幅 7.2 厚 4.5 重 759.8	石英閃緑岩	—	—	平坦面が磨滅し、上端敲打により剥落している。	
251-6 174	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 2.1	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き後轆轤横撫で。側部面取り3回。	乗附系
251-7 174	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色鈹物粒子	還元焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面縄叩き後撫で整形。	乗附系
251-8 174	瓦 女 瓦	床下ピット 破片	厚 2.5	白色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面撫で整形。	乗附系
251-9 174	瓦 製 品 搏	覆土下層	厚 4.6	白色鈹物粒子 円礫微量 夾少量	酸化焰	浅黄橙	図上上面は磨滅が認められない。裏面側が磨滅している。上面側は辺にそって、撫で整形を施し、側部は篋撫で整形を施す。	吉井・藤岡系

C区第128号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
252-1 175	土 師 器 甕	床直層 破片	口 21.0 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鈹物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部・口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	藤岡系
252-2 175	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 22.0 底 — 高 —	白色鈹物粒子 白色微粒子 雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部・口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	藤岡系
252-3 175	須 恵 器 小 瓶	覆土内 破片	口 — 底 7.0 高 —	黒色粒子	還元焰	黒灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。底部周辺回転篋削り。内面底部に自然粘着。	
252-4 175	鉄 器 刀 子	覆土内 破片	重 (7.6)	—	—	—	鋒、刀身の茎側以下を欠損する。重ねが薄い。	
252-5 174	礫 器 不 詳	床直層 完存	長 12.4 幅 5.3 重 473.1	粗粒安山岩	—	—	上面側が磨滅する。	
252-6 175	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。全体に漆喰被熱有。側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
252-7 176	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色鈹物粒子 赤色粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き (密) 後縦位の篋削り、轆轤横撫で整形。粘土板接合痕はS。	吉井系
252-8 175	瓦 女 瓦	覆土内 破片	幅 28.0 長 36.8 厚 2.3	白色鈹物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き (密) 後轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系

## C区(121・128・109・103号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
253-1 175	瓦 女瓦	床直層 %残存	長 40.0 厚 2.0	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰	榧巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
253-2 176	瓦 女瓦	床直層 %残存	長 40.8 厚 1.3	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。粘土板接合痕状のものが見られる。	乗附系
254-1 175 瓦-564	瓦 女瓦	床直層 %残存	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。刻印文字瓦「佐」(凸面)。凹面寄木痕。凸面板目叩き・斜格子叩き。側部面取り2回。487-14(瓦-557)と接合。	笠懸系 瓦-222

## C区第109号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
255-1 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.2) 底 — 高 3.8	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
255-2 176	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.3) 底 — 高 —	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は篋削り、口縁部・内外面は横撫で。	吉井・藤岡系
255-3 176	須恵器 蓋	掘り方・ 覆土内 破片	口 (18.2) 摘 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。受部は折り返し。外面は自然釉附着。	秋間系
257-1 176	須恵器 坏	掘り方内 破片	口 (12.0) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。外面自然釉附着。	
257-2 176	須恵器 盤	掘り方内 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。底部は回転篋削り。	乗附系か 吉井・藤岡系

## C区第103号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
257-3 176	土師質土 器 塊	床直層 %残存	口 (10.6) 底 (5.0) 高 4.7	白色粒子 黒色鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻りが認められる。	吉井・藤岡系
257-4 176	土師質土 器 塊	覆土内 %残存	口 13.0 底 7.7 高 6.4	黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系か
257-5 176	須恵器 塊	覆土内 %残存	口 14.2 底 6.7 高 5.1	黒色粒子 デイサイト	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
257-6 176	須恵器 塊	床直層 破片	口 — 底 (7.1) 高 —	微粒状雲母	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
257-7 176	須恵器 甕	覆土内 破片	口 22.7 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。内面自然釉附着。	乗附系
258-1 176	羽 釜	覆土内 破片	口 (24.2) 底 — 高 —	黒色粒子 白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。258-2と同一個体の可能性有。	吉井系
258-2 176	羽 釜	床直層 破片	口 25.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。258-1と同一個体の可能性有。	吉井系
258-3 176	石製品 砥石	破片	厚 4.9 重 491.7	砥沢石	—	—	石材は軟質で全体に磨滅する。砥面は二面あり、いずれも置砥として使っている。	
258-4 176	礫器 不詳	掘り方内 ほぼ完存	幅 5.9 厚 5.0 重 587.8	砂岩	—	—	上面を磨滅し、両面に敲打痕が認められる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
259-1 176	碟 器 不詳	覆土内 1/2残存	厚 3.8 重 1196.6	雲母石英片岩	—	—	上面を磨滅する。	
259-2 176	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒雲母	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
259-3 177	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
259-4 176 瓦-212	瓦 男 瓦	床直層 細片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。窠描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り3回。	笠懸系
259-5 176	瓦 女 瓦	床直層 細片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	乗附系
259-6 176	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙 黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回。	乗附系

C区第147号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
260-1 177	土師質土 器 環	覆土内 破片	口 — 底 (6.6) 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面有機質附着。	秋間系
260-2 177	羽 釜	覆土内 破片	口 24.0 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井・藤岡系
260-3 177	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回、端部面取り2回。	吉井系
260-4 177	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り1回。	笠懸系
260-5 177	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子 黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回。	秋間系
260-6 177	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	笠懸系

C区第113号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
261-1 177	土師質土 器 壺	掘り方内 ほぼ完形	口 12.6 底 5.7 高 4.9	白色鉍物粒子 デイサイト 白色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面に焼りが認められる。	吉井・藤岡系
261-2 177	土師質土 器 壺	床直層 1/2残存	口 (16.3) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内面焼りが認められる。	乗附系
261-3 177	土師質土 器 壺	掘り方内 破片	口 (16.4) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。261-1と同一個体か。	藤岡系か 乗附系
262-1 177	土師質土 器 壺	掘り方内 破片	口 (16.5) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。261-3と同一個体か。298-2と接合。	藤岡系か 乗附系
262-2 177	施釉陶器 灰 釉 碗	覆土内 1/2残存	口 (12.9) 底 (7.5) 高 3.9	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
262-3 177	施釉陶器 灰 釉 碗	掘り方内 1/2残存	口 13.0 底 7.6 高 3.6	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
262-4 177	施釉陶器 緑 釉 碗	掘り方・ 覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 —	密	良好	オリープ灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	

## C区(147・113・114号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
262-5 177	須恵器 瓶	覆土内 破片	頸 13.6	微粒状雲母 黒色鉍物粒子	還元焰	黒灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部直下は篋削り。	藤岡系か 乗附系
262-6 177	須恵器 瓶	覆土内 破片	口底高 — 11.1 —	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形(右回転)。	乗附系
262-7 177	須恵器 羽釜か	覆土内 破片	口底高 — (17.0) —	白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半・底部は篋削り。	吉井系
262-8 177	須恵器 大甕	掘り方内 破片	口底高 — (15.0) —	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部は平行叩き。下半内外面は使用に伴う磨滅。	乗附系
262-9 177	礫器 不詳	掘り方内 完存	長幅重 5.2 3.1 37.9	流紋岩	—	—	平坦面磨滅する。	
262-10 177	鉄器 飾り金具か	覆土内 完形	重 (6.6)	—	—	—	一辺2.2cmの正方形を呈し、縁辺に沿い稜を施している。	
262-11 177	石製品 不詳	掘り方内 破片	幅厚重 14.6 3.3 1439.3	粗粒安山岩	—	—	裁断されている。平坦面が磨滅している。	
263-1 178	須恵器 土師質 壺	床直層 残存	口底高 (18.6) (16.4) 31.0	白色粒子 白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
263-2 177	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で・轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	乗附系
263-3 178	瓦 女瓦	掘り方内 ・覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縄叩き後縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り2回。	笠懸系
263-4 178	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.1	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	藤岡系
263-5 178	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.1	白色微粒子 ローム	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回。	笠懸系
264-1 178	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。	吉井系

## C区第114号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
266-1 178	土師質土 器 壺	床直層 完形	口底高 13.8 7.7 6.2	黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	二次焼成	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
266-2 178	土師質土 器 壺	カマド右 袖 完形	口底高 (14.7) 8.8 7.1	黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	二次焼成	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
266-3 178	土師質土 器 壺	覆土内 破片	口底高 (14.8) — —	黒色粒子 赤色粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	二次焼成	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系か
266-4 178	土師質土 器 壺	床直層 完形	口底高 (15.1) — —	雲母 黒色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	二次焼成	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系か
266-5 178	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 1.0	シルト質 細砂粒 白色粒子	還元焰	白灰	6本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
266-6 178	石製品 基石か	床直層 完存	長幅重 2.0 2.0 6.9	石英	—	—	石材の色が白い為基石と思われる。	
266-7 178	施釉陶器 灰釉 輪花文段皿	掘り方・ 覆土内 破片	口底高 — 6.7 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	266-8と 同一個体

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
266-8 178	施釉陶器 灰釉 輪花文段皿	床直層 破片	口 13.9 底 (6.2) 高 3.5	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	266-7と 同一個体
266-9 178	施釉陶器 小瓶	床直層 ほぼ完形	口 — 底 6.3 高 —	密	良好	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。施釉は浸掛。	
266-10 178	土師質土 器 瓶	床直層 破片	最大径 25.4 底 13.0	白色粒子	酸化焰	二次焼成	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	吉井系
266-11 178	瓦 男瓦	カマド右袖 破片	厚 2.3	シルト質 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き後篋撫で整形。側面取り2回。	乗附系
266-12 179	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 微粒状雲母 白色微粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。	吉井・藤岡系
266-13 178	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕・縄叩き(密)。側面取り2回。	笠懸系
267-1 179	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 1.7	黒雲母 白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。	吉井系

C区第115号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
268-1 179	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 3.3	黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	黄橙	型作り後篋撫で整形。口縁・内面横撫で。口縁直下・底部に型膚を残す。	藤岡系
268-2 179	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (9.3) 底 (5.1) 高 4.1	白色微粒子 赤色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。外面燻りが認められる。	秋間系
268-3 179	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.8) 底 (8.0) 高 3.0	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。外面自然釉附着。	秋間系
268-4 179	須恵器 坏	カマド右袖 1/2残存	口 12.4 底 5.8 高 3.9	白色粒子 雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
268-5 179	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.8) 底 (5.6) 高 3.5	白色粒子 黒色粒子 雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
269-1 179	須恵器 坏	床直層 1/2残存	口 13.7 底 6.2 高 3.9	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か
269-2 179	須恵器 塊	床直層 ほぼ完形	口 14.0 底 7.2 高 5.3	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
269-3 179	須恵器 か	掘り方内 破片	口 14.0 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子 雲母	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系か 藤岡系
269-4 179	須恵器 か	覆土内 破片	口 (14.2) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系か
269-5 179	土師器 甕	掘り方内 破片	口 (17.0) 底 — 高 —	黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
269-6 179	土師器 甕	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
269-7 179	土師器 甕	床直層 1/2残存	口 (20.1) 底 — 高 —	黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は篋撫で、口縁部・器内面は横撫で。肩部は横位の篋削り。胴部は斜位の篋撫で。	藤岡系



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
269-8 179	須恵器 高台付盤	掘り方内 破片	—	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	白灰	轆轤整形(右回転)。瓶の可能性もある。	秋間系
270-1 179	須恵器 横瓶か	カマド内 破片	最大径 27.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形。内面宛具は素文。外面は轆轤再整形。272-6と同一個体か。	乗附系
270-2 179	須恵器 瓶	掘り方内 破片	最大径 17.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
270-3 179	礫器 不詳	掘り方・ 覆土内 完存	長 8.8 幅 5.7 重 190.8	粗粒安山岩	—	—	上面磨滅する。	
270-4 179	鉄器 刀子	カマド内 破片	重 (1.8)	—	—	—	鋒及び茎方向を欠損する。	
270-5 179	鉄器 刀子	掘り方内 破片	重 (13.9)	—	—	—	刀身は研ぎ減りが非常に著しく、研ぎ減っている。茎は身幅が変わらず先端部を欠損するが270-6は欠損の茎と考えられる。	
270-6 179	鉄器 不詳	カマド内 破片	重 (5.4)	—	—	—	両端を欠損する。270-5の茎の可能性もある。	
270-7 179	鉄器 釘	掘り方内 破片	重 (25.6)	—	—	—	先端を欠損する。断面正方形を呈する。全体に歪んでいる。	
270-8 179	石器 鏃	覆土内 完存	身幅 3.4 重ね 0.8 重 1.2	黒曜石	—	—	鋒の先端を欠損する。無茎平根三角形腸状。	
270-9 179 瓦-217	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。刻印記号瓦同心円状(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井・藤岡系
270-10 179	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
270-11 180	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
270-12 180	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り1回。	吉井・藤岡系

## C区第116号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
271-1 180	土師質土 器 壺	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (5.2) 高 4.3	微粒状雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面底部に燻りが認められる。	乗附系か 藤岡系
271-2 180	須恵器 坏	床直層 完形	口 12.2 底 5.1 高 3.7	黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面に燻りが認められる。	吉井・藤岡系
271-3 180	土師質土 器 坏	カマド左 袖 ほぼ完形	口 13.0 底 5.9 高 4.0	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面に燻りが認められる。	乗附系か 藤岡系
271-4 180	土師質土 器 壺	カマド左 袖 残存	口 15.5 底 7.6 高 5.7	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙 白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面に燻りが認められる。	乗附系か 藤岡系
272-1 180	土師質土 器 壺	床直層 破片	口 — 底 8.3 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
272-2 180	須恵器 小瓶	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面に絞り痕が認められる。	秋間系
272-3 180	須恵器 小瓶	覆土内 破片	最大径7.3	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。自然釉附着。	秋間系
272-4 180	須恵器 甕	床直層 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
272-5 180	須恵器 甕	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	秋間系
272-6 180	須恵器 瓶	床直層 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面宛具は素文。外面は轆轤再整形。横瓶の可能性有。270-1と同一個体か。	乗附系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
272-7 180	施釉陶器 灰釉碗	床直層 残存	口 (16.8) 底 (7.8) 高 6.3	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。外面底部に墨書「衣」有。	
272-8 180	石製品 砥石	床直層 破片	幅 1.9 厚 1.9 重 20.0	砥沢石(流紋岩)	—	—	面が粗れている。非常に小型の物である。上面が磨滅する。	
272-9 180	石製品 碁石	床直層 完存	長 1.9 幅 1.7 重 2.6	珪質変質岩	—	—	比較的扁平である。	
272-10 180	礫器 不詳	床直層 残存	幅 5.5 厚 5.9 重 770.1	砂岩	—	—	上面が磨滅する。尖端欠損する。	
272-11 180 瓦-412	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。男瓦部は半截作り。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系
272-12 181 瓦-220	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。	吉井系
273-1 180 瓦-567	瓦 宇瓦	床直層 破片	厚 3.5	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。外区に圈線を廻らす。428-7(瓦-487)と接合	吉井系 瓦-483
273-2 180 瓦-218	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「神」(凹面)。	乗附系
273-3 181 瓦-219	瓦 女瓦	床直層 残存	厚 2.9	白色粒子 白色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。篋描き文字瓦「九」(凸面)。端部面取り2回。	吉井系
273-4 181	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色粒子 白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	半截作り。凹面布合せ目痕。凸面不定方向の撫で整形。	笠懸系
273-5 181	瓦 男瓦	床直層 残存	幅 11.3 厚 2.0	白色粒子		明橙	半截作り。凸面正格子叩き。側部面取り2回、端部面取り3回。	乗附系
273-6 181	瓦 男瓦	カマド・掘り方内 破片	幅 15.4 厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰褐	半截作り。凸面轆轤撫で。側部面取り2回。	笠懸系
274-1 181	瓦 女瓦	カマド右袖 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目撫で消し、縦位の撫で整形。凸面縄叩き後板目叩き。側部面取り2回。	笠懸系
274-2 181	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き。	笠懸系
274-3 181	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面T字縄叩き。側部面取り2回。	秋間系
274-4 181	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面板目叩き。側部面取り1回、端部面取り2回。	笠懸系
274-5 181	瓦 女瓦	カマド 破片	厚 2.6	白色粒子 白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面指撫で有。凸面正格子叩き後撫で整形。	乗附系

C区第107・119号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
275-1 181	土師質土器 坏	床直層 残存	口 (9.8) 底 5.0 高 3.1	黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系か
275-2 181	須恵器 坏	覆土内 残存	口 (13.1) 底 (7.8) 高 3.1	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
275-3 181	土師質土器 碗	床直層 残存	口 (15.0) 底 7.8 高 4.8	黒色鉍物粒子 白色粒子 細礫	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
275-4 181	土師質土器 足高高台付 埴 脚部	床直層 残存	口 — 底 13.5 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
275-5 182	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤撫で、縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
275-6 181	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面木目叩き後撫で整形。端部面取り2回。	吉井系
275-7 182	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面T字縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。276-1と同一個体か。	秋間系
276-1	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.4	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)・離砂痕有。側部面取り2回、端部面取り2回。275-7と同一個体か。	秋間系

## C区第124号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
278-1 182	須恵器 埴	掘り方内 破片	口 — 底 (6.8) 高 —	白色粒子 白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
278-2 182	須恵器 甕	カマド・ 覆土内 破片	口 (20.5) 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	黒灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。内面自然釉附着。	秋間系
278-3 182	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 1.7	—	—	—	断面正方形状を呈する。全体に細身である。	
278-4 182	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面縦位の篋撫で整形。側部面取り左2回右3回。端部面取り1回。	秋間系
278-5 182	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の篋撫で整形。側部面取り4回、端部面取り2回。	吉井系
278-6 182	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
278-7 182	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)、後撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
278-8 182 瓦-221	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「宇兼者」か(凸面)。凸面縦位の手撫で整形。自然釉附着。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系

## C区第134号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
280-1 182	土師質土器 皿	床直層 ほぼ完形	口 9.5 底 4.6 高 2.8	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か 藤岡系
280-2 182	内黒土器 埴	床直層 破片	口 — 底 7.1 高 —	微粒状雲母 透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。内面燻し処理・暗文を施す。	吉井・藤岡系
280-3 182	羽釜	掘り方内 破片	口 22.8 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
280-4 182	羽釜	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 微粒状雲母 礫	中性焰	褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。全体に器肉が非常に薄い。	吉井系
280-5 182	土師器 土釜	覆土内 破片	口 25.7 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は縦位の篋撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
280-6 182	石 造 品 凹 石	覆土内 完存	幅 17.0 高 9.7 重 2225.0	粗粒安山岩	—	—	中央部に凹みを有する。敲打によりあけられている。裏側も敲打の痕跡有。	
281-1 183	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り1回。	吉井系
281-2 183 瓦-223	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦判読不能(凸面)。	笠懸系
281-3 183	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。端部面取り2回。	吉井系
281-4 183	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.2	微粒状雲母	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕・布合わせ目痕有。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。粘土板接合痕はS。	笠懸系
281-5 183	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系

## C区第135号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
282-1 183	土 師 器 坏	床直層 完形	口 11.0 底 — 高 3.5	黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で。内面体部・底部は撫で整形。口縁に甘い型膚を残す。	藤岡系
282-2 183	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 12.0 底 (8.0) 高 2.9	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転系切り。	秋間系
282-3 183	内黒土器 塊	床直層 破片	口 14.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙 黒灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損。内面燻し処理・暗文を施す。	太田系か
282-4 183	土師質土 器 塊 か	床直層 破片	口 15.0 底 — 高 —	金雲母 白色微粒子 ローム	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
282-5 183	施釉陶器 灰 釉 碗	覆土内 破片	口 10.4 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は浸掛け。	
282-6 183	施釉陶器 緑 釉 輪花文碗	覆土内 破片	—	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。内面印刻花文を残す。	
282-7 183	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 19.9 底 4.1 高 27.6	白色粒子 黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
282-8 183	鉄 器 刀 子	床直層 一部欠損	重 (54.5)	—	—	—	関が著しく、茎が細い。鋒に焼き入れ痕が認められる。研ぎ減りがやや顕著。	
282-9 183 瓦-484	瓦 宇 瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は右扁行唐草文。女瓦部は一枚作り。	吉井系
283-1 183	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	紐作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
283-2 183	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(単)。側部面取り2回。	笠懸系
283-3 183	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で整形。端部面取り2回。	吉井系
283-4 183	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回、端部面取り2回。	秋間系

## C区第138号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
284-1 184	土師質土 器 坏	掘り方・ 覆土内 破片	口 (9.4) 底 (5.2) 高 3.3	白色粒子 黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
284-2 184	須恵器 坏	カマド・ 覆土内 破片	口 10.0 底 4.4 高 2.8	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
284-3 184	須恵器 坏	掘り方・ 覆土内 破片	口 (10.5) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 砂粒	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。	乗附系か 藤岡系
284-4 184	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.7) 底 (5.6) 高 3.2	白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
284-5 184	須恵器 境	掘り方・ 覆土内 破片	口 (11.4) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
284-6 184	須恵器 境	カマド・ 覆土内 完形	口 11.4 底 5.8 高 4.4	黒色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内面燻し処理・ 暗文を施す。	藤岡系
285-1 184	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
285-2 184	鉄器 小刀	掘り方・ 覆土内 一部欠損	重 (28.9)	—	—	—	鋒のふくらは丸味を帯び鋒側は全体にうつむ いている。焼き入れによると考えられる。背 面には別個体が附着している。	平造り
285-3 184	鉄器 刀子	カマド・ 掘り方内 破片	重 (7.8)	—	—	—	鋒側及び茎側を欠損する。	
285-4 184	礫器 不詳	床直層 ほぼ完存	幅 3.8 厚 3.5 重 93.3	砥沢石(流紋 岩)	—	—	先端に敲打痕が認められる。	
285-5 184 瓦-224	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面縦位の撫で整形。	吉井系
285-6 184	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.8	ローム 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	笠懸系
285-7 184	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子	酸化焰	橙褐	半截作り。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
285-8 184	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 3.0	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系

## C区第142号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
286-1 184	土師質土 器 坏	覆土内 %残存	口 19.4 底 7.0 高 3.7	黒色粒子 赤褐色粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面 煤附着。外面燻りが認められる。	乗附系か
286-2 184	土師質土 器 境	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 —	黒色粒子 黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
286-3 184	土師質土 器 境	カマド右 袖 %残存	口 (15.9) 底 (9.7) 高 7.0	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻りが 認められる。	藤岡系
287-1 184	土師質土 器 境	カマド内 破片	口 18.1 底 — 高 —	赤褐色粒子	中性焰	浅黄	轆轤成形(右回転)。	秋間系
287-2 184	土師器 甕	カマド左 袖 破片	口 20.2 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
287-3 184	土師器 甕	カマド・ 掘り方内 破片	口 (21.3) 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
287-4 184	須恵器 不詳 脚部	カマド内 破片	口 — 底 30.8 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り平行叩き。	
287-5 184	施釉陶器 灰釉瓶	カマド内 破片	口 — 底 (9.0) 高 —	密	良好	黄灰	轆轤成形（右回転）。付高台。胴部・底部は回転篋削り。施釉は浸掛。	
287-6 184	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (5.1)	—	—	—	断面正方形状を呈する。緩やかにカーブするが環状製品とは思われない。	
287-7 184	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (46.5)	—	—	—	頭部は大きく、全体に太く長い。鋒を欠損する。	
287-8 184	礫器 不詳	床直層 ほぼ完存	幅 3.0 厚 2.8 重 150.0	変質玄武岩	—	—	両端部に敲打痕が認められる。	
288-1 184 瓦-413	瓦 鏡瓦	床直層 残存	厚 1.8~3.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は、復弁4葉蓮華文。中房は環状中房。	吉井・藤岡系
288-2 184 瓦-485	瓦 宇瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。額部を欠損する。女瓦部は一枚作り。	笠懸系
288-3 185 瓦-225	瓦 男瓦	カマド内 ほぼ完形	長 38.4 幅 16.6 厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰白	半截作り。凹面・凸面布合せ目痕。側部面取り1回。	笠懸系
288-4 184	瓦 男瓦	カマド右袖 残存	厚 1.9	白色鉍物粒子 シルト粒 雲母	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凹面模骨痕か。凸面縦位の撫で、轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
288-5 184	瓦 男瓦	カマド右袖 残存	厚 2.4	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	笠懸系
289-1 185	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布合せ目痕。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
289-2 185 瓦-226	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
289-3 185	瓦 女瓦	カマド左袖 残存	厚 2.1	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
289-4 185	瓦 女瓦	カマド右袖 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
289-5 185	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子 白色粒子 微粒状雲母	還元焰	白灰	紐作り。凹面横位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系
289-6 185	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面撫で整形。端部面取り1回。	秋間系

C区第143号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
290-1 185	須恵器 足付長頸壺 脚部	掘り方内 破片	口 — 底 (13.2) 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	藤岡系か 乗附系
290-2 185	須恵器 甕	掘り方内 破片	口 21.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形（右回転）。内・外面自然釉附着。口縁部に暗文状の縦位の筋が認められる。	秋間系
290-3 185	須恵器 甕	掘り方内 破片	口 19.4 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。口縁部は轆轤整形。肩部以下を欠損する。	秋間系

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
290-4 185	礫 不 詳	掘り方内 一部欠損	幅 3.8 厚 6.9 重 626.2	蛇紋岩	—	—	上面は磨滅する。	
290-5 185	礫 不 詳	掘り方内 完存	長 14.3 幅 5.8 重 622.1	溶結凝灰岩	—	—	上面は磨滅する。	
290-6 185	礫 不 詳	掘り方内 完存	長 11.2 幅 7.0 重 379.9	変質安山岩	—	—	上面は磨滅する。	

## C区第144号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
292-1 186	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 12.4 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
292-2 186	土 師 器 坏	床直層 破片	口 (12.5) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄褐	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
292-3 186	土 師 器 坏	床直層 破片	口 (12.5) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
292-4 186	土 師 器 坏	床直層 破片	口 (14.1) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄褐	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
292-5 186	土 師 器 坏	床直層 完形	口 16.8 底 — 高 4.2	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
292-6 186	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (18.0) 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
292-7 186	土 師 器 甕	床直層 破片	口 21.2 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
292-8 186	土 師 器 甕	床直層 破片	口 (21.2) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
292-9 186	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (23.7) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
292-10 186	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 —	細砂粒 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
292-11 186	礫 不 詳	覆土内 %残存	幅 15.0 厚 5.0 重 1762.7	石英閃緑岩	—	—	上面磨滅。小口側を欠損する。	
292-12 186	土 師 器 高台付坏 脚 部	床直層 破片	口 — 底 10.4 高 —	黒色鉱物粒子 黒色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙褐	紐作り後轆轤整形。底部は篋削り。	藤岡系
292-13 186	土師質土 器 塊	床直層 %残存	口 19.6 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 黒色粒子 ダイヤサイト	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系

## C区第145号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
291-1 186	須 恵 器 塊	覆土内 破片	口 (14.6) 底 (5.6) 高 4.4	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻りが認められる。	藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
293-1 186	土師質土 器 塊	覆土内 破片	口 底 高 — — —	— (7.1)	黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
293-2 186	土師器 甕	覆土内 破片	口 底 高 — — —	(19.0)	白色粒子 黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
293-3 186	羽 釜	覆土内 破片	口 底 高 — — —	24.0	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	褐 淡褐	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形(右回転)。鈔は貼り付け。吉井型羽釜。	藤岡系か 吉井系
293-4 186	施釉陶器 灰釉壺	カマド右 袖 瓦残存	口 底 高 — — —	— 12.5	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。胴部は回転篋削り。内面有機質附着。施釉は刷毛塗。	
293-5 186	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 — — —	3.4	白色鉍物粒子 ローム	酸化焰	淡褐	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で、轆轤横撫で整形。	吉井系
293-6 186	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 — — —	2.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凹面縦位の篋削り。凸面轆轤横撫で整形。側面取り2回。端面取り3回。	乗附系
293-7 186	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 — — —	3.7	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し、縦位の手撫で整形。凸面縦位の手撫で。	吉井系

C区第146号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
294-1 186	土師器 坏	床直層 完形	口 底 高 — — —	12.7 — 3.4	黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁は内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁部に型膚を残し、有機質附着。	
294-2 186	土師器 坏	床直層 瓦残存	口 底 高 — — —	12.1 — 3.2	白色粒子 透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁は内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁部に型膚を残す。	
294-3 186	須恵器 塊	床直層 瓦残存	口 底 高 — — —	(14.3)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
294-4 186	土師器 甕	床直層 破片	口 底 高 — — —	(20.1)	白色鉍物粒子 白色粒子 赤色粒子	還元焰	白灰	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
294-5 186	鉄器 刀子	カマド内 一部欠損	重 — — —	(14.8)	—	—	—	茎欠損する。研ぎ減りが著しく尖端棟側に焼き入れの部分が認められる。	
294-6 187	瓦 女瓦	カマド右袖 破片	厚 — — —	1.9	白色鉍物粒子 雲母 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・布目撫で消し。凸面縄叩き(密)後撫で整形。粘土板接合痕は乙。	乗附系
294-7 187	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 — — —	2.8	白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回、端面取り3回。	吉井系
295-7 187 瓦-227	瓦 女瓦	カマド右袖 破片	厚 — — —	2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「与阿」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り3回。	吉井系
295-2 187	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 — — —	3.0	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。端面取り2回。	吉井系
295-3 187	瓦 女瓦	カマド右袖 破片	厚 — — —	1.7	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。自然釉附着。側面取り2回、端面取り1回。	吉井・藤岡系

C区第148号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
296-1 187	須恵器 坏	覆土内 破片	口 底 高 — — —	14.0	微粒砂 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
297-1 187	須恵器 大甕	床直層 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)後轆轤再整形。	秋間系
297-2 187	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面平行叩き、横位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	乗附系
297-3 187	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色鉱物粒子 黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
297-4 187	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.5	黒色粒子 白色鉱物粒子 雲母	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕か。凸面縄叩き後撫で、縦位・横位・不定方向の撫で後轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
297-5 187 瓦-228	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.1	白色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。刻印文字瓦「佐」(凸面)。凸面撫で後正格子叩き。	吉井系
297-6 187	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕。側部面取り2回。	乗附系

## C区第150号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
298-1 187	土師質土 器 埴	床直層 片残存	口 11.6 底 6.1 高 4.5	黒色鉱物粒子 黒色粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
298-2 187	土師質土 器 埴	ピット内 破片	口 (16.2) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。262-1と接合	藤岡系か 乗附系
298-3 187	施釉陶器 緑釉 劃花文碗	覆土内 破片	—	軟質	良好	オリブ灰	轆轤成形(右回転)。外面に三角形に凸帯がある。内面劃花文を残す。	
298-4 187	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕、自然釉附着。側部面取り2回。	吉井系
298-5 188	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面横位の撫で整形。側部面取り3回。	乗附系
299-1 187 瓦-229	瓦 女瓦	掘り方内 片残存	厚 2.6	白色鉱物粒子 白色粒子 軽石	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。端部面取り3回。	吉井系
299-2 188	瓦 女瓦	土坑内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子 雲母	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系

## C区第151号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
300-1 188	須恵器 埴	掘り方内 破片	口 — 底 (7.2) 高 —	白色微粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
300-2 188	羽釜	掘り方・ 覆土内 破片	口 (21.2) 底 — 高 —	黒色粒子 白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
300-3 188	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面板目叩き後縄叩き。	笠懸系

## C区第152号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
301-1 188	土師器 坏	覆土内 破片	口 12.8 底 (3.3) 高 —	黒色鉱物粒子 黒色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
301-2 188	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 (13.8) 底 (5.9) 高 3.7	黒色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰 (二次焼)	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
302-1 188	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.3) 底 — 高 —	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は手持ち篋削り。	乗附系
302-2 188	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (14.1) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	乗附系
302-3 188	土師質土 器 塊	覆土内 破片	口 (16.1) 底 — 高 —	透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損。	乗附系
302-4 188	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (16.1) 底 (10.6) 高 5.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系
302-5 188	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (9.8) 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
302-6 188	須恵器 大 甕	覆土内 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。内面磨滅する。	乗附系
302-7 188	施釉陶器 灰 釉 長 頸 壺	覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 —	密	良好	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	
302-8 188	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 3.5	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布目撫で消し。粘土板接合痕はS。側部面取り2回。	吉井系
302-9 188	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
302-10 188	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色微粒子 雲母 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。端部面取り3回。	藤岡系
302-11 188	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子 雲母	酸化焰	橙	一枚作り。凹面一部分撫で消し。凸面縄叩き (密)後撫で整形。	吉井系

C区第153号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
303-1 188	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 (10.2) 底 (5.0) 高 3.1	白色鉍物粒子 赤色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か 乗附系
303-2 188	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
303-3 188	土師質土 器 坏	床直層 破片	口 (11.7) 底 4.6 高 3.1	白色粒子 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
303-4 189	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 4.0 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
303-5 189	施釉陶器 灰 釉 塊	覆土内 破片	口 — 底 (7.8) 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
303-6 189	土師質土 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 7.1 高 —	赤色粒子 透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	藤岡系
303-7 189	羽 釜	覆土内 破片	口 (25.1) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	橙褐	口縁部は内傾し直立する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鐙は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
303-8 189	羽釜	覆土内 破片	口— 底(6.2) 高—	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半・底部は篋削り。	藤岡系
303-9 189	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面やや磨滅している。	乗附系
303-10 189	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系
303-11 189	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)後轆轤再整形。内面磨滅している。ハゼ有り。	秋間系
303-12 189	礫器 不詳	床直層 ほぼ完存	長10.4 幅3.6 重200.0	変質玄武岩	—	—	上面が磨滅している。	
303-13 189	鉄器 鑿	覆土内 一部欠損	重(19.0)	—	—	—	茎を欠損している。鍛えは比較的良好か。	
303-14 189 瓦-230	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
303-15 189	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
304-1 189	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.5	白色鉱物粒子 微粒状雲母	中性焰	灰黄	半截作り。側部面取り1回、端部面取り1回。	藤岡系
304-2 189	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.0	微粒状雲母	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り3回。	秋間系
304-3 189	瓦 女瓦	床直層 破片	厚2.5	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凸面板目叩き後縄叩き(密)。	笠懸系
304-4 189	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚2.2	夾少量	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り1回、際は撫で。	秋間系
304-5 189	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	一枚作りか。凸面平行叩き。	乗附系か 笠懸系
304-6 189	瓦 女瓦	床直層 破片	厚1.3	白色鉱物粒子 デイスait	酸化焰	橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
304-7 189	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.8	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
304-8 189	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.6	白色微粒子 デイスait	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系

## C区第154号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
305-1 189	須恵器 坏	カマド内 破片	口— 底(8.0) 高—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系

## B区第1号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
306-1 190	土師器 坏	掘り方内 完形	口11.7 底— 高3.1	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁は内外面は横撫で、底部は篋削り。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
306-2 190	土師器 坏	掘り方・ 覆土内 破片	口12.7 底— 高3.7	白色微粒子 黒色鉱物粒子 白色小礫	酸化焰	橙	型作り成形。底部に離砂痕。体部篋削り。口縁直下に甘い型膚を残す。	太田系か
306-3 190	土師器 坏	掘り方内 破片	口13.2 底— 高4.6	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部篋削り。口縁部より内部は横撫で。口縁直下に甘い型膚を残す。	太田系か
309-1 190	須恵器 坏	掘り方内 完形	口12.8 底7.0 高3.4	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。内・外面有機質附着。内面鉄サビ附着。	秋間系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
309-2 190	黒色土器 坏	掘り方内 完形	口 13.2 底 5.7 高 3.9	微粒状雲母 雲母	還元焰	黒灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
309-3 190	須 恵 器 坏	掘り方内 %残存	口 13.3 底 6.5 高 3.9	微粒状雲母 黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
309-4 190	須 恵 器 坏	掘り方内 完形	口 13.4 底 7.7 高 3.8	黒色鉍物粒子 雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	秋間系
309-5 190	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 13.5 底 6.0 高 4.0	シルト質	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
309-6 190	須 恵 器 埴	掘り方 覆土内 %残存	口 13.7 底 6.7 高 5.5	微粒状雲母 黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。	乗附系か
309-7 190	須 恵 器 埴	掘り方内 %残存	口 13.8 底 6.4 高 5.0	白色微粒子 白色鉍物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。	秋間系
309-8 190	土師質土 器 埴	カマド・ 掘り方内 %残存	口 14.0 底 7.4 高 5.7	白色微粒子 微粒状雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。付高台。	藤岡系
309-9 190	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 14.2 底 6.2 高 5.0	デイスait 白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	白灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	吉井・藤 岡系
309-10 190	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 14.2 底 6.2 高 5.9	白色微粒子 微礫	還元焰	白灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	吉井・藤 岡系
309-11 190	須 恵 器 埴	カマド内 %残存	口 14.2 底 8.2 高 4.9	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	秋間系
309-12 190	須 恵 器 埴	掘り方内 完形	口 14.6 底 8.0 高 5.6	黒色粒子 微粒状雲母 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。高台欠損（付高台）。内・ 外面有機質附着。	秋間系
309-13 190	須 恵 器 坏 か	覆土内 %残存	口 14.8 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形（右回転）。高台欠損（付高台）。内・ 外面有機質附着。	秋間系
309-14 190	黒色土器 坏	覆土内 破片	口 — 底 5.4 高 —	黒色鉍物粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
309-15 190	須 恵 器 蓋	掘り方・ 覆土内 破片	口 17.0 摘 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形（右回転）。 上半部は回転篋削り。	秋間系
309-16 190	須 恵 器 蓋	掘り方・ 覆土内 破片	口 17.0 摘 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形（右回転）。 上半部は回転篋削り。	秋間系
310-1 190	土 師 器 小 型 甕	カマド・ 掘り方内 破片	口 12.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	暗橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部下半は 縦位の篋削り、口縁部・器内面は横撫で、肩 部は横位の篋削り。	藤岡系
310-2 190	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 18.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子 シルト質	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部下半は 縦位の篋削り、口縁部・器内面は横撫で、肩 部は横位の篋削り。	藤岡系
310-3 190	土 師 器 甕	床直層 破片	口 19.5 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削 り、口縁部・器内面は横撫で。	藤岡系
310-4 190	土 師 器 甕	カマド内 破片	口 — 底 (5.0) 高 —	黒色鉍物粒子 微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。底部は縦位の篋削り。	藤岡系
310-5 190	土 師 器 台付小型甕	掘り方内 破片	—	微粒状雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。底部は縦位の篋撫で。	藤岡系

## B区(1号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
310-6 190	須恵器 甕	カマド・ 覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は不詳)。破片化後、鉄分(スラグ)が溶着している。	秋間系
310-7 190	施釉陶器 灰釉小碗	覆土内 破片	口 10.5 底 5.4 高 3.8	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
310-8 190	鉄器 刀子	掘り方内 一部欠損	重 (35.2)	—	—	—	鋒は調査後の欠損。研ぎ減りが著しい。	
310-9 190	鉄器 大刀子	掘り方内 残存	重 (60.3)	—	—	—	顕著な研ぎ減りが認められない。調査以前の欠損。再鍛造用の素材か。	
310-10 190	鉄器 茎か	掘り方内 破片	重 (1.9)	—	—	—	310-9と同一個体か。	
310-11 190	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 (1.3)	—	—	—	片面が剝落している。詳細は不詳。	
310-12 190	鉄器 茎か	カマド 掘り方内 破片	重 (3.7)	—	—	—	310-9の茎か。	
310-13 190	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 (8.7)	—	—	—	錆割れがあり、実際の断面より太い。	
310-14 190	鉄器 不詳	カマド 掘り方内 破片	重 (6.6)	—	—	—	断面正方形を呈する。両端が曲がっている。	
310-15 190	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 (3.0)	—	—	—	断面正方形を呈する。先端が曲がっているが、環状の製品とは考えられない。	
310-16 190	鉄器 スラグ	掘り方内 —	重 (22.9)	—	—	—	—	
310-17 190	鋳型 印面鋳型 銅印型	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	銅印の鋳型。文字数及び文字は不分明。	
310-18 190	鋳型 印面鋳型 銅印型	覆土内 細片	—	—	—	—	銅印の鋳型。文字数及び文字は不分明。	
310-19 190	鋳型 印面鋳型 銅印型	覆土内 破片	—	—	—	—	銅印の鋳型。鈕の鋳型	
310-20 190	羽口	覆土内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。環元部が割合高い位置迄認められる。	
310-21 190	羽口	覆土内 破片	厚 1.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。環元部と酸化部が虚脱し、やや環元部が少ない。	
310-22 190	羽口	覆土内 破片	厚 2.7	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。環元部が少ない。中性部が目立つ。	
310-23 190	羽口	覆土内 破片	厚 2.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。環元部が少ない。	
310-24 191	羽口	覆土内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。酸化部は内側にしか認められない。	
311-1 191	石製品 砥石	覆土内 残存	重 3450.0	粗粒安山岩	—	—	石の目は粗いが、ほぼ全面に使用が認められる。側面には、皿状に擦り減った使用痕が認められる。	
312-1 191	羽口	覆土内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが多量に融着し、ケイ酸分が付着する。環元部分が認められる。	
312-2 191	石製品 羽口	覆土内 先端残存	幅 9.9 孔径 2.9 厚 3.3 重 877.5	二ツ岳軽石	—	—	粗い面取りをしただけで成形している。先端にスラグが融着する。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
312-3 191	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作りか。凸面縦位の手撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系
312-4 191	瓦 玉縁付男瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縄叩き後轆轤横撫で整形。側部面取り3回。玉縁接合はA類。	吉井系
312-5 191	瓦 男瓦	カマド左袖 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の手撫で。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
313-1 191 瓦-355	瓦 男瓦	カマド左袖 1/3残存	長 39.2 厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦「手」(凸面)。凸面縦位の手撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
313-2 191	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩き。端部面取り1回。	乗附系
313-3 191	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面縦位の手撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
313-4 193 瓦-354	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。篋描き文字瓦「代」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回、端部面取り1回。	乗附系
313-5 191	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)。側部面取り5回。	秋間系
313-6 191	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。側部面取り2回。	乗附系
314-1 192	瓦 男瓦	掘り方・ 覆土内 1/3残存	狭幅 11.2 16.0 厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。側部面取り3回、端部面取り1回。	笠懸系
314-2 193	瓦 男瓦	掘り方内 1/3残存	広 22.6 厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面平行叩き、縦位の手撫で整形。側部面取り左4回・右3回、端部面取り2回。	吉井系
315-1 192 瓦-348	瓦 男瓦	掘り方内 完形	長 38.8 幅 16.0 広 18.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦「十」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系 2.9kg
315-2 192 瓦-350	瓦 男瓦	カマド左袖 完形	長 37.0 狭 13.0 広 22.6	白色鉍物粒子 黒色粒子	中性焰	黄灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布目撫で消し。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系 3.1kg
316-1 192 瓦-349	瓦 男瓦	カマド右袖 完形	長 38.0 狭 12.0 広 19.0	白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	半截作り。篋描き文字瓦「人」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系 2.9kg
316-2 191	瓦 男瓦	カマド左袖 完形	長 38.9 狭 13.0 広 18.6	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の手撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系 3.1kg
317-1 192 瓦-351	瓦 男瓦	カマド左袖 完形	長 36.4 狭 11.2 広 17.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の手撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系 2.0kg
317-2 193	瓦 男瓦	カマド左袖 完形	長 40.0 狭 12.6 広 31.2	白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で轆轤横撫で、縦位の手撫で整形。側部面取り左1回・右3回、端部面取り1回。	笠懸系 2.6kg
318-1 192	瓦 男瓦	カマド左袖 完形	長 37.8 狭 12.4 広 18.6	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤横撫で後縦位の手撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	笠懸系 2.8kg
318-2 195	瓦 女瓦	カマド右袖 1/3残存	長 46.6 幅 27.6 狭 23.0	白色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄 鈍黄橙	紐作り。叩き整形。外面叩きは不詳、内面宛具は青海波文。後轆轤再整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井・藤岡系か
319-1 194 瓦-356	瓦 女瓦	床直層 完形	長 40.9 広 29.3 狭 21.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「乙」(凸面)。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
320-1 194 瓦-353	瓦 女瓦	床直層 ほぼ完形	長 41.3 幅 27.8 狭 23.0	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦「十」(凸面)。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
321-1 193 瓦-352	瓦 女瓦	掘り方内 完形	長 40.4 広 28.6 狭 21.8	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦「衣」(凸面)。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系 4.5kg
321-2 195	瓦 女瓦	カマド 完形	長 39.4 広 27.0 狭 24.6	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・寄木痕有。凸面縦位の手撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系 3.8kg

## B区第2号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
322-1 196	土師質土 器 坏	床直層 %残存	口 13.3 底 6.0 高 4.3	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。内・外面燻りが認められる。	藤岡系
322-2 196	須恵器 塊	掘り方内 破片	口 (13.4) 底 (7.0) 高 5.7	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
323-1 196	土師質土 器 塊	覆土内 ほぼ完形	口 15.4 底 6.5 高 6.6	黒色鉱物粒子 雲母	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻りが認められる。	藤岡系
323-2 196	土師質土 器 塊	掘り方内 %残存	口 18.3 底 — 高 —	ローム粒子 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
323-3 196	須恵器 塊	掘り方内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
323-4 196	土師器 甕	覆土内 破片	口 16.6 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り後篋撫で整形。	
323-5 196	土師器 甕	カマド・ 覆土内 破片	口 22.3 底 — 高 —	透明鉱物粒子 微粒状雲母 白子微粒子	酸化焰	黒灰 暗橙	口縁部は外反する。紐作り後篋撫で整形。	笠懸系か 藤岡系
323-6 196	羽 釜	カマド・ 覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
323-7 196	羽 釜	カマド・ 掘り方内 破片	口 (18.6) 底 — 高 —	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井・藤岡系
323-8 196	羽 釜	カマド・ 掘り方内 %残存	口 19.8 底 6.5 高 23.1	白色鉱物粒子 雲母	酸化焰	浅黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形(右回転)。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。吉井型羽釜。	吉井系
323-9 196	羽 釜	カマド・ 掘り方内 %残存	口 20.1 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 砂粒	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
323-10 196	羽 釜	カマド・ 掘り方内 破片	口 20.2 底 — 高 —	微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。324-1と同一個体	吉井・藤岡系
324-1 196	羽 釜	床直層 破片	口 — 底 8.0 高 —	微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半・底部は篋削り。吉井型羽釜。323-10と同一個体	吉井・藤岡系
324-2 196	羽 釜	掘り方内 破片	口 — 底 (9.0) 高 —	白色微粒子 微粒砂	酸化焰	浅黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半・底部は篋削り。底部有機質附着。	藤岡系
324-3	土師器 土 釜	覆土内 破片	口 — 底 11.2 高 —	黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後篋撫で整形。	
324-4 196	土師器 土 釜	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子 軽石	酸化焰	鈍橙	紐作り後篋撫で整形。	吉井・藤岡系
324-5 196	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (18.5)	—	—	—	上端は、弧を描き環状であった事が推定される。	
324-6 196	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (50.3)	—	—	—	断面正方形を呈し太い。	
324-7 196	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (37.3)	—	—	—	全体に錆が著しい。	
324-8 197 瓦-532	瓦 宇 瓦	掘り方内 破片	厚 2.7	微粒状雲母 白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。外区に珠点を配す。顎は曲線顎。女瓦部は一枚作り。凸面撫で整形。赤色顔料塗彩。	笠懸系
324-9 196	瓦 玉縁付男瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	半載作り。凹面撫で整形。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回。	秋間系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
324-10 196	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き後撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
324-11 197	瓦 男 瓦	掘り方内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凸面板目叩き後撫で整形。側部面取り1回。	吉井系
324-12 197	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕・撫で整形。側部面取り4回、端部面取り3回。	笠懸系
325-1 197 瓦-445	瓦 鏡 瓦	カマド・ 覆土内 残存	厚 1.1	微粒状雲母 白色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	瓦当面欠損。瓦当意匠は不詳。男瓦部は半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回。	吉井系
325-2 197 瓦-357	瓦 女 瓦	床直層 残存	厚 2.5	白色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。窠描き文字瓦「十」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
325-3 197 瓦-358	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	明鈍橙	一枚作り。窠描き文字瓦「八鳥圖か」(凸面)。凸面撫で整形。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
325-4 197	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.8	雲母 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)、指圧痕有。側部面取り1回、端部面取り3回。	乗附系か 藤岡系
326-1 198	瓦 女 瓦	カマド右袖 残存	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布目撫で整形。凸面縄叩き後撫で消し。	笠懸系か 吉井系
326-2 197	瓦 女 瓦	カマド右袖 破片	厚 1.8	黒色粒子 雲母	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り1回。	秋間系
326-3 197	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。	秋間系
326-4 197	瓦 女 瓦	カマド左 袖 残存	厚 1.9	デイスait 白色微粒子 小礫	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布2枚合わせ。凸面板目叩き後縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り2回。	吉井・藤 岡系
326-5 198	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	デイスait 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面板目叩き後撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
327-1 198	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.7	微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、指圧痕有。凸面撫で整形。側部面取り5回、端部面取り2回。	吉井・藤 岡系
327-2 198	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。布目の縦糸6cmのうち72本と細かい。	笠懸系か 吉井系
327-3 198	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系

B区第3号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
328-1 198	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.1)	白色微粒子 黒色鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
328-2 198	須惠器 坏	覆土内 残存	口 (14.0) 底 10.0 高 2.9	白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
328-3 198	土師質土 器 埴 埴	掘り方内 完形	口 10.3 底 6.7 高 5.8	細粒多量	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
328-4 198	須惠器 坏	床直層 破片	口 — 底 (6.5) 高 —	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
328-5 198	須惠器 埴 埴	掘り方内 破片	口 — 底 (6.0) 高 —	微粒状雲母 黒色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系



## B区(3・4号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
328-6 198	羽釜	床直層 破片	口 (23.0) 底 — 高 —	細礫 白色鉱物粒子	酸化焰	灰褐	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鈔は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
328-7 198	羽釜	床直層 破片	—	黒色鉱物粒子 礫	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。鈔は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。吉井型羽釜。	吉井系
328-8 198	鉄器 鏃	覆土内 破片	重 12.1	—	—	—	狭鋒三角形袂腸篋被式。研ぎ出しにより、鋼筋を出している。	
328-9 198	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (21.1)	—	—	—	薄い棒状の製品と思われる。	328-10と同 一物体か
328-10 198	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (27.5)	—	—	—	薄い棒状の製品と思われる。	328-9と同 一物体か
328-11 198	鉄器 釘か	掘り方内 破片	重 (16.3)	—	—	—	断面正方形を呈する。同様の物が2点錆により融着している。	
328-12 198	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 (6.7)	—	—	—	断面長方形を呈する。釘と思われる。	
329-1 198	瓦 男瓦	カマド右袖 破片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き後轆轤横撫で整形。側部面取り1回。	秋間系
329-2 199	瓦 男瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.1	白色微粒子	酸化焰	明橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系
329-3 199	瓦 女瓦	カマド右袖 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き後縦位の撫で整形。側部面取り4回、端部面取り2回。	笠懸系
329-4 199	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り4回。	笠懸系
329-5 199	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	笠懸系
329-6 199	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.5	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面斜格子叩き。	秋間系
329-7 199	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
329-8 198	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.5	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面ハゼ有。凸面縄叩き、離砂痕有。側部面取り3回。	秋間系

## B区第4号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
330-1 199	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	黒色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は篋調整。	秋間系
330-2 199	須恵器 塊	床直層 破片	口 — 底 7.0 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面底部に燻りを認める。	吉井・藤岡系
330-3 199	土師質土器 塊	覆土内 破片	口 — 底 6.7 高 —	白色粒子 黒色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面底部に燻りを認める。	藤岡系
330-4 199	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面底部に燻りを認める。	秋間系
330-5 199	須恵器 塊	覆土内 片残存	口 16.3 底 9.5 高 5.0	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面底部に燻りを認める。	秋間系
330-6 199	須恵器 蓋	カマド内 破片	口 — 底 5.0 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
330-7 199	礫器 不詳	覆土内 完存	長 13.3 幅 5.6 重 562.9	粗粒安山岩	—	—	全体に丸く長い礫を利用している。両端には敲打痕が認められる。	

## 遺物一覧表

## B区第5号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
332-1 200	土師器 坏	床直層 完形	口 9.6 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒子 微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。外面底部に燻りが認められる。	藤岡系
332-2 200	土師器 坏	床直層 1/2残存	口 13.6 底 — 高 4.0	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	全体的に磨滅している。篋削りの新旧関係は不明。	藤岡系
332-3 200	土師器 小型壺	床直層 1/2残存	口 7.2 底 — 高 6.6	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	紐作り、下半部は型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁は内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。外面底部に燻りが認められる。	藤岡系
333-1 200	須恵器 蓋	床直層 完形	口 9.5 摘 1.2 高 2.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
333-2 200	須恵器 坏	床直層 完形	口 9.0 底 5.6 高 3.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
333-3 200	須恵器 大甕	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。	秋間系
333-4 200	礫器 不詳	覆土内 完存	長 24.8 幅 11.3 重 555.8	粗粒安山岩	—	—	平坦面は磨滅し先端部に敲打痕が認められる。	
333-5 200	礫器 不詳	覆土内 完存	長 22.2 幅 11.6 重 606.8	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	
333-6 200	鉄器 金具	覆土内 破片	重 (27.3)	—	—	—	平面形状に器長を丸く取る。側部は折り曲げられている。側部の形状から、木質に対し、打ち込む物と思われる。	
333-7 200	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き。側部面取り2回、端部面取り4回。	秋間系

## B区第6号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
334-1 200	土師質土 器 皿	床直層 完形	口 10.1 底 6.4 高 2.3	砂粒 白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
334-2 200	土師質土 器 壺	床直層 完形	口 15.0 底 9.7 高 6.0	砂粒 白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄灰 浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
334-3 200	須恵器 壺	床直層 ほぼ完形	口 17.2 底 — 高 —	雲母 白色微粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙 鈍黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系
334-4 200	須恵器 壺	床直層 1/2残存	口 — 底 7.4 高 —	微粒状雲母 シルト質	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。底部に燻りが認められる。	藤岡系
334-5 200	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 15.4 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。	
334-6 200	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 — 底 6.4 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
334-7 200	施釉陶器 灰釉壺	覆土内 破片	口 — 底 6.0 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	
334-8 200	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (49.9)	—	—	—	先端部欠損。断面正方形を呈し、頭部は比較的小さい。	
334-9 200	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。側部面取り3回、端部面取り1回。	笠懸系

## B区(5・6・7・8号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
334-10 200	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面轆轤横撫で整形。端部面取り1回。	秋間系か 乗附系
334-11 200	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井・藤 岡系

## B区第7号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
335-1 200	須恵器 環	覆土内 破片	口 13.9 底 6.8 高 3.6	微粒状雲母 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面に耀りが認められる。	藤岡系
335-2 200	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 — 底 4.2 高 —	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
335-3 200	土師質土 器 壺	掘り方内 破片	口 — 底 8.7 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内面燻し処理。	吉井系
335-4 200	土師質土 器 壺	カマド・ 覆土内 破片	—	微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤 岡系
336-1 200	土師質土 器 壺	カマド内 破片	口 — 底 (5.2) 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
336-2 200	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (8.8) 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
336-3 201	須恵器 壺	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は板目)。内面は磨滅している。	秋間系
336-4 200	須恵器 壺	床直層 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
336-5 200	鉄器 刀子	覆土内 一部欠損	重 (29.7)	—	—	—	刃部及び茎尻を欠損する。	
336-6 200	鉄器 刀子	覆土内 %残存	重 (13.7)	—	—	—	刀身中央から鋒を欠損し、茎尻も欠損する。研ぎ減りが認められる。	
336-7 201	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 (1.9)	—	—	—	両端を欠損する。断面は円形状を呈するが、旧体は多角形的な物と考えられる。	
336-8 201	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 (2.0)	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面縦位の撫で、轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	藤岡系
336-9 201	瓦 女瓦	カマド・ 覆土内 破片	厚 (1.8)	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回、端部面取り3回。	吉井系
336-10 201	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縄叩き後撫で整形。端部面取り1回。	吉井系
336-11 201	瓦 女瓦	カマド 破片	厚 1.6	黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り3回。	秋間系
336-12 201	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系

## B区第8号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
337-1 201	須恵器 壺	カマド内 破片	口 (14.4) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系
337-2 201	須恵器 壺	床直層 ほぼ完形	口 14.9 底 6.7 高 5.2	微粒状雲母 白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
337-3 201	須恵器 壺	覆土内 破片	口 12.1 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	秋間系か 乗附系
337-4 201	土師器 甕	カマド・ 覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篔削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
337-5 201	土師器 甕	カマド内 破片	口 (10.4) 底 — 高 —	微粒状雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篔削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篔撫で。	吉井系
337-6 201	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は放射状)。	秋間系
337-7 201	須恵器 甕	カマド・ 覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は放射状)。	秋間系
338-1 201	須恵器 壺	床直層 破片	厚 0.6	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
338-2 201	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。外面自然釉附着。	秋間系
338-3 201	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 11.9 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。付高台。	秋間系
338-4 201	鉄器 不詳	覆土内 残存	重 (11.3)	—	—	—	断面正方形状を呈する。両端を欠損する。	
338-5 201	羽口	カマド・ 覆土内 破片	—	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
338-6 201	施釉陶器 灰釉壺	覆土内 破片	口 10.1 底 — 高 —	密	良好	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	
338-7 201	施釉陶器 灰釉壺	覆土内 破片	口 10.8 底 — 高 —	密	良好	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	
338-8 201 瓦-359	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。篔描き文字瓦判読不能 (凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 2 回。	笠懸系
338-9 201 瓦-360	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。篔描き文字瓦「大」 (凹面)。凸面縄叩き (密)。側部面取り 3 回。	秋間系
338-10 202	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	半載作り。凸面平行叩き。側部面取り 2 回。	吉井系
338-11 202	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3 回、端部面取り 1 回。	吉井・藤岡系
338-12 201	瓦 男瓦	カマド内 破片	幅 15.3 厚 1.5	シルト粒 白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 1 回、端部面取り 1 回。	
338-13 201	瓦 女瓦	床直層 細片	厚 0.8	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面撫で整形。端部面取り 1 回。	秋間系
338-14 202	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面平行叩き後撫で整形。側部面取り 2 回、端部面取り 2 回。	吉井系
338-15 202	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面 T 字縄叩き。端部面取り 1 回。	秋間系
338-16 202	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.7	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き。側部面取り 2 回。	笠懸系

B 区第 9 号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
339-1 202	内黒土器 壺	床直層 破片	口 13.7 底 — 高 —	微粒状雲母	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系

## B区(9・10・11号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
339-2 202	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 16.7 底 7.8 高 5.8	黒色粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
339-3 202	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 9.4 高 —	黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
339-4 202	土師器 甕	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
339-5 202	鉄器 不詳	覆土内 一部欠損	重 (18.1)	—	—	—	断面薄い長方形を呈する。両端を欠損する。	
339-6 202 瓦-533	瓦 宇瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	瓦当意匠は右扁行唐草文。外区に珠点を配する。女瓦部は一枚作り。凸面撫で整形。	笠懸系
339-7 202	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。粘土板接合痕は乙。側部面取り3回。	吉井系
339-8 202	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凸面縄叩き。側部面取り1回、端部面取り1回。	笠懸系

## B区第10号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
340-1 202	土師質土 器 坏	カマド・ 覆土内 破片	口 10.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。	吉井・藤岡系
340-2 202	黒色土器 坏	床直層 %残存	口 10.5 底 4.4 高 2.8	白色粒子	還元焰	黒褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面燻し処理。	吉井系
340-3 202	土師器 埴	床直層 破片	厚 0.9	透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子 細礫	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
341-1 202	内黒土器 鉢	床直層 %残存	口 35.0 底 15.0 高 14.9	白色粒子(パミス) 白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	黒褐	紐作り後篋撫で整形。内・外面燻し処理、暗文を施す。	月夜野系
341-2 202	礫器 不詳	床直層 ほぼ完存	厚 3.4 重 799.9	粗粒安山岩	—	—	平坦面が磨滅し、縁辺部は敲打による欠損が顕著である。	
341-3 203	鉄器 釘	カマド内 覆土内 %残存	重 (17.3)	—	—	—	断面正方形を呈する。両端及び中央を欠損する。	
341-4 203	瓦 男瓦	カマド内 %残存	幅 16.0 厚 1.5	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き後轆轤横撫で整形。側部面取り2回。	秋間系
341-5 203	瓦 女瓦	カマド内 %残存	幅 18.8 厚 2.8	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り左2回・右3回、端部面取り3回。	吉井系
342-1 202	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	秋間系
342-2 202	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。	吉井系
342-3 203	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系

## B区第11号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
343-1 203	土師器 坏	カマド・ 掘り方内 破片	口 13.1 底 — 高 (3.1)	微粒状雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
343-2 203	須恵器 坏	カマド・ 掘り方内 %残存	口 8.6 底 7.0 高 3.6	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
344-1 203	須恵器 壺	覆土内 %残存	口 14.5 底 7.7 高 4.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	吉井系
344-2 203	須恵器 壺	覆土内 破片	口 15.3 底 7.6 高 4.8	シルト質 雲母	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
344-3 203	土師質土 器 壺	覆土内 破片	口 13.3 底 — 高 —	白色鉍物粒子	酸化焰	黄褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
344-4 203	土師質土 器 壺	覆土内 破片	口 14.0 底 — 高 —	白色微粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	吉井・藤 岡系
344-5 203	須恵器 壺	床直層 破片	口 15.1 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	秋間系
344-6 203	土師質土 器 壺	床直層 破片	—	白色鉍物粒子 礫	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
344-7 203	土師質土 器 壺	床直層 破片	口 — 底 7.0 高 —	微粒状雲母 白色微粒子	中性焰	灰黄白	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面底部に篋描 き文字、判読不能。	藤岡系
344-8 203	土師質土 器 壺	床直層 破片	—	微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
344-9 203	須恵器 壺	床直層 %残存	口 — 底 (7.1) 高 —	雲母 白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
344-10 203	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 6.6 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
344-11 203	土師質土 器 壺	カマド・ 掘り方内	口 — 底 6.9 高 —	微粒状雲母	還元焰	黒褐 黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面燻し処理を 施す。	藤岡系
344-12 203	須恵器 壺	カマド内 破片	口 — 底 8.8 高 —	シルト粒	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面燻し処理を 施す。	秋間系
345-1 203	土師器 甕	カマド・ 掘り方内 破片	口 19.4 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
345-2 203	土師器 甕	覆土内 破片	口 20.4 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
345-3 203	土師器 甕	カマド・ 掘り方内 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鉍物粒子	還元焰	灰褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
345-4 203	羽 釜	覆土内 破片	口 21.0 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井系
345-5 203	須恵器 壺	覆土内 破片	口 6.0 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。内・外面自然釉 附着。	秋間系
345-6 203	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	乗附系
345-7 203	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子 小白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。横線帯を施す。	藤岡系
345-8 204	須恵器 壺	カマド・ 覆土内 破片	最大径 28.7	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。外面蓋の底径の 部分が融着。外面自然釉顕著。	
345-9 204	須恵器 大甕 転用 硯	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は不詳)。内面磨滅顕著。	乗附系

## B区(11号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
346-1 204	施釉陶器 灰釉壺	カマド内 破片	口 ー 底 13.0 高 ー	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。施釉は不詳。	
346-2 204	鉄器 釘	床直層 %残存	重 (7.4)	ー	ー	ー	先端部欠損。上端は緩やかに曲がっている。	
346-3 204	鉄器 釘か	覆土内 %残存	重 (37.2)	ー	ー	ー	両端部欠損。	
346-4 204	鉄器 不詳	床直層 破片	重 (17.1)	ー	ー	ー	断面正方形状を呈する。	
346-5 204	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (1.4)	ー	ー	ー	何かの残片か。	
346-6 204	礫器 不詳	覆土内 %残存	幅 5.4 厚 4.0 重 353.0	粗粒安山岩	ー	ー	上面を磨滅する。下端は叩き使用が認められる。所謂スタンプ状石器。	
346-7 204	礫器 不詳	床直層 完存	長 11.4 幅 7.3 重 480.3	粗粒安山岩	ー	ー	上面を磨滅する。	
346-8 204	礫器 不詳	床直層 完存	長 12.0 幅 5.3 重 392.6	変質玄武岩	ー	ー	上面を磨滅する。	
346-9 204	礫器 不詳	床直層 %残存	幅 7.4 厚 4.2 重 625.1	粗粒安山岩	ー	ー	上面を磨滅する。上端欠損。下端部敲打痕が認められる。	
346-10 204	礫器 不詳	床直層 完存	長 12.3 幅 6.8 重 442.0	粗粒安山岩	ー	ー	上面を磨滅する。	
346-11 204	礫器 不詳	床直層 完存	長 11.2 幅 4.2 重 248.2	粗粒安山岩	ー	ー	上面を磨滅する。	
346-12 204	礫器 不詳	覆土内 %残存	幅 6.2 厚 3.6 重 282.7	粗粒安山岩	ー	ー	特別な使用痕が認められない。上端欠損。	
346-13 204 瓦-534	瓦 字瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色鈹物粒子 赤色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	瓦当意匠は格子文。顎は曲線顎。女瓦部は一枚作り。	吉井系
347-1 204	瓦 男瓦	カマド内 %残存	長 45.2 幅 19.4 厚 3.7	白色鈹物粒子 デイサイト	還元焰	灰白	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の手撫で整形・不定方向の筥撫で。側部面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
347-2 205	瓦 男瓦	床直層 %残存	幅 20.2 厚 1.9	黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
347-3 204	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き後撫で整形。側部面取り2回。	秋間系
347-4 204	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色鈹物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系か 吉井系
348-1 205	瓦 女瓦	床直層 %残存	長 41.8 幅 28.3 厚 1.1	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	秋間系
348-2 205	瓦 女瓦	カマド内 %残存	厚 1.8	白色鈹物粒子 白色微粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面布目撫で消し。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
348-3 205	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色鈹物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
348-4 205	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 1.0	白色鈹物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面不定方向の撫で整形。側部面取り1回。	吉井・藤岡系

## 遺物一覧表

## B区第13号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
349-1 205	須恵器 坏	床直層 %残存	口 13.0 底 5.6 高 3.9	白色粒子	中性焰	灰黄 黒灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
349-2 205	須恵器 坏	床直層 %残存	口 12.9 底 5.8 高 4.1	雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
349-3 205	須恵器 塊	床直層 破片	口 13.2 底 — 高 —	雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
350-1 205	須恵器 塊	カマド・ 覆土内 破片	口 — 底 6.8 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
350-2 205	土師器 台付壺	覆土内 破片	—	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	底部は篋削り、内面は篋撫で。脚部は紐作り後撫で整形。	藤岡系
350-3 205	羽釜	覆土・ 掘り方内 破片	口 20.1 底 — 高 —	透明鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
350-4 205	礫器 不詳	覆土内 完存	長 3.9 幅 3.6 重 64.9	粗粒安山岩	—	—	全体的に球形状で上面をやや磨滅する。	
350-5 205	羽口	覆土内 破片	厚 2.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められる。使用に伴う融体が認められる。	
350-6 205	鉄器 刀子	覆土内 %残存	重 (21.8)	—	—	—	刀身及び茎尻を欠損する。研ぎ減りが著しい。	
350-7 206	礫器 不詳	覆土内 ほぼ完存	長 16.2 厚 3.9 重 1584.3	粗粒安山岩	—	—	側部を一部欠損する。扁平面は磨滅し、小口及び側部に剝離がある。	
350-8 206	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り3回。	吉井系
350-9 206	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
350-10 206	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凹面布合せ目痕。凸面縦位の撫で整形、轆轤横撫で整形。側部面取り1回、端部面取り2回。	吉井系

## B区第14号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
351-1 206	土師器 坏	掘り方内 %残存	口 14.1 底 9.3 高 3.9	雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に甘い型膚を残す。	藤岡系
351-2 206	土師質土 器	掘り方内 破片	口 (14.0) 底 6.2 高 5.9	透明鉍物粒子 白色粒子 赤色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面内黒・研磨を施す。外面篋削り。	藤岡系
351-3 206	須恵器 坏	カマド内 ほぼ完形	口 13.3 底 7.0 高 3.8	雲母 デイサイト	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
351-4 206	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (13.5) 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 雲母 シルト質	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	吉井・藤岡系
352-1 206	土師質土 器 坏	床直層 %残存	口 13.3 底 5.8 高 3.8	細砂粒 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
352-2 206	須恵器 坏	カマド・ 覆土内 %残存	口 13.3 底 (7.0) 高 4.1	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目	(cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
352-3 206	須恵器 埴	床直層 %残存	口 底 高	15.1 — —	砂粒 デイスait	還元焰	灰白 浅黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系
354-1 206	須恵器 埴	カマド・ 覆土内 破片	口 底 高	15.2 — —	微粒状雲母 シルト質	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
354-2 206	須恵器 埴	床直層 ほぼ完形	口 底 高	15.8 — —	砂粒 白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系
354-3 206	須恵器 埴	覆土内 破片	口 底 高	— 6.9 —	白色鉍物粒子 微粒状雲母	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
354-4 206	土師器 甕	カマド・ 覆土内 %残存	口 底 高	18.2 3.6 27.4	透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
354-5 206	鉄器 釘	床直層 一部欠損	重	(91.3)	—	—	—	断面正方形形状を呈する。尖端を欠損する。頭部は大きい。	
354-6 206	鉄器 釘	床直層 %残存	重	(18.0)	—	—	—	全体的に歪む。尖端側を欠損する。断面正方形形状を呈する。	
354-7 206	鉄器 釘	カマド内 一部欠損	重	(12.7)	—	—	—	断面正方形形状を呈し両端を欠損する。茎とも思われる。刀子か。	
354-8 206	鉄器 不詳	床直層 一部欠損	重	(74.3)	—	—	—	断面長方形形状を呈する。全体に細長い。両端を欠損する。	
354-9 206	須恵器 甕	覆土内 破片	—	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
355-1 206	石造品 羽目石	床直層 破片	重	1,880	二ツ岳軽石	—	—	国分寺堂宇基壇化粧の羽目石か。	
355-2 207	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.7	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き。側部面取り4回。	秋間系
355-3 207	瓦 女瓦	床直層 破片	厚	1.6	雲母 黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き、離砂痕有。側部面取り3回。	秋間系
355-4 207 瓦-361	瓦 女瓦	カマド内 ほぼ完形	長 幅 厚	39.4 22.8 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「中止」(凹面)。側部面取り左3回・右2回。端部面取り広4回・狭3回。	吉井系 4.4kg
356-1 207	瓦 女瓦	床直層 %残存	長 幅 厚	40.3 25.6 3.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
356-2 208	瓦 女瓦	カマド内 %残存	厚	2.0	白色粒子 白色鉍物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	乗附系
357-1 207 瓦-362	瓦 女瓦	床直層 %残存	厚	2.4	白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。篋描き文字瓦「人」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の手撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
357-2 208	瓦 女瓦	カマド内 %残存	厚	2.5	白色微粒子	還元焰	褐	一枚作り。凹面寄木痕。凸面板目叩き後縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
357-3 208	瓦 女瓦	覆土内 %残存	幅 厚	27.2 2.0	白色微粒子	還元焰	褐	一枚作り。凸面不正格子叩き。側部面取り1回、端部面取り1回。	笠懸系
357-4 208	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.0	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面平行叩き後撫で整形。側部面取り3回。	乗附系
358-1 208	瓦 女瓦	カマド内 破片	幅 厚	27.6 1.6	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。	笠懸系
358-2 208	瓦 女瓦	床直層 %残存	厚	2.5	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。	

遺物一覧表

B区第15号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
359-1 209	土師器 坏	掘り方内 完形	口 10.6 底 — 高 3.1	白色粒子 黒色鉾物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
359-2 209	土師器 坏	掘り方内 完形	口 11.0 底 — 高 3.0	微粒状雲母 黒色鉾物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
359-3 209	土師器 坏	カマド左袖 ・覆土内 完形	口 11.1 底 — 高 3.3	黒色鉾物粒子 雲母	酸化焰	橙	型作り成形。体部は撫でを施している。	藤岡系
359-4 209	土師器 坏	掘り方内 完形	口 14.0 底 — 高 3.0	微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。体部は撫でを施している。	藤岡系
359-5 209	土師器 甕	床直層 残存	口 11.2	微粒状雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
360-1 209	土師器 甕	床直層 破片	底 3.8	黒色鉾物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	体部・底部は篋削り、器内面は横撫で。	藤岡系
360-2 209	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	底 8.0 最大径 10.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	秋間系
360-3 209	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形（右回転）。	秋間系
360-4 209	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系
360-5 209	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	秋間系
360-6 209	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	秋間系
360-7 209	須恵器 甕	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	秋間系
360-8 209	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	秋間系
360-9 209	須恵器 甕	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）内面は磨滅している。	乗附系

B区第16号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
361-1 209	土師器 坏	床直層 残存	口 13.0 底 — 高 3.9	白色鉾物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に型膚を残す。	藤岡系
361-2 209	須恵器 坏	覆土内 残存	口 13.3 底 5.4 高 4.2	白色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
361-3 209	須恵器 坏	床直層 残存	口 (13.9) 底 7.3 高 3.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	秋間系か乗附系
361-4 209	須恵器 坏	掘り方・ 覆土内 破片	口 — 底 6.5 高 —	微粒状雲母 黒色鉾物粒子	還元焰	暗灰褐	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
361-5 209	須恵器 壺	覆土内 破片	口 14.5 底 6.6 高 4.9	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	乗附系
361-6 209	須恵器 壺	カマド・掘り 方・覆土内 残存	口 16.2 底 8.0 高 5.2	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	秋間系
363-1 209	須恵器 壺	覆土内 破片	口 15.4 底 7.7 高 4.8	微粒状雲母 白色鉾物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。付高台。	藤岡系

## B区 (15・16号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
363-2 209	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (16.0) 底 (7.5) 高 (5.1)	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
363-3 209	須恵器 埴	床直層 %残存	口 16.3 底 7.8 高 6.1	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
363-4 209	須恵器 埴	床直層 %残存	口 (16.3) 底 (7.4) 高 4.7	微粒状雲母 白色粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
363-5 209	須恵器 埴	覆土内 破片	口 21.5 底 11.2 高 9.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
363-6 209	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 5.8 高 —	微粒状雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
363-7 209	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 6.7 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
363-8 209	須恵器 埴	床直層 破片	口 — 底 6.9 高 —	微粒状雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
363-9 209	須恵器 埴	床直層 %残存	口 — 底 7.5 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 シルト質	中性焰	浅灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
363-10 209	須恵器 皿	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	秋間系
363-11 209	須恵器 皿	床直層 %残存	口 14.0 底 7.6 高 2.9	微粒状雲母 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
363-12 209	須恵器 皿	覆土内 破片	口 14.1 底 8.0 高 2.2	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
363-13 209	土師器 坏	カマド・ 覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 細礫	酸化焰	橙	底部は型膚を顕著に残す。	藤岡系
363-14 210	土師器 甕	カマド内 破片	口 18.4 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篔削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篔無で。	藤岡系
363-15 210	土師器 甕	床直層 破片	口 (14.8) 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篔削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篔無で。	藤岡系
363-16 209	土師器 甕	掘り方・ 覆土内 破片	口 21.4 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子 雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篔削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篔無で。	吉井・藤岡系
363-17 209	羽釜	覆土内 破片	最大径 24.7	透明鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け。	月夜野系
364-1 210	須恵器 壺	カマド・掘り 方・覆土・ 破片	口 — 底 (12.8) 高 —	デイスaito 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井・藤岡系
364-2 210	土師器 甕	カマド 掘り方内 破片	口 — 底 3.4 高 —	微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	体部・底部は篔削り。器内面は横撫で。	藤岡系
364-3 210	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 15.0 底 7.6 高 2.8	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
364-4 210	施釉陶器 灰釉壺	覆土内 %残存	最大径 17.6	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	
364-5 210	礫器 不詳	床直層 完存	長 10.6 幅 4.2 重 233.9	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
364-6 210	鉄 器 刀	覆土内 一部欠損	重 (5.8)	—	—	—	刀身中央部及び茎を欠損する。全体的に刃部は直線的に研ぎ減っている。鋒は枯れ気味である。	
364-7 210	鉄 器 釘	覆土内 破片	重 (18.5)	—	—	—	全体に短かく湾曲している。断面正方形を呈する。	
364-8 210	鉄 器 釘	覆土内 破片	重 (25.9)	—	—	—	頭部を残存する。断面正方形を呈する。	
364-9 210	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (2.3)	—	—	—	断面正方形を呈する。両端欠損。	
364-10 210	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (4.1)	—	—	—	断面正方形を呈する。両端欠損。	
364-11 210	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (2.9)	—	—	—	湾曲している。両端欠損。断面長方形を呈する。	
364-12 210	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (2.3)	—	—	—	湾曲している。両端欠損。断面長方形を呈する。	
364-13 210	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (5.6)	—	—	—	湾曲している。両端欠損。断面長方形を呈する。	
364-14 210	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (2.1)	—	—	—	湾曲している。両端欠損。断面三角形を呈する。	
364-15 210	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (12.7)	—	—	—	断面正方形を呈し環状部は断面長方形を呈する。先端は先細り状で欠損する。	
364-16 210	鉄 器 不詳	覆土内 一部欠損	重 (23.6)	—	—	—	333-6と類似する。側部は長い。	
364-17 210 瓦-363	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子 デイスайт	酸化焰	橙	一枚作り。篋描き文字瓦「上」(凹面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回。	吉井系
364-18 瓦-571	瓦 女 瓦	傍竈坑 破片	厚 1.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。篋描き文字瓦「大」(凹面)。凸面縄叩き(密)T字状。側部面取り3回。	秋間系
365-1 211	瓦 男 瓦	床直層 完形	長 44.2 広 22.4 狭 17.0	黒色粒子 夾	還元焰	白灰	半截作り。凹面布合せ目痕。凸面縄叩き後轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	秋間系 2 kg
365-2 211	瓦 男 瓦	覆土内 %残存	長 45.7 幅 17.3 狭 15.0	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面縄叩き後轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	秋間系
366-1 210	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 0.8	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
366-2	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 0.8	白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布合せ目痕。凸面轆轤良。側部面取り1回。	秋間系
366-3 211	瓦 男 瓦	掘り方・ 覆土内 %残存	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面縦位の撫で、縦位の手撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	秋間系
366-4	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤痕。側部面取り1回、端部面取り1回。	秋間系
366-5	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布合わせ目痕。凸面撫で整形。端部面取り3回。	笠懸系
366-6 210	瓦 男 瓦	掘り方内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面撫で整形。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
366-7	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の篋削り後撫で整形。端部面取り2回。	吉井・藤岡系
366-8	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り1回、端部面取り1回。	藤岡系か
366-9	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕か。凸面平行叩き。側部面取り2回。	乗附系
367-1 212	瓦 女 瓦	床直層 完形	長 47.0 広 37.6 狭 30.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面T字縄叩き(密)。側部面取り左3回・右2回、端部面取り1回。	乗附系
367-2 211	瓦 女 瓦	床直層 %残存	長 50.9 厚 2.2	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
368-1 211	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.8	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り4回。	吉井系

## B区 (17号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
368-2	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面撫で整形。	藤岡系
368-3	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)。側部剥ぎ出し段有。	秋間系
368-4 210	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き後轆轤横撫で整形。	吉井・藤岡系
368-5	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.4	白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)。側部面取り1回。	秋間系
368-6 211	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.2	白色鉍物粒子 白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	白灰	一枚作り。凸面平行叩き後撫で整形。側部面取り2回。	吉井・藤岡系
368-7	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.1	白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。	秋間系
368-8 211	瓦 女瓦	床直層 %残存	厚 1.8	白色粒子 黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	藤岡系
368-9	瓦 女瓦	傍竈坑 破片	厚 1.0	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面T字縄叩き(密)。	秋間系
368-10	瓦 女瓦	傍竈坑 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面撫で整形。端部面取り2回。	乗附系
368-11 212	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 0.9	黒色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面T字縄叩き。側部面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
369-1 212	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.0	黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面布合せ目痕。凸面縦位の手撫で整形。	秋間系
369-2	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 1.1	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面撫で整形。端部面取り1回。	乗附系か 秋間系
369-3	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 0.9	白色粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面平行叩き(密)。側部面取り2回。	秋間系
369-4	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	乗附系
369-5	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	微粒状雲母 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕、縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
369-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面木目叩き後撫で整形。	藤岡系

## B区第17号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
370-1 212	土師質土 器 坏	カマド・ 覆土内 破片	口 (10.0) 底 (5.4) 高 2.6	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か 吉井系
370-2 212	土師質土 器 坏	床直層 %残存	口 9.1 底 4.5 高 2.5	雲母 黒色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
370-3 212	土師質土 器 坏	カマド・ 覆土内 %残存	口 (15.4) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉍物粒子 細礫	酸化焰	黒橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内面暗文を施し、燻し処理。	吉井・藤岡系
370-4 212	土師質土 器 坏	掘り方・ 覆土内 破片	口 — 底 7.0 高 —	透明鉍物粒子 細砂礫	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内面燻し処理を施す。	吉井・藤岡系
370-5 212	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 6.0 高 —	透明鉍物微粒子 黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
370-6 212	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 7.5 高 —	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒状雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
370-7 212	土師質土 器 塊	床直層 破片	—	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。外面下半部は篔削り。	吉井・藤岡系
370-8 212	土師質土 器 皿	カマド・ 覆土内 破片	口 15.2 底 — 高 —	デイスイト 雲母	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。	吉井系
371-1 212	羽 釜 器	カマド右 袖 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篔削り。吉井型羽釜。	吉井系か 笠懸系
371-2 212	羽 釜 器	カマド内 破片	口 16.6 底 — 高 —	細礫	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。	
371-3 212	羽 釜 器	カマド内 破片	—	白色粒子 角砂礫	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半は篔撫で。	
371-4 212	土 師 器 土 釜	カマド・ 覆土内 破片	口 — 底 7.5 高 —	砂礫	酸化焰	鈍黄褐	紐作り後篔撫で整形。	
371-5 212	瓦 男 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.6	白色鉾物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井系
371-6 213 瓦-364	瓦 女 瓦	カマド右 袖 片残存	厚 2.5	白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篔描き文字瓦「八田甲斐女」(凸面)。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
371-7 213	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面平行叩き。端部面取り1回。	吉井系
372-1 213 瓦-562	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篔描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
372-2 213	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面平行叩き。	秋間系

B区第18号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
373-1 213	須 惠 器 器 塊	覆土内 破片	口 14.4 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉾物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
373-2 213	須 惠 器 器 塊	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
373-3 213	須 惠 器 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 6.8 高 —	微粒状雲母 黒色鉾物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
373-4 213	須 惠 器 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 7.6 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
373-5 213	須 惠 器 器 塊	還元焰	—	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
373-6 213	鉄 器 刀 子	覆土内 破片	重 (12.9)	—	—	—	刀身の大半を欠損する。茎も欠損する。茎形状から大身の造りと考えられる。	
374-1 213	瓦 男 瓦	覆土内 破片	狭 14.4 厚 2.1	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
374-2 213	瓦 女 瓦	床直層 細片	厚 1.0	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。側部面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系
374-3 213	瓦 女 瓦	床直層 細片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き。側部面取り3回。	秋間系
374-4 213	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.0	白色鉾物粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面不定方向の撫で。米格子叩き。	藤岡系

## B区 (18・19・20号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
374-5 213	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.0	微粒状雲母	還元焰	白灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回。	藤岡系

## B区第19号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
375-1 214	土師器 坏	覆土内 破片	口 10.1 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
375-2 214	土師器 坏	床直層 ほぼ完形	口 13.4 底 — 高 4.9	雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
375-3 214	土師器 坏	床直層 破片	口 15.2 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
375-4 214	須恵器 坏	床直層 ほぼ完形	口 12.4 底 7.8 高 3.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は手持ち篋削り。	秋間系
375-5 213	土師器 甕	床直層 破片	口 — 底 4.7 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	鈍褐	紐作り。体部・底部は篋削り。器内面は横撫で。	藤岡系
375-6 214	須恵器 大甕	床直層 破片	口 27.4 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形（右回転）。口唇直下に突帯を廻らす。	秋間系
375-7 213	礫器 不詳	掘り方内 完存	長 14.6 幅 5.4 重 534.9	溶結擬灰岩	—	—	上面は磨滅する。	

## B区第20号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
377-1 214	須恵器 坏	掘り方内 1/2残存	口 14.2 底 6.1 高 4.0	白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
377-2 214	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 5.6 高 —	白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
377-3 214	土師質土 器 塊	カマド・ 掘り方・ 覆土内 破片	口 15.2 底 7.3 高 5.3	微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形（右回転）。付高台。内・外面燻し処理を施す。	吉井・藤岡系
377-4 214	須恵器 塊	掘り方内 破片	口 — 底 8.3 高 —	白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。	秋間系
377-5 214	須恵器 塊	カマド内 破片	口 — 底 7.3 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	藤岡系か 乗附系
377-6 214	土師器 甕	床直層 1/2残存	口 17.2 底 13.9 高 —	透明鉍物粒子 微粒状雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙 浅黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
377-7 214	土師器 甕	カマド内 破片	口 10.0 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
377-8 214	石製品 砥石	覆土内 一部欠損	厚 2.2 重 134.7	砥沢石	—	—	手持砥。旧状の周縁部中心が左上がりに減っている。利手は左手。	
377-9 214 瓦-447	瓦 鏡瓦	掘り方内 破片	厚 0.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当面の大半を欠損する。瓦当意匠は不詳。瓦当部は印籠付。	吉井系
377-10 214 瓦-446	瓦 鏡瓦	掘り方内 破片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当面の大半を欠損する。瓦当意匠は不詳。胎土からすれば国分寺創得意匠の単弁5葉蓮華文と思われる。	笠懸系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
377-11 214 瓦-365	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面平行叩き	吉井系
377-12 214	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子 黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布合わせ目痕、粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。	笠懸系
378-1 214	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	長 22.2 厚 1.6	シルト粗粒	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布合せ目痕、布目撫で消し。凸面T字縄叩き。側部面取り2回、端面面取り1回。	秋間系
378-2 215	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面離砂痕。側部面取り1回。	秋間系

B区第21号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
380-1 215	土師質土 器 埴	覆土内 破片	口 14.1 底 — 高 —	微粒状雲母 小礫 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系
380-2 215	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
380-3 215	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 6.8 高 —	微粒状雲母 白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系か 藤岡系
380-4 215	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (7.1)	微粒状雲母 白色微粒子	—	—	断面正方形状を呈する。両端を欠損する。釘と思われる。	
380-5 215	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
380-6 215	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.2	夾	還元焰	暗灰	一枚作りか。凹面奇木痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形、離砂痕有。側部面取り4回。	秋間系
380-7 215	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面撫で整形。側端部に布目有。	秋間系
380-8 215	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面T字縄叩き(密)。側端部に布目有。	秋間系

B区第22号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
381-1 215	内黒土器 坏	覆土内 %残存	口 13.1 底 6.0 高 3.8	微粒状雲母 透明鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転系切り。内面燻し処理、暗文を施す。	藤岡系
381-2 215	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 15.7 底 6.6 高 6.6	白色針状物	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転系切り。胎土内の針状物からすれば、武蔵(比企郡)からの搬入品と考えられる。	南比企か
381-3 215	須恵器 埴	カマド・ 掘り方・ 覆土内 %残存	口 13.6 底 7.2 高 5.1	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
381-4 215	須恵器 埴	掘り方・ 覆土内 %残存	口 (14.4) 底 (8.3) 高 (5.1)	微粒状雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
381-5 215	須恵器 埴	掘り方・ 覆土内 %残存	口 14.7 底 7.9 高 4.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
382-1 215	須恵器 埴	掘り方・ 覆土内 %残存	口 14.5 底 7.2 高 7.8	黒色鉍物粒子 シルト質	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
382-2 215	土師質土 器 埴	掘り方・ 覆土内 埴残存	口 15.7 底 (7.8) 高 4.7	黒色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
382-3 215	土師質土 器 埴	カマド・ 掘り方内 埴残存	口 11.0 底 6.6 高 3.1	デイサイト 微粒状雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
382-4 215	須恵器 皿	床直層 破片	口 13.5 底 7.3 高 2.6	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
382-5 215	須恵器 皿	掘り方内	口 14.1 底 7.7 高 2.6	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
382-6 215	土師器 甕	カマド・掘り 方・覆土内 破片	口 10.2 底 — 高 —	微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
382-7 215	土師器 甕	床直層 破片	口 18.0 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
382-8 215	土師器 甕	掘り方・ 覆土内 破片	口 22.1 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
382-9 215	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (7.4) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は短かく立ち上がる。紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
382-10 216	須恵器 壺	覆土内 破片	口 18.4 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
382-11 216	須恵器 甕	覆土内 破片	—	黒色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後叩き整形。外面は轆轤再整形により、叩き具は不詳。内面宛具は素文。	乗附系
382-12 216	土製品 土垂	カマド・ 掘り方内 完形	長 4.6 幅 1.6	黒色鉍物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	外面は撫で整形。	藤岡系
382-13 216	土製品 土垂	カマド・ 掘り方内 埴残存	幅 1.6	黒色鉍物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	上半を欠損する。外面は撫で整形。	藤岡系
382-14 216	施釉陶器 灰釉瓶	掘り方・ 覆土内 破片	最大径 15.8	密	良好	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半は回転篋削り。	
382-15 216	施釉陶器 灰釉瓶	覆土内 破片	口 — 底 13.9 高 —	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
382-16 216	鉄器 刀子	覆土内 破片	重 (3.8)	—	—	—	鋒のみが残存する。	
382-17 216	鉄器 刀子	覆土内 破片	重 (9.0)	—	—	—	刀身及び茎尻を欠損する。	
382-18 216	鉄器 刀子	覆土内 破片	重 (3.8)	—	—	—	茎のみの破片である。	
382-19 216	鉄器 釘	床直層 一部欠損	重 (22.2)	—	—	—	断面正方形を呈し、尖端を欠損する。	
382-20 216	鉄器 釘	床直層 一部欠損	重 (53.3)	—	—	—	頭部及び尖端を欠損する。	
382-21 216	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 (7.8)	—	—	—	断面正方形を呈する。両端欠損。	
382-22 216	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (3.2)	—	—	—	両端欠損する。	
382-23 216	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.3)	—	—	—	両端欠損する。	
383-1 216	羽口	掘り方内 破片	厚 2.1	—	—	—	使用に伴なう色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
383-2 216	羽口	掘り方内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴なう色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
383-3 216	羽 口	掘り方内 破片	厚 1.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
383-4 216 瓦-366	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面轆轤横撫で整形。	吉井系
383-5 216	瓦 男 瓦	掘り方内 破片	厚 2.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	半截作りか。凸面平行叩き。	秋間系
383-6 216	瓦 男 瓦	カマド右袖 %残存	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
383-7 216	瓦 男 瓦	掘り方内 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布目撫で消し。凸面縄叩き整形。側部面取り4回。	吉井系
383-8 216	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
383-9 216	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 小礫	還元焰	灰白	半截作り。凸面縄叩き後撫で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
383-10 217	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
384-1 217 瓦-367	瓦 女 瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「足」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
384-2 217	瓦 女 瓦	カマド左袖 破片	幅 27.3 厚 2.2	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き、離砂痕有。側部面取り3回。	乗附系
384-3 217	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面縦位の手撫で整形。凸面縄叩き、轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系か
384-4 217	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 0.8	黒色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面側を欠損する。凸面平行叩き(密)。	藤岡系か 秋間系
384-5 217	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面横位の手撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系

B区第23号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
385-1 217	須 惠 器 坏	床直層 %残存	口 15.2 底 (7.7) 高 3.6	シルト粒	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
385-2 217	土師質土 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 7.8 高 —	微粒状雲母 白色微粒子 ダイヤサイト	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
385-3 217	須 惠 器 甕	床直層 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
385-4 217	須 惠 器 甕	覆土内 破片	口 30.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反し、9本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
385-5 217	須 惠 器 甕	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は放射状)。	乗附系か 秋間系
385-6 217	鉄 器 釘	覆土内 一部欠損	重 (18.0)	—	—	—	両端断面長方形を呈する。下半を欠損する。	
385-7 217	鉄 器 鍔	床直層 %残存	重 (13.5)	—	—	—	図上左端側が直角に折れ更に先端部は曲がっている。	
385-8 218	鉄 器 不詳	床直層 破片	重 (6.8)	—	—	—	断面長方形を呈する。両端欠損。	
385-9 218	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (15.2)	—	—	—	全体に薄く平たい。両端側に孔を配する。	
385-10 218	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (4.3)	—	—	—	断面長方形を呈する。両端を欠損する。	
385-11 218	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (1.9)	—	—	—	断面長方形を呈する。両端を欠損する。	

## B区(23・24・25号住居跡)

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
385-12 217	鉄 器 鉄 塊	床直層	重 (43.8)	—	—	—	全体に錆が存じる為、詳細不詳。	
386-1 218 瓦-368	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
386-2 218	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。粘土板接合痕はZ。	秋間系
386-3 218	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.0	夾 黒色粒子	酸化焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。	吉井系
386-4 218	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面不定方向の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系

## B区第24号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
387-1 218	土 師 器 坏	床直層 完形	口 10.7 底 — 高 3.6	黒色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
387-2 218	須 恵 器 壺	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	全体にハゼが多い。外面は轆轤整形。	秋間系
387-3 218	礫 器 不 詳	掘り方 覆土内 完存	長 11.8 幅 4.4 重 397.8	砂岩	—	—	特別な使用痕が認められない。	
387-4 218	礫 器 不 詳	床直層 完存	長 14.4 幅 7.1 重 561.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が磨滅する。	

## B区第25号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
388-1 218	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 12.7 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系か
388-2 218	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 11.6 底 (7.0) 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系
388-3 218	土 師 器 壺	覆土内 破片	口 — 底 4.0 高 —	白色微粒子	酸化焰	橙	底部は篋削り、器内面は横撫で。	藤岡系
388-4 218	須 恵 器 壺	覆土内 破片	厚0.3~0.7	赤色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
388-5 218	羽 口	覆土内 破片	厚 1.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	
388-6 218	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	夾	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凸面縄叩き(密)。	乗附系
388-7 218	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面縄叩き、離砂痕有。	秋間系
388-8 219	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 0.7	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)。	秋間系
388-9 218	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	—	還元焰	灰黒	一枚作り。凸面縄叩き(密)。側部面取り4回。	秋間系
388-10 218	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.2	シルト粒	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縄撫で(密)。側部面取り5回。	秋間系
388-11 218	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縄叩き。側部面取り4回。	笠懸系
388-12 218	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	乗附系
388-13 218	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	秋間系

## 遺物一覧表

## B区第27号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
389-1 219	土師質土 器 皿	カマド・ 掘り方内 %残存	口 9.1 底 5.3 高 3.4	黒色鉾物粒子 砂粒	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
389-2 219	土 師 器 土 釜	床直層 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り後篋削り整形。	吉井系
389-3 219 瓦-369	瓦 女 瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.3	白色鉾物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。篋描き文字瓦「大」（凸面）。端部面取り2回。	吉井系
389-4 219	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	秋間系
389-5 219	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面撫で整形。側部面取り3回。端部面取り1回。	吉井系
389-6 219	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕、縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
390-1 219	瓦 女 瓦	カマド内 %残存	厚 1.8	シルト粗粒	酸化焰	橙	桶巻き造り。凹面模骨痕、粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で整形。	乗附系

## B区第28号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
391-1 219	須 恵 器 坏	カマド・ 覆土内 %残存	口 12.8 底 5.6 高 3.6	微粒状雲母	還元焰	灰褐	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
391-2 219	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 7.7 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	吉井・藤岡系
392-1 219	土 師 器 甕	カマド内 破片	口 12.5 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉾物粒子	還元焰	褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
392-2 219	須 恵 器 壺	覆土内 破片	口 — 底 13.4 高 —	微粒状雲母	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	乗附系か藤岡系
392-3 219	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面撫で整形。側部面取り2回。	吉井系

## B区第29号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
394-1 219	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 14.4 底 — 高 —	黒色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁内外面は横撫で。内・外面体部は撫で整形。外面底部に煙りを認める。	藤岡系
394-2 219	須 恵 器 高台坏	覆土内 破片	口 — 底 12.8 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	秋間系
394-3 219	須 恵 器 甕	覆土内 破片	—	白色鉾物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	吉井系か乗附系
394-4 219	須 恵 器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子 黒色鉾物粒子	還元焰	灰	紐作り。外面平行叩き、内面宛具は不詳。	乗附系
394-5 219	礫 器 不 詳	床直層 完存	長 6.9 幅 4.2 重 82.2	変質安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	

## B区第30号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
395-1 220	須恵器 埴	掘り方内 破片	口 12.3 底 — 高 —	微粒状雲母 透明鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
395-2 220	土師質土 器 埴	掘り方内 破片	口 12.9 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
395-3 220	土師質土器 足高台付 埴	掘り方内 破片	口 — 底 12.0 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	轆轤整形(右回転)。	藤岡系
396-1 220	羽釜	掘り方内 破片	口 20.2 底 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	中性焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井・藤岡系
396-2 220	羽釜	掘り方内 破片	口 20.2 底 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	中性焰	灰黄	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
396-3 220	羽釜	掘り方内 破片	口 — 底 6.2 高 —	白色鉱物粒子 チャート	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半・底部は篋削り。吉井型羽釜。	吉井系
396-4 220	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・側面取り2回。	吉井・藤岡系

## B区第31号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
398-1 220	須恵器 坏	覆土内 破片	口 13.6 底 6.8 高 3.3	黒色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
398-2 220	須恵器 コップ型 土器	覆土内 破片	口 — 底 4.9 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。	秋間系か 乗附系
398-3 220	土師質土器 足高台付埴 脚部	覆土内 破片	口 — 底 16.0 高 —	白色粒子	酸化焰	鈍黄橙 暗褐	轆轤整形(右回転)。	
398-4 220	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄 浅黄橙	半截作り。凸面平行叩き。粘土板接合痕はS。側面取り3回。	吉井系
398-5 220	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面縄叩き。側面取り3回。	秋間系
398-6 220	瓦 女瓦	カマド内 掘り方内	厚 1.8	赤色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面寄木痕か。凸面T字縄叩き(密)。側面取り1回、端面取り1回。	秋間系
398-7 220	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部は横位の撫で。側面取り3回、端面取り3回。	乗附系か
398-8 220	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.0	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回。	吉井系

## B区第38号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
401-1 220	内黒土器 埴	カマド・掘り 方・覆土内 破片	口 — 底 6.1 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 赤色粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内面暗文、燻し処理を施す。	
401-2 220	須恵器 壺蓋	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。	乗附系
401-3 220	土釜	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	紐作り後篋撫で整形。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
401-4 220	土 釜	覆土内 破片	口 18.2 底 — 高 —	黒色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後篋撫で整形。	吉井系
401-5 220	土 釜	覆土内 破片	口 — 底 8.3 高 —	白色粒子 雲母 小円礫	酸化焰	鈍橙	紐作り後篋撫で整形。	吉井・藤 岡系
402-1 202	内黒土器 鉢	床直層 %残存	口 35.0 底 15.0 高 14.9	白色粒子(ハス) 白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	黒褐	紐作り後篋撫で整形。内・外面燻し処理、暗 文を施す。	月夜野系
402-2 220	羽 釜	カマド・ 掘り方内 %残存	口 23.0 最大径 26.1	黒色鉾物粒子 白色粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。	吉井系
402-3 220	土 師 器 不 詳	覆土内 破片	厚 1.2	黒色鉾物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り整形。片側の内面から粘土紐を押しつ ける。	吉井系
402-4 221	鉄 器 鍵 か	覆土内 一部欠損	重 (17.8)	—	—	—	93-4・5・6と同様の物と思われる。	
402-5 221	鉄 器 鍵 か	床直層 一部欠損	重 (45.6)	—	—	—	93-4・5・6、402-5と同様の物と思われ る。	
402-6 221	瓦 玉 緑 付 男 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	黄橙	半載作り。凸面縦位の撫で整形。玉縁部は横 位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り 1回。	笠懸系
403-1 221 瓦-370	瓦 男 瓦	床直層 %残存	幅 14.2 厚 2.3	白色鉾物粒子	還元焰	灰	半載作り。篋描き文字瓦「木」(凸面)、2ヶ 所有。凹面・凸面縦位の撫で整形。側部面取 り1回。	吉井系
403-2 221	瓦 男 瓦	カマド・ 掘り方内 %残存	長 41.0 狭端部13.8 幅 21.4	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 2回、端部面取り2回。	笠懸系
404-1 221	瓦 男 瓦	カマド内 %残存	長 39.4 狭端部11.0 幅 16.0	白色鉾物粒子 デイスait	酸化焰	鈍黄橙	半載作り。凹面布合せ目痕。凸面平行叩き後 縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取 り2回。	吉井系
404-2 222	瓦 男 瓦	カマド内 %残存	幅 17.0 厚 1.7	白色鉾物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 2回、端部面取り1回。	吉井系
405-1 221	瓦 玉 緑 付 男 瓦	カマド内	狭端部11.9 幅 10.0 厚 3.0	白色鉾物粒子 細礫粒	酸化焰	橙	半載作り。凸面縄叩き。側部面取り2回、端 部面取り2回。	吉井系
405-2 222	瓦 男 瓦	カマド内	幅 16.0 厚 1.6	白色鉾物粒子	酸化焰	鈍黄橙	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回。	吉井系
405-3 222 瓦-371	瓦 女 瓦	カマド内	厚 2.2	白色鉾物粒子 雲母	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面縦位の撫で整形。	吉井系
405-4 223	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色粒子 黒色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き。側部面取り2回、側 端部に布目有。	秋間系
406-1 222	瓦 女 瓦	カマド内 破片	幅 24.0 厚 2.9	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で。 側部面取り左4回・右3回。	吉井系
406-2 222	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で、 轆轤横撫で整形。端部面取り2回。	吉井系
406-3 222	瓦 女 瓦	カマド内 %残存	長 39.8 厚 1.9	白色鉾物粒子 デイスait	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位 の撫で整形。端部面取り2回。	吉井系

B区第39号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
407-1 223	土師質土 器 壺	床直層 破片	口 — 底 (7.4) 高 —	黒色鉾物粒子 白色粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	笠懸系か
408-1 223	土師質土 器 壺	床直層 %残存	口 — 底 8.0 高 —	白色粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
408-2 223	土師質土 器 埴	床直層 残存	口 — 底 7.7 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
408-3 223	須恵器 小型四耳 壺	覆土内 破片	口 9.0 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	肩部に耳を4ヶ所に張り付ける。耳は欠損する。	秋間系
408-4 223	須恵器 盤	床直層 破片	口 — 底 16.0 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
408-5 223	須恵器 甕	覆土内 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井・藤 岡系
408-6 223	羽 釜	床直層 破片	口 24.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。月夜野型羽釜。	月夜野系
408-7 223	土 釜	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 —	黒色鉱物粒子 砂粒	酸化焰	黄橙	紐作り整形。底部は篋撫で。	吉井・藤 岡系
408-8 223	石製品 土 垂	覆土内 破片	上面径 (4.0)	滑石	—	—	側面は多面整形により曲面を成形している。	
408-9 223	施釉陶器 灰釉段皿	覆土内 破片	—	密	良好	灰白	轆轤整形 (右回転)。内面に段を有する。	
408-10 223	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 残存	口 11.0 底 6.2 高 1.9	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
408-11 223	須恵器 大甕 転用硯	床直層 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。外面平行叩き後撫で整形。内面使用痕、磨滅している。体部片を利用し縁辺を隋円形状に整形する。	秋間系
409-1 223	須恵器 大甕 転用硯	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。内面叩きは青海波文。外面は縦位の撫で整形。内面はやや磨滅している。体部片を利用し縁辺を隋円形状に整形している。	乗附系か
409-2 223	石造品 不詳	覆土内 破片	重 825.6	二ツ岳軽石	—	—	国分二寺の堂宇の基壇化粧の羽目石が柄石の破片と考えられる。	
409-3 223	石製品 砥石	覆土内 残存	幅 8.9 長 7.3 重 2500.0	粗粒安山岩	—	—	4面共使用されている。特に図上左端側は研磨主体の刃部が大きく湾曲気味のものと思われる。	
409-4 223	礫 器 台石	床直層 残存	重 8400.0	アブライト	—	—	石材からすると、小鍛冶に共なる鍛造時の叩き台石と考えられる。	
409-5 223	礫 器 不詳	床直層 完存	長 3.5 幅 4.5 重 109.5	粗粒安山岩	—	—	全体に球形である。上面が磨滅する。	
409-6 223	礫 器 不詳	覆土内 完存	長 4.7 幅 3.6 重 81.1	粗粒安山岩	—	—	全体に球形である。上面が磨滅する。	
409-7 223	礫 器 不詳	覆土内 完存	長 3.9 幅 3.8 重 34.9	二ツ岳軽石	—	—	特別な使用痕は認められない。	
410-1 223	瓦 玉縁付 男瓦	覆土内 残存	厚 1.8	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	半載作り。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
410-2 224 瓦-372	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦「十」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
410-3 224	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面T字縄叩き(密)。側部面取り4回。	秋間系
410-4 224	瓦 女瓦	床直層 残存	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
410-5 224	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形。側部面取り4回、端部面取り2回。	吉井系

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
410-6 224	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鋳物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。轆轤横撫で整形。側面取り3回、端部取り2回。	笠懸系

## B区第40号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
412-1 224	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 12.8 底 — 高 —	白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部は篋削り、口縁は内外面横撫で、内面体部は撫で整形。外面の被熱による発泡が認められる。	
412-2 224	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	秋間系
412-3 224	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 8.9 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	秋間系
412-4 224	須 惠 器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	乗附系
412-5 224	石 造 品 支 脚	覆土内 破片	—	—	—	—	上端部のみ残存し、周縁は縦位の篋削りにより整形する。	
412-6 224	石 造 品 不 詳	床直層 残存	重 2800.0	二ツ岳軽石	—	—	国分二寺の堂宇の基壇化粧の羽目石か柄石の破片と考えられる。	
412-7 224	羽 口	覆土内 下半部残存	厚 1.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-8 224	羽 口	覆土内 破片	厚 2.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-9 224	羽 口	覆土内 破片	厚 2.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-10 224	羽 口	覆土内 破片	厚 1.9	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-11 224	羽 口	覆土内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-12 224	羽 口	覆土内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-13 224	ス ラ グ	—	—	—	—	—	下面側は炉床面から剥れている。	
412-14 224 瓦-448	瓦 鏡 瓦	床直層 残存	厚 2.9	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。笠懸の創得意匠。	笠懸系
413-1 225	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色粒子	中性焰	灰黄	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。側面取り2回、端部取り2回。	笠懸系
413-2 225	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形か。側面取り2回、端部取り1回。	吉井系
413-3 225	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色鋳物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り1回。	秋間系
413-4 225	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色鋳物粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き後撫で整形。	秋間系

## B区第41号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
414-1 225	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 6.4 高 —	白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	秋間系
414-2 225	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.8) 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	秋間系



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
414-3 225	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系か 乗附系
415-1 225	須恵器 高坏 脚部	覆土内 破片	口 — 底 10.8 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚部外面に絞りの痕跡が認められる。	乗附系
415-2 225	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は放射状)。	秋間系
415-3 225	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 2.0	白色粒子			一枚作り。凹面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り2回。	笠懸系
415-4 225	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子		灰	半載作り。凸面自然釉顕著。部分的に縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
415-5 225	瓦 男瓦	床直層 瓦残存	幅 12.3 厚 1.8	白色鉱物粒子		灰白	半載作り。凸面縄叩き(密)、轆轤横撫で整形。側部面取り3回。	吉井系

## B区第42号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
416-1 225	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
416-2 225	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.6) 底 — 高 —	デイサイト 白色微粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
416-3 225	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (11.0) 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
416-4 225	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.9	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は掻き目を施す。内面自然釉附着。	秋間系

## B区第44号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
417-1 226	土師器 坏	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	型作り整形。体部は篋削り整形。口縁部周縁に稜線を施す。	藤岡系
417-2 226	土師器 坏	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り整形。体部は篋削り整形。口縁部は短かく直立する。	
417-3 226	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (4.0) 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	還元焰	褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。体部下半は篋削り。	藤岡系
417-4 226	土師質土 器 壺	覆土内 瓦残存	口 — 底 6.4 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か 藤岡系
417-5 226	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 7.0 高 —	微粒状雲母 デイサイト	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
417-6 226	須恵器 蓋(摘部)	覆土内 破片	幅 4.0	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
417-7 226	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 (15.0) 高 —	黒色微粒子	酸化焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	秋間系
417-8 226	須恵器 盤	覆土内 破片	—	黒色粒子	酸化焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	秋間系
417-9 226	須恵器 甕	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。外面は掻き目を施す。	秋間系
417-10 226	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
417-11 226	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き後撫で整形。	笠懸系
417-12 226	瓦 女 瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.3	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。轆轤横撫で整形。側部面取り1回。	藤岡系
417-13 226	瓦 女 瓦	貯蔵穴内 破片	厚 1.2	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。	笠懸系
418-1 226	須 惠 器 大 甕	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後撫で整形(右回転)。	乗附系

B区第45号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
419-1 226	須 惠 器 甕	覆土内 破片	厚 0.9	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は篋撫で整形。	乗附系
419-2 226	須 惠 器 埴	床直層 1/2残存	口 15.0 底 6.9 高 5.8	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系
420-1 226	須 惠 器 甕	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)後轆轤再整形。内面は磨滅している。	吉井系
420-2 226	須 惠 器 甕	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)後轆轤再整形。内面は磨滅している。	乗附系
420-3	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回。端部面取り2回。	笠懸系
420-4 226	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	中性焰	黄灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系
420-5 226	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	褐	半截作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
420-6	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き後撫で轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
420-7	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・布目撫で消し。凸面縄叩き後撫で、轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	藤岡系
420-8 227	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 シルトブロック	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面布合わせ目痕、粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き。側部面取り1回。	秋間系
420-9 227	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面板目叩きか平行叩き後撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	秋間系
420-10 226	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	透明鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・布目撫で消し有。凸面縦位の撫で、轆轤横撫で整形。端部面取り2回。	笠懸系
420-11 227	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	褐灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系

C区4号井戸

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
422-1 227	土師質土 器 坏	埋土内 1/2残存	口 8.2 底 4.0 高 2.4	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系か
422-2 227	土師質土 器 坏	埋土内 破片	口 3.4 底 5.0 高 3.2	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か 藤岡系
422-3 227	土師質土 器 坏	埋土内 完形	口 9.7 底 5.2 高 3.1	白色粒子	中性焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。外面燻りを認める。	乗附系

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
422-4 227	土師質土器 坏	埋土内 1/2残存	口 9.8 底 5.0 高 3.4	微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
422-5 227	土師質土器 坏	埋土内 1/2残存	口 10.0 底 5.0 高 3.4	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
422-6 227	土師質土器 坏	埋土内 1/2残存	口 10.0 底 5.0 高 3.0	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か
422-7 227	土師質土器 坏	埋土内 破片	口 10.2 底 5.0 高 2.6	雲母 砂粒	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
422-8 227	土師質土器 坏	埋土内 1/2残存	口 10.2 底 5.0 高 3.2	黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
422-9 227	土師質土器 坏	埋土内 破片	口 10.4 底 5.0 高 3.5	黒色鉍物粒子	中性焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か
422-10 227	土師質土器 坏	埋土内 完形	口 10.6 底 9.0 高 2.6	微粒状雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
422-11 227	土師質土器 坏	埋土内 1/2残存	口 10.6 底 5.0 高 3.6	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系
422-12 227	土師質土器 坏	埋土内 1/2残存	口 11.0 底 5.0 高 3.5	白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系か
422-13 227	土師質土器 坏	埋土内 1/2残存	口 11.0 底 6.0 高 3.7	黒色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	浅黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か
422-14 227	土師質土器 坏	埋土内 1/2残存	口 11.1 底 5.5 高 3.2	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か 吉井・藤岡系
422-15 227	土師質土器 坏	埋土内 1/2残存	口 11.4 底 4.8 高 3.2	白色鉍物粒子 雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か
422-16 227	須恵器 坏	埋土内 1/2残存	口 12.0 底 7.0 高 3.3	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
422-17 227	須恵器 坏	埋土内 1/2残存	口 12.2 底 7.0 高 3.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
422-18 227	土師質土器 塊	埋土内 1/2残存	口 13.2 底 6.0 高 4.4	微粒状雲母 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系
422-19 227	土師質土器 塊	埋土内 1/2残存	口 10.0 底 6.0 高 4.1	赤褐色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か
422-20 227	土師質土器 塊	埋土内 1/2残存	口 10.0 底 6.0 高 4.9	黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
422-21 227	土師質土器 塊	埋土内 1/2残存	口 10.0 底 5.6 高 5.9	白色粒子	還元焰 気味	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。底部から高台にかけて有機質附着。	吉井・藤岡系
422-22 227	土師質土器 塊	埋土内 1/2残存	口 10.8 底 5.4 高 4.8	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
422-23 227	土師質土器 塊	埋土内 1/2残存	口 11.4 底 6.8 高 5.6	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
422-24 227	土師質土 器 塊	埋土内 1/2残存	口 11.8 底 6.0 高 5.4	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か 吉井・藤 岡系
423-1 227	土師質土 器 塊	埋土内 破片	口 13.8 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焙	灰黄褐	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	笠懸系か 吉井・藤 岡系
423-2 227	土師質土 器 塊	埋土内 1/2残存	口 13.9 底 7.4 高 5.7	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焙	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
423-3 227	内黒土器 塊	埋土内 ほぼ完形	口 14.0 底 5.4 高 7.2	黒色鉍物粒子 微粒状雲母 白色粒子	酸化焙	灰黄褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面燻し処理・ 暗文を施す。	吉井・藤 岡系
423-4 227	土師質土 器 塊	埋土内 破片	口 14.0 底 — 高 —	白色粒子	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	乗附系か
423-5 227	土師質土 器 塊	埋土内 破片	口 14.9 底 7.6 高 5.9	白色粒子	酸化焙	黄灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か
423-6 227	土師質土 器 塊	埋土内 1/2残存	口 15.0 底 9.6 高 6.0	白色微粒子	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か
423-7 228	土師質土 器 塊	埋土内 1/2残存	口 16.0 底 9.0 高 6.1	白色微粒子	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
423-8 228	土師質土 器 塊	埋土内 1/2残存	口 21.8 底 9.6 高 9.5	白色粒子	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内・外面有機質 附着。	吉井・藤 岡系
423-9 228	土師質土 器 塊	埋土内 破片	口 — 底 6.2 高 —	白色粒子	酸化焙	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
423-10 228	土師質土 器 塊	埋土内 1/2残存	口 — 底 8.4 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焙	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。高台内面有機質 附着。外面燻し処理を施す。	藤岡系
423-11 228	須 恵 器 塊	埋土内 1/2残存	口 — 底 8.6 高 —	黒色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。高台内面有機質 附着。外面燻し処理を施す。	秋間系
423-12 228	土師質土器 足高高台付塊 脚 部	埋土内 台部残存	口 — 底 10.8 高 —	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤 岡系
423-13 228	土師質土器 足高高台付塊 脚 部	埋土内 台部残存	口 — 底 11.0 高 —	白色鉍物粒子	酸化焙	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。	乗附系か
423-14 228	土師質土器 足高高台付塊 脚 部	埋土内 台部残存	—	白色粒子	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤 岡系
423-15 228	土師質土器 足高高台付塊 脚 部	埋土内 破片	—	透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焙	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
423-16 228	土師質土器 足高高台付塊 脚 部	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子	酸化焙	黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か
423-17 228	須 恵 器 足高高台付塊 脚 部	埋土内 破片	—	黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焙	褐灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。比重は非常に少 ない。	乗附系か
423-18 228	須 恵 器 足高高台付塊 脚 部	埋土内 破片	—	黒色鉍物粒子 雲母	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
423-19 228	須 恵 器 塊	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 微粒状雲母	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	不詳

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
424-1 228	須恵器 蓋	埋土内 1/2残存	摘底 — 高 9.2 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
424-2 228	土師器 鉢	埋土内 破片	口底 19.0 — 高 —	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤岡系
424-3 228	土師器 深鉢	埋土内 破片	口底 15.0 — 高 —	白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	藤岡系
424-4 228	土師器 土釜	埋土内 破片	—	雲母 砂粒	酸化焰	鈍橙	紐作り後体部篋撫で。	吉井系
424-5 228	須恵器 長頸壺	埋土内 破片	口底 14.0 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面自然粘附着。	秋間系
424-6 228	須恵器 広口壺	埋土内 破片	口底 16.6 — 高 —	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部はひどく外反する。	乗附系
424-7 228	須恵器 壺	埋土内 破片	口底 20.0 — 高 —	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	黒灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
424-8 228	須恵器 壺	埋土内 破片	口底 — 18.0 高 —	黒色鉍物粒子	還元焰	褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	乗附系
424-9 228	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は平坦で口唇直下に突帯を廻らす。7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系 115-3と 同一個体
424-10 228	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	秋間系か 乗附系
424-11 228	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗褐灰	紐作り整形。内面は磨滅している。	秋間系か 乗附系
424-12 228	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	乗附系
424-13 229	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	乗附系
424-14 229	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	乗附系
424-15 229	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	黒褐	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面は磨滅する。	乗附系
424-16 229	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面は磨滅する。	乗附系
424-17 229	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	暗灰黄	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面は磨滅する。	吉井・藤岡系
425-1 229	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面は磨滅する。	乗附系
425-2 229	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面は磨滅する。	乗附系か
425-3 230	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系
425-4 230	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	秋間系
425-5 229	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	吉井系
425-6 229	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	乗附系
425-7 230	須恵器 鉢	埋土内 破片	口底 22.0 — 高 —	白色微粒子 白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面はさらに篋削り調整。	藤岡系
425-8 230	須恵器 片口鉢	埋土内 破片	—	白色微粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁を外方に摘み出している。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
425-9 230	須恵器 甗	埋土内 破片	頸部 14.6	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁を外方に摘み出している。	吉井系
426-1 230	羽 釜	埋土内 破片	—	黒色粒子 白色粒子	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。器厚は薄く小さい。吉井型羽釜。	吉井系
426-2 230	羽 釜	埋土内 破片	口底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	褐灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井・藤岡系
426-3 230	羽 釜	埋土内 破片	口底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
426-4 230	羽 釜	埋土内 破片	口底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
426-5 230	羽 釜	埋土内 破片	口底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	黒褐	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
426-6 230	羽 釜	埋土内 破片	口底 — 高 —	白色鉍物粒子 白色粒子 デイスait	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
426-7 230	施釉陶器 灰釉段皿	埋土内 破片	口底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。	
426-8 230	施釉陶器 灰釉皿	埋土内 破片	口底 6.2 高 2.5	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-9 230	施釉陶器 灰釉皿	埋土内 破片	口底 (6.2) 高 2.3	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-10 230	施釉陶器 灰釉皿	埋土内 1/2残存	口底 7.1 高 3.2	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-11 230	施釉陶器 灰釉段皿	埋土内 1/2残存	口底 7.2 高 2.2	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
436-12 230	施釉陶器 灰釉碗	埋土内 1/2残存	口底 6.3 高 4.0	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	
426-13 230	施釉陶器 灰釉碗	埋土内 1/2残存	口底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛け。	
426-14 230	施釉陶器 灰釉碗	埋土内 1/2残存	口底 8.6 高 6.6	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-15 230	施釉陶器 灰釉碗	埋土内 破片	口底 4.7 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-16 230	施釉陶器 長頸瓶	埋土内 破片	口底 — 高 —	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
426-17 231	施釉陶器 瓶	埋土内 破片	—	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
427-1 231	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。内面は磨滅している。	吉井・藤岡系か
427-2 231	須恵器 大甕 転用硯	埋土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面格子叩きか・内面宛具は素文)。周縁部を磨き、矩形状に成形している。	乗附系か
427-3 231	須恵器 大甕 転用硯	埋土内 破片	—	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。矩形状に成形し隅部を丸く打ち欠いている。	乗附系か

## C区(4号井戸)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
427-4 231	瓦 瓦製円盤	埋土内 破片	厚 2.2	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	女瓦を転用する。詳細不詳。周辺全体を四角く成形している。	吉井・藤岡系
427-5 231 瓦-417	瓦 鏡瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子 黒色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。外区は重圏、内区中房の子葉は1+5。男瓦部は半截作りか。接合はA類。	笠懸系
427-6 231 瓦-418	瓦 鏡瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。外区は素文。男瓦部は不詳。	笠懸系
427-7 231 瓦-414	瓦 鏡瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦当接合部は芋付。同範。	吉井系
427-8 231 瓦-416	瓦 鏡瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色鉍物粒子 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦当接合部は芋付。同範。	吉井系 427-9と 同一個体
427-9 231 瓦-415	瓦 鏡瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦当接合部は芋付。同範。	吉井系 427-8と 同一個体
427-10 231 瓦-419	瓦 鏡瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦部は欠損。	吉井系
427-11 231	瓦 鏡瓦	埋土内 破片	厚 1.5	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当部欠損。男瓦部は半截作り。凸面縦位の篋撫で後不定方向の撫で整形。	乗附系
427-12 232 瓦-497	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色粒子	還元焰	暗灰褐	瓦当意匠は重弧文。肉置は浅い。女瓦部は桶巻き造り。凹面模骨痕、布目擦り消し。凸面は平行叩き。	乗附系
428-1 231 瓦-494	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 3.2	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は重弧文。肉置は浅い。女瓦部は桶巻き造り。凹面模骨痕、布目擦り消し。凸面は平行叩き。	乗附系
428-2 232 瓦-568	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 2.8	黒色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は描象文。接合図は刊末に掲載。428-10(瓦-486)・478-20(瓦-519)と接合。	秋間系 瓦-493
428-3 232 瓦-495	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 2.9	白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は重弧文。女瓦部は桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面指撫で整形。側部面取り3回。	乗附系
428-4 232 瓦-496	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は重弧文。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面指撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
428-5 232 瓦-491	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。国分寺創建統一意匠。顎は曲線顎。女瓦部は一枚作りか。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き。	笠懸系
428-6 232 瓦-490	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 3.5	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	瓦当意匠は右扁行唐草文。意匠は小振りて上部周縁部は幅が広い。	吉井系
428-7 233 瓦-567	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。女瓦部は一枚作りか。凸面撫で整形。273-1(瓦-483)と接合。	吉井系 瓦-487
428-8 232 瓦-498	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。女瓦部は一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。瓦当部は印籠付。顎は段顎。	吉井系
428-9 233 瓦-489	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。女瓦部は一枚作りか。瓦当部は印籠付。女瓦部凸面縄叩き(密)後撫で整形、外面自然釉附着。	吉井系
428-10 233 瓦-568	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 4.2	黒色粒子	還元焰	暗灰	428-2と同文。428-2(瓦-493)・478-20(瓦-519)と接合。	秋間系 瓦-486
428-11 233 瓦-492	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は不詳(素文か)。女瓦部作りは不詳。凸面赤色顔料痕有。	笠懸系か
429-1 233 瓦-488	瓦 字瓦	埋土内 破片	厚 2.2	赤褐色粒子	中性焰	灰黄	瓦当意匠は綾杉文。女瓦部は一枚作りか。瓦当部は印籠付。顎は段顎。女瓦部凹面、粘土板剥ぎ取り痕。凸面篋撫で。	秋間系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
429-2 233	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回。	笠懸系
429-3 233	瓦 玉縁付 男 瓦	埋土内 破片	厚 3.0	白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。自然釉附着。側部面取り3回。	乗附系
429-4 233 瓦-247	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
429-5 234 瓦-231	瓦 男 瓦	埋土内 破片	広 幅 20.0 厚 18.3 2.0	白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。篋描き文字瓦「十」(凹面)。凸面縦位の撫で整形。凹面広端部に布のかたまりによる凹み有。側部・端部面取り2回。	吉井系
430-1 234 瓦-232	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦「牛」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部・端部面取り3回。	吉井系
430-2 233 瓦-241	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦「夫」(凸面)。凹面布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
430-3 234	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色粒子 赤褐色粒子 白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面縄叩き後横位の撫で整形。	吉井系
430-4 234	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き(密)後横位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	秋間系
430-5 234	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凹面縦位の布目撫で消し。凸面正格子叩き(密)。	
430-6 234	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面平行叩き。	乗附系
430-7 234	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	赤褐色	半截作り。凹面布合せ目痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面平行叩き。側部面取り2回、端部面取り2回。	秋間系
430-8 234	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。凸面平行叩き。側部面取り1回。	乗附系
430-9 234	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回。	笠懸系
430-10 235	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	笠懸系
431-1 234	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	紐作り。凹面横位の撫で後縦位の撫で整形。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	乗附系
431-2 234	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。粘土板接合痕はZ。	乗附系
431-3 235	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面横位の撫で整形。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
431-4 235	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 2.8	黒色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。自然釉附着。側部面取り3回、端部面取り2回。粘土板接合痕はZ。	乗附系か 月夜野系
431-5 235	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布合せ目痕。凸面縦位の撫で整形。側部未調整。	笠懸系
431-6 235	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凹面布目撫で消し。側部面取り2回。	藤岡系
431-7 235	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面正格子叩き(密)。側部面取り2回。紐作りの可能性有。	秋間系か 笠懸系
431-8 235	瓦 男 瓦	埋土内 破片	幅 20.4 厚 1.8	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面縦位の撫で整形。凹面指撫で。側部面取り3回。	吉井系
431-9 235	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の篋撫で整形。凹面布合せ目痕。側部面取り1回。	吉井・藤岡系
432-1 235	瓦 男 瓦	埋土内 破片	幅 15.5 厚 2.0	白色鉍物粒子	酸化焰 (二次焼成)	鈍橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
432-2 235	瓦 男 瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き(密)後横撫で整形。	乗附系



## C区(4号井戸)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
432-3 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系
432-4 235 瓦-237	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉾物粒子	還元焰	灰	作り不詳。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
432-5 235 瓦-240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「工」か(凸面)。凸面粘土板剥ぎ取り痕、不定方向の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
432-6 236	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「一」か(凹面)。文字でない可能性が強い篋傷か。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
432-7 235 瓦-246	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。篋記号瓦意味不詳(凸面)。側部面取り2回。	吉井系
432-8 236 瓦-248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面自然粘附着。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
432-9 236 瓦-244	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凹面布目擦り消し。凸面縦位の撫で整形。	乗附系
432-10 236 瓦-239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。篋描き文字瓦「千」(凸面)。凸面木目叩き。	吉井系
432-11 236 瓦-245	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 3.0	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
432-12 236 瓦-251	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦か。判読不能(凹面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
432-13 236 瓦-257	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.7	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「家成」(凸面)。「家成」は多胡郡司石上家成か。	吉井系
432-14 236 瓦-249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。篋描き文字瓦か。判読不能(凸面)。側部面取り2回。	吉井系
433-1 236 瓦-242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	吉井系
433-2 236 瓦-250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
433-3 236 瓦-238	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「□工」か(凸面)。凸面縦位の篋削り後縦位の撫で整形。端部面取り1回。	吉井系
433-4 236 瓦-252	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	乗附系
433-5 236 瓦-233	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「生」(凸面)。凸面不定方向の撫で整形。	吉井系
433-6 236 瓦-235	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「手」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
433-7 236 瓦-243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。篋描き文字瓦「十」か(凹面)。凹面模骨痕・布合わせ目痕有。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
433-8 236	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	白色鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「大」か(凸面)。側部喰出段有。凸面縄叩き(密)。側部面取り1回。	秋間系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
433-9 237 瓦-234	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「十」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不定方向の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
433-10 237 瓦-236	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「衣」か(凸面)。凸面不定方向の撫で整形。	吉井系
434-1 237 瓦-258	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	半截作り。篋描き文字瓦「羊神人宿子稻鷹」(凸面)。「羊」は辛か。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系 440-10と 同一個体
434-2 237 瓦-259	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。側部面取り2回、端部面取り3回。	乗附系
434-3 237 瓦-254	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「藪田」(凸面)。凹面水を多く使った手撫で。粘土板接合痕はZ。	笠懸系
434-4 237 瓦-255	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「不詳」(凸面)。凹面布目撫で消し。	笠懸系
434-5 237 瓦-256	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「當」(凸面)。側部面取り1回。	吉井系
434-6 237 瓦-253	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「當」(凹面)。凸面撫で整形。側部面取り3回。	笠懸系
434-7 237 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	橙褐	一枚作り。刻印文字瓦「勢」(凸面)。凸面縄叩き側部面取り2回。	笠懸系
434-8 237 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面離砂痕。凸面縄叩き(密)・離砂痕・縄消し有。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
434-9 237 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。	吉井系
434-10 237 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き。離砂痕有。	秋間系
434-11 237 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系
434-12 237 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き・離砂痕有。側部面取り1回、端部面取り2回。	秋間系
435-1 237 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤整形後縄叩き(密)。側部面取り2回、端部面取り3回。粘土板接合痕はS。	笠懸系か 吉井系
435-2 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	黒色粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。側部剥ぎ出し段有。凸面縄叩き(密)・離砂痕有。側部面取り2回。	秋間系
435-3 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤整形後縄叩き(密)。粘土板接合痕はZ。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
435-4 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 細礫	中性焰	灰黄	一枚作りか。凸面縄叩き(密)。	秋間系
435-5 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.7	白色微粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤整形後縄叩き(密)。側部面取り3回。	藤岡系
435-6 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。粘土板接合痕はZ。	吉井系
435-7 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)・離砂痕有。粘土板接合痕はZ。側部面取り3回。	秋間系
435-8 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕・横位の撫で整形。凸面轆轤整形後縄叩き(密)。端部面取り2回。	吉井系
435-9 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凹面模骨痕・布目を強い篋撫でで消す。凸面轆轤整形後縄叩き(密)。	吉井系

## C区(4号井戸)

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
435-10 238	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面模骨痕粘土板剥ぎ取り痕・布目擦り消し・離砂痕有。凸面縄叩き(密)・離砂痕有。	秋間系
436-1 238	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鈳物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面木目叩き後縄叩き。側部面取り2回。	笠懸系
436-2 238	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.1	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	紐作り。凹面紐作り痕・薦目痕有。凸面縄叩き(単)全面。側部面取り1回。	中之条系か
436-3 238	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形後縄叩き(密)。側部面取り3回。	笠懸系
436-4 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.7	白色鈳物粒子 黒色鈳物粒子	酸化焰 か	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)後轆轤再整形。粘土板接合痕はZ。	吉井系
436-5 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.0	デイスait 白色鈳物粒子	酸化焰 か	浅黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕・布目擦り消し。凸面縄叩き(密)後轆轤再整形。側部面取り2回。	乗附系
436-6 238	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
436-7 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色鈳物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後轆轤再整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
436-8 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.5	雲母 黒色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。粘土板接合痕はZ。側部面取り3回。	
436-9 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.4				桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形後縄叩き(密)。	乗附系
436-10 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)・ループ状の縄の端部の圧痕有。	秋間系
437-1 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き(密)・粘土板剥ぎ取り痕有。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
437-2 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し・粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き・粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	笠懸系
437-3 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色粒子 白色鈳物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面正格子叩き。側部面取り2回。	笠懸系
437-4 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色粒子 白色鈳物粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面正格子叩き全面。端部面取り1回。胎土の比重は重い。	乗附系か 秋間系
437-5 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面正格子叩き全面。端部面取り1回。胎土の比重は重い。	乗附系か 秋間系
437-6 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目擦り消し・粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き・粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	笠懸系
437-7 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 3.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き。側部面取り2回。	笠懸系
437-8 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	黒褐	一枚作り。凹面布目擦り消し・粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き・粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
437-9 240	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	黒褐	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。側部面取り1回。	笠懸系
437-10 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面正格子叩き(全面)。端部面取り1回。胎土の比重は重い。	秋間系
437-11 239	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
437-12 240	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目擦り消し・粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き・粘土板剥ぎ取り痕。	秋間系
437-13 240	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面横位の布目撫で消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
437-14 240	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面正格子叩き(全面)。端部面取り1回。胎土の比重が重い。	秋間系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
437-15 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
437-16 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
438-1 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
438-2 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。側部面取り2回。	笠懸系
438-3 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。側部面取り2回。	笠懸系
438-4 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	橙褐	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
438-5 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
438-6 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰褐	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
438-7 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。側部面取り2回。	笠懸系
438-8 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面平行叩き。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
438-9 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 デイスайт	中性焰	灰黄	桶巻き造り。凸面平行叩き。粘土板接合痕有。	吉井系
438-10 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子 デイスайт	還元焰	灰	桶巻き造り。凸面平行叩き。粘土板接合痕有。側部面取り2回。	吉井系
439-1 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	中性焰 (二次焼成)	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面平行叩き。側部面取り1回、端部面取り1回。粘土板接合痕はS。	吉井系 439-5と 同一個体
439-2 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.7	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面平行叩き(密)。側部面取り1回。	乗附系か
439-3 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造りか。凸面平行叩き。側部面取り2回。	秋間系
439-4 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.6	黒色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤整形後、縄叩き(密)。側部面取り3回。	乗附系
439-5 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	中性焰 (二次焼成)	鈍黄橙	439-1と同文。	乗附系 439-1と 同一個体
439-6 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。端部面取り2回。	吉井系
439-7 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	酸化焰 か	橙	一枚作りか。凸面縦位の篋削り後木目叩き。側部面取り1回。	吉井系
439-8 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	橙褐	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面板目叩き。側部面取り2回。	笠懸系
439-9 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縦位の篋撫で。端部面取り1回。	笠懸系
439-10 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面木目叩き後撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。452-5・7と同一個体	笠懸系
439-11 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で整形。	吉井系
440-1 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
440-2 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で整形。	吉井系
440-3 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回。	笠懸系
440-4 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
440-5 241	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
440-6 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色微粒子 白色鉍物粒子	酸化焰 か	鈍黄橙	桶巻き造りか。凹面布合せ目痕。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系

## B区(1号井戸跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
440-7 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	中性焰	黄褐	桶巻き造り。凹面模骨痕・布目擦り消し有。凸面轆轤横撫で後縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	秋間系
440-8 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で整形。端部面取り3回。	乗附系か 吉井系
440-9 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕か・薦目有。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
440-10	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.8	黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系 434-1と 同一個体
440-11 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き(密)。	乗附系
440-12 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布端部圧痕有。凸面平行叩き・側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
441-1 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で整形。粘土板接合痕。	吉井系
441-2 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	中性焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後轆轤再整形。側部面取り2回。	吉井系
441-3 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰褐	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不定方向の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
441-4 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	幅 27.4 厚 2.1	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤痕。側部面取り3回、端部面取り3回。粘土板接合痕はS。	吉井系
441-5 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布合わせ目痕2ヶ所有。凸面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
442-1 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	紐作り。凹面に紐作り痕を残し、撫で整形。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
442-2 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤痕・粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
442-3 243	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	半載作り。凹面布合わせ目痕。凸面轆轤痕。側部面取り1回。	吉井・藤 岡系
442-4 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井・藤 岡系
442-5 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 3.5	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面木目叩き後撫で整形。端部面取り2回。	吉井・藤 岡系
442-6 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 4.4	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回。	吉井系
442-7 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤痕。側部面取り2回。	笠懸系

## B区第1号井戸跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
443-1 244	須恵器 坏	埋土内下層 完形	口 13.2 底 6.5 高 4.1	白色粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。外面体部に「法花寺」を墨書する。	藤岡系
444-1 244	土師器 坏	埋土内 破片	口 12.0 底 — 高 3.6	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部は篋削り。口縁は内外面横撫で、内外面体部・底部は撫で整形。体部に甘い型膚を残す。	藤岡系
444-2 244	土師器 坏	埋土内 完形	口 12.0 底 — 高 3.6	微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部は篋削り。口縁は内外面横撫で、内外面体部・底部は撫で整形。体部に甘い型膚を残す。	藤岡系
444-3 244	須恵器 坏	埋土内 %残存	口 12.4 底 6.4 高 4.0	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
444-4 244	須恵器 坏	埋土内 1/2残存	口 (12.6) 底 6.9 高 3.0	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	
444-5 244	須恵器 坏	埋土内 1/2残存	口 (14.0) 底 (7.5) 高 3.7	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
444-6 244	須恵器 坏	埋土内 1/2残存	口 — 底 (8.0) 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
444-7 244	須恵器 坏	埋土内 1/2残存	口 — 底 6.8 高 —	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
444-8 244	須恵器 埴	埋土内 1/2残存	口 — 底 7.3 高 —	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
444-9 244	須恵器 埴	埋土内 破片	口 — 底 8.5 高 —	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
444-10 244	須恵器 埴	埋土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
444-11 244	須恵器 埴	埋土内 破片	口 15.0 底 — 高 —	白色鉍物粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
444-12 244	須恵器 埴	埋土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系か 笠懸系
444-13 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 11.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	赤褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
444-14 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 20.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
444-15 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 20.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
444-16 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 20.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
444-17 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 21.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
444-18 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 22.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
445-1 245	土師器 甕	埋土内 ほぼ完形	口 20.3 底 3.4 高 26.1	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
445-2 245	土師器 甕	埋土内 ほぼ完形	口 19.8 底 5.2 高 28.0	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
445-3 246	土師器 甕	埋土内 破片	口 — 底 3.6 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
445-4 246	土師器 甕	埋土内 破片	口 — 底 3.7 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
446-1 245	土師器 甕	埋土内 ほぼ完形	口 20.1 底 4.5 高 27.5	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系

## B区(1号井戸跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
446-2 245	土師器 甕	埋土内 ほぼ完形	口 21.0 底 4.0 高 28.1	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篔削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篔撫で。	
446-3 246	土師器 甕	埋土内 %残存	底 3.0 最大径 22.3	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篔削り、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
446-4 246	土師器 甕	埋土内 %残存	口 20.0 最大径 21.6	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篔削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篔撫で。	
447-1 246	土師器 甕	埋土内 破片	底 4.4 最大径 25.3	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篔削り、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
447-2	土師器 甕	埋土内 破片	底 4.3 最大径 22.0	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篔削り、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
447-3 246	土師器 甕	埋土内 破片	口 — 底 3.6 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篔削り、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
447-4 246	土師器 甕	埋土内 破片	口 — 底 3.6 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篔削り、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
447-5 246	土師器 甕	埋土内 破片	口 — 底 3.8 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篔削り、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
447-6 246	土師器 甕	埋土内 破片	口 — 底 3.8 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篔削り、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
447-7 246	土師器 甕	埋土内 破片	口 — 底 4.0 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篔削り、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
447-8 247	土師器 台付甕	埋土内 破片	—	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篔削り、内面胴部は篔撫で。	藤岡系
447-9 247	須恵器 壺	埋土内 %残存	底 9.0 最大径 17.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。肩部上半欠損。	吉井系
448-1 247	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	乗附系
448-2 247	須恵器 甕	埋土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	乗附系
448-3 247	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
448-4 247	須恵器 大甕 転用硯	埋土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。内面は磨減顕著。	秋間系
448-5 247	礫 器 不詳	埋土内 完存	長 11.8 幅 9.5 重 97.5	—	—	—	特別な使用痕は認められない。	
448-6 247	礫 器 不詳	埋土内 完存	長 14.9 幅 10.0 重 235.4	—	—	—	平坦面が磨減する。	
448-7 247	礫 器 不詳	埋土内 完存	長 18.0 幅 7.9 重 410.5	—	—	—	平坦面が磨減する。	
448-8 247 瓦-449	瓦 鏡瓦	埋土内 %残存	厚 3.3	透明鉱物粒子 ダイサイト	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦部は欠損。	藤岡系
448-9 247 瓦-450	瓦 鏡瓦	埋土内 細片	厚 1.0	ダイサイト 白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	大半の瓦当面及び男瓦部を欠損している。瓦当意匠は単弁4葉蓮華文か。	笠懸系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
448-10 247 瓦-535	瓦 字瓦	埋土内 細片	厚 3.8	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は描象文。瓦当面の大半、男瓦部は欠損。	秋間系
448-11 247	瓦 玉縁付 男瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り3回。	秋間系
448-12 247	瓦 玉縁付 男瓦	埋土内 破片	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縄叩き後轆轤横撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
449-1 248	瓦 男瓦	埋土内 %残存	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で。側部面取り3回、端部面取り2回。	秋間系
449-2 247	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
449-3 247	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き後撫で消し。側部面取り3回。	吉井系
449-4 248	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.9	黒色粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き後撫で整形。粘土板接合痕。	秋間系
449-5 247	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き後撫で整形。	吉井系
449-6 247	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面木目叩きか、後撫で消し。側部面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系
449-7 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布目撫で消し。凸面縄叩き、自然釉附着。端部面取り3回。	秋間系か 藤岡系
450-1 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き撫で整形。	乗附系
450-2 247	瓦 女瓦	埋土内 細片	厚 1.2	赤色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縄叩き、離砂痕有。	乗附系か 秋間系
450-3 248	瓦 女瓦	埋土内 細片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子 シルト粒	還元焰	白灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
450-4 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕、横位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	藤岡系
450-5	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不定方向の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
450-6	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	赤色粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
450-7 248	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 角砂粒	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
451-1 248 瓦-374	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り2回。	吉井系
451-2 249 瓦-375	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「生」か「玉」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
451-3 248	瓦 女瓦	埋土内 %残存	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面墨書有「緑」。凹面・凸面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
451-4 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面指頭圧痕。凸面縄叩き後撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
451-5 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・布合わせ目・布目撫で消し有。側部面取り2回、端部面取り3回。	笠懸系
451-6 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。側部面取り3回。	吉井系
451-7 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き後撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系



## B区土坑群

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
452-1 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面正格子叩き後縦位の撫で整形。側部面取り2回。	秋間系
452-2 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。	秋間系
452-3 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き、縦位の撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系
452-4 249	瓦 女瓦	埋土内 %残存	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。	吉井系
452-5 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面平行叩き。側部面取り2回。439-10と同一個体	秋間系
452-6 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き、縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系
452-7 249	瓦 女瓦	埋土内 %残存	厚 2.6	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系 439-10と 同一個体
453-1 250	瓦 女瓦	埋土内 %残存	厚 2.4	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布合わせ目痕。凸面縦位の撫で整形。	乗附系
453-2 250	瓦 女瓦	埋土内 %残存	厚 2.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
453-3 250	瓦 女瓦	埋土内 %残存	厚 2.1	デイスait	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布合わせ目痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	藤岡系
453-4 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回、端部面取り2回。	吉井系
454-1 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
454-2 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
454-3 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
454-4 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤痕。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
454-5 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色粒子 黒色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き後撫で整形。	笠懸系
454-6 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縄叩き後撫で整形。	笠懸系

## B区土坑群

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
455-1 251	須恵器 埴	B区43土坑 覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 —	白色微粒子	中性焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	乗附系
455-2 251	須恵器 坏	B区43土坑 覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
455-3 251	須恵器 蓋	B区43土坑 覆土内 破片	径 (9.0) 底 (7.8) 高 —	白色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。天上は手持篋削り、摘は不詳。	秋間系
455-4 251	羽釜	B区43土坑 覆土内 破片	最大径 21.8	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。罫は張り付け。吉井型羽釜。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
455-5 251	土師器 坏	B区45土坑 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁は内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
455-6 251	土師器 坏	B区45土坑 覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り。底部・体部は篋削り、口縁内、外面は横撫で。口縁部は外反する。	藤岡系か
455-7 251	須恵器 坏か	B区45土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
455-8 251	須恵器 塊	B区45土坑 覆土内 破片	口 — 底 (9.5) 高 —	白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系
456-1 251	須恵器 蓋	B区45土坑 覆土内 破片	口 (18.5) 摘 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。端部は短かく摘み出している。	秋間系
456-2 251	須恵器 甕	B区45土坑 覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
456-3 251	須恵器 甕	B区45土坑 覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系か
456-4 251	石製品 砥石	B区45土坑 覆土内 %残存	幅 3.8 厚 3.6 重 187.1	流紋岩 (砥沢石)	—	—	中央部に向い使い減っている。手持砥。側面に孔を有する。	
456-5 251	瓦 女瓦	B区45土坑 覆土内 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き (密)。側部面取り 2 回。	藤岡系か 笠懸系
456-6 252	瓦 女瓦	B区45土坑 覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子 雲母	中性焰	黄灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 1 回、端部面取り 1 回。	笠懸系か
456-7 252	土師器 坏	B区46土坑 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
456-8 252	須恵器 蓋	B区46土坑 覆土内 破片	口 13.1 摘 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。受部は折り返し。	秋間系
456-9 252	須恵器 蓋	B区46土坑 覆土内 破片	口 13.4 摘 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。受部は折り返し。	秋間系
456-10 252	須恵器 蓋	B区46土坑 覆土内 破片	口 15.7 摘 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
456-11 252	土師器 甕	B区46土坑 覆土内 破片	口 17.0 底 — 高 —	微粒状雲母 デイスait 赤色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井・藤岡系
456-12 252	須恵器 甕	B区46土坑 覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
456-13 252	羽釜	B区46土坑 覆土内 破片	口 20.0 最大径 22.5	黒色鉱物粒子 砂礫粒	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形 (右回転)。鏝は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井・藤岡系か
456-14 252	施釉陶器 灰釉碗	B区46土坑 覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	吉井系
456-15 252	土師器 土釜	B区54土坑 覆土内 破片	—	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。外面縦位の撫で整形。内面横位の撫で整形。	吉井系
456-16 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 %残存	口 11.0 底 — 高 3.7	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系

## B区土坑群

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
456-17 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	藤岡系
456-18 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 1/2残存	口 11.2 底 — 高 3.3	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
456-19 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (3.4)	白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
456-20 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
456-21 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 1/2残存	口 13.4 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
456-22 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 1/2残存	口 (13.8) 底 — 高 (4.0)	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	藤岡系
456-23 252	須恵器 蓋	B区土坑群 覆土内 破片	口 10.0 口高 — 底高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。受部は折り返し。	乗附系
456-24 252	土師器 甕	B区土坑群 覆土内 破片	口 (10.6) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系か
456-25 252	土師器 甕	B区土坑群 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
457-1 252	須恵器 壺	B区土坑群 覆土内 1/2残存	口 (15.4) 底 5.8 高 8.0	白色微粒子 黒色鈹物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
457-2 252	土師質土 器 壺	B区土坑群 覆土内 破片	口 — 底 7.6 高 —	微粒状雲母	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。外面底部に暗文を施す。	秋間系
457-3 252	須恵器 盤	B区土坑群 覆土内 破片	口 (26.0) 底 (18.9) 高 (3.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
457-4 252	須恵器 盤	B区土坑群 覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
457-5 252	須恵器 壺	B区土坑群 覆土内 破片	口 — 底 9.3 高 —	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
457-6 253	須恵器 鉢	B区土坑群 覆土内 破片	口 — 底 6.0 高 —	白色微粒子	還元焰	灰白	底部・体部下半は篋削り。	秋間系
457-7 252	須恵器 甕	B区土坑群 覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
457-8 252	須恵器 甕	B区土坑群 覆土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
457-9 253	須恵器 鉢	B区土坑群 覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
457-10 253	石製品 砥石	B区土坑群 覆土内 破片	重 342.2	粗粒安山岩	—	—	各面の角度は130°~140°程で、全体が多面体だったと思われる。砥面の横断面は弧を描いており、研磨主体の刃部が弧を呈していると思われる。	
457-11 253	礫 器 不詳	B区土坑群 覆土内 一部欠損	長 11.5 厚 3.3 重 403.8	桂質頁岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 器 別 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形・技 法等の 特徴	備 考
457-12 253	礫 不 詳	B区土坑群 覆土内 一部欠損	重 626.1	桂質頁岩	—	—	平坦面が磨滅する。	
457-13 253	羽 口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 3.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	
457-14 253	羽 口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 2.6	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	
458-1 253	羽 口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 3.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
458-2 253	羽 口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 2.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
458-3 253	羽 口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 3.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
458-4 253	羽 口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 2.4	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	
458-5 253 瓦-453	瓦 鏡 瓦	B区土坑群 覆土内 完形	厚 1.4 径 16.1	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は復弁7葉蓮華文で復弁7葉が描象化されたもので弁間に間弁を配する。中房子葉は1+6。外区は6ヶ所の珠文帯を配する。	秋間系
458-6 253	瓦 男 瓦	B区土坑群 覆土内 欠残存	厚 2.3	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面正格子叩き後縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	秋間系
458-7 253	瓦 男 瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
458-8 254	瓦 女 瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
459-1 254 瓦-452	瓦 鏡 瓦	B区土坑群 覆土内 完形	厚 3.8 径 18.0	赤褐色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は環状子葉。間弁を配する。	笠懸系
459-2 254	瓦 男 瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	吉井系
459-3 254	瓦 男 瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	笠懸系
459-4 254	瓦 男 瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凹面・凸面横位の撫で整形。端部面取り3回。	乗附系
459-5 254	瓦 男 瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面布合わせ目痕。凸面轆轤横撫で整形。	笠懸系
460-1 254	瓦 女 瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き後撫で整形。端部面取り2回。	笠懸系
460-2 254	瓦 女 瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 デイスait シルト粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面平行叩き。側部面取り1回。	乗附系
460-3 254	瓦 女 瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の手撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系

## C区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
463-1 254	土師質土 器 カワラケ	C区13土坑 覆土内 %残存	口 12.1 底 6.7 高 3.2	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(左回転)。底部は回転糸切り。	15世紀前半
463-2	須恵器 壺	C区17土坑 覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系か
463-3	須恵器 壺	C区17土坑 覆土内 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	鈍褐	轆轤成形(右回転)。二次焼成の高温被熱により融変・発泡している。	乗附系か
463-4	須恵器 壺	C区17土坑 覆土内 破片	口 — 底 6.9 高 —	白色鉱物粒子	還元焰	暗褐	轆轤成形(右回転)。二次焼成の高温被熱により融変・発泡している。	乗附系か
463-5 254	須恵器 壺	C区17土坑 覆土内 破片	口 — 底 9.6 高 —	白色鉱物粒子	還元焰	暗褐	轆轤成形(右回転)。二次焼成の高温被熱により融変・発泡している。	乗附系か
463-6	須恵器 壺	C区17土坑 覆土内 破片	口 — 底 7.1 高 —	白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。二次焼成の高温被熱により融変・発泡している。	乗附系か
463-7	須恵器 大甕	C区48土坑 覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系か
464-1	須恵器 足高高台 付壺	C区17土坑 覆土内 ほぼ完形	—	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。高温被熱により融変・発泡している。	乗附系か
464-2	須恵器 大甕	C区17土坑 覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系か 秋間系
464-3	瓦 男瓦	C区17土坑 覆土内 破片	厚 2.3	—	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤撫で整形。側面面取り3回。	
464-4	瓦 女瓦	C区17土坑 覆土内 細片	厚 1.7	—	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
465-1	須恵器 足高高台 付壺	C区17土坑 覆土内 %残存	—	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。高温被熱により複数の個体が融着・発泡している。467-17と同一個体か。	乗附系
465-2	須恵器 壺	C区18土坑 覆土内 破片	口 — 底 (7.8) 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系か
465-3	土師質土 器 壺	C区27土坑 覆土内 破片	口 — 底 4.6 高 —	白色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。底部両面に凹みがある。	藤岡系か
465-4	須恵器 壺	C区27土坑 覆土内 破片	口 14.8 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系か
465-5	土師質土 器 壺	C区40土坑 覆土内 破片	口 — 底 (6.8) 高 —	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系か
465-6	土師質土 器 皿	C区53土坑 覆土内 破片	口 (9.0) 底 (5.0) 高 (1.6)	白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系か
465-7	須恵器 坏	C区53土坑 覆土内 破片	口 — 底 5.6 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か

## 遺物一覧表

## C区遺構外

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
466-1	縄文式土器 深鉢	C区IV層 破片	—	黒色鉱物粒子 白色粒子 バミス	酸化焰	鈍橙	地文・縄文・Lrを施し、半截竹管を横位に施文する。	諸磯B式
466-2	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	白色粒子 黒色鉱物粒子 バミス	酸化焰	黄橙	地文・縄文・Lrを施し、半截竹管を横位に施文する。	諸磯B式
466-3	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	白色粒子 黒色鉱物粒子 バミス	酸化焰	黄橙	地文・縄文・Lrを施し、半截竹管を横位に施文する。	諸磯B式
466-4	縄文式土器 深鉢	C区土坑 破片	—	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	全面に沈線を施す。	諸磯C式
466-5	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	白色粒子 黒色粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	隆帯文を施し、隆帯文下端に爪跡文を加飾する。	勝板式
466-6	縄文式土器 深鉢	C区IV層 破片	—	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	深鉢の把手で、隆帯文を加飾する。	加曾利E式
466-7	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	沈線により、隆帯文を表出し沈線間に縄文(Lr)を充填する。	加曾利E式
466-8	縄文式土器 器台	C区III層 破片	—	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	地文素文で、窓縁辺に突帯を施す。	加曾利E式
466-9	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	外面は粗い撫でを施す。	掘の内C式
466-10	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	横位の帯状文を施す。縄文はR <sub>0</sub> 。黒色に焼す。内外面研磨を施す。	加曾利B1式か 安行式か
466-11	石器 石鏃	C区III層 鏃欠損	重 2.5	黒色安山岩	—	—	有茎平根三角形腸袂形式。鏃を欠損する。	
466-12	石器 剥片石器	C区表土 完存	—	黒色頁岩	—	—	側部に刃部を有する。	
466-13	石器 斧	C区表土 完存	重 43.2	黒色頁岩	—	—	先端欠損。短冊型石付。	
466-14	石器 斧	C区III層 完存	重 79.6	細粒安山岩	—	—	先端欠損。短冊型石付。	
466-15	石器 礫器	C区覆土 内 完存	重 410.8	頁岩	—	—	両端に刃部を有する。	
466-16	石器 斧	C区III層 完存	重 139.4	灰色安山岩	—	—	上端欠損。揆型。片面に礫面を残す。	
466-17	石器 匙	C区III層 完存	重 101.2	珪質頁岩	—	—	剥片の片方に礫面を残し、側部に刃部を有する。	
466-18	土師器 台付甕	C区III層 破片	—	白色粒子	酸化焰	黒褐	台付甕の脚部・底部の周辺で、脚と甕部との接合には、付加粘土を施す。付加粘土は粗くない。	
466-19	土師器 台付甕	C区III層 破片	—	白色粒子	酸化焰	褐	胴部片で、刷毛目を施す。	
466-20	土師器 台付甕	C区III層 破片	—	黒色鉱物粒子 砂粒	酸化焰	浅黄橙	胴部片で、刷毛目を施す。	
466-21	土師器 台付甕	C区III層 破片	—	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	胴部片で、刷毛目を施す。	
466-22	埴輪 円筒埴輪	C区表土 破片	—	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	外面縦位に刷毛目を施す。	藤岡系か
466-23	埴輪 円筒埴輪	C区表土 破片	—	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	籬を施す。籬は上面が平坦である。外面縦位・内面に刷毛目を施す。	藤岡系か

## C区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
466-24	土師器 坏	C区表採 破片	口 (13.3) 底 — 高 (4.5)	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部は丸く、口縁部は外反する。底部は篋削り。内外面は横撫で。外面に強い稜を有する。	藤岡系
466-25	土師器 坏	C区III層 破片	口 15.4 底 — 高 —	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	底部を欠損。体部・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。体部は篋削り。口縁直下に甘い型膚を残す。口縁部・内面は横撫で。内面放射状暗文を施す。	藤岡系
466-26	土師器 坏	C区III層 %残存	—	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部は平底か。体部は篋削り。内面は横撫で。内面に線刻を施す。	藤岡系
466-27	土師質土 器 皿	C区III層 破片	口 9.7 底 4.0 高 2.0	白色粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
466-28	土師質土 器 皿	C区 破片	口 9.3 底 6.3 高 2.0	白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
466-29	土師質土 器 皿	C区表土 破片	口 9.2 底 3.8 高 2.0	白色粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系か
466-30	土師質土 器 皿	C区表土 %残存	口 9.3 底 4.0 高 1.9	白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か
466-31	土師質土 器 皿	C区表土 %残存	口 9.6 底 4.4 高 1.9	白色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か
466-32	土師質土 器 皿	05-C-40 %残存	口 9.6 底 5.4 高 2.2	白色粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
466-33	土師器 坏	C区II層 破片	口 9.6 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形(右回転)。内面放射状暗文を施す。内面有機質(漆)附着。体部篋削り。口縁部・内面横撫で。	
466-34	土師質土 器 皿	C区表土 破片	口 (10.0) 底 5.6 高 2.0	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面有機質(漆)附着。	
466-35	土師質土 器 皿	C区III層 破片	口 (10.2) 底 (6.4) 高 3.0	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
467-1	土師質土 器 坏	C区II層 破片	口 — 底 4.4 高 —	黒色鉾物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部は摩滅している。	吉井・藤岡系
467-2	須惠器 坏	C区表土 %残存	口 9.6 底 5.2 高 3.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部に孔有。	秋間系
467-3	土師質土 器 坏	C区II層 完形	口 10.0 底 4.4 高 3.4	白色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
467-4	土師質土 器 坏	C区表土 破片	口 (10.3) 底 (6.4) 高 3.9	白色微粒子	酸化焰	明橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
467-5	土師質土 器 坏	C区表土 %残存	口 10.6 底 6.0 高 3.8	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
467-6	土師質土 器 坏	C区暗渠 破片	口 4.8 底 5.4 高 3.9	白色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面有機質附着。	吉井系
467-7	須惠器 坏	C区客土 内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
467-8	須惠器 坏	C区表土 破片	口 — 底 7.0 高 —	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。内面赤色顔料塗彩。外面燻し処理を施す。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
467-9	須恵器 坏	C区II層 %残存	口 (12.4) 底 (6.9) 高 3.5	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
467-10	須恵器 坏	C区II層 %残存	口 (12.6) 底 8.0 高 3.5	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転篋切り。	秋間系
467-11	須恵器 坏	C区表土 破片	口 13.3 底 9.0 高 3.2	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
467-12	須恵器 坏	C区表土 %残存	口 13.1 底 6.9 高 3.6	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か 秋間系
467-13	須恵器 坏	C区表土 %残存	口 13.5 底 6.4 高 4.1	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系か 太田系
467-14	土師質土 器 坏	C区III層 %残存	口 — 底 6.8 高 —	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系か
467-15	須恵器 坏	C区III層 破片	口 — 底 9.5 高 —	黒色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。底部周辺回転篋削り。底 部に墨書「聖か」。底部は回転篋調整。	太田系か 笠懸系
467-16	須恵器 蓋	C区表土 破片(摘)	摘 4.0	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。摘みは貼り付け。	秋間系か 乗附系
467-17	須恵器 塊	C区III層 破片	—	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。高熱被熱により融変・発 泡している。465-1 と同一個体か。	乗附系
467-18	土師質土 器 塊	C区III層 破片	口 11.0 底 — 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	乗附系
467-19	土師質土 器 塊	C区III層 破片	口 12.0 底 5.8 高 4.7	白色鉍物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井系
467-20	土師質土器 足高高台 付塊	C区客土 内 %残存	口 12.4 底 9.0 高 6.7	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か
467-21	須恵器 塊	C区表土 %残存	口 (13.5) 底 (7.6) 高 5.7	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。口縁部外面燻し 処理を施す。	秋間系
467-22	土師質土 器 塊	C区表土 %残存	口 (13.8) 底 6.0 高 4.9	微粒状雲母 シルト質 黒色鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
467-23	土師質土器 足高高台 付塊	C区II層 %残存	口 16.2 底 — 高 —	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	乗附系か
467-24	須恵器 塊	C区表土 %残存	口 (15.0) 底 (7.3) 高 5.7	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
467-25	施釉陶器 灰釉碗	C区表土 破片	口 — 底 7.8 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
468-1	土師質土 器 塊	C区表土 %残存	口 (16.2) 底 (8.2) 高 4.4	白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系か 乗附系
468-2	須恵器 塊	C区III層 %残存	口 (17.2) 底 8.2 高 5.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
468-3	須恵器 高台坏 脚部	C区表土 破片	—	黒色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系
468-4	土師質土器 足高高台塊 脚部	C区表土 破片	口 — 底 12.7 高 —	透明 粗粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	笠懸系か 月夜野系



## C区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
468-5	須恵器 壺	C区II層 破片	口 10.2 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
468-6	須恵器 高台付杯	C区表土 破片	口 — 底 12.0 高 —	黒色粒子 密	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	東海系か
468-7	土師質土 器 壺	C区III層 破片	口 12.0 底 — 高 —	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内面暗文を施す。	吉井系
468-8	須恵器 鉢	C区表土 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系か 乗附系
468-9	土師器 鉢	C区III層 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。内面交正状暗文を施す。 同一個体の未接合物が3点ある。	乗附系
468-10	須恵器 高台杯	C区II層 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	轆轤成・整形(右回転)。	東海系
468-11	須恵器 盤	C区III層 破片	口 (22.4) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成・整形(右回転)。内面に掻き目を残す。	秋間系
468-12	須恵器 盤	C区内 破片	口 (32.0) 底 (25.0) 高 3.2	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転筥削り。	秋間系
468-13	須恵器 壺	C区表土 破片	口 14.3 底 — 高 —	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)後轆轤再整形。外面に掻き目を 残す。	乗附系か
468-14	須恵器 広口壺	C区II層 破片	口 17.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。口縁部・内面に有機質(漆)附着。	藤岡系
468-15	須恵器 甕	C区III層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面有機質附着。 外面に墨痕有。	秋間系
468-16	須恵器 鉢	C区表土 破片	口 24.0 底 — 高 —	黒色鉍物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
468-17	土師器 鉢	C区表土 破片	口 25.0 底 — 高 —	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
468-18	須恵器 鉢	C区III層 破片	口 (26.6) 底 — 高 —	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部に波状文 を廻らし、突帯を配する。	吉井系
469-1	須恵器 土師質鉢	C区III層 破片	口 25.5 底 — 高 —	黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤 岡系
469-2	須恵器 鉢	C区III層 破片	口 30.4 底 — 高 —	白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
469-3	須恵器 器種不詳	C区表土 破片	—	白色粒子 白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
469-4	須恵器 鉢	C区表土 破片	口 — 底 9.0 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面見込みは撫 で整形。底部に剣尖状のもので刺突した痕跡 有。	乗附系
469-5	土師器 土釜	C区表土 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り整形。外面は縦位の筥撫で。口縁・内 面は横撫で。	吉井・藤 岡系
469-6	土師器 土釜	C区表土 破片	口 24.4 底 — 高 —	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り整形。外面は縦位の筥撫で。口縁・内 面は横撫で。	吉井系
469-7	土師器 土釜	C区表土 破片	口 27.0 底 — 高 —	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。体部・底部は筥削り、口 縁部・器内面は横撫で。	吉井系か 乗附系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
469-8	土師器 土釜	C区表土 破片	口 28.2 底 — 高 —	白色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。体部・底部は篋削り、口縁部・器内面は横撫で。	吉井系
469-9	須恵器 耳壺	C区III層 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に粘土紐を貼り付け耳とする。	乗附系か 藤岡系
469-10	須恵器 耳壺	C区III層 破片	—	白色鉾物粒子	還元焰	灰	断面不整円形状を呈する。	秋間系
469-11	須恵器 耳壺	C区表土 破片	—	白色鉾物粒子	還元焰	灰	断面不整円形状を呈する。	秋間系
469-12	須恵器 長頸壺	C区表土 破片	口 6.8 底 — 高 —	白色鉾物粒子 デイスайт	還元焰	黒灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。内面自然釉附着。	乗附系
469-13	須恵器 長頸壺	C区III層 破片	口 11.2 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
469-14	須恵器 壺	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
469-15	須恵器 短頸壺	C区III層 破片	口 7.2 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は短かく直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
469-16	須恵器 長頸壺	C区表土 破片	—	白色粒子 白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
469-17	須恵器 長頸壺	C区表土 破片	最大径 17.6	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に柵跡を残す。	秋間系
469-18	須恵器 長頸壺	C区表土	口 — 底 5.5 高 —	白色微粒子	還元焰	灰褐	胴部外面は回転篋撫で。高台は付高台。	秋間系
469-19	須恵器 平瓶	C区表土 破片	底 8.0 最大径 12.0	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。体部は手持ち篋削りか。	秋間系
469-20	須恵器 高台付坏	C区表土 破片	底 10.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-21	須恵器 短頸壺	C区III層 破片	底 11.4 最大径 14.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。全体に扁平な器形。	秋間系
469-22	須恵器 脚付長頸壺	C区表土 破片	底 9.8 最大径 19.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚部は貼付後轆轤整形。	秋間系
470-1	須恵器 瓶	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)後轆轤再整形。	乗附系
470-2	須恵器 脚付長頸壺	C区表土 破片	口 — 底 14.3 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚部は貼付後轆轤成形。	秋間系
470-3	須恵器 平瓶	C区表土 破片	口 — 底 16.0 高 —	白色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚部は貼付後轆轤成形。	秋間系
470-4	須恵器 脚(不詳)	C区1号 溝 破片	—	白色鉾物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
470-5	須恵器 瓶	C区III層 破片	口 — 底 20.0 高 —	白色粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)後轆轤再整形。	乗附系
470-6	須恵器 大甕	C区表土 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。挿目を施こし更に二条の横線を施こす。	乗附系
470-7	須恵器 大甕	C区III層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	4本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。115-3と同一個体。	乗附系
470-8	須恵器 大甕	C区表土 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	12本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
470-9	須恵器 甌	C区表土 破片	—	白色鉾物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系

## C区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
470-10	須惠器 甕	C区III層 破片	—	白色鉍物粒子 デイスait	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面に支え穴を 施す。	吉井系	
470-11	須惠器 甕	C区III層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文か)。	秋間系	
470-12	須惠器 甕	C区III層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き、内面宛具 は素文)。内面は磨滅している。	乗附系	
470-13	須惠器 甕	C区III層 破片	—	白色粒子 黒色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。	秋間系	
471-1	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。	乗附系	
471-2	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面はやや磨滅している。	秋間系	
471-3	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	乗附系	
471-4	須惠器 甕	C区III層 破片	—	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。	乗附系	
471-5	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面は磨滅している。	秋間系	
471-6	須惠器 甕	C区III層 破片	—	白色粒子 黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は格子)。内面は磨滅している。	笠懸系か	
471-7	須惠器 甕	C区III層 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面は磨滅している。	秋間系	
471-8	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面は磨滅している。	乗附系か	
471-9	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面は磨滅している。		
472-1	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	乗附系	
472-2	須惠器 甕	C区客土 内 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(内・外面とも素文)後轆 轤再整形。	秋間系	
472-3	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)後轆轤再整形。内面は磨滅している。	吉井系か	
472-4	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。外面は撫で整形。内面叩き(宛具は 素文)。	吉井系か	
472-5	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色微粒子 白色鉍物粒子 細礫	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面は磨滅している。	乗附系か	
473-1	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面は磨滅している。	乗附系か	
473-2	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面は磨滅している。		
473-3	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	吉井系か 藤岡系	
473-4	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	紐作り。外面は撫で整形。内面叩き(宛具は 素文)後轆轤再整形。		
473-5	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面自然釉附着。		
473-6	須惠器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。外面は撫で整形。内面叩き(宛具は 素文)。内面は磨滅している。		
473-7	羽釜	C区表土 破片	口 底 高 — —	18.0	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罎は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系か 乗附系
473-8	器種不詳	C区表土 破片	口 底 高 — —	20.3	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罎は逆位の状態で貼り付け。硯の可能性 もある。内・外面自然釉附着。	乗附系
474-1	羽釜	C区表土 破片	口 底 高 — —	26.0	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罎は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
474-2	羽釜	不詳 破片	—	白色鈹物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
474-3	須恵器 甔	C区表土 破片	—	白色鈹物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
474-4	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-5	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-6	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-7	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-8	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-9	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-10	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	口 (13.0) 底 — 高 —	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-11	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-12	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	口 (17.2) 底 — 高 —	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-13	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-14	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-15	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-16	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-17	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	口 — 底 6.0 高 —	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-18	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	口 — 底 (6.0) 高 —	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-19	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	口 — 底 8.0 高 —	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-20	施釉陶器 緑釉碗	C区内 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-21	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤整形(右回転)。器内面に陰刻花文を施す。	
474-22	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤整形(右回転)。器内面に陰刻花文を施す。	
474-23	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤整形(右回転)。器内面に陰刻花文を施す。	
474-24	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	—	密	軟質	灰黄	轆轤整形(右回転)。器内面に陰刻花文を施す。	
474-25	施釉陶器 緑釉碗	C区III層 破片	口 — 底 (5.7) 高 —	密	須恵質	灰黄	轆轤整形(右回転)。内外面、銀化。	
474-26	施釉陶器 灰釉碗	C区内 破片	—	密	須恵質	灰白	轆轤整形(右回転)。	
474-27	施釉陶器 灰釉碗	C区表土 破片	口 — 底 6.3 高 —	密	須恵質	灰白	轆轤整形(右回転)。	

## C区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
474-28	施釉陶器 灰釉碗	C区表土 破片	口 — 底 11.0 高 —	密	須恵質	黄灰	轆轤整形(右回転)。	
474-29	施釉陶器 白磁 玉縁碗	C区内 破片	—	密	須恵質	乳白	轆轤成形(左回転)。	北方諸窯系
474-30	施釉陶器 白磁 玉縁碗	C区内 破片	口 — 底 7.0 高 —	密	須恵質	乳白	轆轤成形(左回転) 蛇の目高台。化粧土を施す。	北方諸窯系
474-31	施釉陶器 青磁碗	C区内 破片	—	密	須恵質	オリブ灰	轆轤成形(左回転)。	北方諸窯系
474-32	石製品 砥石 破片	C区1号 溝	幅 1.9 厚 1.5 重 21.5	流紋岩(砥沢)	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
474-33	石製品 砥石 破片	C区表土	幅 3.8 厚 3.0	流紋岩(砥沢)	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
474-34	石製品 砥石 破片	C区表土	幅 2.5 厚 2.2 重 82.4	流紋岩(砥沢)	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
474-35	石製品 砥石 破片	C区表土	幅 3.5 厚 3.0 重 136.8	流紋岩(砥沢)	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
474-36	石製品 砥石 破片	C区南東 表土	幅 2.9 厚 2.7 重 135.6	砥沢石	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
475-1	石製品 砥石 破片	C区III層	重 44.9	黒玄武岩	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
475-2	須恵器 大甕 転用硯	C区III層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面正格子叩き・内面宛具は素文)後轆轤再整形。	秋間系
475-3	石製品 石垂 破片	C区III層	長 3.2 幅 2.2 厚 1.7 重 11.5	変質凝灰岩	—	—	整形痕等は認められない。	
475-4	瓦製円盤	C区III層 破片	厚 1.6	—	—	—	凹面縦位の布目撫で消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
475-5	瓦製円盤	C区III層 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰	凸面縦位の撫で整形。	笠懸系
475-6	瓦製円盤	C区III層 破片	厚 1.6	白色鈹物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。	笠懸系
475-7	瓦製円盤	C区表土 破片	厚 1.5	白色鈹物粒子 白色粒子	還元焰	灰	凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の篋削り。	吉井系
475-8	瓦製円盤	C区表土 破片	厚 1.5	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面縄目、縦位の撫で整形。	秋間系
475-9	羽口	C区III層 破片	厚 1.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-10	羽口	C区表土 破片	厚 1.4	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-11	羽口	C区III層 破片	厚 2.2	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-12	羽口	C区表土 破片	厚 2.6	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-13	羽口	C区III層 破片	厚 1.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-14	羽口	C区表土 破片	厚 2.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	
475-15	羽口	C区表土 破片	厚 2.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-16	羽口	C区III層 破片	厚 3.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
475-17	羽口	C区III層 破片	厚 2.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-18	羽口	C区III層 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-19	羽口	C区III層 破片	幅 6.8 厚 2.2	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-20	鉄滓	C区暗渠	—	—	—	—	塊形鋼滓。	
475-21	金属器 鏡か	C区III層 破片	重 (4.9)	—	—	—	材質は白銅と考えられる。両面共平坦で鏡面状である。	
475-22	鉄器 釘	C区表土 破片	重 (5.1)	—	—	—	頭部は叩き潰したあと折り返している。下端欠損。	
475-23	鉄器 釘	C区表土 破片	重 (9.1)	—	—	—	頭部は叩き潰したあと折り返している。下端欠損。	
475-24	鉄器 釘	C区表土 破片	重 (11.9)	—	—	—	上端側欠損。断面正方形を呈する。	
475-25	鉄器 釘か	C区III層 破片	重 (10.4)	—	—	—	断面正方形を呈する。両端欠損。	
475-26	鉄器 釘か	C区III層 破片	重 (10.4)	—	—	—	断面正方形を呈する。両端欠損。	
475-27	鉄器 釘	C区III層 破片	重 (27.4)	—	—	—	尖端側及び頭部先端欠損。断面正方形を呈する。	
475-28	鉄器 釘か	C区内 破片	重 (8.1)	—	—	—	頭部は立方体状を呈する。下半欠損。断面正方形を呈する。	
475-29	鉄器 釘	C区内 一部欠損	重 (10.5)	—	—	—	尖端側及び上端側欠損。断面正方形を呈する。	
475-30	鉄器 不詳	C区II層 破片	重 (3.3)	—	—	—	両端欠損。断面正方形を呈する。	
475-31	鉄器 不詳	C区I層 破片	重 (1.0)	—	—	—	尖端側の破片で全体に細長い。利器等の茎か。	
475-32	鉄器 不詳	C区南東 表土 破片	重 (2.0)	—	—	—	両端欠損。断面正方形を呈する。	
475-33	鉄器 不詳	C区南東 表土 破片	重 (1.9)	—	—	—	尖端側の破片で全体に細長い。利器等の茎か。	
475-34	鉄器 釘か	C区西南 表土 破片	重 (30.5)	—	—	—	全体に太い。頭部欠損。断面正方形を呈する。	
476-1	鉄器 不詳	C区II層 破片	重 (16.9)	—	—	—	断面長方形を呈する。	
476-2	鉄器 釘か	C区II層 破片	重 (7.3)	—	—	—	両端欠損。断面正方形を呈する。	
476-3	鉄器 不詳	C区表土 破片	重 (35.1)	—	—	—	鉄板を管状に成形し、下端側に尖る形状をしている。鉄板の継合わせは錆化により不分明。石突か。	
476-4	鉄器 刀子	C区表土 破片	重 (8.2)	—	—	—	研ぎ減りが非常に著しい。刃関を有するが形体状、特異である。	
476-5	鉄器 不詳	C区表土 破片	重 (2.1)	—	—	—	両端欠損。断面長方形を呈する。	
476-6	鉄器 不詳	C区表土 破片	重 (10.5)	—	—	—	断面三角形を呈する。錆化が著しく利器としての判断はしがたい。	
476-7	鉄器 紡錘車	C区III層 防輪部欠損	重 (14.1) 径 4.5	—	—	—	軸を欠損する。	
476-8	鉄器 鉄片	C区水路 南表土 破片	重 (10.7)	—	—	—	錆化が著しく形状判断不能。	
476-9	鉄器 鉄片	C区内 破片	重 (119.6)	—	—	—	錆化が著しく形状判断不能。	

## C区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
476-10	鉄器 鎌	C区40- C-13 破片	重 (5.9)	—	—	—	研ぎ減りは比較的少ない。片刃で出土地の周辺には遺構は認められなかった。	
476-11	土師質土器 カワラケ	C区表土 破片	口 7.8 底 (5.0) 高 1.8	黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	15世紀前半
476-12	土師質土器 カワラケ	C区内 破片	口 8.0 底 (5.5) 高 1.9	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	15世紀中頃
476-13	土師質土器 皿	D区表土 破片	口 8.4 底 (4.0) 高 2.0	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面有機質附着。	
476-14	土師質土器 カワラケ	C区III層 破片	口 8.3 底 6.0 高 1.7	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。口縁部に焼きが認められる。	14世紀後半
476-15	土師質土器 坏	C区1号 溝 破片	口 — 底 7.6 高 —	白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面有機質附着。	秋間系
476-16	軟質陶器 内耳鍋	C区III層 破片	口 26.0 底 — 高 —	白色鋳物粒子 黒色鋳物粒子 透明鋳物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。	15世紀初頭
476-17	軟質陶器 内耳鍋	C区僧寺 表採 破片	口 30.2 底 — 高 —	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍黄橙 黒灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。	15世紀前半
476-18	軟質陶器 鉢	C区表土 破片	口 31.1 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。	15世紀前半
476-19	軟質陶器 鉢	C区II層 破片	口 34.6 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。	15世紀前半
476-20	軟質陶器 鉢	C区表土 破片	口 36.9 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。	15世紀
476-21	軟質陶器 鉢	C区II層 破片	口 39.8 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。	15世紀
477-1	施釉陶器 卸皿	C区II層 破片	口 15.2 底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(左回転)。口唇縁部が平坦で、外縁に強い轆轤痕を残す。	美濃系 14・15世紀
477-2	施釉陶器 灰釉 卸皿	C区南東 表土 破片	口 14.9 底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(左回転)。口唇縁部が平坦で、外縁に強い轆轤痕を残す。	美濃系 14・15世紀
477-3	施釉陶器 鉄釉茶壺	C区表土 破片	—	密	良好	褐灰 灰赤	紐作り後轆轤整形(左回転)。外面に鉄釉を施す。	瀬戸系 15・16世紀
477-4	磁器 人形	C区内 完形	高 3.5 重 7.0	密	良好	白	型作り成形。側部粘土喰出しを削る。左手を上げ家内安全を表わしている。部分的に上絵付有。	伊万里系 19・20世紀
477-5	石製品 石鍋	C区III層 破片	厚 1.1	滑石	良好	白	内・外面よく磨かれている。所謂九州系の物か。	
477-6	石製品 すり鉢	C区内 破片	口 (19.2) 底 — 高 —	粗粒安山岩	—	—	内面は使用痕と磨き整形の区別がつきづらい。外面は敲打整形仕上げ。	
477-7	瓦 鬼瓦	C区14号 溝 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	鬼面の目及び頬の部分で、外面には赤色顔料及び金泥を塗附する。胎土は(中世瓦胎土)のIII類。	15世紀前半
477-8 瓦-296 瓦-426	瓦 鏡瓦	C区客土 内 1/2残存	厚 2.0	黒色粒子 白色鋳物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は複弁7葉蓮華文。珠点中房。外区は素文。弁間に珠文を配する。放光寺跡創建意匠群の複弁7葉蓮華文に祖型がある。	秋間系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
477-9 瓦-422	瓦 鏡 瓦	C区暗渠 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は複弁7葉蓮華文。珠点中房。外区は素文。弁間に珠文を配する。放光寺跡創建意匠群の複弁7葉蓮華文に祖型がある。	秋間系
477-10 瓦-443	瓦 鏡 瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 2.3	黒色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁9葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は8ヶ所の珠文帯を配する。男瓦部は欠損。	秋間系
477-11 瓦-434	瓦 鏡 瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文乃至単弁5葉蓮華文。男瓦部は欠損。	秋間系
477-12 瓦-423	瓦 鏡 瓦	C区暗渠 破片	厚 1.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	瓦当面の大半及び男瓦部は欠損。	笠懸系
477-13 瓦-429	瓦 鏡 瓦	C区南東 表土 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。外区は重圏。文様は沈線状で片切ではない。男瓦部欠損。	笠懸系
477-14 瓦-437	瓦 鏡 瓦	C区4号 溝 破片	厚 1.8	白色微粒子 白色鉾物粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。外区は重圏。文様は、沈線状で片切ではない。男瓦部欠損。	笠懸系
477-15 瓦-432	瓦 鏡 瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。瓦当部大半、男瓦部欠損。	笠懸系
477-16 瓦-433	瓦 鏡 瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。瓦当部大半、男瓦部欠損。	吉井系
477-17 瓦-441	瓦 鏡 瓦	C区Ⅲ層 残存	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。	吉井系
477-18 瓦-430	瓦 鏡 瓦	C区内 残存	厚 2.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	黒灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。	吉井系
477-19 瓦-428	瓦 鏡 瓦	C区1号 掘立 覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	黒灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房は3つの連珠を配する。	吉井系
477-20 瓦-440	瓦 鏡 瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
477-21 瓦-435	瓦 鏡 瓦	C区表土 破片	厚 2.0	白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦部は欠損。	笠懸系
477-22 瓦-431	瓦 鏡 瓦	C区40- C-02 Ⅲ層 破片	厚 2.9	白色鉾物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。外区は左扁行唐草文。男瓦部は欠損。	吉井系
477-23 瓦-444	瓦 鏡 瓦	C区表土 破片	厚 2.2	白色粒子 白色鉾物粒子	中性焰	灰黄	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文らしい。瓦当面大半・男瓦部欠損。	吉井系
477-24 瓦-424	瓦 鏡 瓦	C区暗渠 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。国分寺創建意匠。	秋間系
477-25 瓦-295 瓦-425	瓦 鏡 瓦	C区瓦群 破片	幅 16.2 厚 1.9	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉乃至、4葉蓮華文と思われる。男瓦部は半截作り。凸面縦位の撫で整形、赤色顔料塗彩。	吉井系
478-1 瓦-421	瓦 鏡 瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は単弁5葉乃至4葉蓮華文と考えられ、T字状単弁が残るのみである。	吉井系
478-2 瓦-436	瓦 鏡 瓦	C区1号 溝 破片	厚 1.6	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文と考えられる。	吉井系
478-3 瓦-420	瓦 鏡 瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 1.7	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は不詳。外区のみ残存する。	乗附系か 藤岡系
478-4	瓦 鏡 瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 1.9	—	—	—	瓦当部欠損。側部面取り2回。	
478-5 瓦-554	瓦 鏡 瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当面欠損。周縁のみ残存。男瓦部縦位の撫で整形。側部面取り1回。	笠懸系
478-6 瓦-500	瓦 宇 瓦	C区表土 破片	厚 2.9	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は重弧文。顎は直線顎。	吉井系
478-7 瓦-504	瓦 宇 瓦	C区暗渠 破片	厚 3.5	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は重弧文。顎は直線顎。女瓦部は桶巻き造り。	乗附系か
478-8 瓦-516	瓦 宇 瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 3.3	白色微粒子	中性焰	鈍黄橙 黒	瓦当意匠は右扁行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一意匠。	笠懸系



## C区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
478-9 瓦-508	瓦 宇瓦	C区31号 土坑墓 破片	厚 3.5	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一意匠。	笠懸系
478-10 瓦-499	瓦 宇瓦	C区表土 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は右扁行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一意匠。半割れが認められる。	笠懸系
478-11 瓦-515	瓦 宇瓦	C区II層 破片	厚 2.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一群。	笠懸系
478-12 瓦-518	瓦 宇瓦	C区45- C-4 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一群。	吉井系
478-13 瓦-529	瓦 宇瓦	C区農道 表採 破片	厚 3.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一群。	笠懸系
478-14 瓦-524	瓦 宇瓦	C区西南 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。子葉は細い。	吉井系
478-15 瓦-502	瓦 宇瓦	C区表土 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	478-14と同範。	吉井系
478-16 瓦-523	瓦 宇瓦	C区1号 溝 破片	厚 4.0	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は左扁行唐草文。顎は段顎。瓦当接合部は芋付。凹面自然釉附着。	吉井系
478-17 瓦-514	瓦 宇瓦	C区III層 破片	—	白色鉍物粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	瓦当意匠は均整唐草文。顎は段顎。	吉井系
478-18 瓦-520	瓦 宇瓦	C区III層 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子 白色微粒子 シルト粒	還元焰	灰	瓦当意匠は飛雲文と左扁行唐草文の折束式と考えられる。顎は段顎。瓦当接合部は芋付。	吉井系
478-19 瓦-566	瓦 宇瓦	C区水路 南 破片	厚 2.0	—	還元焰	灰	瓦当意匠は均整唐草文。曲線顎。女瓦部は一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回。165-8(瓦-478)・167-3(瓦-558)と接合。	吉井系 瓦-513
478-20 瓦-568	瓦 宇瓦	C区内 破片	厚 2.5	黒色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は抽象文。接合図は刊末に掲載。428-2(瓦-493)・428-10(瓦-486)と接合。	秋間系 瓦-519
479-1 瓦-509	瓦 宇瓦	C区南東 表土 破片	厚 3.0	白色粒子 シルト粒	還元焰	暗灰	瓦当意匠は瓦-514に類すると思われるが、文様が範型に入っていない為不明である。	吉井系
479-2 瓦-521	瓦 宇瓦	C区表土 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	胎土は秋間系であることから、意匠は綾杉文の可能性はある。	秋間系
479-3 瓦-501	瓦 宇瓦	C区III層 細片	厚 3.2	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は綾杉文。同範例は前刊第3分冊記中のD区1号井戸瓦-119と同範である。	秋間系
479-4 瓦-517	瓦 宇瓦	C区II層 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は抽象文。完形での同範例は確認できず。	秋間系
479-5 瓦-511	瓦 宇瓦	C区II層 破片	厚 3.0	黒色粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は綾杉文。第3分冊記中のD区1号井戸、瓦-119と同範。女瓦部は一枚作り。	秋間系
479-6 瓦-510	瓦 宇瓦	C区II層 破片	厚 2.3	黒色粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は綾杉文。第3分冊記中のD区1号井戸、瓦-119と同範。女瓦部は一枚作り。	秋間系
479-7 瓦-512	瓦 宇瓦	C区表土 水路南 破片	厚 1.6	黒色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は粗雑な綾杉文である。顎は曲線顎。	秋間系
479-8 瓦-505	瓦 宇瓦	C区暗渠 細片	厚 4.0	黒色粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は不詳。	笠懸系
479-9 瓦-507	瓦 宇瓦	C区客土 内 細片	厚 3.9	黒色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は篋描き鋸齒文。顎は曲線顎。	吉井系
479-10 瓦-506	瓦 宇瓦	C区4号 溝 細片	厚 2.4	黒色粒子 白色鉍物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	瓦当意匠は重孤文。破損が著しく詳細な不明。	藤岡系
479-11 瓦-503	瓦 宇瓦	C区III層 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子 白色粒子 シルト粒	還元焰	灰	瓦当部欠損、周縁部のみ残存。女瓦部は一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
479-12 瓦-522	瓦 字瓦	C区表土 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	黒灰	瓦当部欠損。周縁部のみ残存。女瓦部・凹面 布目擦り消し。	乗附系
479-13	瓦 字瓦	C区III層 破片	厚 2.5	黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	瓦当部欠損。女瓦部は一枚作りか。凹面粘土 板剥ぎ取り痕。瓦-486の意匠か。	秋間系
479-14 瓦-297	瓦 男瓦	C区内 片残存	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凸 面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
479-15 瓦-312	瓦 男瓦	C区内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子 シルト粒	酸化焰	橙褐	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面刻印有。判読不能。側部面取り2回、端部 面取り1回。	乗附系か 藤岡系
479-16 瓦-293	瓦 男瓦	C区暗渠 細片	厚 1.2	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。側 部面取り3回。	吉井系
479-17	瓦 男瓦	C区内 破片	厚 1.2	白色粒子 黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り 2回、端部面取り2回。	秋間系か
480-1 瓦-289	瓦 男瓦	C区暗渠 破片	厚 2.0	白色粒子 シルト粒	還元焰	暗灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面自然粘附着。側部面取り4回。	吉井系
480-2 瓦-311	瓦 男瓦	C区III層 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	吉井系
480-3 瓦-317	瓦 男瓦	C区表土 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。側 部面取り1回。	吉井系
480-4 瓦-324	瓦 男瓦	C区III層 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦「千」(凸面)。側部 面取り2回。	吉井系
480-5 瓦-325	瓦 男瓦	C区内 破片	厚 2.1	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	吉井系
480-6 瓦-290	瓦 男瓦	C区暗渠 破片	厚 1.5	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。	笠懸系
480-7	瓦 男瓦	C区表土 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 シルト粒 白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面不定方向の撫で整形。	吉井系
480-8 瓦-327	瓦 男瓦	C区内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 シルト粒 白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
480-9 瓦-326	瓦 男瓦	C区表土 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面布の上からの押型痕。凸面木 葉痕。	吉井系
480-10 瓦-294	瓦 男瓦	C区暗渠 細片	厚 1.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。側 部面取り2回。	秋間系
480-11 瓦-328	瓦 男瓦	C区III層 細片	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。	秋間系
480-12 瓦-570	瓦 男瓦	C区III層 細片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	白灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面横位の撫で整形。側部面取り1回。	笠懸系
480-13	瓦 男瓦	C区暗渠 片残存	厚 1.7	赤色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。凹面布合せ目痕。凸面縄叩き後従 位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り 2回。	吉井・藤 岡系
480-14	瓦 男瓦	C区暗渠 細片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き後撫で整形。	秋間系
480-15	瓦 玉縁付 男瓦	C区4号 溝 細片	厚 1.4	白色微粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面縄叩き後撫で整形。側部面取 り3回。	吉井系
480-16	瓦 男瓦	C区暗渠 細片	厚 1.1	白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面木目叩き。凹面欠損。	吉井系
480-17	瓦 男瓦	C区暗渠 細片	厚 1.4	白色鉱物粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凹面撫で整形。凸面布目有。	乗附系か 藤岡系
480-18	瓦 玉縁付 男瓦	C区III層 破片	厚 1.8	透明鉱物粒子 黒色粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り 2回、端部面取り1回。	笠懸系
481-1	瓦 玉縁付 男瓦	C区20号 土坑 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り 2回、端部面取り1回。	笠懸系
481-2	瓦 玉縁付 男瓦	C区内 破片	厚 1.6	白色粒子	中性焰	灰黄 黒	半截作り。側部面取り2回。	笠懸系

## C区土坑

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
481-3	瓦 男 瓦	C区4号 溝 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の篋撫で。側部面取り2回。	秋間系
481-4	瓦 男 瓦	C区暗渠 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩き。側部面取り2回。	藤岡系か 乗附系
481-5	瓦 玉縁付 男 瓦	C区4号 溝 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。側部面取り2回。凸面縄叩き(密)後轆轤撫で。	吉井系
481-6	瓦 男 瓦	C区4号 溝 破片	厚 1.8	—	—	—	半截作り。粘土板接合痕はZ。	吉井系
481-7	瓦 玉縁付 男 瓦	C区4号 溝 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	中性焰	浅橙	半截作り。凸面轆轤痕。	吉井系
481-8	瓦 男 瓦	C区III層 破片	厚 1.6	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰 か	鈍橙	半截作りか。凸面不定方向の撫で整形。	笠懸系
481-9	瓦 男 瓦	C区表土 細片	厚 2.1	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤痕。	秋間系
481-10	瓦 男 瓦	C区内 破片	厚 1.6	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤痕。端部面取り3回。	秋間系
481-11	瓦 男 瓦	C区III層 破片	厚 1.2	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面轆轤痕。凸面端部側に突帯を有する。	吉井系
481-12	瓦 男 瓦	C区表土 細片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤痕。	秋間系
481-13	瓦 男 瓦	C区暗渠 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤痕・縦位の篋撫で整形。	吉井系
481-14	瓦 男 瓦	C区4号 溝 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	半截作り。凸面轆轤整形後従位の撫で整形。	笠懸系
481-15	瓦 男 瓦 か	C区暗渠 細片	厚 2.0	白色粒子	酸化焰	橙	作りは不詳。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系か
481-16	瓦 男 瓦	C区内 破片	厚 1.5	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰黄	半截作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布合わせ目痕有。	秋間系
481-17	瓦 男 瓦	C区4号 溝 細片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤痕。	吉井系
481-18	瓦 男 瓦	C区暗渠 細片	厚 1.0	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤痕。	吉井系
481-19 瓦-559	瓦 男 瓦	C区表土 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作りか。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	乗附系
481-20 瓦-338	瓦 女 瓦	C区表土 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 黒色粗粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「山鴛口」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回、端部面取り3回。	乗附系か 吉井系
481-21 瓦-292	瓦 女 瓦	C区暗渠 細片	厚 1.5	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍褐	一枚作りか。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井・藤岡系
482-1 瓦-305	瓦 女 瓦	C区III層 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦「王王」(凹面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
482-2 瓦-304	瓦 女 瓦	C区III層 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	赤褐	一枚作り。篋描き文字瓦「里か」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り4回、端部面取り2回。	吉井系
482-3 瓦-561	瓦 男 瓦	C区表土 破片	厚 1.8	赤褐色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面布合せ目痕。凸面轆轤撫で整形。191-4(瓦-200)・483-16(瓦-560)と接合	秋間系
482-4 瓦-330	瓦 女 瓦	C区暗渠 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦「長女」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。	吉井系
482-5 瓦-314 瓦-315	瓦 女 瓦	C区暗渠 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。刻印文字瓦「多」(凸面)。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
482-6 瓦-302 瓦-303	瓦 女瓦	C区2号 竪穴 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 赤褐色粒子	酸化焙	橙褐	一枚作り。篋描き文字瓦「十」(凸面)。刻印文字瓦判読不能(凸面)。端部面取り2回。	吉井系
482-7 瓦-310	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焙	浅黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦「大」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
482-8	瓦 女瓦	C区III層 細片	厚 1.9	黒色粒子 砂粒	還元焙	暗灰	一枚作り。	吉井系
482-9 瓦-319	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色粒子 白色微粒子	還元焙	灰白	一枚作り。篋描き文字瓦「十」(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面板目叩き。	秋間系
482-10 瓦-274	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焙	白灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面横位の撫で整形。	吉井系
482-11 瓦-275	瓦 女瓦	C区西南 表土 細片	厚 2.0	白色粒子 シルト粒	還元焙	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。側部面取り3回。	秋間系
483-1 瓦-261	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.7	白色鉍物粒子 白色微粒子	中性焙	灰黄	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面木目叩き。側部面取り4回。	笠懸系
483-2 瓦-298	瓦 女瓦	C区II層 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焙	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
483-3 瓦-306	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子 シルト粒	還元焙	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「可」(凸面)。側部面取り2回。	乗附系
483-4 瓦-285	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	還元焙	灰白	一枚作り。篋描き文字瓦「大か」(凸面)。側部面取り4回。	秋間系
483-5 瓦-265	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	還元焙	灰白	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。側部面取り2回。粘土板接合痕はS。	吉井系
483-6 瓦-270	瓦 女瓦	C区客土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焙	灰白	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
483-7 瓦-282	瓦 男瓦	C区内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焙	暗灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。側部面取り3回。	乗附系
483-8 瓦-299	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	酸化焙	橙	一枚作り。篋描き文字瓦「子」(凸面)。	吉井系
483-9 瓦-273	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焙	灰	一枚作り。篋描き文字瓦か。判読不能(凸面)。側部面取り2回。	笠懸系
483-10 瓦-556	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	—	—	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。側部面取り3回。	
483-11 瓦-280	瓦 女瓦	C区III層 細片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焙	灰	一枚作りか。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
483-12 瓦-313	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焙	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「十か」(凸面)。	吉井系
483-13 瓦-333	瓦 女瓦	C区34号 土坑墓 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焙	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井・藤岡系
483-14 瓦-283	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 2.8	白色鉍物粒子	還元焙	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系か
483-15 瓦-329	瓦 女瓦	C区暗渠 細片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焙	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	乗附系
483-16 瓦-561	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 1.4	赤褐色粒子	中性焙	灰黄	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面布合わせ目痕。凸面轆轤撫で整形。191-4(瓦-200)・482-3(瓦-561)と接合。	秋間系 瓦-560
483-17 瓦-287	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 2.3	黒色粒子	還元焙	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。	
484-1 瓦-301	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焙	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
484-2 瓦-308	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 2.8	白色鉍物粒子	還元焙	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面撫で整形。	
484-3 瓦-307	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子	還元焙	灰	桶巻き造り。篋描き文字瓦「十か」(凹面)。凸面縄叩き(密)。	吉井系
484-4 瓦-263	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焙	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系

## C区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
484-5 瓦-278	瓦 女瓦	C区客土 内 破片	厚 1.3	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「十か」(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕、凸面撫で整形。	乗附系
484-6 瓦-316	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。文字部分に撫でが入り、文字をつぶしている。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
484-7 瓦-547	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面撫で整形。	笠懸系
484-8 瓦-336	瓦 女瓦	C区2井戸 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦「万呂」(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
484-9 瓦-318	瓦 女瓦	C区II層 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
484-10 瓦-320	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「日か」(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
484-11 瓦-281	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 2.1	白色粒子	酸化焰	黄橙 黒	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	笠懸系
484-12 瓦-322	瓦 女瓦	C区4号溝 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形。	吉井系
484-13 瓦-286	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 2.2	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
484-14 瓦-334	瓦 女瓦	C区1号土坑 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「大□(大里か)」(凸面)。側部面取り3回。	吉井系
484-15 瓦-276	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面布目撫で消し。	笠懸系
484-16 瓦-341	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縄叩き(密)。	笠懸系
484-17 瓦-279	瓦 女瓦	C区III層 細片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
484-18	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 1.5	赤褐色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面撫で整形。	秋間系
484-19 瓦-549	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。刻印文字瓦「山田」(凸面)。凹面布目撫で消し。	笠懸系
484-20 瓦-321	瓦 女瓦	C区1号土坑 破片	厚 2.7	白色微粒子	酸化焰	浅橙	一枚作り。刻印文字瓦「藪田(文字は認められない)」(凸面)。凹面布合せ目痕、布目撫で消し。凸面正格子叩き。	笠懸系
484-21 瓦-323	瓦 女瓦	C区4号溝 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。篋描き文字瓦「十か田」(凹面)。	吉井系
484-22 瓦-300	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。篋描き文字瓦「南」(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
485-1 瓦-339	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦「人」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
485-2 瓦-264	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。刻印文字瓦「多大」(凸面)。凸面粘土板剥ぎ取り痕。文字は多胡郡大字郷か。	吉井系
485-3 瓦-552	瓦 女瓦	C区僧寺 表採 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。刻印文字瓦「佐」及び「勢」(凸面)。	笠懸系
485-4 瓦-342	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 2.9	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦「万呂か」(凹面)。凸面撫で整形。	吉井系
485-5 瓦-268	瓦 女瓦	C区客土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
485-6 瓦-267	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	橙	桶巻き造り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。篋傷か。凸面撫で整形。	笠懸系
485-7 瓦-266	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。篋傷か。凸面撫で整形。	吉井系
485-8 瓦-284	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。篋傷か。凸面撫で整形。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
485-9 瓦-291	瓦 女瓦	C区II層 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「壬」か(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
485-10 瓦-272	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凸面撫で整形。	乗附系
485-11 瓦-548	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
485-12 瓦-309	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.3	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面撫で整形。	秋間系
485-13 瓦-335	瓦 女瓦	C区内 %残存	厚 2.5	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦「人」か(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き(密)有。	吉井・藤岡系
485-14 瓦-260	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「武井万呂□」(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
485-15 瓦-332	瓦 女瓦	C区31号 土坑墓 破片	厚 2.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「十」(凸面)。粘土板接合痕はZ。凸面撫で整形。側部面取り4回、端部面取り4回。	吉井系
486-1 瓦-550	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凹面模骨痕及び薦・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤撫で。側部面取り4回、端部面取り2回。	乗附系
486-2 瓦-271	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.3	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「八」(凸面)。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
486-3 瓦-551	瓦 女瓦	国分僧寺 中門周辺 破片	厚 2.2	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。刻印文字瓦「蘭田」(凸面)。側部面取り1回、端部面取り1回。	笠懸系
486-4 瓦-331	瓦 女瓦	C区2号 土坑 %残存	厚 2.7	白色鉍物粒子	酸化焰	赤橙	一枚作り。篋描き文字瓦「里か」(凸面)。凸面撫で整形。端部面取り2回。	吉井系
486-5 瓦-546	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「蘭田」(凸面)。端部面取り1回。	笠懸系
486-6 瓦-288	瓦 女瓦	C区暗渠 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	桶巻き作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面模骨痕。凸面布目撫で消し。端部面取り1回。	吉井系
486-7 瓦-262	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面布目撫で消し。端部面取り3回。	吉井系
486-8 瓦-277	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	一枚作り。篋描き文字瓦篋傷か、判読不能(凸面)。凸面撫で整形。端部面取り1回。	吉井系
486-9 瓦-269	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「一か」篋傷(凸面)。凸面撫で整形。端部面取り2回。	吉井系
486-10	瓦 女瓦	C区2号 址 %残存	厚 2.2	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形・離砂痕有。側部面取り1回、端部面取り2回。	秋間系
486-11	瓦 女瓦	C区暗渠 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子 微粒状雲母	中性焰	灰黄	一枚作り。撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
486-12	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄褐	一枚作り。凸面縄叩き(密)・離砂痕有。凹面布目撫で消し。	秋間系
487-1	瓦 女瓦	C区2号 址 破片	厚 2.5	白色微粒子 シルト粒	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面T字縄叩き(密)・離砂痕有。側部面取り3回、端部面取り1回。	乗附系
487-2	瓦 女瓦	僧寺堂表 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・模骨痕有。凸面縄叩き(単)多。側部面取り2回。	乗附系か 藤岡系
487-3	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面格子叩き。	乗附系
487-4	瓦 女瓦	C区1号溝 細片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き。	笠懸系
487-5	瓦 女瓦	C区II層 細片	厚 1.9	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き、粘土板剥ぎ取り痕有。	笠懸系
487-6	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面縦位の撫で整形。凸面正格子叩き。	笠懸系
487-7	瓦 女瓦	C区暗渠 細片	厚 2.5	白色粒子	酸化焰	灰白	一枚作り。凸面正格子叩き。	笠懸系
487-8	瓦 女瓦	C区暗渠 破片	厚 1.3	白色微粒子	酸化焰	灰白	一枚作り。凸面・凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。	笠懸系

## C区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
487-9	瓦 女瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	灰白	一枚作り。凸面斜格子叩き・粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回。	笠懸系
487-10	瓦 女瓦	C区4号溝 細片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凸面斜格子叩き。凹面布目擦り消し。	笠懸系
487-11	瓦 女瓦	C区暗渠 細片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凸面粘土板剥ぎ取り痕・正格子叩き。	笠懸系
487-12	瓦 女瓦	C区4号溝 細片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凸面・斜格子叩き。凹面布目擦り消し。	笠懸系
487-13	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面不整格子叩き。側部面取り2回、端部面取り2回。	乗附系
487-14 瓦-557	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 1.7	—	酸化焰	灰	一枚作り。凸面不整格子叩き。側部面取り3回、端部面取り2回。254-1と同一個体。	笠懸系
487-15	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
487-16	瓦 女瓦	C区Ⅲ層 細片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凹面撫で整形。凸面正格子叩き。	笠懸系
487-17	瓦 女瓦	C区1号溝 細片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面平行叩き。	笠懸系
487-18	瓦 女瓦	C区暗渠 細片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面平行叩き。	笠懸系
487-19	瓦 女瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面木目叩き。凹面布目擦り消し。側部面取り3回。	笠懸系
487-20	瓦 女瓦	C区Ⅲ層 細片	厚 1.9	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面撫で整形。端部面取り3回。	吉井系
487-21	瓦 女瓦	C区Ⅲ層 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰黒	一枚作り。凸面縄叩き・布目有。側部面取り2回。	笠懸系
488-1	瓦 女瓦	C区Ⅲ層 %残存	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縦位の篋撫で整形。側部面取り1回。	秋間系
488-2	瓦 女瓦	C区暗渠 細片	厚 1.0	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	一枚作りか。	藤岡系
488-3	瓦 女瓦	C区1号溝 細片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面離砂痕。凹面側部粘土はみ出し。	乗附系
488-4	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 1.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面離砂痕。	藤岡系
488-5	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縦位の指撫で整形。	笠懸系
488-6	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面撫で整形。	笠懸系
488-7	瓦 女瓦	C区Ⅲ層 細片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面欠損。凸面篋撫で。	笠懸系
488-8	瓦 女瓦	C区1号溝 細片	厚 2.3	白色微粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面模骨痕。凸面側部粘土はみ出し。	秋間系
488-9	瓦 女瓦	C区1号溝 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面撫で整形。	笠懸系
488-10	瓦 女瓦	C区4号溝 細片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
488-11 瓦-337	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面同心円の刺突痕有。	乗附系
488-12	瓦 女瓦	C区4号溝 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面斜格子叩き。	笠懸系
488-13	瓦 女瓦	C区客土内 破片	厚 2.2	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井・藤岡系
488-14	瓦 女瓦	C区4号溝 細片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面斜格子叩き。	笠懸系
488-15	瓦 女瓦	C区Ⅲ層 細片	厚 1.1	—	還元焰	灰	一枚作り。凸面斜格子叩き。	
488-16	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 1.3	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)。	乗附系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
488-17	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 2.2	シルト粒 白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面平行叩き。	秋間系
488-18	瓦 女瓦	C区1号 溝 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。	乗附系
488-19	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.7	白色微粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面撫で整形。 側面部面取り3回。	笠懸系
488-20	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作りか。凹面布目擦り消し。凸面粘土板 剥ぎ取り痕。	藤岡系
488-21	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位 の撫で整形。	吉井系
488-22	瓦 女瓦	C区暗渠 細片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縦位撫で 整形。側面部面取り1回、端面部面取り1回。	吉井系
488-23	瓦 女瓦	C区II層 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面部面取り 2回、端面部面取り3回。	笠懸系
489-1 瓦-555	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.4	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面赤色顔料塗彩。側面部面取り2 回。端面部面取り1回。	笠懸系
489-2	瓦 女瓦	C区III層 細片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面撫で整形。焼成前に釘穴を施 す。側面部面取り3回。	吉井系
489-3	瓦 棧瓦	C区表土 細片	—	微粒状雲母	還元焰	灰	一枚作り。凸面撫で整形。焼成前に釘穴を施 す。側面部面取り3回。	藤岡系
489-4 瓦-438	瓦 鏡瓦	C区表土 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は 1+5。	笠懸系
489-5 瓦-439	瓦 鏡瓦	C区III層 破片	厚 2.8	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉乃至4葉蓮華文。	吉井系
489-6 瓦-427	瓦 鏡瓦	C区4号 溝 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉乃至4葉蓮華文。	吉井系
489-7	瓦 鏡瓦	C区表土 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙 黒	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文と思われる。瓦当 部欠損。男瓦部は半載作り。	吉井系
489-8 瓦-553	瓦 字瓦	C区2号井 戸 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	瓦当面欠損。頸は段頸。	吉井系
489-9	瓦 男瓦	C区II層 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色粒子 粗粒	還元焰	灰	半載作り。凸面平行叩きか。側面部面取り3回。	吉井系
489-10 瓦-340	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「文」(凹面)。凸面 縦位の撫で整形。	吉井系
489-11	土師質土 器 坏	C区表土 1/2残存	口 13.5 底 5.0 高 3.9	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
489-12	土師質土 器 塊	C区表土 1/2残存	口 — 底 8.4 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。体部・口縁部欠 損。	秋間系
489-13	須恵器 壺 塊	C区表土 1/2残存	口 14.0 底 8.0 高 2.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
489-14	須恵器 長頸壺	C区表土 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に櫛目の刺 突を施す。	
489-15	石器 打製石斧	C区III層 完存	—	細粒安山岩	—	—	片面に礫面を残す。短冊を残す。	
489-16	礫器 敲石	C区暗渠 完存	長 15.3 幅 7.6 重 942.8	粗粒安山岩	—	—	両端部に敲打痕が認められる。	
489-17	須恵器 壺 塊	C区2号 井戸 1/2残存	口 — 底 8.3 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
489-18	瓦 玉縁付 男瓦	C区2号 井戸 細片	厚 2.0	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	半載作り。凸面縄叩き(密)。側面部面取り2回。	吉井系



## B区遺構外

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
489-19	瓦 女瓦	C区2号井戸 細片	厚 1.4	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)・離砂痕有。	秋間系
489-20	瓦 女瓦	C区2号井戸 細片	厚 1.3	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面轆轤横撫で整形。	吉井系
490-1	瓦 男瓦	C区2号井戸 1/2残存	厚 1.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布合せ目痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で整形。粘土板接合痕はS。側部面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
490-2	瓦 女瓦	C区2号井戸 1/2残存	幅 22.2 厚 2.1	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。模骨痕有。凸面縄叩き(密)後轆轤横撫で整形。	吉井系
491-1	瓦 女瓦	C区2号井戸 1/2残存	厚 2.0	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面T字縄叩き(密)・離砂痕有。粘土圧痕、はみ出し段。側部面取り1回、端部面取り1回。	秋間系
491-2	瓦 女瓦	C区2号井戸 1/2残存	厚 1.9	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・布日撫で消し。凸面轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	秋間系
492-1	須恵器 坏	C区20号土坑 1/2残存	口 12.8 底 6.0 高 3.7	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
492-2	須恵器 埴	C区48号土坑 破片	口 16.0 底 — 高 —	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系
492-3	須恵器 埴	C区48号土坑 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井系
492-4	須恵器 埴	C区48号土坑 1/2残存	口 — 底 8.0 高 —	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内面に墨書「成」。	吉井系
492-5	施釉陶器 灰釉皿	C区31号土坑 1/2残存	口 12.6 底 6.5 高 1.9	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
492-6	須恵器 大甕	C区24号土坑 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。外面平行叩き。内面は指撫で、やや磨滅している。	乗附系
492-7 瓦-525	瓦 宇瓦	C区内 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右扇行唐草文。	吉井系
492-8 瓦-345	瓦 女瓦	C区II層 破片	厚 2.1	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「菌田」(凸面)。	笠懸系
492-9 瓦-344	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「勢」(凸面)。凸面撫で整形。端部面取り1回。	笠懸系

## B区遺構外

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
493-1 瓦-454	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁7葉蓮華文。中房の子葉は1+6。	秋間系
493-2 瓦-466	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	黄橙 黒	瓦当意匠は復弁8葉蓮華文と考えられる。寺井庵寺系の復弁か。	太田系
493-3 瓦-460	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 2.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉乃至4葉蓮華文。	吉井系
493-4 瓦-465	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 2.4	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は復弁7葉蓮華文の抽象化した意匠。	秋間系
493-5 瓦-456	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。	笠懸系
493-6 瓦-455	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+6。背面布目有。	笠懸系
493-7 瓦-563	瓦 鏡瓦	B区1号溝 1/2残存	厚 1.2	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面撫で整形。116-2(瓦-407)と接合。	吉井系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
493-8 瓦-457	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面布目布。一本造り。	吉井系
493-9 瓦-458	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面は撫で整形。	吉井系
493-10 瓦-459	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文と考えられる。既存例での同范関係は未確認。	笠懸系
493-11 瓦-467	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 0.7	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	瓦当面欠損。一本造り。	吉井系
493-12 瓦-461	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 2.1	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文か。	笠懸系
493-13 瓦-464	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当面は、大半を欠損。単弁系。一本造り。	吉井系
493-14	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	瓦当面欠損。男瓦部は不整格子(密)。	
493-15 瓦-462	瓦 鏡瓦	B区1号溝 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子 シルト粗粒	中性焰	灰黄	瓦当面欠損。男瓦部は半截作り、縦位の撫で整形。一本造り。	吉井系
494-1 瓦-463	瓦 鏡瓦	B区1号溝 細片	厚 1.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	瓦当面及び背面欠損。詳細不詳。	吉井系か 笠懸系
494-2	瓦 鏡瓦	B区1号溝 細片	厚 1.9	白色微粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当面欠損。	吉井系
494-3 瓦-539	瓦 宇瓦	B区1号溝 細片	厚 2.6	白色粒子	酸化焰	黄橙	瓦当意匠は重弧文。顎は段顎。女瓦部は桶巻き造り。	藤岡系
494-4 瓦-537	瓦 宇瓦	B区1号溝 破片	厚 3.4	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。女瓦部は一枚作り。顎は段顎。	吉井系
494-5 瓦-541	瓦 宇瓦	B区1号溝 細片	厚 2.1	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は左扁行唐草文。顎は段顎。	笠懸系
494-6 瓦-538	瓦 宇瓦	B区1号溝 破片	厚 3.3	白色鉍物粒子 赤色粒子	酸化焰	黄橙	494-5と同范。	吉井系
494-7 瓦-540	瓦 宇瓦	B区1号溝 細片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当面及び凹面欠損。	吉井系
494-8 瓦-536 瓦-376	瓦 宇瓦	B区1号溝 破片	厚 3.3	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は抽象的な唐草文。唐草をS字状に表出する。女瓦部は一枚作り。篋描き文字瓦「十」(凹面)。凹面布目擦り消し。顎部に赤色塗彩有。	笠懸系
494-9 瓦-377	瓦 男瓦	B区1号溝 破片	厚 2.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
494-10 瓦-379 瓦-380	瓦 男瓦	B区1号溝 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦「真か」(凹面)。刻印文字瓦「當」(凸面)。凹面縦位の撫で整形。	吉井・藤岡系
494-11 瓦-542	瓦 宇瓦	B区1号溝 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は綾杉文。女瓦部及び瓦当面大半を欠損する。	秋間系
495-1 瓦-384	瓦 男瓦	B区1号溝 細片	厚 2.0	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。篋描き文字瓦「得」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
495-2 瓦-392	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印記号瓦「同心円」(凸面)。凹面布目一部撫で消し。凸面撫で整形。端部面取り2回。	吉井系
495-3 瓦-381	瓦 男瓦	B区1号溝 細片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。刻印記号瓦「同心円」(凸面)。凸面撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
495-4 瓦-397	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.9	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形。	吉井系
495-5	瓦 男瓦	B区1号溝 細片	厚 2.0	白色鉍物粒子 デイスайт	酸化焰	橙	半截作り。器面が粗れている為、詳細不詳。	吉井系
495-6 瓦-378	瓦 男瓦	B区1号溝 細片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系
495-7 瓦-393	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.5	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「二か」(凸面)。凹面布目撫で消し。	笠懸系
495-8 瓦-383	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「□□」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系
495-9 瓦-387	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系

## B区遺構外

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
495-10 瓦-390	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.6	白色鉾物粒子	酸化焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
495-11 瓦-385	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「田」(凹面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
495-12 瓦-388	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り。篋描き文字瓦判読不能(凹面)。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)・轆轤痕。	吉井系
495-13 瓦-395	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.8	白色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。篋描き文字瓦「糸」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側面取り3回、端部面取り3回。	吉井・藤岡系
495-14 瓦-389	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.7	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	桶巻き造り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面轆轤撫で。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。	吉井・藤岡系
495-15 瓦-386	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「人」(凹面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井・藤岡系
495-16 瓦-391	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.0	雲母 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。刻印文字瓦「勢」(凸面)。凸面斜格子叩き。	笠懸系
496-1 瓦-396	瓦 男瓦	B区1号溝 細片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能か篋傷か。(凸面)。凹面布合わせ目痕。	笠懸系
496-2	瓦 男瓦	B区1号溝 破片	厚 1.5	黒色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	鈍橙	半截作り。凹面布目一部撫で消し。凸面轆轤痕。端部側に轆轤成形の段を有する。	笠懸系
496-3	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤撫で縄叩き密。	吉井系
496-4	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面平行叩き(密)。側面取り2回。	乗附系
496-5	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	黄橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕、縄叩き(単)有。側面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
496-6	瓦 女瓦	B区1号溝 残存	厚 2.1	白色鉾物粒子	還元焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き(密)。側面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
496-7	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.9	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面撫で整形。	吉井系
496-8	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.7	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
496-9	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.6	黒色鉾物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り1回、端部面取り1回。	笠懸系
496-10	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系
496-11 瓦-394	瓦 瓦製円盤	B区1号溝 完形	厚 1.8	白色鉾物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き(密)。縁辺を打ち欠く。	吉井系
496-12	瓦 瓦製円盤	B区1号溝 完形	厚 2.2	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。縁辺を打ち欠く。	吉井系
496-13	瓦 瓦製円盤	B区1号溝 完形	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。縁辺を打ち欠く。	吉井系
496-14	瓦 瓦製円盤	B区1号溝 完形	厚 1.5	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。縁辺を打ち欠く。	吉井系
496-15 瓦-382	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.5	白色粒子 白色鉾物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。篋描き文字瓦「真」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。端部面取り1回。	吉井系
497-1	須恵器 坏	B区1号溝 破片	口 (14.4) 底 (7.2) 高 3.6	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-2	須恵器 瓶	B区1号溝 破片	最大径 15.4	白色鉾物粒子	還元焰	白灰	轆轤整形(右回転)。	乗附系
497-3	須恵器 脚付盤	B区1号溝 破片	口 (23.8) 底 (17.8) 高 3.0	白色粒子 白色鉾物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。脚部欠損。	秋間系
497-4	須恵器 高坏	B区1号溝 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
497-5	須恵器 長頸壺	B区1号 溝 破片	口 (16.1) 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
497-6	須恵器 甕	B区1号 溝 破片	口 (21.0) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。内・外面自然釉附着。	秋間系
497-7	施釉陶器 灰釉瓶	B区1号溝 破片	—	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。施釉は浸掛。	
497-8	須恵器 短頸壺	B区1号 溝 破片	口 24.5 底 — 高 —	白色微粒子	良好	灰	口縁部は短かく外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
497-9	須恵器 短頸壺	B区1号 溝 破片	口 (25.2) 底 — 高 —	白色微粒子	良好	灰	口縁部は短かく直立する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
497-10	須恵器 甕	B区1号 溝 破片	口 (32.0) 底 — 高 —	白色微粒子	良好	黒灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
497-11	須恵器 短頸壺	B区1号 溝 破片	口 (13.5) 底 — 高 —	黒色粒子 白色鉱物粒子	良好	灰	口縁部は短かく内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。外面自然釉附着。	秋間系
497-12	須恵器 甕	B区1号 溝 破片	口 — 底 (19.4) 高 —	白色粒子 黒色粒子	良好	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井・藤岡系
498-1	須恵器 甕	B区1号 溝 破片	—	白色鉱物粒子 細礫粒 白色粒子	良好	暗灰	12本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
498-2	須恵器 甕	B区1号 溝 破片	—	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	6本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
498-3	須恵器 甕	B区1号溝 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	東海系か
498-4	土師器か ミニチュ ア土器	B区1号 溝 破片	口 — 底 2.2 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	底部は磨滅する。詳細不詳。	
498-5	施釉陶器 陶枕	B区1号溝 破片	—	密	良好	黄灰	宝相華文を加飾する。加飾は細い篋状工具の先端で施文する。(火中している)。	
498-6	施釉陶器 陶枕	B区1号溝 破片	—	密	良好	オリ ブ灰	宝相華文を加飾する。加飾は細い篋状工具の先端で施文する (火中している)。	
498-7	施釉陶器 灰釉碗	B区1号溝 破片	—	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。	
498-8	施釉陶器 緑釉碗	B区1号 溝 破片	口 — 底 (13.2) 高 —	軟質	良好	オリ ブ灰	轆轤成形 (右回転)。	
498-9	瓦 宇瓦	B区1号溝 破片	厚 3.2	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	瓦当意匠は右扁行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一意匠。顎は段顎。	笠懸系
498-10	瓦 宇瓦	B区1号溝 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は右扁行唐草文。女瓦部は一枚作り。顎は段顎。	吉井系
498-11	瓦 宇瓦	B区1号溝 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は綾杉文が格子文。判全としない。女瓦部は一枚作り。顎は段顎。	吉井系
498-12	瓦 宇瓦	B区1号溝 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は右扁行唐草文。国分寺創建意匠の破片か。	笠懸系
498-13	瓦 宇瓦	B区1号溝 細片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は有節重郭文。顎は段顎。女瓦部欠損。	吉井系
498-14	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.5	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。磨滅著しい。布目は非常に粗い。	吉井系

## J区第1号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
564-1 257	土師器 坏	27cm 1/2残存	口 11.4 底 — 高 3.4	黒色鉍物粒多 砂粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部は直立する。底部から体部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
564-2 257	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 12.0 底 — 高 3.2	黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部は短く直立する。また、体部との境の稜は明瞭でない。底部から体部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
564-3 257	土師器 坏	壁溝7cm 1/2残存	口 10.4 底 — 高 3.2	白色鉍物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部は直立する。体部との境の稜は明瞭でない。底部から体部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
564-4 257	土師器 坏	14cm 1/2残存	口 12.0 底 — 高 3.8	砂粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部が「C」字状に弱く内湾する。底部から体部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
564-5	土師器 坏	壁溝11cm 1/4残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉍物粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はゆるく内湾する。体部は篋削りで、口縁部横撫でとの間に調整不明瞭な部分はないと思われる。	
564-6	土師器 坏	19cm 1/4残存	口 (10.7) 底 — 高 (4.5)	黒色鉍物粒少 白色鉍物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。体部との境の稜はあまり明瞭でない。底部から体部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
564-7 257	土師器 坏	壁溝11cm 1/2残存	口 16.0 底 — 高 5.1	砂粒少 黒色鉍物粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。底部から体部は篋削り、口縁部は体部との境が稜となる位強い横撫でを施す。	
564-8 257	土師器 坏	3cm 1/2残存	口 16.2 底 — 高 (6.5)	白色鉍物粒少 褐色細粒少 黒色鉍物粒微	酸化焰 軟質	橙	器高が比較的高く丸底と考えられる。体部は横位篋削り、口縁部横撫でを施す。	
564-9 257	須恵器 坏	壁溝14cm 1/2残存	口 8.6 底 — 高 2.9	白色鉍物粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。浅い丸底で、受部は若干上方を向き、口縁部は短く内傾する。作りは雑で、底部の回転篋削りは2段程度である。見込み部には指先の撫でが施されている。	断面セピア。外面自然釉。
564-10	須恵器 坏	3cm 破片	口 (10.6) 底 — 高 (3.2)	白色鉍物粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受部はわずかに上方を向き、口縁部は内傾する。底部は回転篋削りを施す。	外面受部以外自然釉。
564-11	須恵器 高坏	7cm 破片	口 — 底 (9.8) 高 (5.6)	白色細粒少	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。1段と考えられる長方形三方透しを有する。脚端部は屈曲する。	
564-12 257	土師器 甕	3cm、-7cm 破片	口 20.8 底 — 高 (6.7)	黒色鉍物粒多 砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、肩部の張りは弱い。口縁部横撫で後胴部斜位(下→上)の篋削り。	
564-13	土師器 甕	カマド内 8cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (7.1)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部はやや厚手で「く」字状に外反し、肩にわずかに張りを有する。口縁部を横撫で後、胴部斜位(下→上)の篋削りを施す。	
564-14 257	土師器 甕	カマド内 8cm 1/2残存	口 17.8 底 — 高 (15.1)	黒色鉍物粒多 砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は緩く外反し、胴部は長胴で張りは弱い。口縁部横撫で後胴部縦位(下→上)篋削り、内面横位の篋撫でを施す。	
565-15	須恵器 甕	4cm 1/2残存	口 — 底 — 高 (17.8)	白色鉍物粒少	還元焰 やや硬質	灰	紐作り叩き整形。丸底で胴部上半に最大径を有する。内面に青海波文を残し、外面は平行叩きと思われる。	
565-16	須恵器 横瓶	4cm 破片	口 — 底 — 高 (7.7)	白色鉍物粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転)。全体形は不明。底部にカキ目を施す。	厚 0.7
565-17 257	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 15.5 幅 6.3 厚 6.0	石英閃緑岩			下半分が被熱している。使用痕は不明である。	重 951.0
565-18 257	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.8 幅 6.9 厚 4.2	石英閃緑岩			上端部剝離痕があり、下端部に敲打痕が認められる。	重 545.7
565-19 257	石器 敲石	覆土内 完形	長 13.3 幅 4.9 厚 4.0	石英閃緑岩			上・下端部、左側面に敲打痕が認められる。	重 324.8

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
565-20 257	鉄 器 刀 子	貯蔵穴内 破片	長 (4.9) 幅 (1.0) 重 11.6				茎と思われる。木質が見られる。	

J区第2号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
566-1 258	土 師 器 坏	貯蔵穴内 -29・-49 cm ほぼ完形	口 12.2 底 — 高 4.6	白・黒色鉱物 粒少 砂粒多 褐色円粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施し、内面は全面撫で調整後、立ち上がり部に放射状磨きを施す。	
566-2	土 師 器 坏	貯蔵穴覆 土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.8)	白・黒色鉱物 粒微 褐色円粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	底部丸底で、口縁部は内湾する。内外面撫で調整し、内面に放射状磨きを施す。底部は篋削りと考えられる。	
566-3 257	土 師 器 甕	貯蔵穴内 3 cm %残存	口 22.2 底 7.4 高 25.3	白・黒色鉱物 粒多 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は「く」字状に屈曲し、胴部は球胴に近く、中位に最大径を有する。底部はわずかに突出し、磨滅が激しい。外面胴部上半斜位(下→上)中位横位(右→左)の篋削り後口縁部横撫で、内面横位の撫でを施す。	
566-4 257	土 師 器 甕	貯蔵穴内 -5 cm 完形	口 20.0 底 6.0 高 16.2	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は「C」字状に外反し、上端に屈曲し短く直立する。胴部の張りは強く上半に最大径を有する。外面胴部上半は斜位(下→上)下半縦位(上→下)の篋削り後口縁部横撫で、内面は縦位の撫でを施す。	内面に炭化物付着
567-5 257	石 器 鹿編み石	13cm 完形	長 12.5 幅 4.0 厚 3.8	ひん岩			使用痕は不明。	重 329.0
567-6 257	鉄 器 刀 子	覆土内 破片	長 (3.5) 幅 (1.7) 重 9.8				先端部及び刃部は錆の進行で欠損している。	
567-7 257	石 製 品 碁 石	覆土内 一部欠損	長 2.1 幅 2.0 厚 0.6	頁岩			器面は研磨され、丁寧に整形されている。	重 3.3
567-8 257	青 磁	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —			明緑灰	器形不明。釉の厚さは0.5mm程で、外面に釉のたまりがある。	

J区第3号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
569-1 258	土 師 器 坏	8 cm 完形	口 11.9 底 — 高 4.0	細砂粒少 褐色粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部は外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
569-2	土 師 器 坏	11cm 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は弱く外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
569-3	土 師 器 坏	11cm 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多 砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
569-4 258	土 師 器 坏	15cm %残存	口 12.3 底 — 高 (4.0)	砂粒少 褐色細粒多 黒色鉱物粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部は直立し、上端が短く外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
569-5 258	土 師 器 坏	1 cm %残存	口 13.6 底 — 高 4.1	黒色鉱物粒少 細砂粒多 褐色円粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部はやや内湾ぎみに外傾する。口唇部内面に沈線状の凹みの痕跡がみられる。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	内面は赤色塗彩したような色調。

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
569-6 258	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) — 底 — 高 (3.2)	黒色鈹物粒少 細砂粒多	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。底部篋削り後口縁部横撫でを施す。削りは横撫で部まで扱ひ、調整不明な部分はみられない。	
569-7	須恵器 蓋	4 cm 1/2残存	口 11.8 — 摘 — 高 3.5	細砂粒多 黒色角粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転)?天井部は扁平な丸底を呈し、口縁部は内湾ぎみである。天井部に手持ち篋削りを施す。	
569-8	土師器 小型甕	13cm 破片	口 (11.4) — 底 — 高 (6.0)	砂粒少	酸化焰 軟質	橙	胴部は丸味が強く、口縁部との境に稜を有し、口縁部は内傾する。また、口縁部中に不明瞭ではあるが稜が認められる。胴部は横位の篋削り、口縁部は横撫で、内面は横位の撫でを施す。	
569-9	土師器 甕	7 cm 破片	口 (14.0) — 底 — 高 (10.2)	砂粒多 黒色鈹物粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	胴部は丸味が強く、口縁部は短く反り気味に内傾する。器面の粗れが激しく、器面調整は不明。	
569-10 258	土師器 甕	貯蔵穴内 4 cm 1/2残存	口 15.1 — 底 — 高 (12.4)	黒色鈹物粒多 砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、上端がわずかに屈曲する。胴部は球胴に近く、上半に最大径を有するものと思われる。胴部斜位(下→上)の篋削り後、口縁部に横撫でを施す。内面横位の篋撫で。	
569-11 258	須恵器 壺	9 cm 破片	口 — — 底 — 高 (5.1)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰黄	紐作り轆轤整形(右回転)。肩部に張りを有する扁平な器形で、肩部に沈線を1条、下に櫛描波状文を一帯施す。胴部下半は回転篋削りを施す。	
569-12 258	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — — 底 — 高 (6.7)	白色細粒少	還元焰 硬質	褐灰	紐作り轆轤整形(?)。頸部と胴部の接合部は断面でも明瞭に観察することができる。	内外面に 自然釉。
569-13 258	須恵器 壺	5 cm 1/2残存	口 — — 底 — 高 (12.3)	黒色円粒少 白色細粒少	還元焰 やや硬 質	灰白	紐作り轆轤整形(右回転)。肩部に最大径を有する球形で、肩部に一帯の櫛描波状文が施されている。頸部内面に接合痕が認められる。	
569-14 258	須恵器 瓶	7 cm 破片	口 — — 底 — 高 (5.1)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。肩部に屈曲を有し、沈線を2条、上下に櫛の刺突文を施す。	
569-15 258	須恵器 横瓶	10cm 破片	口 — — 底 — 高 (12.9)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	全体形は不明。器面にカキ目の痕跡を残す。	
570-16	須恵器 甕	1 cm 破片	口 — — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰黄褐	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。外面に発泡した部分のみられる。	厚 0.9
570-17	須恵器 甕	5 cm 破片	口 — — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焰 硬質	黒褐 黒	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1 外面に自 然釉。
570-18 258	石器 薦編み石	覆土内 1/2残存	長 (11.4) 幅 6.2 厚 5.3	石英閃緑岩			一端が截断されている。	重 575.6
570-19 258	石器 敲石	覆土内 完形	長 13.3 幅 5.4 厚 4.2	石英閃緑岩			上・下端、右側面に敲打痕あり。	重 479.7
570-20 258	石器 敲石	覆土内 完形	長 14.4 幅 7.1 厚 4.0	粗粒安山岩			実測面左上を一部欠損し、断面三角のえぐりが数本みられる。側面周辺に敲打痕が認められる。	重 516.7
570-21 258	石器 磨石	覆土内 1/2残存	長 (11.8) 幅 8.2 厚 4.0	石英閃緑岩			截断面が摩滅している。	重 698.1

## 遺物一覧表

## J区第4号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
571-1	土師器 坏	P <sub>4</sub> -1cm 破片	口 (15.0) — 底 (3.5) 高	黒色鉾物粒多 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。口縁部横撫でと底部篋削りの間に調整不明瞭な部分がある。	
571-2 258	須恵器 坏	11cm 1/2残存	口 13.2 底 7.8 高 3.7	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に立ち上がる。底部は回転篋切り無調整。	
571-3 258	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (12.0) 底 (6.6) 高 3.5	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部はわずかに内湾気味に外傾する。底部は回転篋切り無調整と考えられる。	
571-4	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (8.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉾物粒少 白色細粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	胴部上半に張り有り、口縁部は短く直立する。胴部は横位から斜位の篋削り後、口縁部に横撫でを施す。	
571-5	土師器 甕	不明 破片	口 (20.0) 底 — 高 (4.6)	黒色鉾物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	明赤褐	口縁部は「く」字状に外反する。胴部上半横位(左→右)篋削り後、口縁部に横撫でを施す。	
571-6 258	石器 磨石?	覆土内 1/2残存	長 (8.9) 幅 7.2 厚 3.2	粗粒安山岩			半載されているが磨滅している。使用の為か?不明である。	重 289.2
571-7 258	石製品 白玉	8cm 完形	径 1.9 厚 0.8 孔 0.4	滑石			七角形を呈し、各面は雑に磨かれている。穿孔は一方からであり、一面に孔部を通る溝状の凹みが認められる。	重 4.9

## J区第5号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
577-1	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (14.4) 底 — 高 (4.0)	白色細粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は直線的に外傾し、底部は丸底を呈する。整形は、底部手持ち篋削り後、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
577-2	土師器 高坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.7)	白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部はやや肥厚し、内湾気味に外傾し、体部との境に強い段を有する。整形は体部外面篋削り後口縁部横撫で、内面は撫で後放射状の篋磨きを施す。	
577-3	土師器 坏	5cm ほぼ完形	口 10.9 底 4.0 高 5.0	砂粒多 褐色円粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部は内湾気味に立ち上がる。体部は指先の押えで下半から底部に篋削りを施す。口縁部は横撫で、内面は撫でである。全体に作りは粗く、厚手である。	
577-4	土師器 坏	7cm 1/2残存	口 (12.5) 底 — 高 (3.7)	白・黒色鉾物 粒微	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部は「く」字状に内傾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部篋削りで、内面は撫でを施す。	
577-5	土師器 坏	11cm 1/2残存	口 (10.4) 底 — 高 (3.7)	黒色鉾物粒少 白色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 黄橙	口縁部は弱く内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
577-6 259	土師器 坏	28cm 1/2残存	口 11.2 底 — 高 3.0	黒色鉾物粒多 白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
578-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉾物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に内傾し、底部は丸底を呈する。整形は底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
578-8 259	土師器 坏	27cm 1/2残存	口 11.2 底 — 高 3.6	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くわずかに内傾する。底部は篋削り後口縁部を横撫です。間に調整不明瞭な部分は認められない。	
578-9 259	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 11.2 底 — 高 (3.5)	黒色鉾物粒少 白色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は「C」字状に強く内湾する。体部には指頭痕を明瞭に残し、底部中央に篋削り、口縁部に横撫でを施す。	
578-10 259	土師器 坏	住居外 36cm 1/2残存	口 11.2 底 — 高 3.4	黒色鉾物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。底部篋削り後口縁部横撫でを施す。	



## J区(4・5号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
578-11 259	土師器 坏	20cm 1/2残存	口 10.8 底 — 高 3.5	細砂粒少	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。底部は篋削り、口縁部に横撫でを施し、間に調整不明瞭な部分が見られる。	
578-12 259	土師器 坏	壁溝4cm 1/2残存	口 11.0 底 — 高 3.7	細砂粒多 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。口縁部横撫で部と篋削りとの間に調整不明瞭な部分があり、接合痕が観察できる。	
578-13 259	土師器 坏	床下 1/2残存	口 11.8 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒少	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。体部には指頭痕が明瞭に認められ、篋削りは底部の中央部だけに施されている。口縁部は横撫で。	
578-14 259	土師器 坏	不明 1/2残存	口 10.4 底 — 高 4.0	黒色鉱物粒少 白色細粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に内傾する。底部から体部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
578-15 259	土師器 坏	19cm 1/2残存	口 12.1 底 — 高 3.5	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
578-16 259	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 14.2 底 — 高 4.3	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。底部は篋削り口縁部は横撫でを施し、間に調整不明瞭な部分が見られる。	
578-17 259	土師器 坏	5cm 1/2残存	口 14.2 底 — 高 (3.9)	黒色鉱物粒微 白色細粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。底部は篋削り、口縁部は横撫で、間に調整不明瞭な部分が見られる。	
578-18	土師器 坏	8cm 1/2残存	口 (15.1) 底 — 高 (4.2)	黒色鉱物粒多 白色細粒多	酸化焰 やや硬 質	明黄褐	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は底部篋削り、口縁部横撫で、間に調整不明瞭な部分が見られ、接合痕が明瞭に観察できる。	
578-19 259	土師器 坏	4cm 1/2残存	口 14.8 底 — 高 5.6	黒色鉱物粒多 細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で深く、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後底部篋削り、削りは横撫で部に及ぶ。	
578-20 259	土師器 坏	8cm 1/2残存	口 15.0 底 — 高 (5.6)	黒・白色鉱物 粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で深く、口縁部は内湾する。底部から体部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
578-21 259	土師器 坏	21cm 1/2残存	口 16.0 底 — 高 (5.7)	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で深く、口縁部は「C」字状に内湾する。底部から体部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
578-22	土師器 坏	床下土坑 覆土 破片	口 (18.0) 底 — 高 (4.3)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部篋削り、間に整形不明瞭な部分が見られる。内面は撫でを施す。	
578-23	土師器 鉢	4cm 1/2残存	口 (22.0) 底 — 高 (7.2)	黒色鉱物粒微 細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	口縁部は弱く内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、他は器面の粗れが激しく不明瞭、内面は撫でを施す。	
578-24	土師器 坏	4cm 破片	口 (18.2) 底 — 高 (6.8)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	口縁部は内湾し、底部は深く丸底を呈する。整形は、底部篋削り後口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
578-25	土師器 高坏	14cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (4.6)	褐色円粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部強く外傾し、体部との間に強い段を有する。体部篋削り後口縁部横撫で。内面は中央放射状、周辺横位篋磨き後黒色処理を施す。	
578-26	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (10.0) 摘 — 高 (2.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。口縁部は弱く外傾している。天井部との間に強い稜を有する。天井部外面は手持ち篋削りを施す。	
578-27	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (9.6) 摘 — 高 (2.3)	細砂粒少 褐色粒微	還元焰 軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は弱く外反する。天井部は手持ちの篋削りを施す。	
578-28 259	須恵器 蓋	30cm 1/2残存	口 12.7 摘 2.0 高 2.6	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な器形で、端部に丸味を有する。摘は宝珠形。かえりは比較的長く下方を向いている。天井部外面は2段に回転篋削りを施し、調整後摘を貼付している。	外面に自然釉。
578-29	須恵器 蓋	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 摘 — 高 (1.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。かえりは比較的長く、反り気味に内傾する。	外面に自然釉。

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
578-30 259	須恵器 蓋	覆土内 1/2残存	口 10.6 摘 — 高 (1.9)	褐色円粒少 砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は丸味が強く、摘は欠損し不明。かえりは短いシャープである。天井部外面に回転篋削りを施す。	
578-31	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。底部は比較的深い丸底で、受部は短く水平を向き、口縁部は反り気味に直立する。整形は底部に回転篋削りを施す。	
578-32	須恵器 坏?	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。口縁部は直線的に外傾している。底部は丸底を呈する。底部は手持ちの篋削りを施す。	
579-33 259	須恵器 壺	25cm 1/4残存	口 12.1 底 — 高 5.9	黒色円粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は扁平な丸底で、口縁部との境で屈曲し、口縁部は反り気味に直立する。底部は手持ち篋削りを施す。	外面に自然釉。
579-34 259	須恵器 高台付皿	- 1cm 1/4残存	口 (24.4) 底 11.4 高 (7.0)	砂粒少	還元焰 軟質	灰白	轆轤整形(右回転?)。腰の張りが強く口縁部は内湾気味に短く立ち上がる。口唇部はやや平坦気味で内傾している。脚部は底部切り離し後に貼付しており、3方向に円形透しを施している。	
579-35	須恵器 高台付皿	11cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。口縁部はやや内湾気味で、腰に比較的張りを有する。高台は剥落の痕跡が明瞭である。底部切り離しは不明。	
579-36	須恵器 高台付皿	覆土内 破片	口 (22.8) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少	還元焰 軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は弱く外反し、口唇部は平坦で外傾する。高台が付くと思われるが残存していない。体部は回転篋削り、見込み部にはカキ目を残す。	
579-37	須恵器 皿	- 5cm 破片	口 (24.1) 底 — 高 (2.5)	黒色鉍物粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は短く外傾し、口唇部は若干凹んだ状態で外傾する。口縁部と体部の境には明瞭な稜を有する。	
579-38	須恵器 高台 破片	15cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。脚部のみ残存し、三角形の三方透しがある。	
579-39 259	土師器 小型甕	27cm 1/4残存	口 11.5 底 — 高 (5.2)	黒色鉍物粒微 白色細粒微	酸化焰 やや軟質	橙	胴部が球形に近い器形で、口縁部は反り気味に立ち上がる。胴部は横位(右→左)の篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
579-40	土師器 台付甕	カマド覆 土内 破片	口 — 底 7.5 高 (1.9)	白色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	下半で強く外反する形態で、貼付部から剝離している。	内面の磨滅は特に激しい。
579-41 259	土師器 甕	2cm 破片	口 22.0 底 — 高 (6.1)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は器厚が厚く、「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。	
579-42 259	土師器 甕	37cm 破片	口 22.1 底 — 高 (8.1)	黒色鉍物粒少 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	胴部に張りを有し、口縁部はゆるく「く」字状に外反する。胴部篋削り後口縁部に横撫でを施す。口縁部中位に接合痕が観察された。	
579-43	須恵器 甕	5cm 破片	口 (15.4) 底 — 高 (6.3)	褐色粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。口縁部は外反し、内外面に段を有する。外面は平行叩、内面は青海波文。	口縁部内面に自然釉付着。
579-44	須恵器 甕	8cm 破片	口 — 底 — 高 (7.6)	褐色粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。外面は平行叩、内面は青海波文。	
579-45	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。口縁部段を有し、頸部に櫛描波状文と沈線を数段廻らせる。	厚 1.0
580-46	須恵器 甕	5cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (4.7)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。口縁部は強く外反し、上端に段を有する。	
580-47	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。肩部に平行沈線と、櫛状工具の刺突文を施す。	厚 0.95

J区(6号址)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
580-48	須恵器 平瓶	3cm 破片	口— 底— 高—	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。頸部の貼付部は明瞭である。	外面に自然釉。
580-49	瓦 女瓦	貯蔵穴覆 土内 破片	厚 1.6	黒色角粒多 白色鉱物粒微	還元焰 やや硬質	灰白	一枚作り?凸面寛削り。	
580-50 259	鉄器 刀子	覆土内	長 (8.3) 幅 (1.6) 重 25.8				先端の刃部はやや厚く錆の進行が激しい。	
580-51 260	石製品 砥石	5cm 完形	長 12.3 幅 5.8 厚 6.1	砥沢石			砥面が3面。	重 600.0
580-52 260	石製品 白玉	壁溝 完形	径 1.3 厚 0.75 孔 0.25	滑石			形状は円形で上下端部に僅かに擦痕がみられる。穿孔は一方方向である。片面に孔部を通るような溝状の凹みがみられる。	重 2.6
580-53 260	石製品 白玉	P <sub>2</sub> 完形	径 1.4 厚 0.7 孔 0.3	滑石			形状は円形で、孔は一方方向からの穿孔である。片面に孔部を通るような溝状の凹みがみられる。	重 2.1
580-54 260	石製品 白玉	23cm 完形	径 1.55 厚 0.6 孔 0.35	滑石			形状は円形で上下端部と側面に擦痕がみられる。穿孔は一方方向からである。	重 2.4
580-55 260	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.1 厚 0.3 孔 0.3	滑石			円形で穿孔は一方方向からで端部に僅かに擦痕がみられる。	重 0.6
580-56 260	石器 不明	7cm 片残存	長 (6.9) 幅 (6.7) 厚 2.9	石英閃緑岩			半截されている。使用痕は不明である。	重 176.2
580-57 260	石器 敲石	覆土内 完形	長 11.2 幅 6.2 厚 3.0	石英閃緑岩			上・下端に敲打痕あり。	重 387.8
580-58 260	石器 薦編み石	—1cm 完形	長 11.6 幅 5.1 厚 4.2	粗粒安山岩			使用痕は不明。	重 453.1
580-59 260	石器 薦編み石	1cm 完形	長 11.8 幅 5.0 厚 5.2	溶結凝灰岩			使用痕なし。	重 470.0
580-60 260	石器 薦編み石	床直 完形	長 12.2 幅 5.3 厚 3.7	粗粒安山岩			使用痕は不明。	重 352.2
580-61 260	石器 薦編み石	9cm 完形	長 10.5 幅 4.6 厚 4.0	流紋岩			使用痕なし。	重 351.6

J区第6号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
582-1 260	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.0) 底— 高 (2.5)	褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外反する。整形は底部寛削り後口縁部横撫でを施す。	
582-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底— 高 (4.0)	細砂粒少 白色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。底部寛削り、口縁部横撫でと考えられるが、器面の粗れが激しく不明瞭である。	
582-3	須恵器 高坏	29cm 破片	口— 底— 高 (3.0)	褐色粒少 黒色粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	にぶい 赤褐	轆轤整形(左回転?)。脚部に三角形の三方透しを有する。整形は、坏部底部に回転寛削りを施す。	
582-4	土師器 甕	覆土内 破片	口 (12.0) 底— 高 (5.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部に張りはないものと考えられる。口縁部横撫で後胴部は斜位(下→上)の寛削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
582-5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (8.8)	黒色細粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後横位にカキ目状の平行沈線を施し、格子状にしている。内面は青海波文。	
582-6	須恵器 甕	不明 破片	口 — 底 — 高 (9.8)	黒色粒少 細砂粒少	還元焰 やや軟質	灰白	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	
582-7	須恵器 高台付皿	覆土内 破片	口 (14.4) 底 — 高 —	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味に立ち上がり、口唇部は受け状を呈する。体部下半に回転篋削りを施す。	
582-8	須恵器 高台付皿	覆土内 破片	口 (13.5) 底 — 高 —	黒色円粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は短く外傾し、口唇部は平坦で水平である。整形は体部に回転篋削りを施す。	
582-9	須恵器 碗	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (1.5)	黒色粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。体部は直線的に立ち上がるものと思われる。底部切り離しは不明で、高台は削り出しである。見込み部にカキ目状の痕跡が認められる。	
582-10	石器 敲石	覆土内 残存	長 (13.2) 幅 13.1 厚 8.3	粗粒安山岩			側面にわずかに敲打痕がみられる。	重2085.0

J区第7号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
584-1 260	土師器 坏	カマド内 5cm 完形	口 12.4 底 — 高 4.6	褐色粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は直線的でわずかに外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
584-2 260	土師器 坏	覆土内 残存	口 12.2 底 — 高 4.2	黒色鉾物粒微 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
584-3	土師器 坏	カマド内 8cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.5)	黒色鉾物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部は内湾し、底部は平底気味の丸底である。口縁部横撫で、底部篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられ、内部全面撫でを施す。	
584-4 260	土師器 坏	カマド内 5cm 完形	口 12.6 底 — 高 3.2	黒色鉾物粒少 褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部篋削りで、間に幅広の調整不明瞭な部分がみられる。	
584-5	須恵器 坏	11cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰黄	轆轤整形(右回転)。体部の外傾は比較的強く、口縁部は外反しない。	
585-6	須恵器 皿	カマド内 破片	口 (25.0) 底 — 高 (3.5)	黒色粒微	還元焰 硬質	灰黄	轆轤整形(右回転?)。体部は丸味があり、口縁部は強く外傾する。	
585-7	土師器 甕	カマド付 近5cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (8.7)	砂粒多	酸化焰 軟質	橙	口縁部は強く外反し、胴部に張りがみられない。整形は口縁部横撫で後、胴部斜位(下→上)の篋削り、内面撫でを施す。	
585-8	鉄器 刀子	15cm	長 (11.1) 幅 (0.9・1.1) 重 24.7				形状、厚み等から刀子と思われる。	

J区第8号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
587-1 260	土師器 坏	-3cm 残存	口 12.7 底 — 高 3.0	黒色鉾物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に調整不明瞭な部分が認められる。	
587-2	土師器 坏	-5cm 破片	口 (12.4) 底 — 高 (2.8)	黒色鉾物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部は内湾する。底部篋削り、口縁部は横撫でを施し、間に調整不明瞭な部分がみられる。	

## J区(7・8・9号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
587-3 260	須恵器 埴	-3cm 1/2残存	口 17.2 底 12.1 高 4.6	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。腰部にわずかに張り有り、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転篋切り後の付高台で、角高台である。また、底部は高台貼付に伴ない撫で調整されている。	
587-4 260	須恵器 蓋	-5cm 1/2残存	口 15.1 摘 4.1 高 3.7	砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに丸味を有し、口縁部はわずかに内側を向く。摘は環状摘で、天井部に2段の回転篋切り後に貼付している。	
587-5	須恵器 甕	-3cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	にぶい 褐	外面平行叩き。内面青海波文。	厚 0.6
587-6 260	鉄器 釘?	覆土内	長 (2.1) 幅 (0.4) 重 3.5				両端を欠損し、断面は正方形を呈する。	

## J区第9号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
591-1 260	土師器 坏	カマド煙 出し部 1/2残存	口 (12.9) 底 — 高 (3.7)	細砂粒少 褐色粒少	酸化焰 やや軟 質	橙	口縁部は弱く外反し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部篋切り後、口縁部横撫でと思われるが、底部の篋切りは器面の粗れが激しく不明確である。内面は内黒である。	
591-2 260	土師器 坏	壁溝 -3cm 1/2残存	口 12.3 底 — 高 4.5	褐色細粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに内湾気味に内傾する。口縁部横撫で、底部篋切りを施す。	
599-3 261	土師器 坏	床直 完形	口 11.8 底 — 高 4.4	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋切りを施す。	
591-4 261	土師器 坏	壁溝 -1cm ほぼ完形	口 12.1 底 — 高 4.6	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾する。整形は口縁部横撫で、底部篋切りを施す。	
591-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (4.0)	褐色粒少 黒色鉍微粒微	酸化焰 やや硬 質	橙	口縁部は内傾し、中位に段を有する。体部と口縁部の境には、強い稜を有する。体部横位篋切り。口縁部器内面は、横撫で。	
591-6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (17.2) 底 — 高 (5.0)	黒色鉍微粒多 白色細粒少	酸化焰 やや軟 質	にぶい 黄橙	底部はやや深い丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部はやや内傾する。口縁部横撫で、底部横位篋切り、内面は撫でである。	
591-7 261	土師器 高坏	壁溝23cm 完形	口 13.2 底 10.3 高 7.8	細砂粒微 褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	坏部は体部と口縁部の境の稜はあまり明瞭でなく、口縁部の外反は弱い。脚部は基部から開き、端部で水平方向に開いている。口縁部と脚端部は横撫で、体部は篋切りと考えられるが、器面の磨滅が激しいため不明。	
591-8 261	土師器 高坏	壁溝9cm 完形	口 13.0 底 9.2 高 8.1	細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	坏部は体部と口縁部との間に稜を有し、口縁部が外反する器形で、脚部は短く強く開く。口縁部横撫で、体部は篋切り後脚部貼付に伴ない撫でが施されている。脚部には縦位の弱い面取りがされ、端部は横撫でを施す。	
591-9 261	土師器 高坏	壁溝7cm 完形	口 13.6 底 9.2 高 8.2	褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	坏部は体部と口縁部の境に明瞭な稜を有し、口縁部は外反する。脚部は短く裾部は強く開いている。口縁部横撫で、体部篋切りを施すが脚部貼付に伴ない撫でが施される。脚端部は横撫で、基部は縦位の篋撫でで面取り状になっている。	
591-10 261	須恵器 高坏	壁溝 -8cm 脚部破片	口 — 底 12.2 高 (9.0)	褐色粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。脚部は棒状で、裾部が強く開く。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
591-11	土 師 器 甕	貯蔵穴覆 土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (6.4)	黒色鉱物粒多 黒色粒多 白色粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、口唇部内面に沈線状の凹みがみられる。口縁部強く横撫で後面縦位(下→上)の筥削り、内面は横位の筥撫でを施す。	
591-12 261	土 師 器 甕	5 cm 破片	口 23.3 底 — 高 (13.9)	小礫多 砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に屈曲し、口唇部は平坦で強く外傾する。口縁部横撫で後胴部縦位(上→下)の筥削りを施す。内面は斜位の筥撫でである。	
591-13 261	土 師 器 甕	床直 1/2残存	口 22.7 底 6.8 高 38.2	砂粒多 小礫多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部に張りをもたない。口縁部横撫で後、胴部に縦位(下→上)の筥削りを施す。底部に木葉痕と思われる痕跡が認められる。	
592-14 261	土 師 器 甕	床直 破片	口 23.8 底 — 高 (12.8)	黒・白色鉱物 粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し、胴部に張りはみられない。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)の筥削りを施す。内面は撫でと思われる。	
592-15 261	石 器 敲 石	12cm 1/2残存	長 (8.3) 幅 7.3 厚 4.3	粗粒安山岩			半截されている。左側面に敲打痕あり。	重 350.9
592-16 261	石 器 敲 石	7 cm 完形	長 13.6 幅 6.6 厚 4.6	粗粒安山岩			端部に敲打痕あり。	重 709.6
592-17 261	石 器 薦編み石	10cm 完形	長 13.7 幅 5.3 厚 4.1	粗粒安山岩			使用痕なし。	重 521.6
592-18 261	石 器 薦編み石	壁溝33cm 完形	長 13.6 幅 5.4 厚 3.3	砂岩			使用痕不明。	重 364.1
592-19 261	石 器 薦編み石	覆土内 完形	長 12.7 幅 8.2 厚 3.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 484.8
592-20 261	石 器 敲 石	1 cm 完形	長 13.6 幅 7.7 厚 5.0	粗粒安山岩			左側面に敲打痕あり。	重 747.5
592-21 261	石 器 薦編み石	41cm 1/2残存	長 (7.1) 幅 6.7 厚 3.3	粗粒安山岩			半截されている。	重 259.7
592-22 261	石 器 薦編み石	床下 完形	長 8.6 幅 4.6 厚 2.9	砂岩			使用痕不明。	重 242.6

## J 区第10号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
596-1 261	土 師 器 坏	13cm 1/2残存	口 11.4 底 — 高 3.7	黒色鉱物粒少 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部はわずかに外傾する。底部筥削り、口縁部横撫でを施す。	
596-2 261	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 12.0 底 — 高 3.9	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部横撫で、底部筥削りを施す。	
596-3 261	土 師 器 坏	8 cm 1/2残存	口 11.9 底 — 高 4.4	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾し先端でわずかに屈曲する。底部は筥削り、口縁部横撫でを施す。	
596-4 262	土 師 器 坏	13cm 1/2残存	口 13.2 底 — 高 4.9	細砂粒微 褐色粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は筥削りであるが、口縁部との境に調整不明瞭な部分が幅広く認められる。	
596-5	土 師 器 坏	13cm 1/2残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.9)	黒色細粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	淡橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は直立する。底部は筥削り、口縁部は横撫でを施す。	

## J区(10号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
596-6 262	土師器 坏	覆土内 ㄥ残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.8)	褐色粒多	酸化焰 硬質	褐	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに内傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
596-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.1)	褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
596-8	土師器 坏	24cm ㄥ残存	口 (14.0) 底 — 高 (4.2)	褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で器厚が非常に厚く、口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
596-9 262	土師器 坏	11cm ㄥ残存	口 13.1 底 — 高 (4.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部はやや内湾気味に直立する。底部篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
596-10	土師器 坏	4 cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.2)	褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
596-11	土師器 坏	23cm ㄥ残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
596-12	土師器 坏	17cm ㄥ残存	口 — 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒多 褐色粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立するものと考えられる。底部は篋削りを施す。	
596-13 262	土師器 坏	15cm ㄥ残存	口 16.4 底 — 高 (5.1)	砂粒多 白色鉱物粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部篋削りと考えられるが、器面の粗れが激しく不明。	
596-14 262	須恵器 蓋	17cm ほぼ完形	口 14.8 底 — 高 2.8	白色粒微	還元焰 硬質	青灰	轆轤整形(右回転)。体部は丸く、口縁部は水平に開き、口唇部は肥厚する。器厚は非常に薄い。天井部外面は回転篋削り、内面に一方の指先による撫でを施す。	外面に自然釉 34住から 同種出土
596-15 262	土師器 高坏	16cm ㄥ残存	口 19.9 底 — 高 (8.6)	細砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	体部は扁平で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は強く外傾する。脚部は円筒状で下端で開くものと考えられる。体部から脚部篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
562-16 262	須恵器 甕	P <sub>1</sub> ㄥ残存	口 — 底 — 高 (7.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。胴部はやや扁平な球状で、やや上位に胴部最大径を有する。この胴最大部に2本の平行沈線を廻らせ、間に櫛状工具の刺突を施し、1カ所に穿孔する。胴部上半と下半は別工程の製作と考えられ、内面にわずかに接合痕を残している。	
596-17 262	土師器 鉢	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (6.6)	砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は強く外反し、2段の屈曲を有する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
596-18 262	須恵器 瓶	24cm ㄥ残存	口 — 底 — 高 (8.8)	黒色円粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。底部はやや丸底気味の平底で、胴部中にわずかに張り有し、肩部への屈曲部に沈線を1本廻らせる。胴部と肩部は別工程で製作されたものと思われ、肩部内面に接合痕が明瞭に残っている。胴部下半横位(左→右)手持ち篋削り、底部も同様である。	
596-19	土師器 小型甕	4 cm ㄥ残存	口 (12.0) 底 — 高 (8.2)	細砂粒多 白色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	胴部が球胴に近く、口縁部は「く」字状に外反する。胴部横位～斜位の篋削り後、口縁部に横撫でを施す。	
596-20 262	土師器 小型甕	4 cm ㄥ残存	口 14.6 底 — 高 (11.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色粒少	酸化焰 やや硬質	橙	紐作り。肩部にわずかに張り有し、口縁部は「く」字状に外傾する。肩部(下→上)、胴部上半(下→上)、下半(上→下)のそれぞれ斜位の篋削り後、口縁部を横撫でする。底部は焼成後に打ち欠かれたものと思われ、甕として機能した可能性が高い。	
597-21 262	土師器 甕	8 cm 破片	口 21.2 底 — 高 (7.0)	黒色鉱物粒微 褐色粒少 白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	胴部に比較的張りを有し、口縁部は「C」字状にゆるく外反する。口縁部横撫で後、胴部縦位(下→上)の篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
597-22	土師器 壺	28cm 破片	口 (21.0) 底 — 高 (6.5)	砂粒多 褐色粒多 黒色鉾物粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	胴部は強く張り、口縁部は強く「く」字状に屈曲する。口縁部横撫で後、胴部を縦位(上→下)の櫛状工具による撫でを施す。	
597-23 262	石器 敲石	19cm 残存	長 (12.3) 幅 (12.3) 厚 4.9	粗粒安山岩			半載されており、実測面上左下に剥離痕が見られる。上端部、右側面に敲打痕が認められる。	重 899.8
597-24 262	石器 敲石	掘り方 P <sub>8</sub> -23cm 完形	長 17.2 幅 13.3 厚 5.5	ひん岩			端部に片側からの剥離がみられる。その他の使用痕はなし。	重 1,966.5
597-25 262	石器 薦編み石	5 cm 完形	長 13.5 幅 6.1 厚 3.9	かんらん岩			使用痕なし。	重 428.7
597-26 262	石器 薦編み石	40cm 残存	長 (10.7) 幅 7.3 厚 4.6	ひん岩			半載されている。使用痕は不明である。	重 596.7
597-27 262	石器 薦編み石	25cm 完形	長 11.7 幅 5.7 厚 3.9	ひん岩			使用痕なし。	重 387.1

J区第11号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
600-1 263	土師器 坏	壁溝 5 cm ほぼ完形	口 12.1 底 — 高 4.0	砂粒多 褐色粒多 黒色鉾物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部はわずかに内傾する。底部篋削り、口縁部横撫でを施す。	
600-2 263	須恵器 蓋?	カマド内 破片	口 (15.0) 摘 — 高 (3.5)	砂粒微 黒色粒少	中性焰 硬質	淡橙	轆轤整形(右回転?)。口縁部はわずかに内湾気味である。口唇部内面に沈線状の凹みがみられる。	
600-3 263	土師器 壺	カマド内 ± 0 cm 破片	口 14.3 底 — 高 (6.0)	砂粒多 白色鉾物粒多 黒色鉾物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は「C」字状に外反し、胴部にやや張りを有する器形で、胴部斜方向篋削り後口縁部に横撫でを施す。内面は横位篋撫である。	
600-4	土師器 鉢	覆土内 破片	口 (33.0) 底 — 高 (4.6)	砂粒微 褐色粒少 黒色鉾物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部にゆるい屈曲が認められる。口縁部横撫で後体部縦位の撫でを施す。	
600-5 263	石製品 白玉	壁溝 3 cm 完形	径 1.0 厚 0.9 孔 0.25	滑石			他に比較して厚みがある。側面の整形は縦方向の粗い研磨である。	重 1.5
600-6 262	石製品 砥石	床直 完形	長 16.2 幅 12.8 厚 9.9	粗粒安山岩			第1面は楕円形状で中央がわずかに凹む磨面を有し、その他両側面に敲打痕がみられる。	重 2,380.0

J区第14号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
603-1 263	土師器 坏	4 cm 残存	口 11.2 底 — 高 (4.3)	褐色粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部篋削り、口縁部は横撫でと考えられる。	
603-2 263	土師器 坏	壁溝 -10cm 残存	口 11.2 底 — 高 3.8	黒色鉾物粒微 細砂粒少 褐色粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
603-3 263	土師器 坏	4 cm 残存	口 11.2 底 — 高 (3.5)	夾雑物なし	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境で屈曲し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部篋削りと思われるが、軟質で器面が粗れ不明瞭である。	歪みが激しい。
603-4	須恵器 蓋	4 cm 破片	口 (14.4) 摘 — 高 (3.5)	細砂粒少 白色鉾物粒微 黒色鉾物粒微	還元焰 やや軟質	灰白	轆轤整形(?)。体部は丸味が強く、天井部は丸底状と考えられる。天井部外面は手持ち篋削りを施す。	



J区(11・14・15号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
603-5 263	須恵器 蓋	床直 残存	口 摘 高 11.8 — 4.0	白色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部上端外面には2本の沈線を廻らせている。天井部外面は5段の回転篋削りを施す。	
604-6 263	土師器 坏	床直 ほぼ完形	口 底 高 16.9 — 6.5	白色微粒少	酸化焰 硬質	橙	体部の丸味は強く、口縁部上端でわずかに外に屈曲し、内面にわずかな稜を形成する。底部は丸底であるが、中央部がわずかに突出し、周囲はドーナツ状に凹む。外面は全面に撫でを施し、口縁部横位、体部は弧状に磨き、底部は一方方向の篋削り後、両側に直角方向の撫でを施す。内面は全面撫で後、見込み部周縁から体部に放射状、見込み部にラセン暗文を施し、口縁部内面に斜位の磨きを施す。	畿内産と考えられる。
604-7 263	土師器 甕	カマド内 5cm、4cm ほぼ完形	口 底 高 21.5 4.1 39.2	灰白色粒多 白色鉍物粒多 黒色鉍物粒少	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部は厚く強く外反し、胴部の張りは強くない。口縁部横撫で後胴部に3段の縦位(下→上)の篋削りを施す。	
604-8 263	石製品 白玉	覆土内 完形	径 厚 孔 1.25 0.7 0.25	滑石			円形に近い形状で、穴の穿孔は一方方向からである。	重 1.9
604-9 263	石器 薦編み石	壁溝 —10cm 完形	長 幅 厚 12.7 6.1 4.0	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 576.5
604-10 263	石器 薦編み石	壁溝 —3cm 完形	長 幅 厚 13.5 7.0 4.1	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 585.8
604-11 263	石器 薦編み石	壁際 ±0cm 完形	長 幅 厚 15.0 6.7 4.0	石英閃緑岩			熱を受けたものか表面にハゼがみられる。使用痕は不明。	重 623.7
604-12 263	石器 薦編み石	壁際 ±0cm 完形	長 幅 厚 12.6 4.8 4.7	石英閃緑岩			熱を受けたものか、器面全面が剝離している。	重 441.4
604-13 263	石器 敲石	壁溝 ±0cm 完形	長 幅 厚 13.5 5.8 3.7	溶結凝灰岩			一端にわずかに敲打痕が認められる。	重 435.2
604-14 263	石器 薦編み石	壁溝 —10cm 完形	長 幅 厚 14.0 7.2 4.1	石英閃緑岩			熱を受けたものか、二分され、剝落が激しい。使用痕は不明。	重 559.8
604-15 263	石器 磨石	壁溝 —3cm 完形	長 幅 厚 13.4 6.5 4.0	ひん岩			平坦面に擦痕が認められる。	重 529.0
604-16 263	石器 敲石	覆土内 完形	長 幅 厚 5.3 5.0 2.3	粗粒安山岩			側面全面に敲打痕が認められる。	重 101.9

J区第15号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
605-1 263	土師器 坏	不明 完形	口 底 高 10.0 — 3.4	黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は短く内傾する。口縁部は横撫で、底部篋削りで間にわずかではあるが調整不明瞭な部分が認められる。	
605-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 底 高 (11.0) — (3.0)	黒色鉍物粒微 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くやや内湾気味に立ち上がる。口縁部横撫で、底部篋削りと考えられる。	
605-3	土師器 甕	カマド掘 り方 破片	口 底 高 (23.0) — (3.8)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し、胴部に強い張りはないものと考えられる。口縁部横撫で後、胴部縦位(下→上)の篋削りを施す。	

遺物一覧表

J区第16号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
606-1	土師器 坏	カマド内 12cm 破片	口 (11.6) 底 — 高 (2.7)	黒色鉾物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施し、間に調整不明瞭な部分が比較的幅広に認められる。	

J区第17号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
608-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙 黒褐	口縁部は外傾し、上端がわずかに内湾する。底部との境に不明瞭な稜を有し、底部は丸底と考えられる。口縁部は横撫で、底部は篋削りである。	内外面黒色塗彩、外面には光沢あり
608-2 263	土師器 坏	床下 破片	口 (13.9) 底 — 高 (4.4)	褐色粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	口縁部は外傾し、上端がわずかに内湾する。底部との境に稜を有し、底部は丸底と考えられる。口縁部横撫で、底部篋削りである。	内外面黒色塗彩。
608-3 264	土師器 坏	17cm ㄥ残存	口 (12.0) 底 — 高 (5.8)	黒色鉾物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部はやや反り気味に内傾し、中位に稜を有する。底部との境には明瞭な稜を有し、底部は丸底である。口縁部は横撫で、底部は篋削りである。	
608-4	土師器 短頸壺	掘り方 10cm 破片	口 (12.2) 底 — 高 (5.4)	細砂粒少	酸化焰 軟質	明赤褐	口縁部はやや反り気味に内傾し、中位に稜を有する。体部との境に明瞭な稜を有し、底部は丸底と考えられる。口縁部横撫で、体部横位の篋削りを施す。	
608-5	須恵器 甕	掘り方 7cm 破片	口 (20.8) 底 — 高 (5.3)	黒色粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形(?)。口縁部は外反し、上端が外面肥厚し有段口縁となる。肥厚部下端には沈線を1本廻らせる。	内面に厚く自然釉
608-6	須恵器 甕	掘り方 10cm 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒少	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き。内面青海波文。	厚 0.9
608-7	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 10.7 幅 5.0 厚 3.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 290.3
608-8 263	石製品 白玉	7cm 完形	径 1.05 厚 0.5 孔 0.35	滑石			一部調査に伴い削られている。穿孔は一方向からで、片面に孔を通る溝状の凹みが認められる。	重 0.8

J区第19号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
610-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.4) 底 — 高 (3.0)	黒色鉾物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部は「く」字状に内傾し、底部は丸底を呈する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
610-2	土師器 坏	15cm ㄥ残存	口 (17.4) 底 — 高 (4.7)	黒色鉾物粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「C」字状に内湾し、底部は丸底を呈する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
610-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.7) 底 — 高 (2.8)	白色細粒少 細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な丸底で、受部はごく短く、口縁部も短く内傾する。底部上半は回転篋削り、下半は手持ち篋削りを施す。	
610-4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 (1.5)	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。扁平な天井部を有する。天井部外面は手持ち篋削りを施す。	
610-5	土師器 甕	5cm 破片	口 (23.2) 底 — 高 (11.0)	黒色鉾物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、2段のゆるい屈曲を有する。肩部の張りはなく、胴部の張りも弱い。胴部斜位(上→下)の篋削り後、口縁部に横撫でを施す。	
610-6	土師器 甕	20cm 破片	口 (24.0) 底 — 高 (5.8)	黒色鉾物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し、肩部に張りを有する。整形は、口縁部横撫で後胴部上半斜位(右→左)篋削りを施す。内面は横位の撫である。	

J区(16・17・19・21号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
610-7	土師器 甕	4cm 破片	口 18.0 底 — 高 (13.0)	黒色鈹物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外傾し、肩部に張りがなく、胴部中位にわずかに張りを有する。口縁部横撫で後、胴部は斜位(上→下)の篦削りを施す。	
611-8	須恵器 甕	掘り方 ±0cm 破片	口 — 底 — 高 (8.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	
611-9 264	石製品 砥石	覆土内 1/2残存	長 (3.8) 幅 3.9 厚 1.4	角閃石安山岩			上端に3面の使用面が認められ、1面に断面「V」字状の浅い溝が刻まれている。	重(13.0)
611-10 264	石器 敲石	床直 完形	長 12.3 幅 6.4 厚 3.9	粗粒安山岩			側面に敲打痕有り。	重 496.2
611-11 264	石器 磨石	壁溝7cm 完形	長 11.6 幅 6.4 厚 4.2	変質安山岩			1面に擦痕が認められる。	重 586.1
611-12 264	石器 薦編み石	2cm 完形	長 15.7 幅 5.3 厚 3.7	変質玄武岩			使用痕不明。	重 402.5
611-13 264	石器 薦編み石	4cm 完形	長 14.0 幅 4.8 厚 4.3	砂岩			使用痕不明。	重 352.3
611-14 264	石器 薦編み石 ?	壁溝 ±0cm 完形	長 12.2 幅 5.3 厚 2.9	粗粒安山岩			側面からの打撃によって剝離面が形成されている。使用に伴うものと考えられる。	重 307.9
611-15 264	石器 薦編み石	1cm 完形	長 12.5 幅 6.5 厚 3.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 456.6
611-16 264	石器 薦編み石	3cm 完形	長 13.5 幅 7.7 厚 4.9	変質蛇紋岩			使用痕不明。	重 702.5
611-17 264	石器 薦編み石	4cm 完形	長 11.8 幅 6.3 厚 3.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 321.1

J区第21号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
613-1	土師器 坏	11cm 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鈹物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部は弱く内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部手持ち篦削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。内面は無でを施す。	
613-2	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (11.0) 底 — 高 (4.5)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部はやや丸底気味で、口縁部は直線的に外傾する。底部は手持ち篦削りを施す。	
613-3	須恵器 蓋	18cm 破片	口 (15.0) 摘 — 高 (2.4)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の丸味は弱く、口縁部は強く横に開く。内面のかえりは短く、口縁部との間隔も広い。天井部外面に5段の回転篦削りを施す。	
613-4 264	須恵器 蓋	15cm 1/2残存	口 11.8 摘 — 高 (3.4)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の丸味が強く、口縁部はあまり外反しない。内面のかえりは比較的長く内傾している。摘は欠損しているため形状不明である。天井部外面に回転篦削りを施す。	外面に自然釉。
613-5 264	土師器 甕	床直 1/2残存	口 20.2 底 — 高 (12.7)	黒色鈹物粒多 細砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部はゆるく外反し、胴部中位にわずかに張りを有する。胴部は斜位(上→下)篦削り後、口縁部横撫で、内面横位篦撫でを施す。	
613-6 264	土師器 甕	床直 1/2残存	口 17.4 底 — 高 (4.7)	細砂粒多 小礫微	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部は「く」字状に外傾し、胴部に強い張りを有する。口縁部横撫で後胴部は縦位(下→上)篦削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
613-7	須恵器 甕	-7cm 破片	口 - 底 - 高 (5.5)	砂粒多	還元焰 硬質	灰黄	紐作り轆轤整形(右回転)。肩部が強く張り、肩部以外は回転篋削りが施される。	
613-8	須恵器 甕	覆土内 破片	口 - 底 - 高 (11.3)	砂粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	
613-9 264	須恵器 長頸瓶	11cm 脚部 $\frac{1}{2}$ 残存	口 - 底 14.1 高 (5.4)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。脚部は強く開き端部に段を有する。脚部は紐作り後の轆轤整形と思われる、内面に接合痕(?)がみられる。	
613-10 264	石器 敲石	-5cm 完形	長 11.4 幅 4.6 厚 2.9	粗粒安山岩			一端に敲打痕あり。	重 237.0
613-11 264	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 7.7 幅 6.0 厚 2.0	変質安山岩			使用痕不明。	重 131.1
613-12 264	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 6.5 幅 2.5 厚 2.1	頁岩			使用痕不明。	重 48.2
613-13 264	鉄器 紡錘車	不明	長 (16.0) 幅 (0.4*0.5) 重 45.6				軸が2つに割れている状態で錆が進行して付着している。紡輪部は周辺欠損。	
613-14 264	土師質 壺	-3cm 完形	口 11.0 底 6.2 高 4.9	黒色鉍物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部は丸味があり、口縁部がわずかに外反する。底部は回転糸切り後、端部が凹む角高台状の高台を貼付している。器面調整は比較的雑である。	胎土粉っぽい。
613-15 264	土師質 坏	-5cm $\frac{1}{2}$ 残存	口 9.8 底 4.9 高 3.8	褐色粒多 黒色鉍物粒微	還元焰 軟質	黒	轆轤整形(右回転)。腰部がやや張り、口縁部は外反する。底部は回転糸切り無調整と思われる、わずかに突出するが、切り離し後わら状の物の上に置かれたものと考えられ、圧痕がみられる。	いぶし焼成?
613-16 264	青磁 瓶?	覆土内 破片	口 - 底 - 高 -			灰	内面の轆轤目は強く、軸は内外面共にみられ、外面は0.5mm厚。	近世 厚 0.5
613-17 265	陶器 練鉢	覆土内 破片	口 - 底 - 高 -			灰白	口縁部は外に突出し、突出部分は欠損している。内外面釉がかり、釉厚は約0.5mm。	近世
613-18 264	陶器 壺	覆土内 破片	口 - 底 - 高 -			灰	高台は付高台。釉は内外面(高台部を除く)にかり、釉厚は約0.5mm。	厚 0.6
613-19 264	陶器 小坏	覆土内 破片	口 - 底 - 高 -			灰白	釉は内外面にかり、釉厚は約0.5mm程。	近世 厚 0.6

J区第22号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
616-1 265	土師器 坏	壁溝36cm $\frac{1}{2}$ 残存	口 12.0 底 - 高 (4.5)	褐色粒多 黒色鉍物粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に調整不明瞭な部分がわずかに認められる。	内外面に 黒色塗彩 の痕跡有
616-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 - 高 (3.4)	黒色鉍物粒少 砂粒多	酸化焰 やや軟質	明赤褐	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
616-3	土師器 坏	20cm 破片	口 (12.0) 底 - 高 (4.0)	黒色鉍物粒微 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	淡黄	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
616-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 - 高 (4.0)	褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	

## J区(22号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
616-5 265	土師器 坏	3cm 片残存	口 13.0 底 — 高 5.5	黒色鉱物粒少 褐色粒多 細砂粒少	酸化焙 やや硬 質	におい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に「く」字状に 屈曲し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後 底部に篋削りを施す。	口縁部内 外面に黒 色塗彩の 痕跡。
616-6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 軟質	橙	底部は平底気味の丸底で、体部にわずかに張 りを有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で、 底部篋削りで間に調整不明瞭な部分が見られ る。	
616-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.6)	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焙 やや硬 質	におい 橙	底部は扁平な丸底で、体部は丸味を有し、口 縁部はやや内湾気味に立ち上がる。底部篋削 り、口縁部横撫で、間に調整不明瞭な部分 が認められる。	
616-8	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (2.8)	褐色細粒微	還元焙 やや硬 質	灰黄	轆轤整形(右回転)。口縁部は直立し、体部と の境で屈曲する。	
616-9	須恵器 高坏 (無蓋)	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (12.0) 高 —	褐色細粒多	還元焙 硬質	灰	轆轤整形(?)。坏部は口縁部がやや内湾気味 に直立し、底部との境に稜を有し、底部は扁 平な丸底状を呈する。脚部は長脚二段の三方 透しと考えられる。坏部底面にはカキ目が施 されている。	同一個体 ?
616-10	土師器 高坏?	11cm 破片	口 (30.0) 底 — 高 (6.4)	細砂粒少 褐色粒少	酸化焙 硬質	におい 橙	口縁部は外傾し、体部との境で屈曲する。口 縁部横撫で後、体部縦位(下→上)の篋削り を施す。内面は横撫で。	
616-11	土師器 甕	床直 8cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (5.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焙 硬質	橙	口縁部は強く外反し、胴部に張りほとんど みられない。口縁部横撫で後胴部は縦位(下→ 上)の篋削り、内面は横位の篋撫でを施す。	
616-12	土師器 甕	壁溝 ±0cm 破片	口 (16.0) 底 — 高 (5.9)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焙 硬質	灰褐	胴部にやや張りを有し、口縁部は「く」字状 に外傾し、上端でさらに外反する。胴部は横 位(左→右)篋削り後口縁部に横撫でを施す。 内面は横位撫でと思われる。	口縁部外 面に炭化 物が厚く 付着。
616-13	土師器 甕	貯蔵穴内 6cm 破片	口 (26.6) 底 — 高 (7.4)	砂粒多	酸化焙 硬質	におい 橙	口縁部はゆるく外反し、胴部に張りを有する。 口縁部横撫で後、胴部は横位(右→左)の篋削 り、内面は撫でを施す。	
616-14	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 13.0 底 — 高 (6.9)	褐色粒多	酸化焙 軟質	橙	口縁部は「く」字状に外傾し、胴部上半に最 大径を有する。胴部を縦位(下→上)篋削り後、 口縁部に横撫でを施す。	
616-15	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焙 硬質	灰黄	紐作り叩き整形。外面は平行叩きを重ねること により格子叩きとしている。内面は青海波文。	厚 1.1
616-16 265	鉄器 不明	覆土内	長 (5.1) 幅 (1.0) 重 11.5				断面長方形で両側欠損。	
616-17 265	鉄器 釘	覆土内	長 (7.3) 幅 (0.6) 重 24.9				断面方形で、上端も欠損していると思われる。	
616-18 265	青磁 碗	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.6)			灰オリ ーブ	口縁部は内湾する。釉厚約0.5mm程。	近世
616-19 265	青磁 龍泉窯系 碗	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —			オリ ーブ灰	外面しのぎの蓮弁文。	
617-20 265	白磁 肥前系	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —			灰白	釉厚約0.3mm程。	
617-21 265	石器 薦編み石	床直 ほぼ完形	長 10.9 幅 5.7 厚 5.6	変質安山岩			端部が欠損している。その他使用痕は不明。	重 533.8
617-22 265	石器 磨石?	床直 片残存	長 10.0 幅 7.1 厚 4.8	変質安山岩			半載されており、截断面は使用に伴うと考え られる磨滅がみられる。	重 573.4

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
617-23 265	石器 薦編み石	11cm 完形	長 11.5 幅 6.2 厚 4.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 379.2
617-24 265	石器 薦編み石	床直 完形	長 14.5 幅 7.7 厚 3.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 574.5
617-25 265	石器 薦編み石	2 cm 完形	長 12.4 幅 6.3 厚 3.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 430.4
617-26 265	石器 薦編み石	1 cm 完形	長 16.3 幅 6.5 厚 5.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 872.6
617-27 265	石器 敲石	壁溝 3cm 完形	長 12.2 幅 5.8 厚 5.5	粗粒安山岩			端部にわずかに敲打痕がある。	重 624.2
617-28 265	石器 薦編み石	床直 完形	長 13.9 幅 7.7 厚 4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 791.8
617-29 265	石器 敲石?	2 cm 完形	長 13.9 幅 6.8 厚 3.4	変質安山岩			端部と側面に打撃に伴うと思われる剝離面が認められる。	重 530.9

## J区第23号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
618-1 266	石器 磨石?	4 cm 完形	長 11.9 幅 5.9 厚 3.6	粗粒安山岩			端部が平坦に磨滅している。	重 872.8

## J区第24号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
619-1	須恵器 坏	5 cm 破片	口 (11.6) 底 (7.0) 高 4.0	白色微粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。 口縁部は内湾気味に立ち上がる。	
619-2 266	須恵器 塊	3 cm 1/2残存	口 (14.9) 底 — 高 (5.1)	白色粒多 小礫微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後付高台、 高台部欠損。口縁部は弱く外反する。	内面に炭 化物附着
619-3 266	土師器 甕	床直 破片	口 19.8 底 — 高 (10.7)	細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部は「コ」字状を呈し、胴部上半に最大 径を有している。口縁部横撫で後肩部横位(右 →左)、胴部斜位(下→上)の篋削り、内面は横 位の撫でを施す。口縁部上半に接合痕が認め られる。	内面に炭 化物附着
619-4 266	鉄器 不明	床直	長 横(9.0) 縦(5.8) 重 47.6				平板で台形状を呈するものと思われ、一端が 折れ曲っている。工具か?	

## J区第25号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
621-1	須恵器 塊	覆土内 1/2残存	口 — 底 7.0 高 (2.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	中性焰 やや軟 質	明褐	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後の付高 台。	
621-2 266	灰釉陶器 塊	20cm 1/2残存	口 12.8 底 6.6 高 3.7	美濃系		灰	轆轤整形(右回転)。体部は丸味があり、口縁 部がわずかに外反する。口縁部内面には一本 の沈線状の凹が廻っている。高台は底部回転 糸切り後の付高台である。施釉は漬け掛け。	外面に不 明な附着 物あり。

J区(23・24・25・26号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
621-3	須恵器 瓶	4cm 破片	口 (11.6) 底 — 高 (8.7)	黒色粒少 砂粒少 小礫微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部上半がわずかに内湾する。外面は縦位に櫛描きを施し、2本単位の平行沈線を2段廻らせている。	内面に自然釉あり
621-4	土師器 甕	不明 破片	口 (24.2) 底 — 高 (11.4)	黒色鉍物粒少 白色鉍物粒少 褐色粒多 砂粒多	酸化焰 軟質	浅黄橙	口縁部は短く、強く外反し、胴部に張りはみられない。口縁部横撫で、胴部縦位の篋削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明である。	
621-5 266	須恵器 羽釜	10cm 破片	口 19.9 底 — 高 (6.9)	黒色鉍物粒少 細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転?)。口縁部はやや反り気味に内傾し、胴部最大部上位に鏝を貼り付けている。口唇部は平坦でわずかに内傾している。鏝の貼り付けは丁寧である。	
622-6	須恵器 羽釜	10cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (12.0)	黒色鉍物粒少 砂粒少	中性焰 やや硬質	灰黄褐	紐作り轆轤整形(右回転)。口縁部はわずかに反り気味に内傾し、胴部上半に張りを有する。鏝の貼り付けは丁寧で、胴最大部直上に位置する。口唇部は平坦で、ほぼ水平である。	外面鏝部下に帯状に炭化物付着。
622-7	瓦 男瓦	11cm 破片	厚 1.7	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	端部に強い段がみられることから、玉縁付である可能性がある。凸面平行叩き、凹面布目の雑な擦消しがみられる。	
622-8	瓦 男瓦	8cm 破片	厚 1.7	砂粒少	中性焰 やや軟質	褐灰	一枚作り。	
622-9	瓦 女瓦	10cm 破片	厚 2.2	黒色粒少 砂粒少	還元焰 硬質	灰	桶巻作り。凹面に模骨痕及び粘土板糸切り痕が残る。凸面は縄叩き後わずかに撫で消されている。側端部は2面の面取りがなされている。	
622-10 266	鉄器 鎌	覆土内	長 (5.4) 幅 (1.8) 重 13.1				先端部のみ残存。錆が進み表面の剥落が激しい。	
622-11	石器 不明	覆土内 破片	長 (13.4) 幅 (8.8) 厚 4.2	粗粒安山岩			内面が平坦であるが、使用に伴うものではない。	重 987.4

J区第26号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
624-1 266	土師器 坏	3cm ㄥ残存	口 13.2 底 — 高 3.9	褐色粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は短くわずかに内傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	内外面黒色塗彩。
624-2 260	土師器 坏	覆土内 ㄥ残存	口 13.4 底 — 高 (3.3)	褐色粒少 白色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は内傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
624-3	土師器 坏	15cm 破片	口 (10.6) 底 — 高 (3.7)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに内湾気味に立ち上がる。口縁部横撫で、底部は篋削りと考えられる。	内外面黒色塗彩の痕跡あり
624-4 266	土師器 坏	—2cm ㄥ残存	口 12.2 底 — 高 (4.0)	細砂粒微 褐色粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	内外面黒色塗彩の痕跡あり
624-5 266	土師器 坏	2cm ㄥ残存	口 13.5 底 — 高 (4.6)	褐色粒多 黒色粒少 白色粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙・黒	底部は扁平で浅い丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は直線的に外傾し、中位に稜を有する。口縁部は横撫で、底部篋削り、内面は全面撫で後黒色処理を施す。	外面は黒色塗彩。
624-6 266	土師器 坏	床直 完形	口 12.5 底 — 高 5.0	黒色鉍物粒少 細砂粒少 白色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部はわずかに反り気味に直立する。口縁部横撫で、底部篋削りを施す。	口縁部内面の粗れが激しい
624-7 266	須恵器 埴	7cm ㄥ残存	口 14.0 底 7.8 高 6.0	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はわずかに張りを有し、口縁部はほとんど外反しない。底部は回転糸切り後の付高台で、高台貼り付部内面の調整は雑である。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
624-8 266	須恵器 坏	6 cm 1/2残存	口 14.3 底 7.7 高 4.1	黒色細粒少	還元焰 硬質	明灰	轆轤整形(右回転)。底部はわずかに突出し、 体部にやや張りを有し、口縁部はほとんど外 反しない。	
625-9 266	土師器 甕	貯蔵穴内 -20cm 一部欠損	口 14.1 底 — 高 (22.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は中位で屈曲し外反する。肩の張りは 弱く胴部中位に最大径を有する。器面は、口 縁部横撫で後縦位(下→上)を基本とした撫で を施す。内面は篋撫でであり、内外面共に接 合痕を顕著に残している。	
625-10 266	土師器 甕	3 cm 1/2残存	口 24.0 底 — 高 (26.6)	褐色粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は外反し、胴部に張りをもたない。口 縁部横撫で後、胴部上半(下→上)、下半(上→ 下)の縦位篋削り、内面は縦位の粗い篋磨きを 施す。口縁部内外面及び、胴部内面に明瞭な 接合痕が認められる。	
625-11	土師器 甕	5 cm 破片	口 (19.4) 底 — 高 (7.8)	褐色粒多	酸化焰 やや軟 質	黄橙	口縁部は「く」字状に弱く外反し、胴部に強 い張りを有する。胴部上半斜位(左→右)篋削 り後、口縁部に横撫でを施す。	
625-12	須恵器 甕	7 cm 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒微	還元焰 硬質	浅黄橙	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波 文。	
625-13	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波 文。	
625-14	瓦 男瓦	6 cm 破片	厚 2.1	黒色粒少	還元焰 硬質	灰白	樋巻作り。凹面に粘土板糸切り痕がみられる。 凸面は縄叩きで、横位に雑に撫で消されてい る。側部面取りは一面。	
625-15 267	瓦 男瓦	4 cm 1/2残存	厚 1.7 反 8.5	白色粒多 褐色粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?口端部凹面に面取り、側部面取り は2面である。凸面は全面に撫でが施されて いる。	
625-16 266	鉄器 釘	2 cm	長 (5.2) 幅 (0.4) 重 8.3				断面正方形で、両端共に欠損。	
225-17 266	鉄器 釘	3 cm	長 (8.4) 幅 (0.5) 重 20.98				断面正方形で、両端共に欠損し、「く」字状に 折れ曲がっている。	
626-18 267	石器 敲石	-1 cm 1/2残存	長 (18.9) 幅 (14.7) 厚 6.0	粗粒安山岩			半截されており、実測面及び上端部に敲打痕 がみられる。右側面に使用に伴うものか剝離 面がある。	重2160.0
626-19 267	石器 不明	6 cm 1/2残存	長 (25.4) 幅 (13.2) 厚 8.1	ひん岩			半截されており、熱を受けた痕跡がある。	重3950.0
626-20 267	石器 敲石	6 cm 完形	長 15.1 幅 7.4 厚 2.8	砂岩			下端に使用に伴うと考えられる剝離がされて いる。	重 523.5
626-21	石器 薦編み石	6 cm 1/2残存	長 (6.7) 幅 5.7 厚 4.7	粗粒安山岩			半截されている。使用痕は不明。	重 254.0
626-22 267	石製品 砥石	15cm 完形	長 23.1 幅 18.3 厚 12.5	粗粒安山岩			自然礫を利用したもので、一面に擦り面があ り、断面「V」状の使用痕が刻まれている。	重5700.0
626-23 267	石器 不明	5 cm 1/2残存	長 (11.2) 幅 (19.9) 厚 (7.8)	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 2,870.0

J区第27号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
628-1 267	土師器 坏	12cm 1/2残存	口 12.0 底 — 高 3.7	褐色粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有 し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部横撫 で、底部篋削りを施す。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
628-2 267	土師器 甕	7 cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (13.7)	黒色鉱物粒少 砂粒多	酸化焰 硬質	橙	肩はあまり張らず、口縁部に一本の強い稜を有し、やや外反気味に直立する。整形は胴部斜位(下→上)の篋削り、口縁部横撫である。内面は横位篋撫である。	
628-3 267	土師器 鉢	3 cm %残存	口 19.3 底 7.0 高 12.7	黒色粒多 黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	黒	口縁部はわずかに外反し、体部中位に張り有り、底部がわずかに突出する。体部は横位(右→左)の雑な撫で、口縁部は横撫でを施す。底部にはわずかに木葉痕が認められる。	

## J区第28号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
629-1	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (9.4) 底 — 高 (2.9)	細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部は篋削りしたものと思われるが、器面の粗れが激しく、不明確である。内面は全面撫でを施す。	
629-2 267	土師器 坏	4 cm ほぼ完形	口 13.2 底 — 高 4.9	細砂粒少	酸化焰 硬質	黄橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに外反し、口唇部内面は内斜口縁状を呈する。内面は撫で後放射状暗文を施す。外面は底部篋削り後、口縁部に横撫でを施す。	畿内産暗 文土師器 の模倣か
629-3 267	土師器 坏	5 cm %残存	口 13.6 底 — 高 4.4	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや反り気味に直立し、口唇部内面はわずかに内斜する。内面は撫で後見込み部から密な放射状暗文を施す。外面は底部篋削り後、口縁部に横撫でを施す。	畿内産暗 文土師器 の模倣か
629-4	須恵器 蓋	覆土内 %残存	口 (11.0) 摘 — 高 (1.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(左回転)。扁平な体部を有し、摘は欠損している。口縁部はわずかに外に開き、かえりは比較的長く強く内傾する。天井部外面の回転篋削りは口縁部近くまで及んでいる。	
629-5	須恵器 蓋	覆土内 %残存	口 (10.0) 摘 — 高 (1.9)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は厚手でわずかに開き、かえりは短く内傾する。天井部外面に回転篋削りを施している。	
629-6 267	須恵器 坏	3 cm 完形	口 11.3 底 — 高 3.5	砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部はやや平底気味で、受け部は短く水平にのび、口縁部は内傾する。底部は4段の回転篋削りを施す。	
629-7	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 (6.6) 底 — 高 (4.6)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。わずかに外傾する口縁部のみの残存。	
629-8	須恵器 甕	7 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 黒色粒微 白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	
629-9 267	石製 模造品 勾玉	カマド付 近 完形	長 3.9 幅 2.0 厚 0.5	蛇紋岩			「コ」字状の形状で、側面は磨って整形している。穿孔は一方向からのものである。	重 6.0 孔 0.2
629-10 267	石製品 白玉	カマド付 近 %残存	径 1.8 厚 0.7 重 1.6	滑石			表面の整形は非常に雑である。片面の穿孔部に沈線状の凹の痕跡が認められる。	

## J区第29号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
631-1 267	土師器 坏	4 cm %残存	口 13.3 底 — 高 3.8	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は手持ちでラセン状の篋削りを施し、間に調整不明瞭な部分が見られる。	
631-2	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (3.5)	黒色細粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。整形は、底部篋削り、口縁部横撫で、内面撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
631-3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.4)	褐色粒多 黒色粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾気味である。整形は、底部篋削り、口縁部横撫で、内面は撫でを施す。	
631-4	須 恵 器 高 坏	覆土内 破片	口 — 底 (12.0) 高 (4.5)	白色細粒微 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰黄	轆轤整形(右回転)。脚部のみの残存で、強く外に開き、端部に屈曲を有する。透しは三方である。	
631-5	土 師 器 甕	覆土内 破粒片	口 (20.0) 底 — 高 (4.0)	砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は外反する。整形は口縁部横撫で、肩部篋削り、内面は撫でを施す。	
631-6 268	土 師 器 甕	カマド内 ±0 cm 瓦残存	口 22.3 底 — 高 (13.2)	黒色鉍物粒多 細砂粒多 褐色粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、口唇部に沈線状の凹が1本廻り、胴部上半にわずかに張りをも有する。口縁部横撫で後胴部は縦位(下→上)の篋削り、内面は横位の篋撫でを施す。	
631-7	須 恵 器 甕	カマド内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒多 褐色粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚 0.7
632-8	須 恵 器 甕	掘り方 7 cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少	還元焰 硬質	灰黄	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 1.0
632-9 267	石 製 品 砥 石	覆土内 破片	長 (2.3) 幅 2.2 厚 1.1	砂岩			断面長方形状を呈したものと考えられる。破片であるが、下砥と思われる。	重 6.7
632-10 267	石 器 敲 石	壁溝 -3 cm 完形	長 12.6 幅 6.3 厚 4.1	ひん岩			上端部に敲打痕が少しみられる。	重 440.8
632-11 267	石 器 薦編み石	覆土内 完形	長 12.7 幅 6.0 厚 4.6	閃緑岩			使用痕不明。	重 572.3
632-12	石 器 磨 石	覆土内 完形	長 12.7 幅 5.8 厚 5.0	溶結凝灰岩			表面に擦痕がわずかにみられる。	重 589.5
632-13 267	石 器 敲 石	壁溝 2 cm 完形	長 13.3 幅 7.5 厚 5.5	石英閃緑岩			上端部にわずかに敲打痕がみられる。	重 878.3
632-14 267	石 製 品 白 玉	27cm 完形	径 2.3 厚 0.7 孔 0.4	滑石			円形に近い形状であるが、面の調整は雑で、割った形をそのままとめている。穴の穿孔は一方向からである。	重 4.1

J区第30号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
634-1 268	土 師 器 坏	床直 瓦残存	口 11.7 底 — 高 4.4	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は弱く外反する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
634-2 268	土 師 器 坏	貯蔵穴上 層 瓦残存	口 12.3 底 — 高 4.2	褐色細粒多 砂粒少	酸化焰 軟質	にぶい 黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は弱く外傾する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
634-3 268	土 師 器 坏	カマド覆 土内 瓦残存	口 13.7 底 — 高 (3.7)	黒色鉍物粒微 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、底部篋削りを施す。	
634-4	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.0)	白・黒色鉍物 粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は厚く内湾気味に立ち上がり、口縁部との境にわずかに段を有する。口縁及び内面共に横撫で。	
634-5 268	土 師 器 坏	4 cm 瓦残存	口 9.7 底 — 高 3.3	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横撫で、底部篋削りを施し、間に調整の不明な部分がわずかに認められる。	見込み部に焼成前の篋描き「×」印。
634-6	土 師 器 高 坏	覆土内 脚部残存	口 — 底 (15.4) 高 (3.8)	砂粒少	酸化焰 やや硬質	黄橙	脚裾部で、ゆるい屈曲がみられ、端部はやや内湾気味である。上半縦位(下→上)の篋削り、端部は撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
634-7	須恵器 台付瓶	壁溝55cm 破片	口 — 底 (13.0) 高 (3.5)	細砂粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台部は厚手で強く外反する。底部は高台貼り付けに伴い撫で調整されている。	
634-8	土師器 高坏	カマド内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	酸化焰 硬質	明黄褐	外面篋削り、内面輪積み痕が明瞭に残っている。	
634-9 268	石器 薦編み石	4 cm 完形	長 12.0 幅 6.4 厚 4.7	ひん岩			使用痕不明。	重 559.4
634-10 268	石器 薦編み石?	3 cm 完形?	長 13.2 幅 5.7 厚 3.4	石英閃緑岩			熱によって全面剥落している。	重 360.0
634-11 268	石器 薦編み石	4 cm 完形	長 15.4 幅 7.0 厚 4.7	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 678.0
634-12 268	石器 敲石	4 cm 完形	長 9.8 幅 5.8 厚 4.0	粗粒安山岩			敲打によると思われる痕跡がある。	重 336.0
635-13 268	石器 磨石	3 cm 完形	長 14.4 幅 6.3 厚 7.4	変質玄武岩			両端部に擦痕有り。	重 950.0
635-14 268	石器 敲石	3 cm 完形	長 13.5 幅 7.2 厚 4.3	変質安山岩			端部と側面に敲打痕有り。	重 652.9
635-15 268	石器 薦編み石	4 cm 完形	長 14.4 幅 11.1 厚 4.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 709.3
635-16 268	石器 磨石	床直 1/2残存	長 (8.5) 幅 6.8 厚 4.2	粗粒安山岩			半載されており、両面共に擦痕が顕著で、端部及び側面にわずかに敲打痕が認められる。	重 387.4

## J区第31号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
637-1 268	須恵器 坏	貯蔵穴内 - 3 cm 1/2残存	口 15.0 底 8.3 高 3.8	細砂粒微 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部上半に張りを有し、口縁部は外反する。底部は回転糸切り無調整であるが、2度の切り離しを行っているようだ。	
637-2	須恵器 坏	貯蔵穴内 - 8 cm 破片	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (3.5)	黒色粒微 小礫微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に比較的強い張りを有し、口縁部はゆるく外反する。底部は回転糸切り無調整である。	
637-3 268	須恵器 埴	覆土内 1/2残存	口 15.0 底 8.3 高 5.6	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にやや張りを有し、口縁部は弱く外反する。底部は回転糸切り後の付高台である。底部に墨書「田?」あり。	
637-4 268	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 13.8 底 6.8 高 5.4	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り後の付高台である。	
637-5 268	須恵器 埴	貯蔵穴内 - 2 cm ほぼ完形	口 15.1 底 7.8 高 6.3	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは比較的強く、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り後の付高台と考えられるが、貼り付けに伴う撫でが施され、糸切り痕は残存しない。	
637-6 268	須恵器 皿	カマド付 近6 cm 破片	口 (14.0) 底 (7.6) 高 (2.9)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は強く外反し、底部は回転糸切り後付高台。	
637-7 268	須恵器 皿	覆土内 1/2残存	口 14.8 底 6.6 高 2.6	細砂粒多	還元焰 やや軟質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。底部は回転糸切り後の付高台である。	
637-8	土師器 小型甕	貯蔵穴覆 土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.4)	黒色鈹物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	暗赤褐	口縁部は外反し、口縁部内外面横撫で後、胴部を横位及び斜位に篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
637-9	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (5.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「コ」字状を呈し、外面に接合痕を顕著に残している。肩部は横位(右→左)の篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
637-10	土 師 器 台付甕	カマド覆 土内 破片	口 — 底 (9.8) 高 (5.2)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	脚部は「ハ」字状に強く開く。胴部下半は縦位篋削り、脚部は横撫でを施す。	
637-11	須 恵 器 甕	3 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 小礫少	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き。内面素文。	厚 1.2
637-12	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色細粒多 褐色粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	凹面に粘土板糸切り痕がみられる。凸面斜格子叩き。	
637-13	瓦 女 瓦	貯蔵穴内 — 7 cm	厚 2.0	白色粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凸面に篋描き文字。文字は不明。	ㄥ残存
637-14 268	鉄 器 刀 子	4 cm	長 (6.5) 幅 (1.0) 重 5.4				形状、厚み等から刀子と思われる。	

J 区第32号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
639-1	土 師 器 坏	P <sub>3</sub> —14cm ㄥ残存	口 (11.0) 底 — 高 3.5	褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は弱く外反し、底部との間に弱い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部篋削り後口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
639-2 268	土 師 器 坏	覆土内 ㄥ残存	口 11.2 底 — 高 (3.0)	白色細粒少 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
639-3	土 師 器 坏	— 2 cm 破片	口 (12.4) 底 — 高 (3.6)	褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りと考えられる。	
639-4	土 師 器 坏	貯蔵穴内 —55cm ㄥ残存	口 (13.0) 底 — 高 4.0	褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は強く外反し、底部との間に弱い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部篋削り後口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
639-5 268	土 師 器 坏	壁溝 3 cm ㄥ残存	口 12.0 底 — 高 4.3	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	黄橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
639-6 269	土 師 器 坏	壁溝 7 cm ㄥ残存	口 14.0 底 — 高 4.2	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
639-7 269	須 恵 器 高 坏	貯蔵穴内 — 8 cm ほぼ完形	口 12.0 底 10.3 高 13.4	白色砂粒多	還元焰 硬質	青灰	轆轤整形(右回転)。体部は丸底状で、口縁部との境にゆるい稜を有し、口縁部はわずかに外傾する。脚部は下半で強く開き、内湾気味に屈曲する。透しはみられない。	無蓋
639-8 269	土 師 器 甕	貯蔵穴内 —29cm 完形	口 18.3 底 — 高 28.7	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は「く」字状に外傾し、胴部上半に最大径を有する球胴形で底部は丸底気味である。胴部斜位(上→下)、胴部下端は2段の斜位篋削りを施す。	歪みがある。
639-9	土 師 器 甕	6 cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (7.8)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	口縁部「く」字状に強く外反する。肩はあまり張らず、胴部中位に最大径を有すると思われる。整形は、胴部上半に縦位(下→上)篋削り後口縁部横撫で、内面は横位篋撫でを施す。	
639-10 269	須 恵 器 瓶	貯蔵穴内 —49cm 破片	口 — 底 — 高 (5.9)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り後轆轤整形。胴部中位に最大径を有する。整形は胴部上位に櫛状工具の刺突文が二段に矢羽状に施されている。	
639-11 269	須 恵 器 横 瓶?	貯蔵穴内 —52cm 破片	口 (10.6) 底 — 高 (12.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	黄灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反気味に直立する。口縁部4本と2本単位の平行沈線を廻らせ、間に櫛描き文を縦位に施す。	

## J区(32・33号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
639-12 269	石製品 砥石	P <sub>3</sub> -11cm 1/2残存	長 (7.3) 幅 5.1 厚 2.9	砥沢石			砥面は4面。	重 130.7
639-13 269	石製品 白玉	掘り方覆 土内 完形	径 1.3 厚 1.0 孔 0.3	滑石			円形に近い形状で、上・下端部には擦痕はみられないが、側面に縦位に擦痕がみられる。	重 3.1
639-14 269	石器 薦編み石	10cm 完形	長 13.6 幅 6.3 厚 4.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 519.0
640-15 269	石器 薦編み石	貯蔵穴内 -43cm 完形	長 14.5 幅 6.8 厚 5.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 709.7
640-16 269	石器 磨石	覆土内 完形	長 14.6 幅 8.1 厚 4.1	粗粒安山岩			一面の平坦面全面が磨滅している。	重 775.6
640-17 269	石器 薦編み石 ?	壁溝 ±0cm 完形	長 11.9 幅 6.3 厚 4.1	石英閃緑岩			熱の為剝落しているが一部自然面がみられる。使用痕不明。	重 398.5
640-18 269	石器 敲石	28cm 完形	長 11.5 幅 6.0 厚 4.1	溶結凝灰岩			端部に敲打痕有り。	重 435.6
640-19 269	石器 敲石	貯蔵穴内 -47cm 完形	長 11.9 幅 5.3 厚 4.7	溶結凝灰岩			一端にわずかに敲打痕が認められる。	重 447.8

## J区第33号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
642-1 269	土師器 坏	カマド掘 り方 1/2残存	口 12.9 底 — 高 4.8	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はゆるく外反する。底部篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
642-2 269	土師器 坏	貯蔵穴内 -40cm 1/2残存	口 14.0 底 — 高 (4.5)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
642-3 270	土師器 甕	カマド掘 り方 1/2残存	口 13.0 底 — 高 (11.0)	細砂粒少 褐色粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は反り気味に直立し、胴部上半に最大径を有する。胴部外面は全面撫で、内面斜位の篋撫で後、口縁部に横撫でを施す。	
642-4 269	土師器 甕	カマド掘 り方 破片	口 (18.0) 底 — 高 (9.4)	黒色鉱物粒少 細粒少 小礫微	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部はゆるく外反し、胴部上半にわずかに張りをも有する。胴部は斜位(下→上)の篋削り後、口縁部に横撫でを施す。内面は横位の撫でである。	
642-5 269	鉄器 釘	覆土内	長 (5.6) 幅 (0.5) 重 13.9				両端欠損。断面方形である可能性あり。	
642-6 269	鉄器 釘	覆土内	長(7.1 2.2) 幅(0.3 0.3) 重 4.9 0.8				断面は方形に近いもので、上半が曲っている。	
643-7 270	土師器 甕	5cm 1/2残存	口 23.0 底 — 高 (25.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 黄橙	口縁部は外反し、口唇部はさらに外に屈曲する。胴部上半にわずかに張りをも有する。口縁部横撫で後、胴部は斜位(上→下)の篋削り、内面は横位の篋撫でを施す。	
643-8 270	石器 敲石	貯蔵穴内 1cm 完形	長 15.8 幅 6.8 厚 3.8	頁岩			側面に使用に伴う剝離が認められ、剝離後さらに使用されたことによって、打斧の側面のような状態を呈している。	重 604.9
643-9 270	石器 薦編み石	14cm 完形	長 16.6 幅 7.5 厚 5.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重1000.0

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
643-10 270	石 器 薦編み石	11cm 完形	長 10.4 幅 6.1 厚 3.9	溶結凝灰岩			端部に敲打痕有り。	重 387.4
643-11	石 器 薦編み石	6 cm 完形	長 11.9 幅 5.9 厚 2.4	変質安山岩			使用痕不明。	重 285.5
643-12 270	石 器 薦編み石	10cm 完形	長 10.6 幅 4.8 厚 3.9	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 275.2

J 区第34号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
644-1 270	土 師 器 坏	床下 1/2残存	口 11.8 底 — 高 (4.9)	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
644-2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.2) 底 — 高 (4.3)	白色鉍物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	二次焼成の可能性あり。
644-3 270	土 師 器 坏	不明 1/2残存	口 12.0 底 — 高 (3.7)	黒色鉍物粒微 褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
644-4 270	須 恵 器 蓋	覆土内 完形	口 15.0 摘 — 高 2.8	白色粒微	還元焰 硬質	青灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部は体部と比較して厚く、水平に開く。天井部外面は回転篋削り、内面には指先の一撫でが認められる。外面全面に自然釉がかかり、一部口縁部内面にも及ぶ。	J 区10号住-14と同一。
644-5	須 恵 器 甕	9 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉍物粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	外面平行叩きで、内面青海波文。	厚 1.2
644-6 270	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色細粒多 白色鉍物粒少	還元焰 硬質	褐灰	一枚作り。凸面粗い撫で後斜格子叩き、凹面全面撫で。	
644-7 270	石 器 敲 石	15cm 完形	長 13.6 幅 7.8 厚 3.5	粗粒安山岩			端部側面に敲打痕があり、側面に磨滅痕がみられる。	重 545.7
644-8 270	石 器 磨 石	12cm 1/2残存	長 (9.0) 幅 5.0 厚 3.6	変質安山岩			裏面と側面に擦痕が有り、端部に敲打による剝離面がみられる。	重 322.8

J 区第35号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
648-1 271	土 師 器 坏	床下覆土 1/2残存	口 11.0 底 — 高 (2.9)	黒色鉍物粒多 白色鉍物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は短く、わずかに外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
648-2 271	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 11.5 底 — 高 3.9	黒色鉍物粒少 白色鉍物粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境の稜は沈線によってより鮮明化している。口縁部は短く外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
648-3 271	土 師 器 坏	掘り方 1/2残存	口 10.0 底 — 高 (3.9)	黒色鉍物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は短く直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
648-4	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	黒色細粒少 褐色細粒多 砂粒微	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に立ち上り、体部篋削り後口縁部横撫でを施す。	
648-5	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 16.0 底 (9.8) 高 (5.7)	白色細粒多 黒色鉍物粒微 褐色粒少	酸化焰 硬質	茶	底部平底で、体部はわずかに内湾し、口縁部がわずかに外反する。底部は円周方向の手持ち篋削りで、体部内外面は横位に篋磨きを施し、内面を黒色処理する。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
648-6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 (2.7)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平底状で、体部にわずかに丸味があり、口縁部との境に明瞭な稜を有する。天井部外面は手持ち篋削りを施し、篋描きがある。	
648-7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 (2.2)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。天井部外面に手持ち篋削りを施す。	
648-8	須恵器 甕	P <sub>2</sub> -8cm 2cm 破片	口 — 底 — 高 (13.5)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	外面格子叩き、内面青海波文。	
648-9	須恵器 甕	26cm 破片	口 (26.0) 底 — 高 (4.6)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り。口縁部は強く外反し、口唇部外面直下に沈線を一本廻らす。	
648-10 271	須恵器 埴	覆土内 残存	口 — 底 (11.2) 高 (4.0)	夾雑物なし	還元焰 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部糸切り後付高台。高台部は丁寧な撫でを施す。	
649-11 271	土師器 甕	カマド掘 り方 残存	口 19.8 底 — 高 (18.4)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し、長胴で胴中に張りをも有する。胴部縦位篋削り後口縁部横撫で、内面は横位の篋撫でを施す。	
649-12 271	石製品 白玉	床下 完形	径 2.2 厚 0.8 孔 0.25	滑石			周縁及び両面共割られた状態に近く、器面の整形をほとんどしていない。	重 3.5
649-13 271	石器 敲石	床直 完形	長 13.5 幅 7.4 厚 3.7	粗粒安山岩			上端部と側面に敲打痕有り。	重 586.1
649-14 271	石器 磨石	壁溝 - 3cm 完形	長 13.2 幅 6.7 厚 4.2	粗粒安山岩			上端部擦痕有り。	重 614.8
649-15 271	石器 磨石	4cm 完形	長 14.0 幅 5.7 厚 3.8	ひん岩			上端部及び側端部に擦痕有り。	重 509.5
649-16 271	石器 薦編み石	2cm 完形	長 14.0 幅 6.4 厚 3.8	ひん岩			使用痕不明。	重 509.5
649-17 271	石器 薦編み石	2cm 完形	長 12.6 幅 6.9 厚 3.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 472.9
649-18 271	石器 薦編み石	3cm 完形	長 12.5 幅 5.7 厚 4.2	ひん岩			使用痕不明。	重 430.1
649-19 271	石器 薦編み石	2cm 完形	長 11.8 幅 7.0 厚 4.7	ひん岩			使用痕不明。	重 558.1
649-20 271	石器 薦編み石	5cm 完形	長 12.5 幅 7.1 厚 3.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 443.7
649-21	石器 薦編み石	4cm 完形	長 11.5 幅 7.2 厚 4.1	砂岩			使用痕不明。	重 455.9

## J区第36号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
650-1 271	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 13.3 底 — 高 3.7	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬 質	褐	底部は扁平な丸底で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でで、間に整形不明瞭な部分が認められる。	
650-2 271	須恵器 坏	11cm 完形	口 12.0 底 7.0 高 3.2	黒色円粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に立ち上がる。底部は回転糸切り無調整。内面に重ね焼の痕跡が認められる。	外面に自然釉。

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
650-3 271	須恵器 坏	9cm 完形	口 13.5 底 8.5 高 3.2	砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に立ち上がる。底部は回転篋切り無調整である。	
650-4 271	須恵器 坏	床直 ほぼ完形	口 13.0 底 9.7 高 3.6	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転篋切り無調整。内外面に樹脂状の付着物が認められる。	
650-5	須恵器 蓋?	7cm 破片	口 (26.0) — 高 (3.1)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。比較的緩いかえりを有し、外面は回転篋削りを施す。皿の可能性有り。	
650-6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — — 高 —	褐色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。天井部外縁に段を有し、水平に鐙状に突出する。口縁部はやや外傾するものと考えられる。	
650-7	須恵器 甕	18cm 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒少	還元焰 硬質	灰黄	外面格子叩き。内面青海波文。	
651-8 272	土師器 甕	床直 3/4残存	口 21.5 — 高 (27.0)	細砂粒多 黒色鉾物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に外反し、肩部に張りをも有する。口縁部横撫で後肩部は(下→上)、下半は(上→下)の斜位篋削り、内面は横位の篋撫でを施す。	口縁部に 接合痕有り。
651-9 271	土師器 鉢	8cm 3/4残存	口 21.0 底 — 高 11.2	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は平底気味で、体部上半に一段の屈曲を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で、屈曲部下半は横位(右→左)の篋削りで間は粗い撫でと考えられる。底部は篋削り、内面は横位の丁寧な撫でである。	
651-10 272	石製品 紡錘車	6cm 完形	径 7.4 厚 3.5 孔 0.3	角閃石安山岩			周縁は粗割りに後に雑に磨って整形している。穿孔は両側から。	重 139.6
651-11 272	石製品 砥石	5cm 3/4残存	長 (12.7) 幅 10.6 厚 4.0	砥沢石			四面残存し、一面に断面「V」字状の刻みが、他面には敲打痕がみられる。	重 839.6
651-12 272	石製品 砥石	覆土内 3/4残存	長 (3.8) 幅 3.0 厚 1.4	砥沢石			断面長方形で、砥面は四面である。	重 28.1

J区第37号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
654-1 272	土師器 坏	4cm 3/4残存	口 10.3 底 — 高 3.2	黒色鉾物粒多 細砂粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く「く」字状に屈曲する。底部篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
654-2	須恵器 蓋	覆土内 3/4残存	口 (10.0) — 高 (1.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。比較的強いかわりを有し、天井部外面は回転篋削りを施す。	外面に自然 釉。
654-3	土師器 甕	カマド掘 り方 破片	口 (22.4) — 高 (5.5)	黒色鉾物粒多 細砂粒多 褐色粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	口縁部は「く」字状に強く外傾し、整形は口縁部横撫でを施し、内面は撫でを施している。	
654-4 272	土師器 甕	掘り方 13cm 3/4残存	口 22.7 底 — 高 (15.0)	黒色鉾物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	茶	胴部に張りがなく、口縁部は「く」字状に強く屈曲する。口縁部横撫で後、上半(下→上)、下半(上→下)の縦位篋削りを施す。	
654-5 272	青磁	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —			オリ ブ灰	—	厚0.5
655-6	須恵器 甕	17cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色粒少	還元焰 やや軟 質	灰白	紐作り叩き整形。外面は格子叩き後、横位カキ目を数段施す。内面青海波文。頸部付近の剝離面に格子叩きの痕跡を明瞭に残している。	厚0.8
655-7	須恵器 甕	掘り方 20cm 破片	口 — 底 — 高 (27.0)	小礫微 砂粒少 黒色円粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後横位に櫛状工具による撫でを施す。内面青海波文。	



## J区第38号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
658-1	土師器 坏	カマド内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (4.3)	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く内傾し、底部はやや深めの丸底を呈する。口縁部横撫で、内面も回転の撫で。底部は篋削りを施す。	
658-2	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (10.2) 底 — 高 (3.3)	黒色円粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は丸底で、受け部は上方を向き、口縁部は比較的長く内傾する。底部は回転篋削りを施す。	
658-3 272	須恵器 高坏	床直 片残存	口 11.8 底 — 高 (5.8)	砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は丸底状で、口縁部との境で屈曲し、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部に2本沈線を廻らす。脚部は長脚二段透しと考えられる。	無蓋
658-4 272	土師器 甕	2cm 片残存	口 22.0 底 — 高 (15.5)	砂粒多	酸化焰 硬質	黄橙	胴部に張りはなく、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部を強く横撫で後、胴部を縦位(上→下)篋削りを施す。内面は横位篋撫でである。	
658-5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微	還元焰 硬質	灰	口縁部の破片で、口縁部中位に、波状文と沈線を施す。	厚 1.2
658-6	石器 薦編み石	床下覆土 内 完形	長 10.4 幅 5.2 厚 4.8	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 437.8
659-7 273	石器 敲石?	12cm 一部欠損	長 26.4 幅 19.6 厚 8.6	変質安山岩			一面に使用に伴うと考えられる剝離がみられる。	重6000.0

## J区第39号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
661-1 273	土師器 甕	15cm 片残存	口 22.1 底 — 高 (18.3)	黒色鈹物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部に張りはなく、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部横撫で後胴部上半は斜位(右→左)、下半は縦位(上→下)の篋削りであるが、一部下半は斜位(下→上)の部分も認められる。内面は横位撫でを施すが、接合痕が明瞭に残っている。	
661-2 273	石製品 砥石	覆土内 完形	長 17.1 幅 13.3 厚 8.4	角閃石安山岩			一面のみ使用されており、断面「V」状の刻みが数条みられる。	重1539.6

## J区第40号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
661-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.3) 底 — 高 (3.4)	黒色鈹物粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。体部から底部を篋削り後、口縁部に横撫でを施す。内面の撫では丁寧である。	
661-4	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (9.8)	黒色鈹物粒少 細砂粒多	酸化焰 軟質	橙	胴部上位に最大径を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で、胴部は斜位の篋削り。	
661-5 273	土師器 甕	覆土内 片残存	口 22.0 底 — 高 (15.0)	小礫多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	胴部に張りはなく、口縁部は「く」字状に開く。口縁部横撫で後、胴部を縦位(下→上)篋削りを施す。内面は横位の篋撫である。	
661-6	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (10.3)	小礫多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	胴部に張りはなく、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部横撫で後、胴部に縦位篋削りを施す。	
661-7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 高 (2.0)	黒色円粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。天井部は平坦で、外縁に段を有する。突帯は短く水平に延びている。口縁部はやや外に開くものと考えられる。	
661-8	石器 敲石	覆土内 完形	長 11.3 幅 5.3 厚 3.0	粗粒安山岩			上端部と側面に敲打痕有り。	重 295.1

遺物一覧表

J区第41号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
665-1 273	土 師 器 坏	24cm 1/2残存	口 13.0 底 — 高 3.8	褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 やや軟 質	にぶい 黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に痕跡的な稜を有し、口縁部は弱く外反する。外面底部篋削り後、口縁部横撫で、内面見込み部は粗い放射状、口縁部横位の磨き後、黒色処理を施す。	
665-2 273	土 師 器 坏	4 cm 完形	口 12.1 底 — 高 4.0	黒色鉾物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
665-3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.3)	褐色粒微	酸化焰 軟質	橙	口縁部は外傾し、口縁部との境に段を有する。底部丸底で、底部篋削り、口縁部及び内面は横撫でを施す。器肉がうすい。	
665-4	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.8)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。受け部は「く」字状に屈曲し、上方を向き、体部との境は沈線状を呈する。口縁部は内傾し、体部内面との境は「く」字状を呈する。	
665-5	須 恵 器 蓋	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 摘 — 高 (4.0)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部は反り気味に開く。天井部外面中央部に手持ち篋削りを施す。	
665-6 273	須 恵 器 蓋	覆土内 1/2残存	口 12.0 摘 — 高 3.9	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で、口縁部はわずかに内湾する。天井部外面にラセン状の回転篋削りを施す。	
665-7 273	須 恵 器 蓋	覆土内 1/2残存	口 11.0 摘 — 高 4.0	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部はやや反り気味である。天井部外面にはラセン状の回転篋削りを施す。	
665-8	須 恵 器 蓋	覆土内 1/2残存	口 — 摘 — 高 (2.0)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。口縁部はやや内湾気味。底部は回転篋削りを施す。	
665-9	土 師 器 高 坏	覆土内 破片	口 (28.0) 底 — 高 (4.5)	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	体部と口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。内面は撫で後黒色処理を施す。	
665-10 273	土 師 器 小 型 甕	4 cm ほぼ完形	口 10.0 底 — 高 10.2	黒色鉾物粒多 褐色細粒多 細砂粒多	酸化焰 軟質	にぶい 黄橙	球胴丸底で、口縁部はわずかに外反する。胴部は撫で、口縁部は横撫でを施す。	
665-11	土 師 器 甕	貯蔵穴内 -12cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (9.6)	黒色鉾物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部に強い張りはみられず、口縁部は外反する。胴部は斜位(右→左)篋削り、口縁部は横撫で、内面横位~斜位の篋削りを施す。	
666-12 273	土 師 器 甕	カマド内 3 cm -16cm ほぼ完形	口 23.3 底 6.0 高 41.0	小礫多 褐色粒多	酸化焰 やや軟 質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に外反し、肩部及び底部近くに張りを有する。胴部外面は縦位篋削りと考えられるが、器面は磨滅し不明瞭である。口縁部は横撫で、内面は横位撫でである。	
666-13 273	土 師 器 小 型 甕	10cm 1/2残存	口 12.5 底 — 高 (5.4)	黒色鉾物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	胴部は球形状を呈すると思われ、口縁部はやや反り気味に直立する。胴部は斜位~横位の篋削りと考えられ、口縁部は横撫でである。また、口縁部に3段の稜を有する。	
666-14 273	土 師 器 甕?	カマド内 15cm、 4 cm ほぼ完形	口 21.7 底 — 高 (15.5)	小礫多	酸化焰 硬質	茶	口縁部が短く外反する鉢形を呈する。口縁部横撫で後胴部斜位(下→上)の篋削りを施す。内面は丁寧な横位撫でである。	
666-15	土 師 器 甕	7 cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (8.0)	細砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや軟 質	にぶい 橙	口縁部は外反し、口縁部横撫で後、胴部斜位の篋削り。	
666-16 273	土 師 器 甕	貯蔵穴 -15cm、 カマド付 近3cm 1/2 残存	口 20.8 底 — 高 (10.5)	黒色鉾物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部上半にわずかに張りを有し、口縁部は中位に1段の稜を有し、「く」字状に強く外反する。胴部縦位(上→下)の篋削り後、口縁部に横撫でを施す。	

## J区(41号住居跡)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
666-17	須恵器 甕	2 cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (6.0)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外返し、上端外面肥厚する。	口縁部内面に厚く自然釉。
666-18	須恵器 甕	9 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉱物粒少 白色粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面叩き具不明で、横位にカキ目?を施す。内面は素文当具。	
667-19	須恵器 甕	16cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色粒多	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き後、カキ目状沈線施文。内面青海波文。	厚0.8
667-20	須恵器 甕	4 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り後叩き整形。外面平行叩き、内面は青海波文で、指先の撫でを粗く施す。	厚0.8
667-21	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (6.6)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部に14本単位の櫛描波状文を施す。	
667-22	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	黒色粒多 小礫微	還元焰 硬質	灰	一枚作り?凸面縄叩きで離れ砂が付着。凹面に粘土板糸切り痕がわずかに認められる。	
667-23	瓦 女瓦	19cm 1/2残存	厚 2.5	褐色粒多 砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り?凸面全面撫で、凹面は縦位の粗い撫でを施す。凹面に熱を受けた痕跡あり。	
667-24	瓦 女瓦	10cm 破片	厚 2.0	白色細粒多 黒色円粒微	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凸面に正格子叩き。	
667-25 273	石器 敲石	床直 完形	長 17.0 幅 13.5 厚 4.0	粗粒安山岩			側面に敲打痕有り。	重 1,521.6
667-26 274	石器 不明	1 cm 1/2残存	長 (13.4) 幅 20.5 厚 6.8	石英閃緑岩			使用痕不明。半截されている。	重 2,845.0
668-27 274	石器 敲石	P <sub>2</sub> ±0cm 完形	長 15.8 幅 14.4 厚 4.3	粗粒安山岩			左側面に敲打痕有り。	重 1,465.1
668-28 274	石器 磨石?	- 2 cm ほぼ完形	長 16.0 幅 (14.0) 厚 4.3	粗粒安山岩			上端側面に擦痕有り。	重 1,653.1
668-29 274	石器 不明	カマド付 近9 cm 1/2残存	長 (16.5) 幅 (12.0) 厚 8.0	石英閃緑岩			使用痕不明。半截されている。	重 2,610.0
668-30 274	石器 不明	床直 1/2残存	長 18.4 幅 (11.8) 厚 4.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 1,508.2
668-31 274	石器 磨石?	カマド付 近10cm 1/2残存	長 (10.6) 幅 15.3 厚 3.9	粗粒安山岩			上端側面に剝離がみられるが、使用に伴うものか不明。一面に磨滅がみられる。	重 924.0
668-32 274	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 13.7 幅 6.1 厚 4.0	輝緑岩			使用痕不明。	重 615.5
668-33 274	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 13.5 幅 7.1 厚 4.5	ひん岩			使用痕不明。	重 692.2
668-34 274	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 13.8 幅 6.5 厚 3.8	変質安山岩			使用痕不明。	重 532.0
668-35 274	石器 薦編み石	P <sub>1</sub> 17cm 完形	長 12.7 幅 6.6 厚 3.7	変質安山岩			使用痕不明。	重 492.8
668-36 274	石器 敲石	3 cm 完形	長 13.3 幅 8.7 厚 5.5	粗粒安山岩			左側面に敲打痕有り。	重 997.2
669-37 274	石器 敲石	覆土内 1/2残存	長 (11.5) 幅 8.6 厚 4.7	粗粒安山岩			半截されており、右側面に敲打痕有り。	重 624.4

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
669-38 274	石器 敲石	5 cm 完形	長 12.9 幅 6.8 厚 4.2	変質安山岩			左側面に敲打痕有り。	重 610.8
669-39 274	石器 敲石	貯蔵穴内 7 cm 完形	長 14.3 幅 6.5 厚 4.3	粗粒安山岩			下端側面に使用に伴うと考えられる剥離面がある。	重 571.1
669-40 273	石器 敲石	覆土内 完形	長 11.4 幅 6.7 厚 3.0	ひん岩			下端側面に使用に伴うと考えられる剥離面がある。	重 344.9
669-41 273	石器 薦編み石	9 cm 1/2残存	長 (9.2) 幅 6.6 厚 4.1	変質安山岩			半載されている。使用痕なし。	重 486.9

## J区第44号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
673-1 275	土師器 坏	貯蔵穴内 -70cm 1/2残存	口 10.7 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
673-2 275	須恵器 高坏	貯蔵穴内 -74cm 1/2残存	口 — 底 8.0 高 (6.3)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)脚部は「ハ」字状に下半が開く。	

## J区第47号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
676-1 275	土師器 坏	1 cm 1/2残存	口 13.8 底 — 高 4.7	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
676-2 275	土師器 小型甕	床直 1/2残存	口 12.3 底 — 高 (7.2)	黒色鉱物粒少 砂粒少	酸化焰 硬質	橙	胴部は球形状で、口縁部は「C」字状に弱く外反する。胴部は斜位(左→右)の篋削りで、口縁部は指頭押圧後雑な横撫でを施す。	
676-3 275	土師器 甕	-4 cm 破片	口 21.0 底 — 高 (11.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部上位に張り有り、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。	
676-4	土師器 甕	床直 破片	口 (22.0) 底 — 高 (7.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄褐	口縁部は「く」字状に強く外反する。整形は外面横撫で後縦位(下→上)の篋削り、口縁部内面に一本の弱い沈線が廻る。内面篋撫で、内・外面に接合痕がみられる。	
676-5 275	土師器 甕	床直 -4 cm 1/2残存	口 — 底 10.0 高 (19.5)	小礫少 砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部下半のみで上半は不明。胴部は斜位(下→上)、下端(上→下)の篋削り、内面は斜位の粗い撫でを施す。孔周辺内面は篋削りされている。	

## J区第48号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
677-1 275	須恵器 埴	6 cm ほぼ完形	口 12.8 底 7.0 高 5.0	褐色粒多 砂粒少	中性焰 硬質	黄褐	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。底部は回転糸切り後の付高台。高台貼り付けは雑で、粘土紐状を呈する。	
677-2	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (7.5)	白色粒少 褐色粒多	中性焰 硬質	にぶい 褐	紐作り轆轤整形。胴部上位の張りが強く、最大径は胴部に有する。罫は反り気味で短く、貼り付けは丁寧である。口縁部は内湾し、口唇部は平坦で強く内傾する。	

## J区第52号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
680-1 275	土師器 坏	カマド内 ±0cm 片残存	口 12.1 底 — 高 (4.0)	細砂粒微 褐色粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
680-2 275	土師器 坏	カマド袖 前1cm 完形	口 13.0 底 — 高 4.3	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部は反り気味に直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。内面は横位に粗い篋磨き後黒色処理を施す。	
680-3 275	土師器 鉢	5号床下 土坑 -7cm 片残存	口 20.0 底 — 高 (7.6)	細砂粒微 褐色粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は中位に1段の稜を有してわずかに外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施し、内面は全面比較的丁寧な撫で後黒色処理を施す。	
680-4	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.7)	白色細粒多	還元焰 硬質	暗灰	轆轤整形(?)。体部は丸底状で、口縁部との無蓋境に強い稜を有し、口縁部は内湾気味に開く。口縁部中位に一本の沈線を廻らし、稜との間に櫛播波状文、体部にカキ目を施す。	
680-5 275	土師器 台付甕	P <sub>9</sub> -16cm 破片	口 — 底 11.0 高 (5.0)	黒色鉱物粒多 砂粒多 褐色粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	脚部破片で、「ハ」字状に強く開く。内外面共に撫でを施す。	
680-6 275	土師器 小型甕	P <sub>9</sub> -16cm 破片	口 10.0 底 — 高 (7.0)	細砂粒少 褐色粒多	酸化焰 軟質	橙	胴部は球形状で、頸部はくびれ、口縁部はわずかに外反する。胴部は斜位(左→右)の篋削り、口縁部は強く横撫でを施す。	
680-7 275	土師器 甕	カマド内 ±0cm 完形	口 15.5 底 5.0 高 19.7	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	褐	胴部中位に僅かに張り有り、口縁部は「C」字状に弱く外反する。口縁部横撫で後、胴部縦位(上→下)の篋削り、内面は横位の篋撫でを施す。	
680-8 275	土師器 甕	カマド内 ±0cm 片残存	口 24.0 底 4.0 高 31.2	砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部上位に僅かに張り有り、口縁部は「く」字状に強く外反する。胴部上半斜位(下→上)、下半縦位(上→下)2段の篋削りを施す。	
680-9 275	土師器 甕	カマド内 1cm 片残存	口 20.0 底 — 高 (19.5)	黒色鉱物粒多 砂粒多 褐色粒多	酸化焰 軟質	黄橙	胴部に張りはみられず、口縁部は「く」字状に外反する。胴部は縦位篋削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明。	
680-10 275	石器 薦編み石	6cm 完形	長 13.3 幅 5.0 厚 3.8	砂岩			使用痕不明。	重 396.6
680-11 275	石器 薦編み石	3cm 完形	長 12.9 幅 5.5 厚 4.2	変質安山岩			使用痕不明。	重 413.3
680-12 276	石器 敲石	8cm 完形	長 12.5 幅 5.9 厚 4.7	石英閃緑岩			端部にわずかに敲打痕がある。	重 471.4
680-13 276	石器 薦編み石	4cm 完形	長 14.2 幅 5.7 厚 4.2	ひん岩			使用痕不明。	重 486.3
681-14 276	石器 薦編み石 ?	7cm 一部欠損	長 (13.3) 幅 6.2 厚 4.2	石英閃緑岩			一端が熱によって剥落している。	重 599.8
681-15 276	石器 不明	5cm 完形	長 10.9 幅 7.4 厚 4.4	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 507.6
681-16 276	石器 不明	8cm 片残存	長 (9.8) 幅 (5.9) 厚 4.5	石英閃緑岩			熱によって剥落している。使用痕は不明。	重 407.5
681-17 276	石器 薦編み石	2cm 完形	長 12.0 幅 5.5 厚 4.4	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 465.9
681-18 276	石器 敲石	6cm 完形	長 12.9 幅 6.6 厚 3.8	粗粒安山岩			端部にわずかに敲打痕がみられる。	重 483.6

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
681-19 276	石器 不明	1cm 1/2残存	長 (8.8) 幅 (5.1) 厚 (3.5)	輝緑岩			熱によって器面が剥落している。	重 213.3
681-20 276	石器 不明	17cm 完形	長 18.2 幅 11.7 厚 9.6	粗粒安山岩			使用痕は不明であるが、一部に炭化物の付着がみられる。	重 1,938.3
681-21 276	石器 磨石	2cm 完形	長 13.1 幅 6.9 厚 6.2	ひん岩			両面に断面「V」字状の刻みがみられ、側面の一部に磨滅した部分が認められる。	重 821.5
681-22 276	石器 薦編み石 ?	2cm 一部欠損	長 13.7 幅 6.7 厚 4.3	石英閃緑岩			熱によって器面に剥落がみられる。	重 492.7

## J区第53号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
682-1	土師器 坏	20cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	黄褐	口縁部は直立し、体部との境に段をもち、底部は平底気味の丸底である。内外面に黒色塗彩。	
682-2	土師器 甕	20cm 破片	口 (16.0) 底 — 高 (6.5)	白色砂粒多	酸化焰 軟質	灰白 黒褐	胴部は球胴と考えられ、口縁部はやや内湾気味に「く」字状に屈曲する。口縁部に指頭痕、内面に接合痕が認められる。	
682-3 276	石器 敲石	覆土内 完形	長 9.9 幅 8.2 厚 4.7 重 385.6	粗粒安山岩			両面中央部に敲打による凹みがみられる。	縄文時代の凹石に類似。

## J区第54号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
683-1	土師器 坏	3cm 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒微 褐色細粒微	酸化焰 硬質	にぶい 褐	口縁部は短く直立し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は底部篋削り後口縁部横撫でを施す。	
683-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.8) 底 — 高 (4.1)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は弱く内湾気味に外傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は底部篋削り後口縁部横撫でを施す。	
683-3 276	土師器 坏	4cm 1/2残存	口 14.1 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	黒褐	底部は扁平な丸底状で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部篋削り、口縁部は横撫でを施す。内面は黒色塗彩の可能性が強い。	
683-4 276	鉄器 釘	覆土内	長 (2.9) 幅 (0.4) 重 2.2				両端が欠損し、断面は方形である。	

## J区第55号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
671-1	須恵器 羽釜	カマド底 面 破片	口 (18.0) 底 — 高 (6.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	紐作り轆轤整形。胴部は縦位(上→下)の篋削りを施す。口縁部は弱く内傾し、口唇部は平坦で水平である。胴部上半にやや張りを有し、鏝は断面三角形状で比較的丁寧な貼り付けである。内面は横撫でされている。	
671-2	須恵器 羽釜	カマド底 面 破片	口 (22.0) 底 — 高 (6.5)	黒色鉱物粒多 砂粒少 褐色細粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	紐作り轆轤整形。口縁部は直立し、口唇部は平坦で水平である。鏝は三角形状で丁寧な貼り付けである。胴部は縦位(上→下)の篋削りを施す。	
671-3 275	石器 薦編み石 ?	カマド底 面 1/2残存	長 (8.6) 幅 7.7 厚 3.1	蛇紋岩			半截されている。使用痕不明。	重 353.8

J区(53・54・55・56号住居跡)(住居跡追補)(1号掘立柱建物跡)(土坑)

J区第56号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
684-1 276	土製品 羽口	2cm	孔 1.7				先端部のみ残存し、外面全体に付着物が認められる。	

J区住居跡追補

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
685-1 257	土師器 甕	1号住 カマド内 10cm 1/2残存	口 20.4 底 — 高 (26.6)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部上半に張りをもつ。肩部横位(右→左)、胴部縦位(上→下)の篔削り後口縁部に横撫でを施す。内面は横位篔撫でを施す。	
685-2 261	土師器 甕	9号住 床直 1/2残存	口 20.7 底 — 高 (18.1)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	黄橙	口縁部は「く」字状に外反し、中位に稜を有し、胴部中位にわずかに張りを有する。口縁部横撫で後胴部は斜位(下→上)の篔削り、内面横位篔撫でを施す。	
685-3	土師器 甕	33号住カ マド右袖 1/2残存	口 20.3 底 — 高 (25.0)	砂粒少 小礫多	酸化焰 硬質	赤褐	口縁部は短く、「く」字状に外反する。長胴で肩部、胴部の張りはない。口縁部横撫で後、胴部縦位(下→上)篔削りを施す。	
685-4 272	土師器 甕	38号住 カマド内 —10cm 1/2残存	口 20.1 底 — 高 (21.6)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	胴部の張りは非常に弱く、口縁部は「く」字状に外反し、中位に強い稜を有する。胴部縦位(下→上)篔削り後口縁部に横撫でを施す。内面は横位篔撫でを施す。外面には接合痕が数段みとめられる。	

J区第1号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
686-1	土師器 坏	柱穴覆土 破片	口 (13.0) 底 — 高 (6.0)	褐色粒多 白色細粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	口縁部弱く内湾し、底部はやや深い丸底を呈する。整形は、全面篔削り。内面は放射状篔磨きを施す。	
686-2	須恵器 坏	柱穴覆土 破片	口 — 底 (7.2) 高 (2.5)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。底部は回転篔切り無調整。	
686-3	須恵器 坏	柱穴覆土 破片	口 — 底 (7.8) 高 (1.6)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は回転篔切り無調整。	
686-4	須恵器 蓋	柱穴覆土 1/2残存	口 (16.0) 摘 — 高 (3.9)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに張りを有し、口縁部はわずかに突出する。天井部外面は回転篔削り。	

J区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
688-1	須恵器 甕	10号土坑 覆土内 破片	口 (11.5) 底 — 高 (4.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。口縁部は上位に稜を有し、外傾し、口唇部に段をもつ。	
689-2 277	土師器 坏	14号土坑 覆土内 1/2残存	口 10.0 底 — 高 3.3	黒色鉍物粒少 白色鉍物粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篔削りを施し、間に調整不明瞭な部分が認められる。	
689-3 277	土師器 坏	14号土坑 35cm 1/2残存	口 10.3 底 — 高 (2.8)	黒色鉍物粒少 白色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。底部は篔削り、口縁部は横撫でを施す。	器面の磨減が激しい。
689-4 277	土師器 坏	14号土坑 51cm 1/2残存	口 11.0 底 — 高 (3.3)	黒色鉍物粒多 白色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。底部篔削り後、口縁部に横撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
689-5 277	土師器 坏	14号土坑 48cm 1/2残存	口 10.7 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒多 白色粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く、わずかに内傾する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
689-6 277	土師器 坏	14号土坑 25cm 1/2残存	口 10.7 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施し、間にわずかに調整不明瞭な部分が認められる。	
689-7 277	土師器 坏	14号土坑 56cm 1/2残存	口 10.8 底 — 高 3.6	黒色細粒多 褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く、わずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施し、間にはわずかに指頭痕を残している。	
689-8	土師器 坏	14号土坑 22cm 1/2残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.9)	黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く反り気味に直立する。底部篋削り、口縁部横撫でを施す。	
689-9 277	土師器 坏	14号土坑 覆土内 1/2残存	口 11.8 底 — 高 3.9	黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施し、間に調整不明瞭な部分が認められる。	
689-10 277	土師器 坏	14号土坑 覆土内 1/2残存	口 12.0 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒微 細砂粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
689-11	土師器 坏	14号土坑 47cm 破片	口 (17.7) 底 — 高 (6.2)	白色細粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は短く、わずかに内湾する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
689-12	土師器 坏	14号土坑 覆土内 破片	口 (16.2) 底 — 高 (4.8)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
690-13	土師器 坏	14号土坑 33cm 破片	口 (19.6) 底 — 高 (4.9)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。内面に比較して外面の磨滅が激しい。	
690-14	須恵器 蓋	14号土坑 51cm 1/2残存	口 (11.2) 摘 1.2 高 2.8	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。扁平な体部を有し、天井部外面手持ち篋削り後宝珠滴を付している。かえりは短い比較的シャープである。	
690-15 277	須恵器 蓋	14号土坑 覆土内 1/2残存	口 11.2 摘 — 高 (1.6)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。扁平な体部を有し、かえりは比較的長くシャープである。天井部外面は手持ち篋削りを施す。	
690-16 277	土師器 高坏	14号土坑 不明 破片	口 (18.0) 底 — 高 (5.0)	白色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	底部との境に比較的明瞭な稜を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。体部篋削り、口縁部は横撫で、内面見込み部は放射状、口縁部は横位の篋磨き後内面黒色処理を施す。	
690-17 277	土師器 高坏	14号土坑 44cm 破片	口 — 底 — 高 (4.5)	白色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	体部中位に弱い稜を有する。体部篋削り後口縁部横撫で、口縁部に接合痕がみられる。内面は横位篋磨き後内面黒色処理を施す。	
690-18	土師器 甕	14号土坑 37cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (7.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部「く」字状に強く外反し、肩はあまり張りはみられない。口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。口縁部には2段の接合痕が観察できる。	
690-19	須恵器 甕	14号土坑 覆土内 破片	口 (23.8) 底 — 高 (6.2)	黒色円粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は強く外反し、上位に段を有する。	
690-20 276	鉄器 刀子	14号土坑 覆土内	長 (5.2) 幅 (0.55) 重 9.5				茎の部分と考えられる。	
690-21	石器 磨石	14号土坑 27cm 完形	長 14.3 幅 7.0 厚 4.9	粗粒安山岩			一面に磨滅した面がみられる。	重 695.7
690-22	石器 薦編み石	14号土坑 35cm 完形	長 14.2 幅 6.3 厚 4.5	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 580.0
690-23	石器 薦編み石?	14号土坑 60cm 完形	長 15.0 幅 7.4 厚 5.0	石英閃緑岩			全面剥落している。	重 790.0



## J区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
690-24	石器 磨石 (敲石)	14号土坑 28cm 完形	長 14.2 幅 7.1 厚 4.4	粗粒安山岩			全面に磨減がみられる他、端部に敲打痕がある。	重 763.0
691-25 277	土師器 坏	15号土坑 覆土内 1/2残存	口 10.0 底 — 高 3.3	黒色鈳物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く、わずかに内傾する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。内面に比較して外面の磨減が激しい。	
692-26	土師器 坏	19号土坑 ± 0 cm 1/2残存	口 (11.2) 底 — 高 3.2	黒色鈳物粒少	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部は弱く外反し、底部との間に強い稜を有する。底部は扁平な丸底を呈する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
692-27	土師器 坏	19号土坑 14cm 1/2残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	夾雑物なし	酸化焰 軟質	橙	口縁部は強く外反し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
692-28 277	土師器 坏	19号土坑 18cm 1/2残存	口 13.0 底 — 高 4.3	夾雑物なし	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でである。	器面の磨減が激しい。
692-29 277	土師器 坏	19号土坑 ± 0 cm 1/2残存	口 17.5 底 — 高 7.0	褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部は反り気味に直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
692-30 277	土師器 坏	19号土坑 6 cm 1/2残存	口 13.8 底 — 高 (4.2)	黒色鈳物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反し、上端でわずかに内湾する。また、口縁部中位に沈線を1本廻らせる。底部篋削り、口縁部は横撫でである。	
692-31 277	須恵器 蓋	19号土坑 12cm 1/2残存	口 14.2 摘 — 高 (3.8)	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。天井部外面は平らで回転篋削りが施されている。	
694-32	土師器 坏	21号土坑 覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (3.2)	細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	口縁部はやや外反し、底部との間に強い稜を有する。整形は口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
694-33	須恵器 高坏	21号土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.4)	白色細粒多 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。体部下半に稜を有し、底部にカキ目を施す。	
694-34 277	須恵器 短頸壺	21号土坑 覆土内 破片	口 (9.2) 底 — 高 (5.3)		還元焰 硬質	灰	轆轤整形。肩部の張りは強く、口縁部は短くやや内傾する。肩部に2本の沈線を廻らせている。	内外面にカーボン付着。
694-35 277	須恵器 長頸瓶	21号土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	肩部破片で、沈線を廻らし、間に櫛状工具の刺突を施している。	厚 1.0
694-36 277	須恵器 壺	22号土坑 覆土内 破片	口 — 底 (7.2) 高 (3.5)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	明オリ 一ブ灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後の付高台と考えられる。	
694-37 277	須恵器 壺	22号土坑 覆土内 1/2残存	口 (16.4) 底 (11.0) 高 5.1	黒色門粒少 細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に立ち上がる。底部は回転糸切り後、底部周辺及び腰部に回転篋削りを施し、高台を貼付している。	
694-38	土師器 坏	23号土坑 覆土内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (2.2)	黒色鈳物粒微 細砂粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は短く直立する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
694-39	土師器 坏	23号土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.9)	黒色鈳物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部篋削りで間に調整不明瞭な部分が認められる。	
694-40 278	土師器 坏	24号土坑 覆土内 1/2残存	口 13.0 底 — 高 3.2	黒色鈳物粒少 細砂粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部篋削りで、間に調整不明瞭な部分が認められる。	
694-41	土師器 坏	36号土坑 覆土内 破片	口 (9.1) 底 — 高 (3.1)	黒色鈳物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部篋削りで、間に調整不明瞭な部分が認められる。	
694-42	須恵器 蓋	36号土坑 覆土内 破片	口 (16.2) 底 — 高 (3.0)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰オリ 一ブ	轆轤整形(右回転?)。体部の張りが強く、口縁部は短く直立する。天井部外面に回転篋削りを施す。	

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
694-43 278	土師器 坏	38号土坑 覆土内 1/2残存	口 12.3 底 — 高 (3.3)	黒色鉾物粒少 細砂粒多	酸化焰 やや軟 質	にぶい 黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はやや反り気味に直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫で、間に調整不明な部分が認められる。	
694-44	須恵器 坏	38号土坑 覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (1.6)	細砂粒微 白色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。底部は回転篋切り無調整。	
694-45	土師器 甕	38号土坑 覆土内 破片	口 (13.3) 底 — 高 (5.9)	黒色鉾物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は弱く外反し、肩はあまり張りがみられない。体部篋削り後口縁部横撫でを施す。内面は撫でを施す。	
694-46	土師器 坏	52号土坑 覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.7)	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施し、間に調整不明な部分が認められる。	
694-47 278	須恵器 坏	52号土坑 覆土内 1/4残存	口 14.3 底 8.3 高 4.5	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに張りを有する。底部は回転糸切り無調整。	
694-48	土師器 甕	52号土坑 覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (4.8)	細砂粒多 黒色鉾物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部はやや外反し、整形は、口縁部横撫で、肩部篋削りである。内外面に接合痕がみられる。	
694-49	土師器 坏	53号土坑 覆土内 破片	口 (10.1) 底 — 高 (3.0)	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で、底部篋削り、間に調整不明な部分が認められる。	
694-50 278	須恵器 坏	53号土坑 6cm 1/2残存	口 14.3 底 9.5 高 3.8	細砂粒少	還元焰 硬質	明灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り後、中央部を残して全面回転篋削りを施す。	
695-51	土師器 坏	61号土坑 覆土内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (3.0)	黒色鉾物粒少 細砂粒微	酸化焰 やや軟 質	橙	口縁部は内湾し、底部は丸底である。整形は口縁部横撫で、底部篋削り、器内面は撫でである。	
695-52 278	土師器 甕	61号土坑 6cm 1/2残存	口 23.0 底 — 高 (11.5)	黒色鉾物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後、胴部に縦位(下→上)篋削り(篋撫で状)を施す。内面は篋撫で。口縁部及び胴部上半に接合痕が残存する。	
695-53 278	石器 薦編み石	61号土坑 ±0cm 完形	長 12.5 幅 5.3 厚 3.8	溶結凝灰岩			使用痕は不明。	重 409.1

## J 区 溝

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
699-1 278	土師器 坏	3号溝 中層 ほぼ完形	口 9.8 底 4.0 高 2.8	黒色鉾物粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	黄橙	轆轤整形(右回転)。体部上半にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整である。底部付近にラセンに割れが認められ、粘土の巻上げによって成形された可能性を示唆している。	
699-2	須恵器 坏	3号溝 覆土内 破片	口 (11.0) 底 (6.2) 高 4.0	白色細粒多 細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整で、体部下端に切りそこねの痕跡を残している。口縁部内外面にカーボン付着。	
699-3	須恵器 壺	3号溝 覆土内 破片	口 (14.3) 底 — 高 (4.4)	白色細粒多	中性焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し、口縁部は外反する。底部は若干突出し、回転糸切り後付高台。内面の一部にカーボン付着。	いぶし
699-4	須恵器 甕	3号溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色粒多	還元焰 硬質	灰白	底部破片で、回転篋削りを施す。	厚 1.0
699-5	須恵器 壺	3号溝 覆土内 破片	口 — 底 6.0 高 (1.8)	白・黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後付高台。底部は付高台に伴い撫で調整され、中央部にわずかに糸切り痕を残す。高台部は作為的と思われる5ヶ所の打ち欠きがみられる。	
699-6	須恵器 瓶	3号溝 覆土内 破片	口 — 底 (14.1) 高 (6.4)	白色細粒多 砂粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り後轆轤整形。胴部及び底部にカキ目。外面に把手の剥落した痕跡有り。	

J区(溝)(遺構外)

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
699-7	瓦 女瓦	3号溝 覆土内	厚 1.6	褐色粒多	還元焰 硬質	明灰	一枚作り?凸面縄叩き、凹面布目は粗く撫でられている。側面の面取りは3面。	
699-8	瓦 男瓦	3号溝 覆土内	厚 2.2	黒色円粒多	還元焰 硬質	灰	桶巻作り?凸面は全面撫でられているが、布の圧痕がわずかにみられる。凹面布目は雑に撫で消されている。凹面から側部にかけカーボン附着。	
699-9 278	石 不明	3号溝 覆土内 完形	長 14.8 幅 13.0 厚 4.7	粗粒安山岩			使用痕は不明である。	重 1,457.2
699-10	土師器 坏	5号溝 覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.0)	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。整形は底部篋削り、口縁部及び内面横撫でを施す。	内外面黒色塗彩。
699-11	須恵器 坏	5号溝 覆土内 1/4残存	口 (11.5) 底 (8.3) 高 3.4	白色砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?). 体部は直線的に外傾する。底部は回転篋切り無調整。	
699-12 278	須恵器 壺	5号溝 覆土内 完形	口 14.3 底 6.7 高 5.1	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。底部は回転糸切り後の付高台。	
699-13	須恵器 甕	5号溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8
699-14	須恵器 甕	5号溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	赤色粒少 白色細粒少 砂粒微	還元焰 硬質	灰黄	外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8
700-15 278	土師器 坏	8号溝 覆土内 1/4残存	口 13.8 底 — 高 3.8	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに外反する。底部篋削り、口縁部横撫で、間に調整不明瞭な部分が認められる。	
700-16	土師器 坏	8号溝 覆土内 1/4残存	口 13.3 底 — 高 3.8	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部篋削り、間に調整不明瞭な部分が認められる。	
700-17	土師器 坏	8号溝 覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 2.8	細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は平底で、体部はわずかに丸味を有し、口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部横撫で、底部篋削りを施し、体部調整は不明。	
700-18	須恵器 坏	8号溝 覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (3.6)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部はわずかに内湾気味である。底部切り離しは不明。	
700-19	須恵器 坏	8号溝 覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (3.4)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に立ち上がる。	
700-20	青磁	8号溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —			オリブ灰	—	厚 0.5

J区遺構外

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
703-1 278	土師器 手捏	表土 1/4残存	口 6.7 底 7.0 高 4.8	黒色細粒少	酸化焰 軟質	暗褐	非常に厚手で、外面に指頭痕がみられる。	
703-2 278	土師器 坏	表採 ほぼ完形	口 11.0 底 — 高 3.7	褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外反する。底部篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
703-3 278	土師器 坏	表採 1/4残存	口 14.0 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾気味である。底部篋削り、口縁部横撫で、間に調整不明瞭な部分がみられる。	
703-4	須恵器 坏	表土 破片	口 (9.1) 底 — 高 (3.1)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?). 底部は丸底で、受け部は短く上方を向き、口縁部も短く直立する。底部は手持ち篋削り。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
703-5 278	須恵器 坏	表土 ㄥ残存	口 10.8 底 — 高 4.5	砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。受け部は短く水平に開き、口縁部は比較的長く内傾する。底部は非常に厚手で、平底状に回転篋削りされている。	
703-6	須恵器 坏	表土 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.3)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は反り気味に直立する。	
703-7 278	須恵器 塊	表採 ほぼ完形	口 10.3 底 6.0 高 5.1	白色粒少	還元焰 硬質	明灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部の切り離し技法は不明で、高台は付高台。	
703-8 278	須恵器 塊	表採 ㄥ残存	口 11.0 底 6.5 高 4.5	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに内湾する。底部は回転篋切り後付高台。	内面に自然釉。
703-9	須恵器 高台付皿	表土 破片	口 (16.0) 底 (8.5) 高 2.1	砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部はわずかに外反する。底部切り離し技法は不明である。付高台。	
703-10 278	須恵器 塊	表採 ㄥ残存	口 — 底 7.8 高 (5.8)	砂粒少	還元焰 硬質	明灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味に立ち上がる。底部切り離しは不明で、丁寧な篋削り調整後、角高台を付している。	
703-11	須恵器 皿	表土 破片	口 (24.8) 底 — 高 (2.2)	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は扁平で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は短く外傾する。口唇部は平坦で外傾する。体部は回転篋削り。	
703-12 278	須恵器 長頸瓶	表土 破片	口 — 底 12.6 高 (7.8)	褐色粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り後轆轤整形。胴部下半に回転篋削りを施す。高台は付高台。底部は篋調整されている。	
703-13 278	須恵器 瓶	表土 ㄥ残存	口 — 底 11.7 高 (11.8)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り後轆轤整形(右回転?)。胴部の張りは弱く、肩部に強く屈曲する。屈曲部には沈線を上下に廻らせている。底部は篋調整後の付高台。	外面に融着物有り
703-14 279	土製品 碁石	表土 完形	長 1.8 幅 1.7 厚 0.7	白・黒色細粒少	酸化焰 硬質		断面紡錘状を呈する。	重 1.6
703-15	土製品 耳栓?	11号住覆土 ㄥ残存		黒色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	形態的には滑車状耳栓に近似。文様なし。	
703-16 279	青磁	表採 破片	口 — 底 — 高 —			オリブ黄	—	厚 0.7
704-17 279	瓦 字瓦	表土	厚 3.8	白色粒少	還元焰 硬質	灰	単弁5葉。外面及び背面は篋削りされている。	
704-18 279	瓦 字瓦	表土	厚 2.4	砂粒多	還元焰 やや硬質	灰	単弁。	
704-19	瓦 鬼瓦	表土	厚 —	砂粒多 黒色鉱物粒少	中性焰 硬質	褐灰	外面は指先の撫でで、剥落した痕跡がある。背面布目。	
704-20	瓦 女瓦	表土	厚 1.8	砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。篋描き文字瓦。文字不明(凸面)。	
704-21	瓦 女瓦	表土	厚 2.0	細砂粒少 褐色粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り?凸面正格子叩き。凹面全面撫で。	
704-22	瓦 女瓦	表土	厚 2.1	白色粒多 褐色粒少	中性焰 硬質	黄橙	一枚作り?凸面削り後正格子叩き。内面布目は粗く撫で消されている。	
704-23	瓦 女瓦	表土	厚 1.6	白色細粒多	中性焰 やや軟質	褐	一枚作り?凸面斜格子叩き、凹面全面撫で。	
704-24	瓦 女瓦	表土	厚 2.0	小礫少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?凸面斜格子叩き、凹面布目の磨消しなし。	
704-25	陶製 円盤	表土	厚 1.2	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	周辺は打ち欠いて成形しており、その後の調整は加えていない。	
704-26 279	石製品 白玉	表採 完形	径 1.7 厚 0.6 孔 0.3	滑石			形状は円形で上下端部に擦痕がみられる。穿孔は一方方向である。	重 2.4

## J区遺構外

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
704-27 279	石製品 砥石	表土 1/2残存	長 (5.6) 幅 3.3 厚 2.8	砥沢石			砥面は4面であり、1面にわずかに敲打痕がみられる。	重 85.8
704-28 279	石製品 砥石	土坑群覆土 1/2残存	長 (4.4) 幅 2.8 厚 2.1	砥沢石			断面方形で、上下が欠損する。砥面のうち1面にえぐったような痕跡がみられる。	重 49.0
704-29 279	石製品 砥石	表土 破片	長 (6.8) 幅 (2.2) 厚 1.8	凝灰岩			砥面は4面、上端部欠損。	重 30.2
704-30	石製品 板碑?	表土 破片	長 (8.6) 幅 (8.2) 厚 (0.6)	珪質頁岩			一端に断面「V」状の線刻が認められるが文字とは考えられない。	重 59.0
705-31 279	石製品 多層塔	表土 ほぼ完形	長 (16.2) 幅 12.5 厚 12.4	角閃石安山岩			下半は4面共三角形状にえぐりが入っている。上端は欠損するが、ソケット状に組み合わせられたものと考えられる。	重 2,220.0

## G・H区 追補

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
714	土師器 甕	H区1住 1/2残存	口 21.1 底 — 高 (18.8)	小礫多 砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	橙	肩部にわずかに張りを有し、口縁部は強く外反する。胴部外面縦位(下→上) 篋削り後、口縁部に横撫で、内面横位撫でを施す。	外面に接合痕を残す。
714	土師器 甕	H区95住 1/2残存	口 19.6 底 — 高 (24.5)	砂粒多 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	胴部下半に張りを有し、口縁部は外反する。胴部縦位(上→下) 篋削り後、口縁部に横撫でを施す。内面は横位撫でを施す。	
715	土師器 甕	G区1号 埋設土器 1/2残存	口 — 底 — 高 (26.3)	砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部上半に最大径を有する球胴形の胴部を有し、底部は丸底状の平底を呈する。胴部中位斜位(上→下)、下半横位(左→右)の篋削り、内面横位篋撫でを施す。内面下位に接合痕を有する。	底部に黒斑。



(助)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第103集  
上野国分僧寺・  
尼寺中間地域(4)

《図表編》  
—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第33集—

---

平成2年3月15日印刷

平成2年3月20日発行

編集・発行／(助)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村下箱田784番地の2  
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県教育委員会  
前橋市大手町1丁目1番1号  
電話(0272)23-1111

印刷／朝日印刷工業株式会社

---